

茨木市男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和4年1月
茨木市

目 次

I 調査の概要.....	1
II 市民意識調査の結果	5
1. あなた自身やご家族について	5
2. 男女共同参画に関する意識について.....	12
3. 子育てや学校教育について	41
4. 家庭生活と仕事などについて.....	46
5. 男女の人権について	61
6. セクシュアルマイノリティについて.....	82
7. 茨木市の取組について.....	88
III 小中学生アンケート調査の結果	98
1. あなた自身やご家族について	98
2. 男女共同参画に関する意識について.....	102
3. 学校生活について	106
4. 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたこと.....	111
5. デートDVについて.....	117
6. セクシュアルマイノリティについて.....	120
7. 悩みごとの相談状況.....	121
8. 茨木市の取組について.....	122
IV 大学生意識調査の結果	125
1. あなた自身について.....	125
2. 男女共同参画に関する意識について.....	128
3. 男女の人権について	134
4. 悩みごとの相談状況.....	141
5. セクシュアルマイノリティについて.....	142
6. 茨木市の取組について.....	146

I 調査の概要

(1) 調査目的

第2次茨木市男女共同参画計画(改訂版)は令和3年度までの計画であることから、社会情勢の変化や男女共同参画をとりまく環境の変化を勘案し、現在の本市の状況を踏まえた次期計画(第3次茨木市男女共同参画計画)を策定するにあたり、その基礎資料となる意識調査を実施する。

(2) 調査の概要

	市民意識調査	小中学生アンケート調査	大学生意識調査
調査対象	・茨木市に居住する18歳以上の男女2,000人	・茨木市内の学校に通う小学5年生の男女約350人 ・茨木市内の学校に通う中学3年生の男女約400人	・市内の大学に通う学生
調査期間	令和3年10月20日～10月31日	令和3年10月15日～11月15日	令和3年10月20日～11月30日
調査方法	郵送による調査票の配布、郵送回収またはインターネット回答	学校を通じて直接配付・直接回収	学校を通じて調査依頼、インターネット回答
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する意識について ・子育てや学校教育について ・家庭生活と仕事などについて ・男女の人権について ・セクシュアルマイノリティについて ・茨木市の取組について 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する意識について ・学校生活について ・「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたこと ・デートDVについて(中学生調査のみ) ・セクシュアルマイノリティについて(中学生調査のみ) ・悩みごとの相談状況 ・茨木市の取組について 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する意識について ・男女の人権について ・悩みごとの相談状況 ・セクシュアルマイノリティについて ・茨木市の取組について

(3) 報告書の見方

1. 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分率(%)を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問では、百分率(%)の合計は100.0%を超える。
2. 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
3. 図中にある「n」は、集計対象票数(あるいは、分類別の該当対象数)を示し、比率は「n」を100.0%として表した。
4. クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明(無回答)」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。

I 調査の概要

(4)回収状況

■市民意識調査

	標本数	回収数(回収率)			
			女性	男性	「わからない、答えたくないなど」・無回答
全体	2,000 票	1,153 票 (57.7%)	612 票	521 票	20 票
郵送回収		854 票	480 票	359 票	15 票
インターネット回答		299 票	132 票	162 票	5 票

母集団の人口構成

		18～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
女性	人数	2,900	15,174	16,766	22,602	19,773	14,583	31,287	123,085
	%	2.4%	12.3%	13.6%	18.4%	16.1%	11.8%	25.4%	100.0%
男性	人数	2,966	14,825	16,444	21,830	19,726	13,459	23,290	112,540
	%	2.6%	13.2%	14.6%	19.4%	17.5%	12.0%	20.7%	100.0%
合計	人数	5,866	29,999	33,210	44,432	39,499	28,042	54,577	235,625
	%	2.5%	12.7%	14.1%	18.9%	16.8%	11.9%	23.2%	100.0%

配布数

		18～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
女性	人数	24	121	135	181	161	120	253	995
	%	2.4%	12.2%	13.6%	18.2%	16.2%	12.1%	25.4%	100.0%
男性	人数	26	135	152	195	176	117	204	1,005
	%	2.6%	13.4%	15.1%	19.4%	17.5%	11.6%	20.3%	100.0%
合計	人数	50	256	287	376	337	237	457	2,000
	%	2.5%	12.8%	14.4%	18.8%	16.9%	11.9%	22.9%	100.0%

回収数

		18～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答	合計
女性	人数	12	47	80	108	101	93	170	1	612
	%	2.0%	7.7%	13.1%	17.6%	16.5%	15.2%	27.8%	0.2%	100.0%
	回収率(%)	50.0%	38.8%	59.3%	59.7%	62.7%	77.5%	67.2%	-	61.5%
男性	人数	7	48	63	93	88	75	147	0	521
	%	1.3%	9.2%	12.1%	17.9%	16.9%	14.4%	28.2%	0.0%	100.0%
	回収率(%)	26.9%	35.6%	41.4%	47.7%	50.0%	64.1%	72.1%	-	51.8%
合計	人数	21	96	143	201	192	169	317	14	1,153
	%	1.8%	8.3%	12.4%	17.4%	16.7%	14.7%	27.5%	1.2%	100.0%
	回収率(%)	42.0%	37.5%	49.8%	53.5%	57.0%	71.3%	69.4%	-	57.7%

注) 合計には性別に「わからない、答えたくないなど」と回答した人・無回答の人を含むため女性と男性の計とは一致しない

■小中学生アンケート調査

	標本数	回収数(回収率)			
		女性	男性	「回答しない」・無回答	
小学生	369 票	360 票 (97.6%)	152 票	165 票	43 票
中学生	431 票	399 票 (92.6%)	200 票	173 票	26 票

■大学生意識調査

	回収数	回収数		
		女性	男性	「わからない、答えたくないなど」
大学生	302 票	194 票	98 票	10 票

I 調査の概要

(5) 市民意識調査の精度

住民意識調査は標本調査のため、調査結果から母集団を推定することができます。

調査結果の信頼度95%レベル(同一の調査を100回行った場合95回まではこの結果になるであろうという推定)における信頼区間は以下のとおりです。

主な%について求めたのが下表です。

この表から、例えば問「あなたの職業は。(○は1つ)」の質問で女性は「家事専業(専業主婦・主夫)」に約30%の人が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が3.6%であるので100回調査すると95回までは26.4%から33.6%の間の答えが得られるということになります。

【主な標本における比率の信頼区間(信頼度95%)】

今回調査の信頼区間(女性)

P(%)	信頼区間の1/2幅
50	±4.0
45 55	±3.9
40 60	±3.9
35 65	±3.8
30 70	±3.6
25 75	±3.4
20 80	±3.2
15 85	±2.8
10 90	±2.4
5 95	±1.7

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N=母集団(令和3年9月末現在満18歳以上)
母集団人口(女性123,085人、男性112,540人)

n=標本数(女性の有効回答者=612人)
(男性の有効回答者=521人)

P=回答率(標本測定値)

各設問での回答

(例:「そう思う」「どちらかといえばそう思う」など)

今回調査の信頼区間(男性)

P(%)	信頼区間の1/2幅
50	±4.3
45 55	±4.3
40 60	±4.2
35 65	±4.1
30 70	±3.9
25 75	±3.7
20 80	±3.4
15 85	±3.1
10 90	±2.6
5 95	±1.9

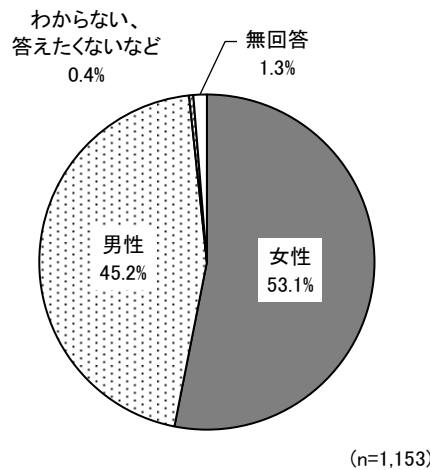
II 市民意識調査の結果

1. あなた自身やご家族について

(1) 性別

回答者の性別は「女性」が53.1%、「男性」が45.2%となっており、「女性」の方がやや割合が高くなっている。

図 性別

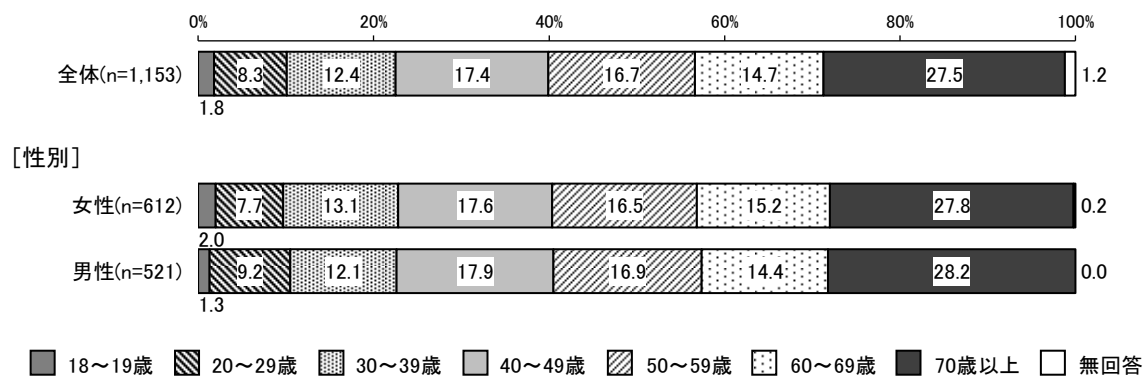


(2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が27.5%、「40～49歳」が17.4%、「50～59歳」が16.7%などとなっており、60歳以上の回答者が4割強となっている。

性別による年齢の違いはほとんどみられない。

図 性別 年齢



II 市民意識調査の結果

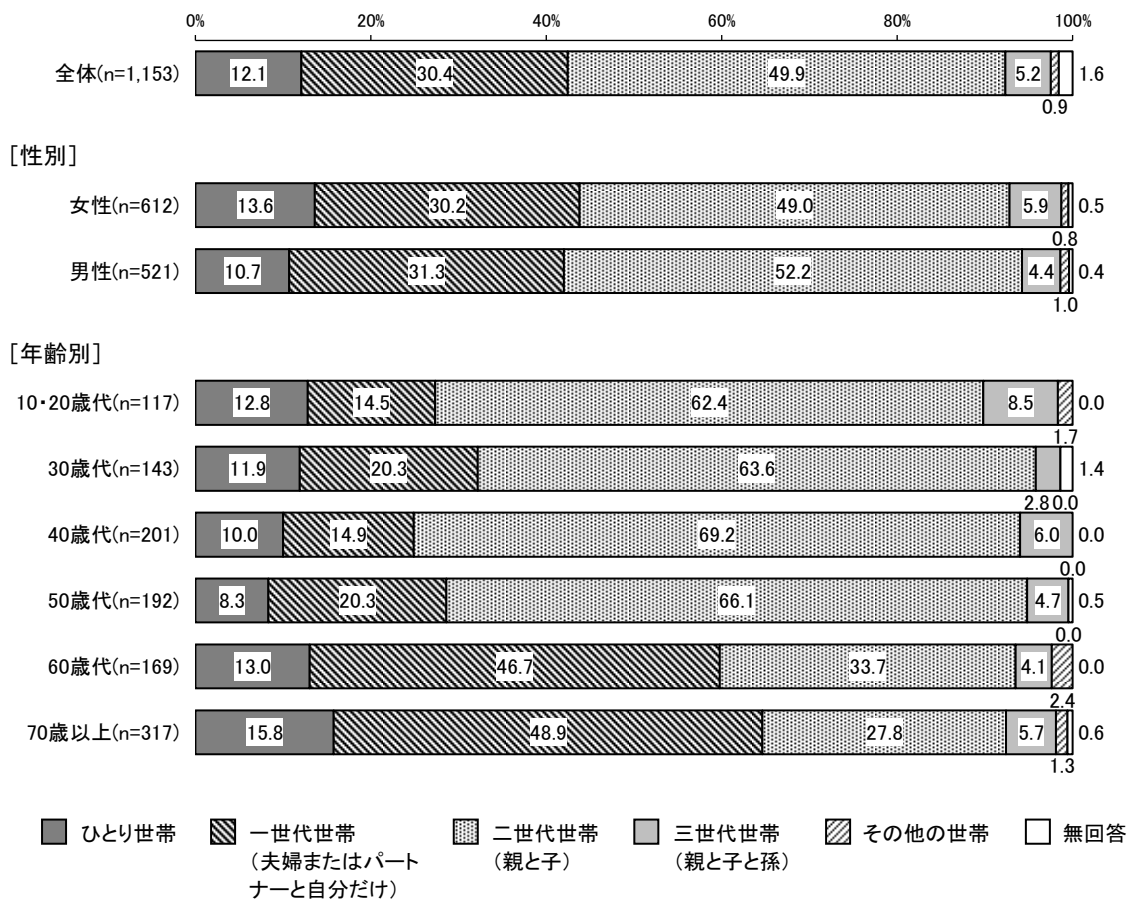
(3) 家族構成

家族構成は、「二世世代世帯(親と子)」が49.9%で最も高く、次いで「一世代世帯(夫婦またはパートナーと自分だけ)」(30.4%)、「ひとり世帯」(12.1%)、「三世世代世帯(親と子と孫)」(5.2%)の順となっている。

性別にみると、「ひとり世帯」の割合は女性が男性より2.9ポイント、「二世世代世帯(親と子)」は男性が女性より3.2ポイント高くなっている

年齢別にみると、60歳未満の年齢層では「二世世代世帯(親と子)」、60歳以上の年齢層では「一世代世帯(夫婦またはパートナーと自分だけ)」の割合が最も高くなっている。「ひとり世帯」の割合は70歳以上で15.8%となっている。

図 性別、年齢別 家族構成



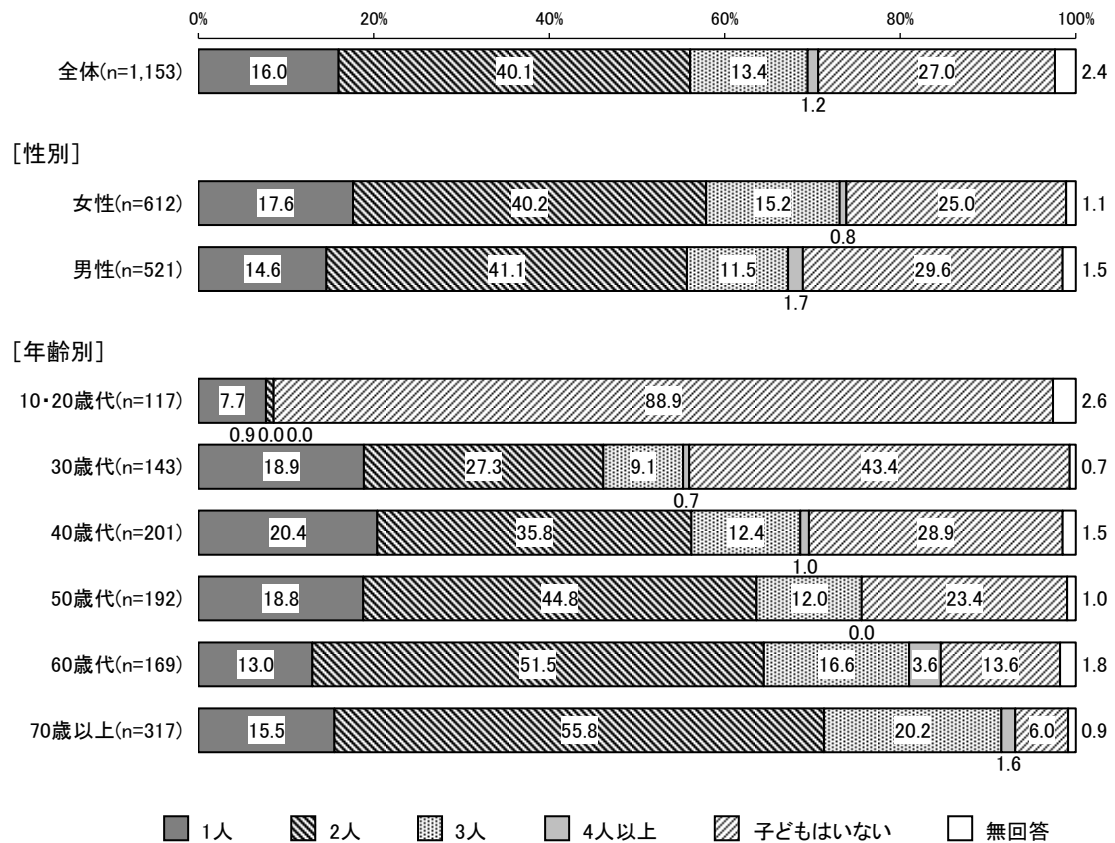
(4)子どもの人数

子どもの人数は、「2人」が40.1%で最も高く、次いで「1人」(16.0%)、「3人」(13.4%)、「4人以上」(1.2%)となっており、子どものいる人が合わせて70.7%、「子どもはいない」は27.0%となっている。

性別にみると、男性の方が「子どもはいない」の割合がやや高くなっている。

年齢別にみると、20歳代は「子どもはいない」が88.9%を占めているが、年齢が高くなるにつれて「子どもはいない」の割合は低くなっており、60歳以上の年齢層では「2人」が約5割を占めている。

図 性別、年齢別 子どもの人数



II 市民意識調査の結果

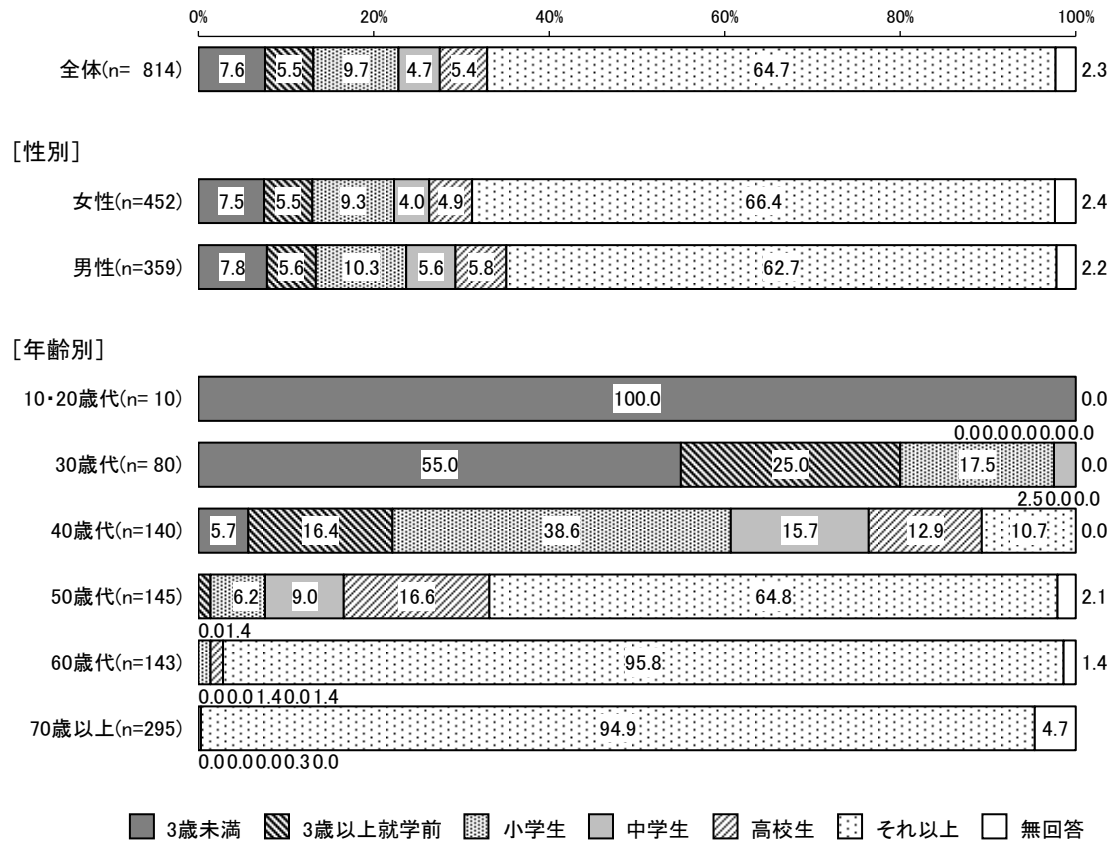
(5) 末子の年齢

末子の年齢は、「それ以上」(高校生より上)が64.7%で最も高く、次いで「小学生」(9.7%)、「3歳未満」(7.6%)、「3歳以上就学前」(5.5%)となっている。

性別にみると、高校生まではいずれも男性の方が高く、「それ以上」は女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、10～30歳代は「3歳未満」と「3歳以上就学前」、40歳代は「小学生」、50歳以上の年齢層では「それ以上」の割合が高くなっている。

図 性別、年齢別 末子の年齢



(6) 就労形態

就労形態は、「勤め人(正規の社員や職員)」が30.9%で最も高く、次いで「勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員や職員)」(19.3%)、「家事専業(専業主婦・主夫)」(17.1%)、「無職(家事専業を除く)」(16.7%)となっている。

性別にみると、女性では、「家事専業(専業主婦・主夫)」が31.5%で最も高く、男性では、「勤め人(正規の社員や職員)」が44.1%で最も高くなっている。

年齢別にみると、女性の30歳代は「勤め人(正規の社員や職員)」、40～60歳代は「勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員や職員)」の割合が最も高くなっている。男性の30～50歳代は「勤め人(正規の社員や職員)」が7割以上を占めている。

図 性別 就労形態

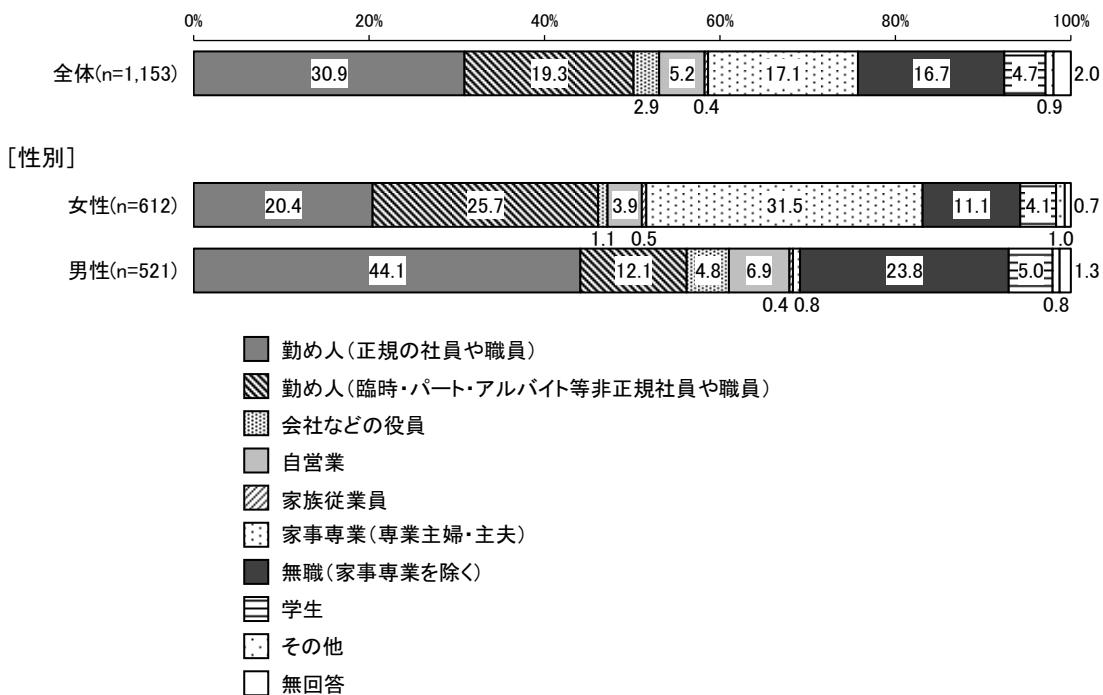


表 性年齢別 就労形態

		回答者数(n)	勤め人(正規の社員や職員)	勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員や職員)	会社などの役員	自営業	家族従業員	家事専業(専業主婦・主夫)	無職(家事専業を除く)	学生	その他	無回答	
全体		1,153	30.9	19.3	2.9	5.2	0.4	17.1	16.7	4.7	0.9	2.0	
性年齢別	女性	10・20歳代	59	39.0	10.2	-	-	-	6.8	3.4	40.7	-	-
		30歳代	80	50.0	22.5	-	3.8	1.3	18.8	2.5	-	-	1.3
		40歳代	108	29.6	34.3	2.8	5.6	-	24.1	2.8	0.9	-	-
		50歳代	101	19.8	40.6	1.0	5.0	1.0	23.8	5.9	-	3.0	-
		60歳代	93	7.5	45.2	1.1	5.4	-	32.3	7.5	-	1.1	-
		70歳以上	170	1.8	7.6	1.2	2.9	0.6	54.7	28.2	-	1.2	1.8
		男性	10・20歳代	55	43.6	3.6	1.8	-	1.8	-	3.6	45.5	-
	30歳代		63	84.1	6.3	1.6	3.2	-	-	3.2	1.6	-	-
	40歳代		93	71.0	6.5	6.5	9.7	1.1	1.1	2.2	-	1.1	1.1
	50歳代		88	76.1	4.5	6.8	8.0	-	1.1	3.4	-	-	-
	60歳代		75	20.0	37.3	8.0	12.0	-	-	22.7	-	-	-
	70歳以上		147	3.4	12.9	3.4	6.1	-	1.4	66.7	-	2.0	4.1

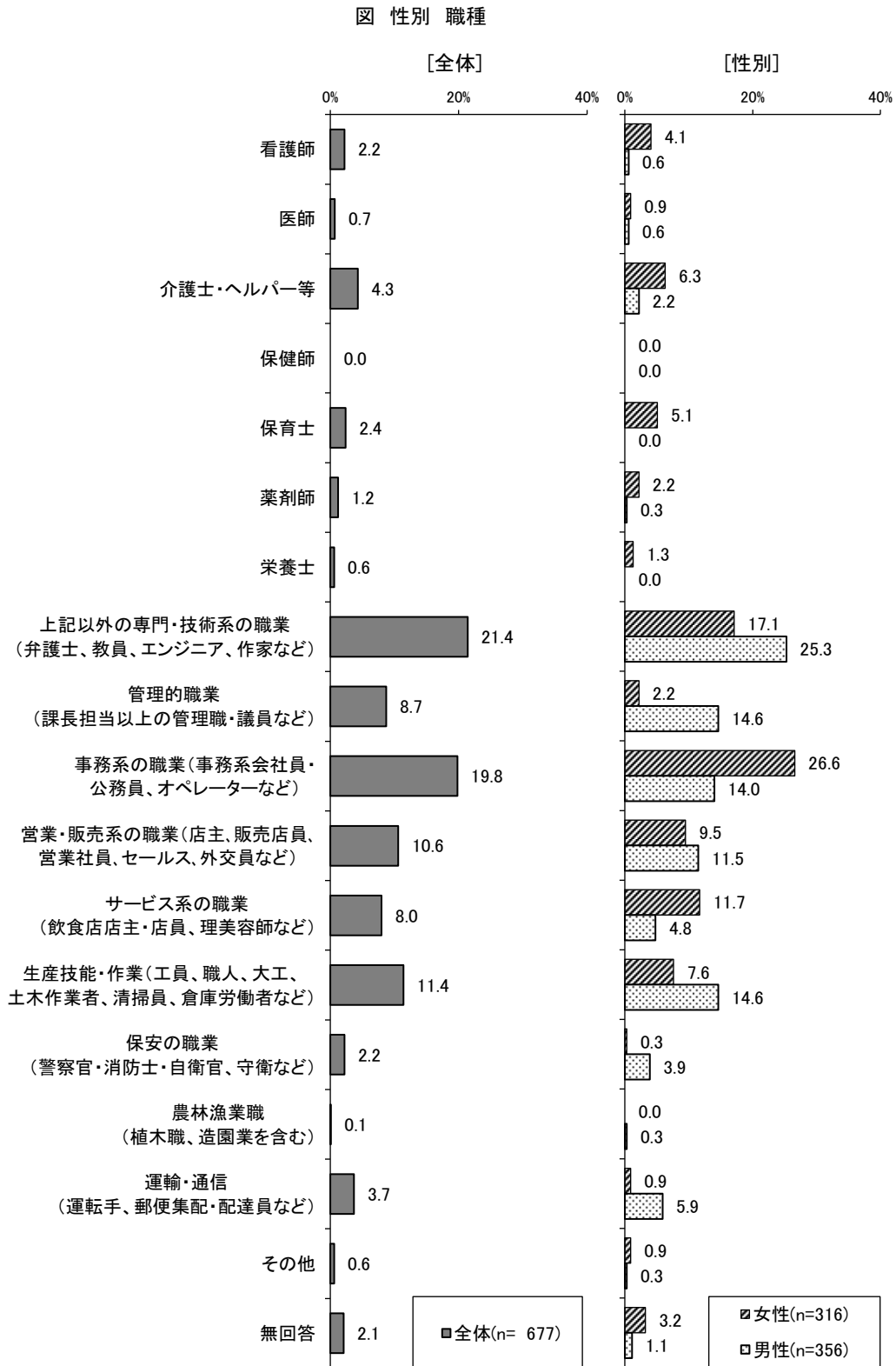
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

II 市民意識調査の結果

(7) 職種

働いている人の職種は、「上記以外の専門・技術系の職業(弁護士、教員、エンジニア、作家など)」が21.4%、「事務系の職業(事務系会社員・公務員、オペレーターなど)」が19.8%、「生産技能・作業(工員、職人、大工、土木作業員、清掃員、倉庫労働者など)」が11.4%となっている。

性別にみると、女性は男性よりも「事務系の職業(事務系会社員・公務員、オペレーターなど)」と「サービス系の職業(飲食店店主・店員、理美容師など)」の割合が高くなっている。



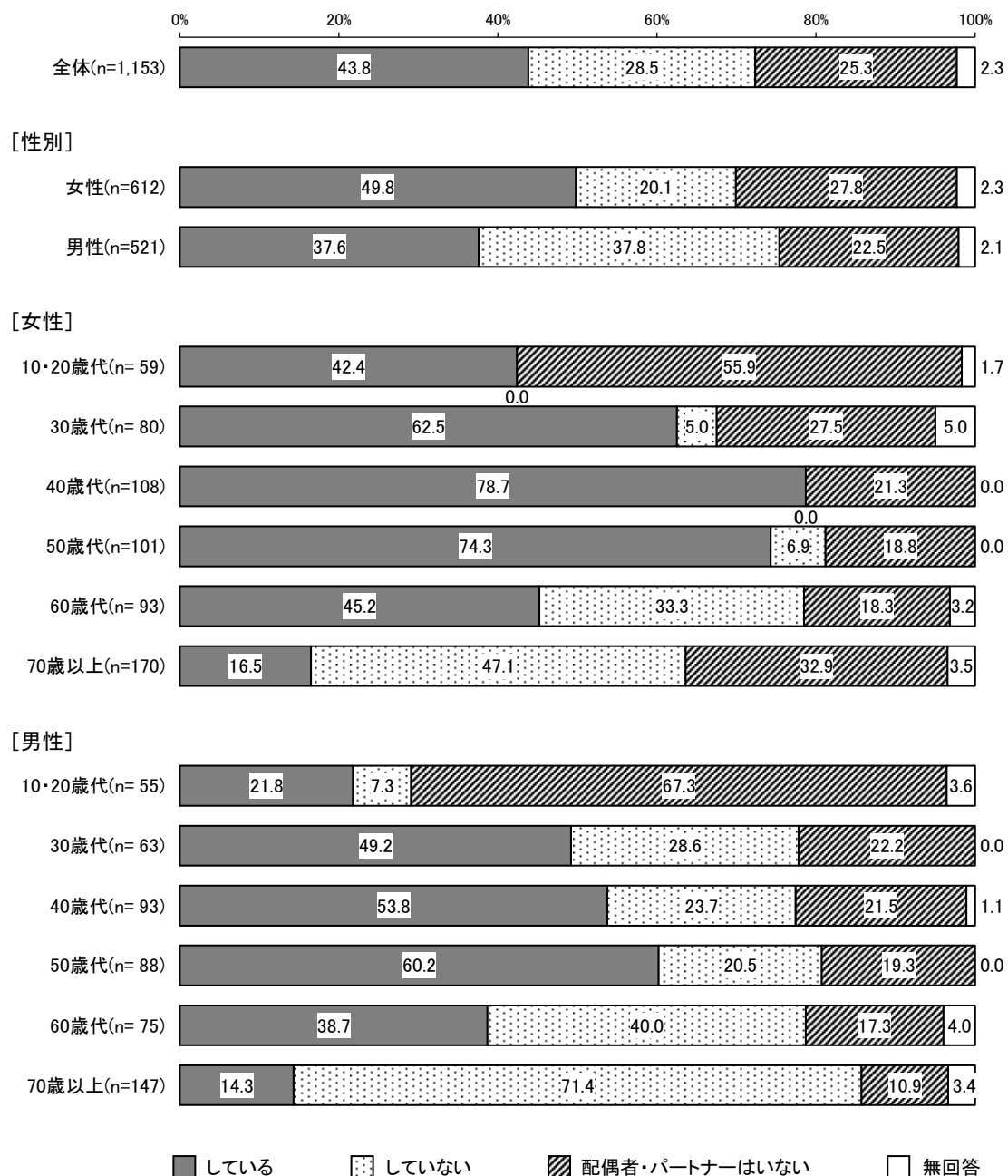
(8) 配偶者・パートナーの就労状態

配偶者(パートナーを含む)の就労状態は、「している」が43.8%、「していない」が28.5%、「配偶者・パートナーはいない」が25.3%となっている。

性別にみると、女性の配偶者は「している」が49.8%、男性の配偶者は「している」と「していない」がそれぞれ37.6%、37.8%とほぼ同率となっている。

年齢別にみると、40歳代以下の女性の配偶者は「していない」の割合が低く、10・20・40歳代は0%となっている。30～50歳代の男性の配偶者は年齢が上がるにつれ「している」の割合が高くなっている。

図 性別、性年齢別 配偶者・パートナーの就労状態



2. 男女共同参画に関する意識について

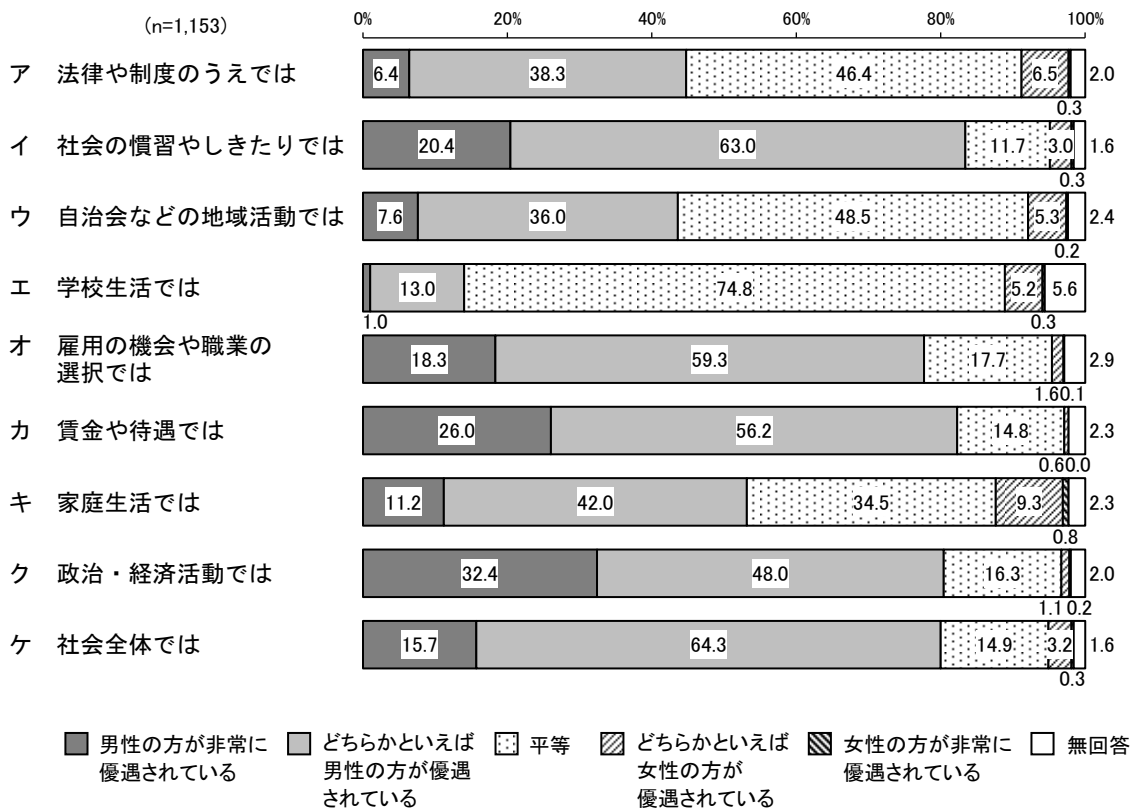
(1) 男女の地位の平等観

問1 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思われますか。次の分野で、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

社会の様々な分野において男女の地位がどの程度平等になっていると思うかたずねたところ、「エ 学校生活では」は「平等」が74.8%と高くなっている。また、「ア 法律や制度のうえでは」と「ウ 自治会などの地域活動では」も「平等」の割合が、『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)よりもやや高くなっている。

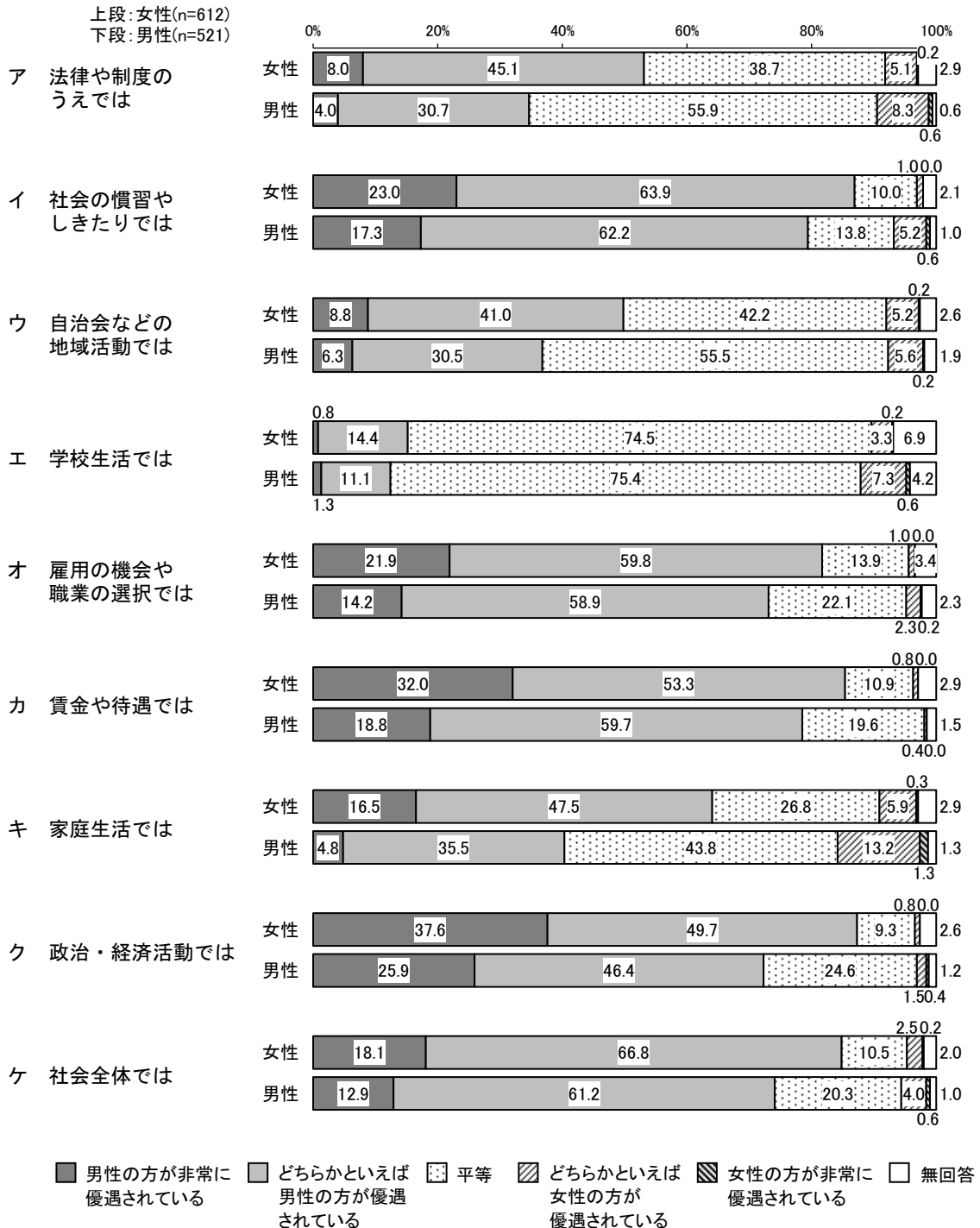
そのほかの分野はいずれも「平等」よりも『男性優遇』の割合が高くなっており、特に「イ 社会の慣習やしきたりでは」(83.4%)、「カ 賃金や待遇では」(82.2%)、「ク 政治・経済活動では」(80.4%)、「ケ 社会全体では」(80.0%)で『男性優遇』の割合が高くなっている。

図 男女の地位の平等観



性別にみると、いずれの分野でも『男性優遇』と回答した人の割合は女性の方が男性よりも高くなっており、特に「キ 家庭生活では」で23.7ポイント、「ア 法律や制度のうえでは」で18.4ポイント、「ク 政治・経済活動では」で15.0ポイント高くなって、性別による意識の違いが大きくなっている。一方、「エ 学校生活では」で、性別による『男性優遇』の違いはほとんどみられない。

図 性別 男女の地位の平等観



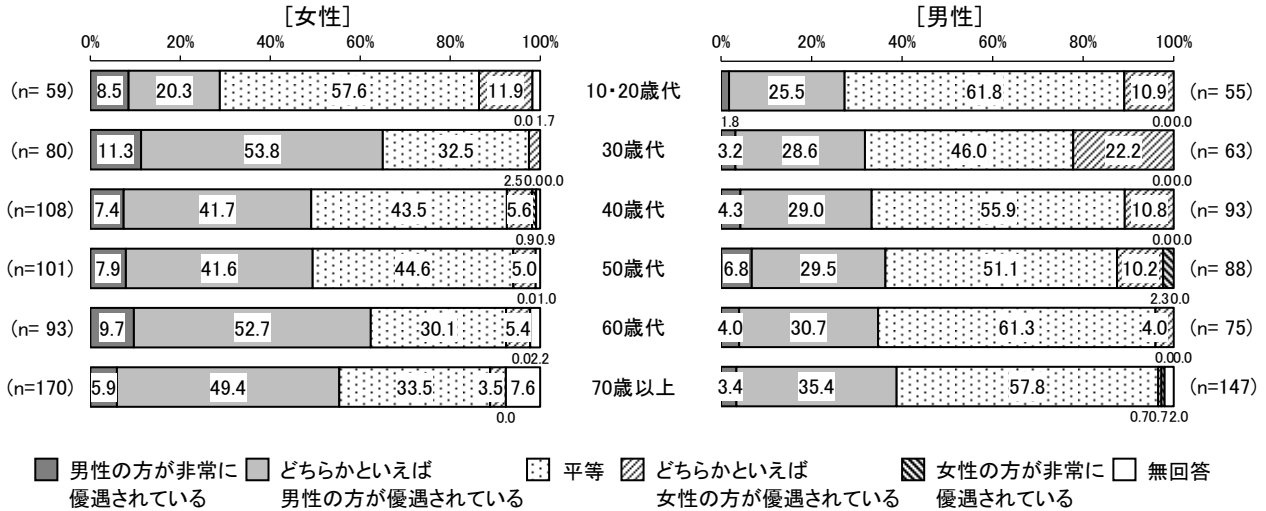
II 市民意識調査の結果

ア 法律や制度のうえでは

女性の10・20歳代では、『男性優遇』が28.8%と、他の年齢層と比べて低くなっている。

男性の30歳代では、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が22.2%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等観 — ア 法律や制度のうえでは

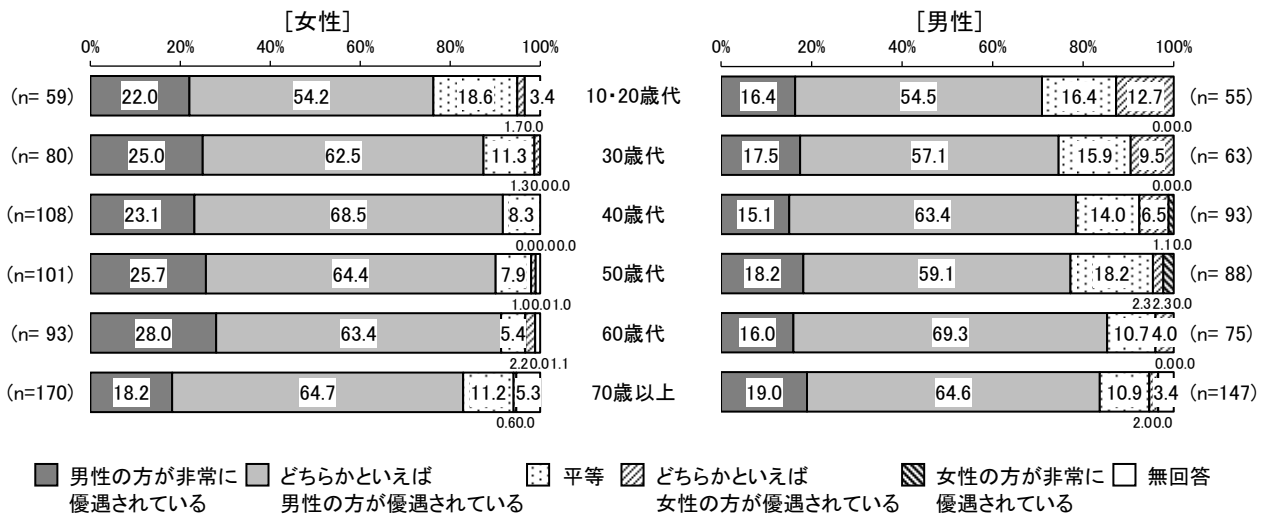


イ 社会の慣習やしきたりでは

女性では、40～60歳代で『男性優遇』が9割以上と高くなっている。

男性では、年齢が高くなるにつれて『男性優遇』の割合が高くなる傾向にあり、60歳以上で8割を超えている。

図 性年齢別 男女の地位の平等観 — イ 社会の慣習やしきたりでは

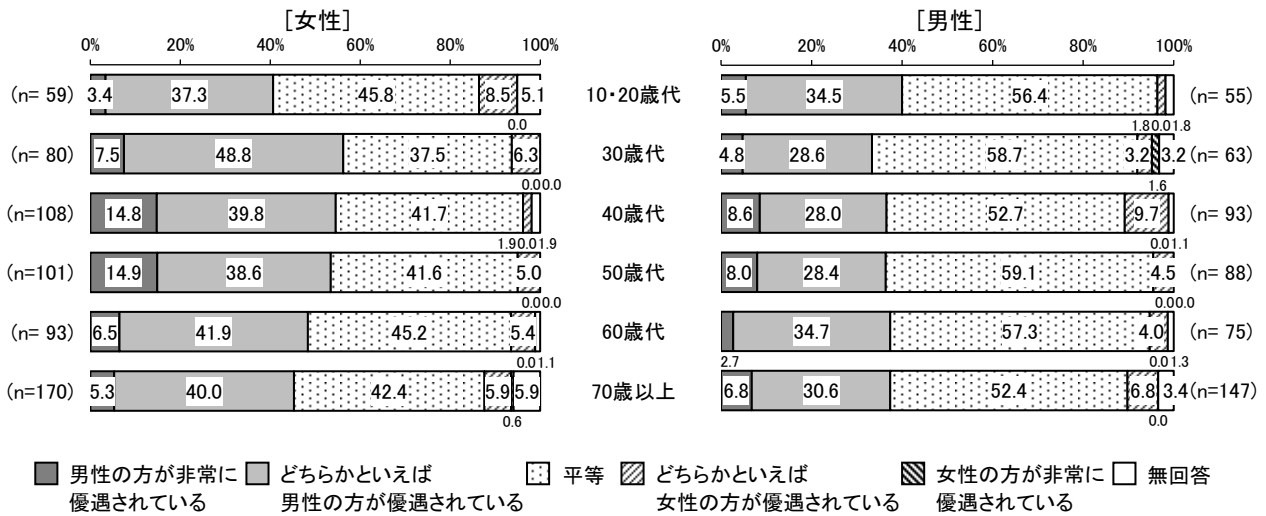


ウ 自治会などの地域活動では

女性では、30～50歳代で『男性優遇』が5割以上となっている。

男性では、いずれの年齢層も「平等」が5割以上となっている。

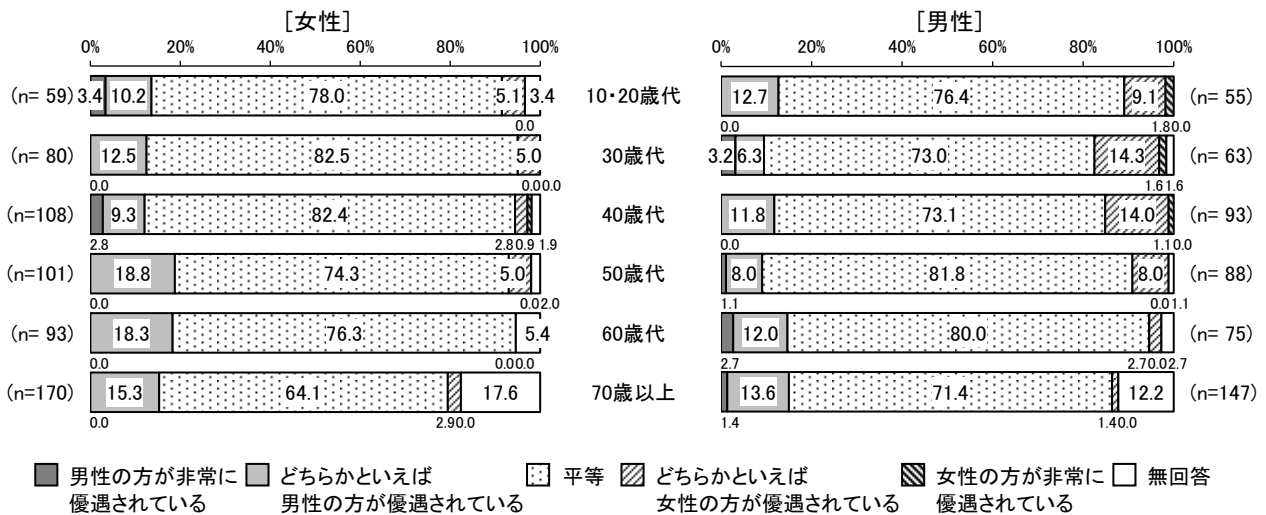
図 性年齢別 男女の地位の平等観 - ウ 自治会などの地域活動では



エ 学校生活では

男女とも、いずれの年齢層も「平等」が高い割合を占めているが、女性の70歳以上では64.1%と他の年齢層より低くなっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等観 - エ 学校生活では

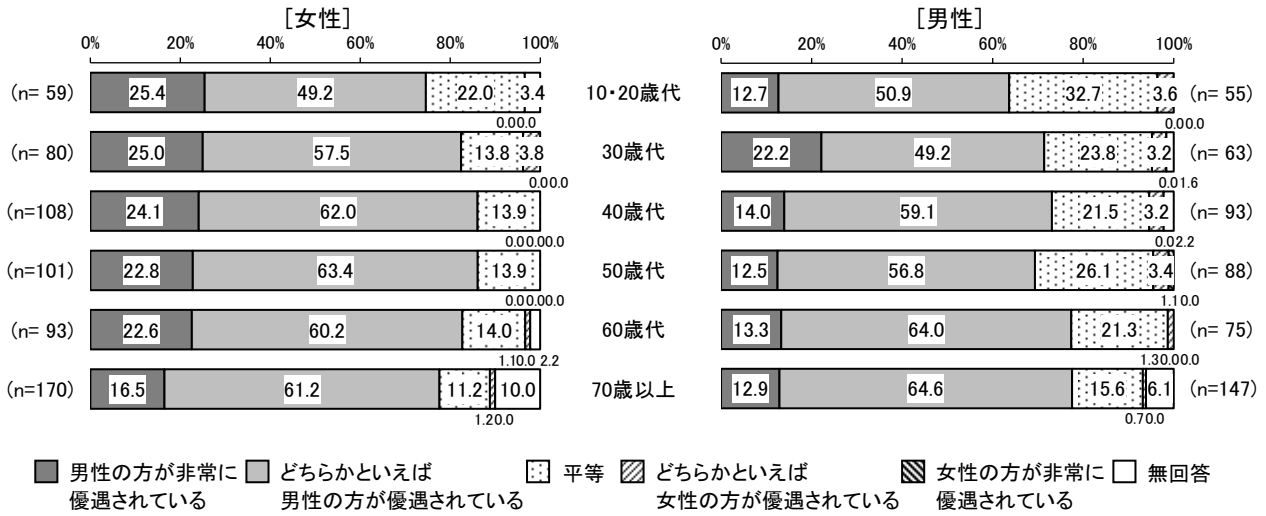


II 市民意識調査の結果

オ 雇用の機会や職業の選択では

男女とも、『男性優遇』がいずれの年齢層も5割以上を占めており、女性の40・50歳代と男性の60歳以上で他の年齢層よりやや高くなっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等観 — オ 雇用の機会や職業の選択では

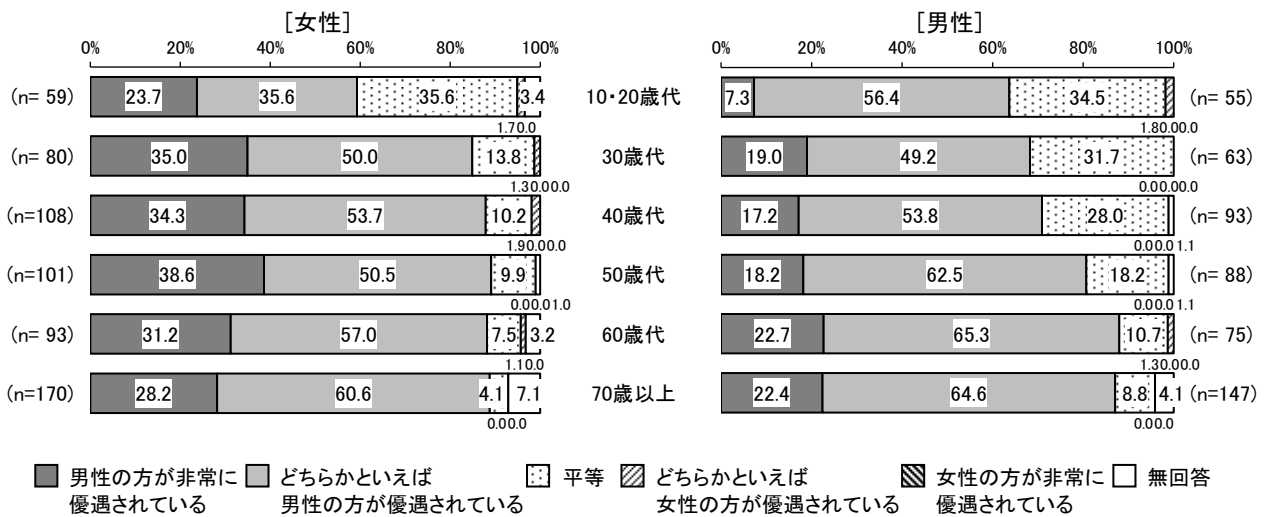


カ 賃金や待遇では

女性では、10・20歳代で『男性優遇』の割合が59.3%と他の年齢層より低くなっている。

男女とも、年齢が低くなるにつれて「平等」が高くなっており、女性の10・20歳代と男性の30歳代以下では3割以上となっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等観 — カ 賃金や待遇では

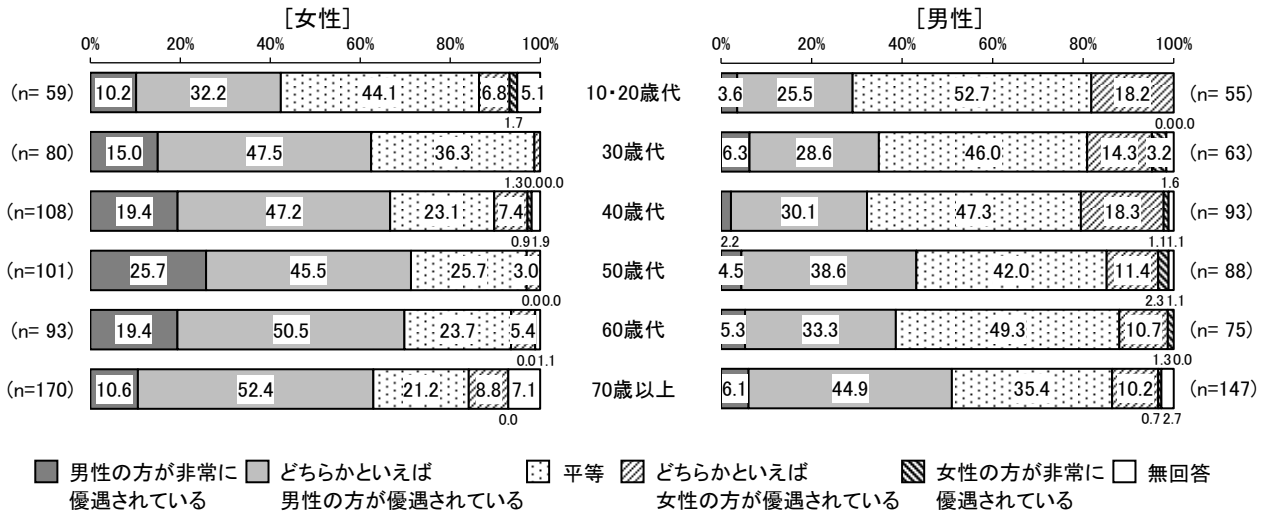


キ 家庭生活では

女性では、50歳代で『男性優遇』の割合が71.2%と最も高くなっている。一方、10・20歳代では『男性優遇』は42.4%で、「平等」が44.1%と高くなっている。

男性では、60歳代以下で「平等」の割合が高くなっており、10・20歳代以下で5割を上回っている。

図 性年齢別 男女の地位の平等観 — キ 家庭生活では

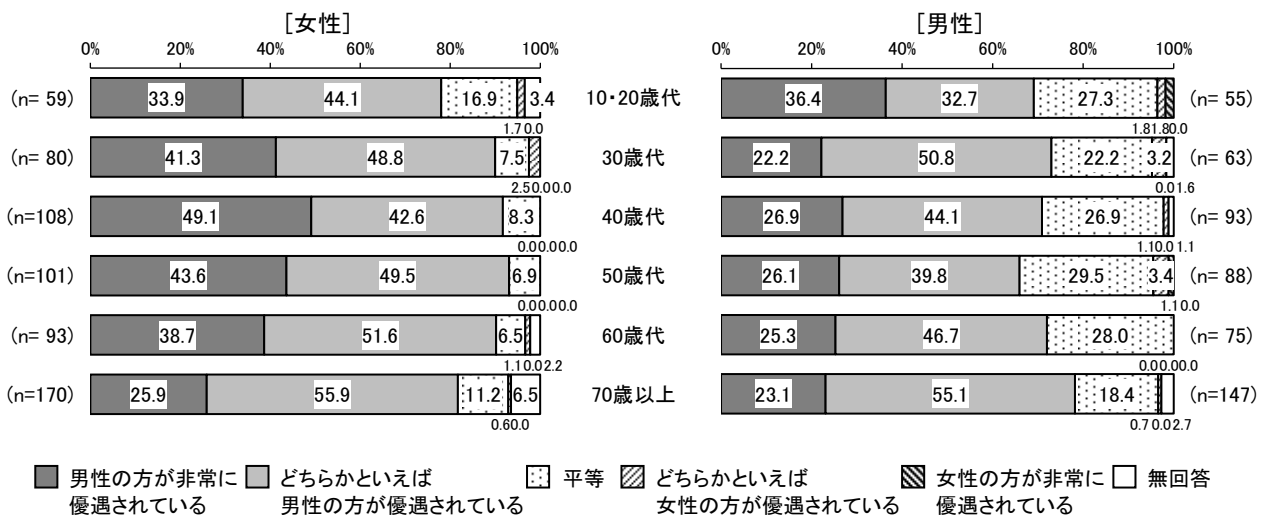


ク 政治・経済活動では

女性では、30～50歳代で「男性の方が非常に優遇されている」が4割以上を占め、30～60歳代で『男性優遇』は9割以上となっている。

男性では、70歳以上で『男性優遇』の割合が78.2%と他の年齢層より高くなっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等観 — ク 政治・経済活動では



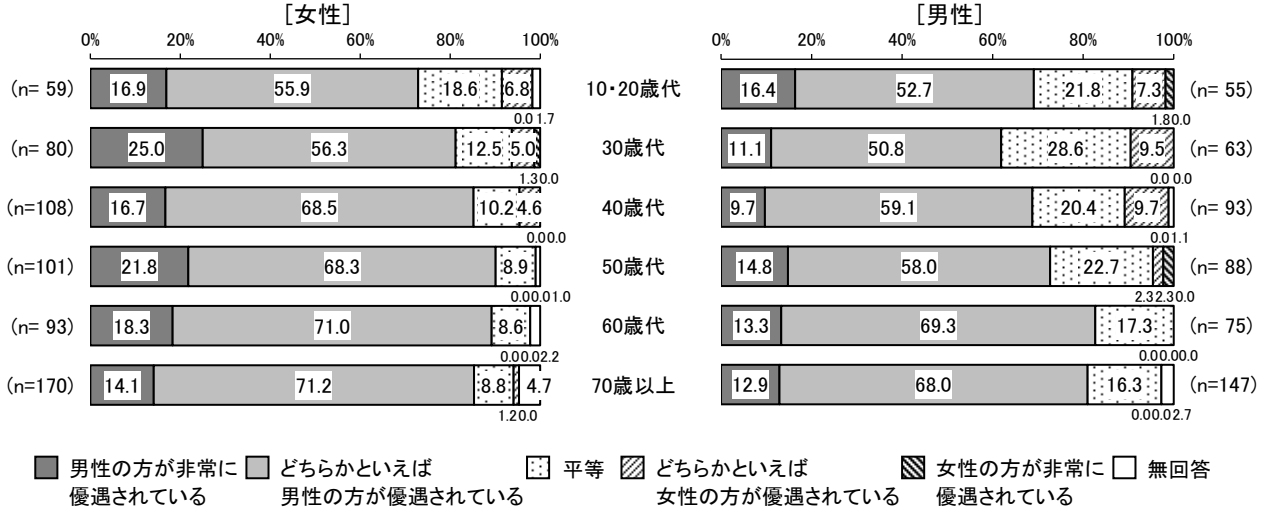
II 市民意識調査の結果

ケ 社会全体では

女性では、いずれの年齢層も『男性優遇』の割合が7割を超えており、50歳代では90.1%と最も高くなっている。

男性では、10～50歳代で「平等」が2割以上となっている。

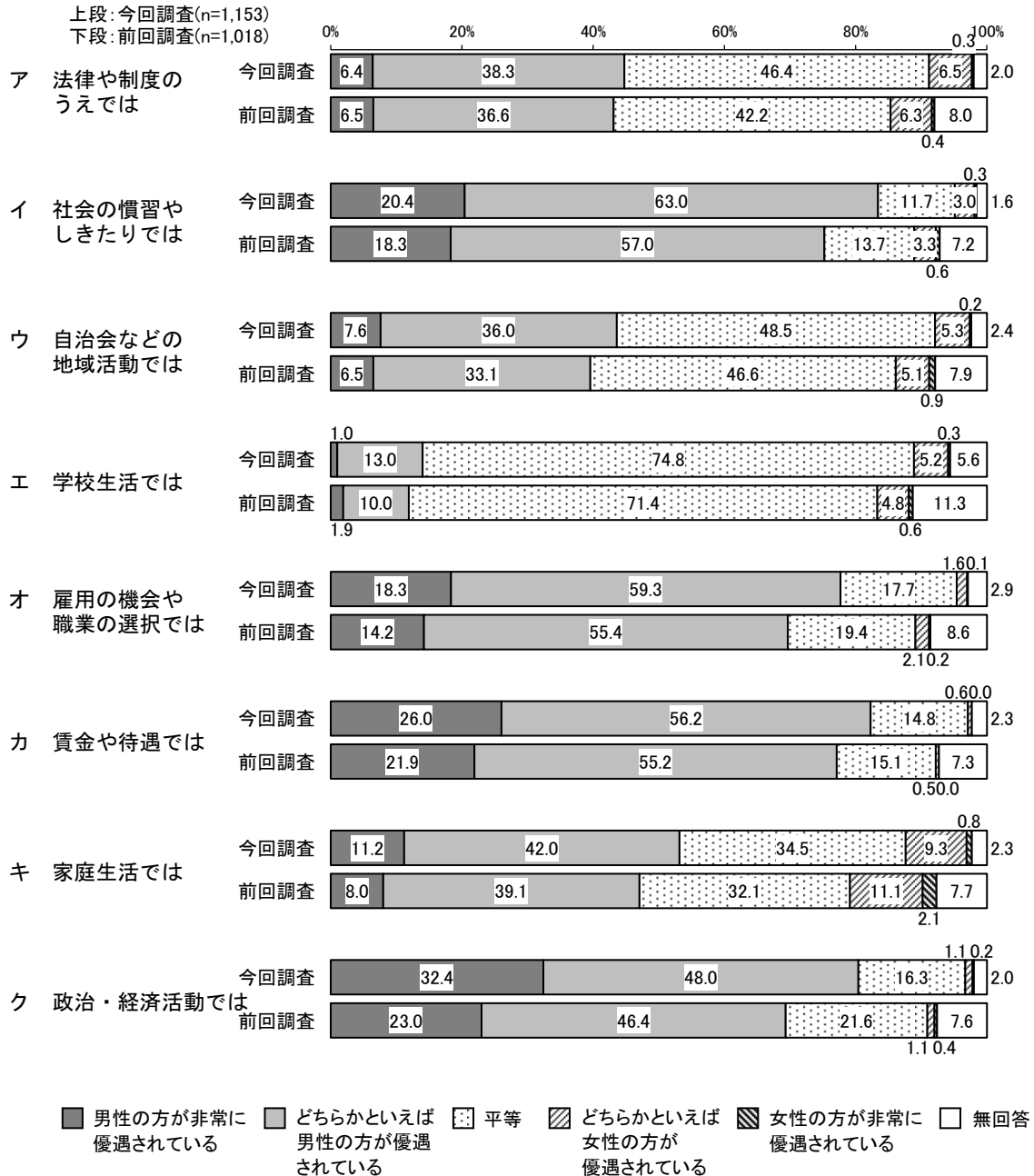
図 性年齢別 男女の地位の平等観 - ケ 社会全体では



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、いずれの分野でも『男性優遇』と回答した人の割合は今回調査が高くなっており、特に「ク 政治・経済活動では」は11.0ポイント、「イ 社会の慣習やしきたりでは」は8.1ポイント、「オ 雇用の機会や職業の選択では」は8.0ポイント高くなっている。

図 男女の地位の平等観(前回調査との比較)

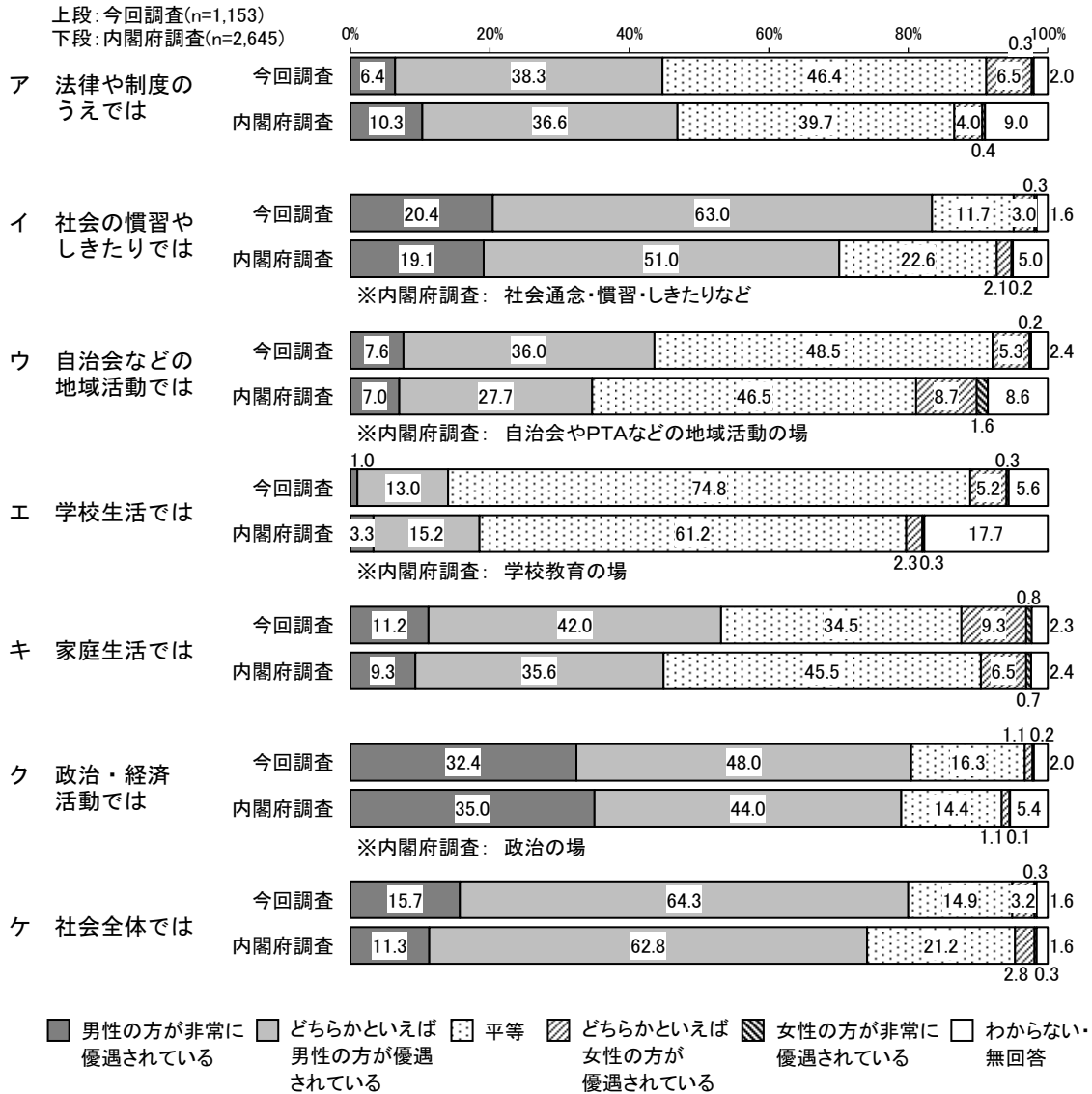


II 市民意識調査の結果

■内閣府調査との比較

令和元年度に内閣府が実施した世論調査と比較すると、「ア 法律や制度のうえでは」と「エ 学校生活では」を除くすべての分野で、『男性優遇』の割合が内閣府調査より高くなっており、特に「イ 社会の慣習やしきたりでは」は13.3ポイント、「ウ 自治会などの地域活動では」は8.9ポイント、「キ 家庭生活では」は8.3ポイント高くなっている。一方、「エ 学校生活では」は、「平等」の割合が内閣府調査より13.6ポイント高くなっている。

図 男女の地位の平等観(内閣府調査との比較)



(2) 性別役割分担意識

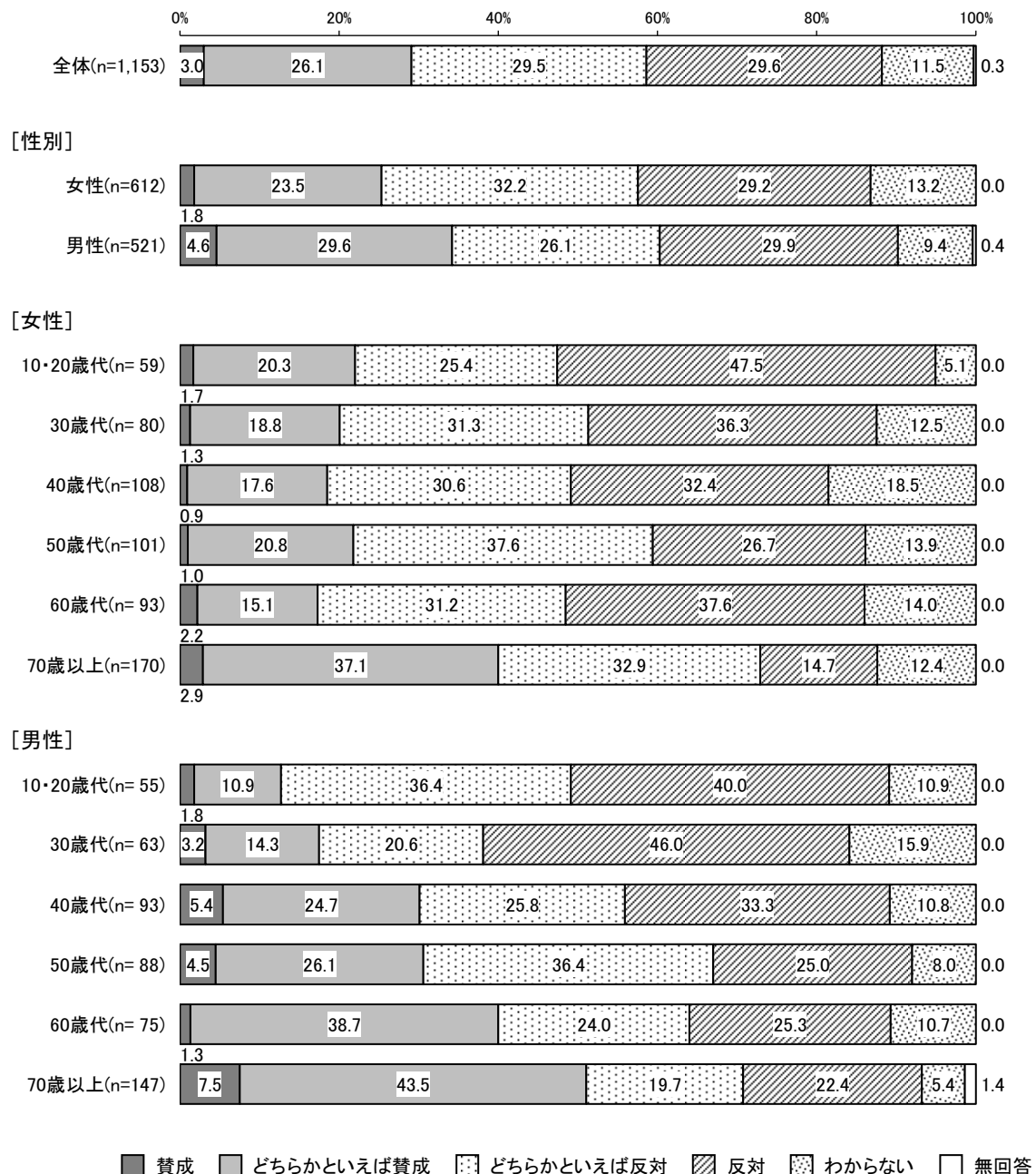
問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方(性別役割分担意識)についてどう思うかたずねたところ、「賛成」(3.0%)と「どちらかといえば賛成」(26.1%)を合計した『賛成』が29.1%、「どちらかといえば反対」(29.5%)と「反対」(29.6%)を合計した『反対』が59.1%となっており、『反対』が『賛成』よりも30.0ポイント高くなっている。

性別にみると、男女ともに『反対』の割合が『賛成』よりも高くなっており、女性の『反対』は男性よりも5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女とも60歳以下で『反対』が『賛成』よりも高くなっている。10・20歳代では、男女ともに『反対』が7割以上となり、他の年齢層より高くなっている。70歳以上では、男女とも『賛成』の割合が高く4～5割程度となっている。

図 性別、性年齢別 性別役割分担意識

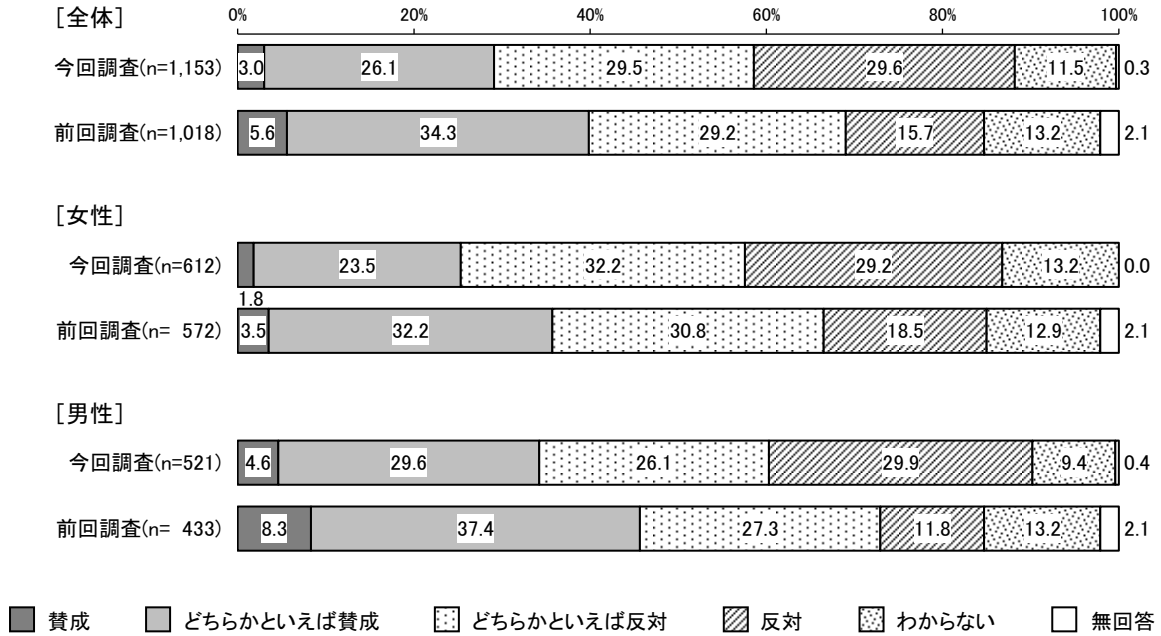


II 市民意識調査の結果

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、『反対』の割合が今回調査の方が高くなっており、女性で12.1ポイント、男性で16.9ポイント高くなっている。

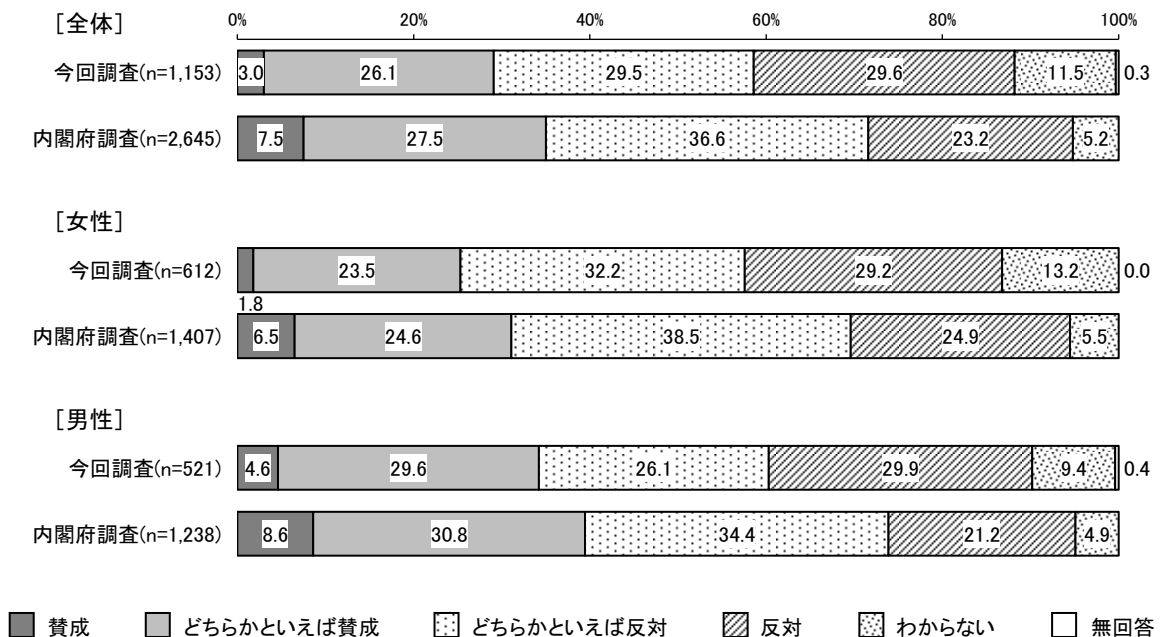
図 性別 性別役割分担意識(前回調査との比較)



■ 内閣府調査との比較

令和元年度に内閣府が実施した世論調査と比較すると男女とも、『賛成』の割合が今回調査の方が低く、『反対』の割合に違いはほとんどみられない。

図 性別 性別役割分担意識(内閣府調査との比較)



(3) 性別役割分担に賛成する理由

《問2で、「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。》

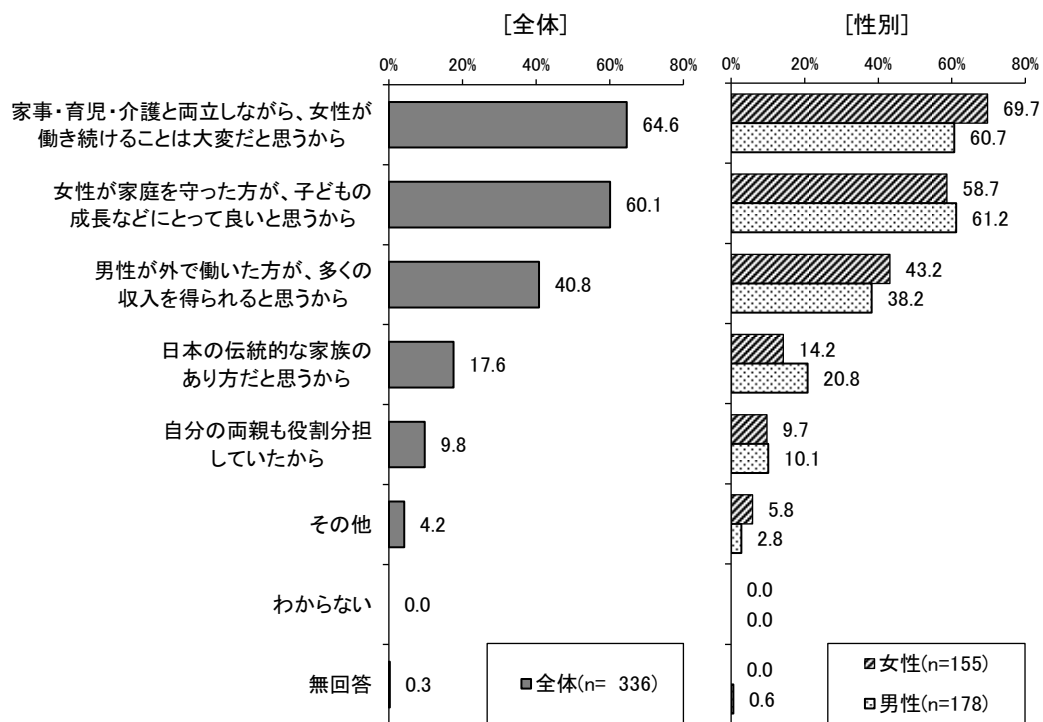
問3-1 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

性別役割分担に賛成する人にその理由をたずねたところ、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が64.6%で最も高く、次いで、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が60.1%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が40.8%となっている。

性別にみると、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」は女性69.7%・男性60.7%と、女性の方が9.0ポイント高くなっている。また、「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」は女性14.2%・男性20.8%と、男性の方が6.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性では、30・40・60歳代で「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」、50歳代と70歳以上で「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が高く、男性の70歳代以上で「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」が約3割で高くなっている。

図 性別 性別役割分担に賛成する理由



II 市民意識調査の結果

表 性年齢別 性別役割分担に賛成する理由

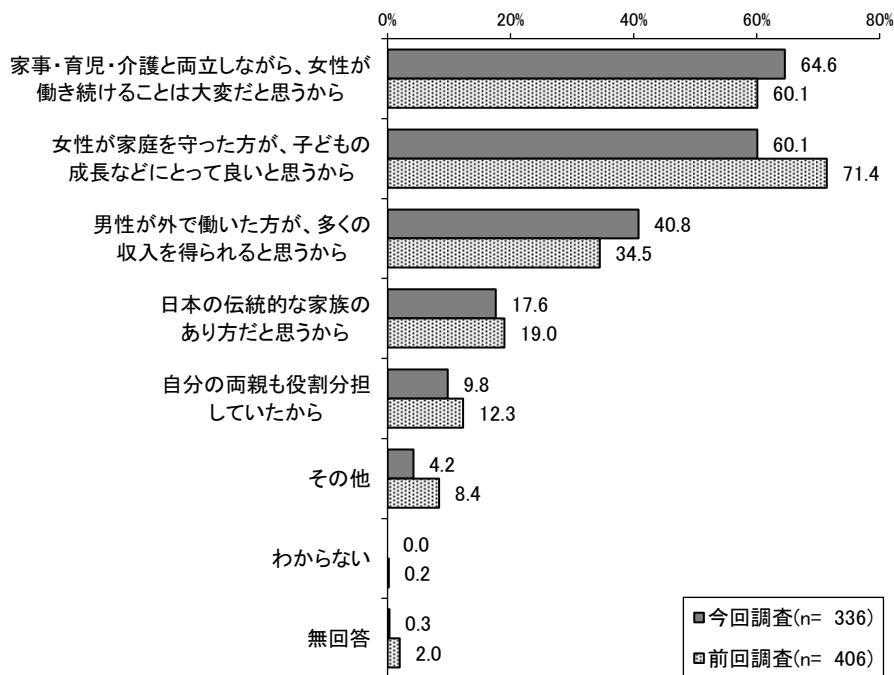
		回答者数(n)	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから	女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	自分の両親も役割分担していたから	その他	わからない	無回答	
全体		336	64.6	60.1	40.8	17.6	9.8	4.2	-	0.3	
性年齢別	女性	10・20歳代	13	69.2	23.1	23.1	7.7	15.4	7.7	-	-
		30歳代	16	81.3	31.3	37.5	12.5	12.5	18.8	-	-
		40歳代	20	75.0	50.0	50.0	-	-	5.0	-	-
		50歳代	22	59.1	72.7	40.9	4.5	13.6	4.5	-	-
		60歳代	16	75.0	37.5	31.3	18.8	-	12.5	-	-
		70歳以上	68	67.6	75.0	50.0	22.1	11.8	1.5	-	-
		男性	10・20歳代	7	57.1	28.6	42.9	-	14.3	-	-
	30歳代	11	63.6	27.3	63.6	9.1	18.2	-	-	-	
	40歳代	28	42.9	64.3	17.9	17.9	7.1	10.7	-	-	
	50歳代	27	48.1	59.3	29.6	18.5	7.4	-	-	-	
	60歳代	30	66.7	60.0	43.3	16.7	13.3	3.3	-	-	
	70歳以上	75	69.3	69.3	42.7	28.0	9.3	1.3	-	1.3	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

■前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が前回調査より10ポイント以上低くなっている。

図 性別役割分担に賛成する理由(前回調査との比較)



(4) 性別役割分担に反対する理由

《問2で、「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方におたずねします。》

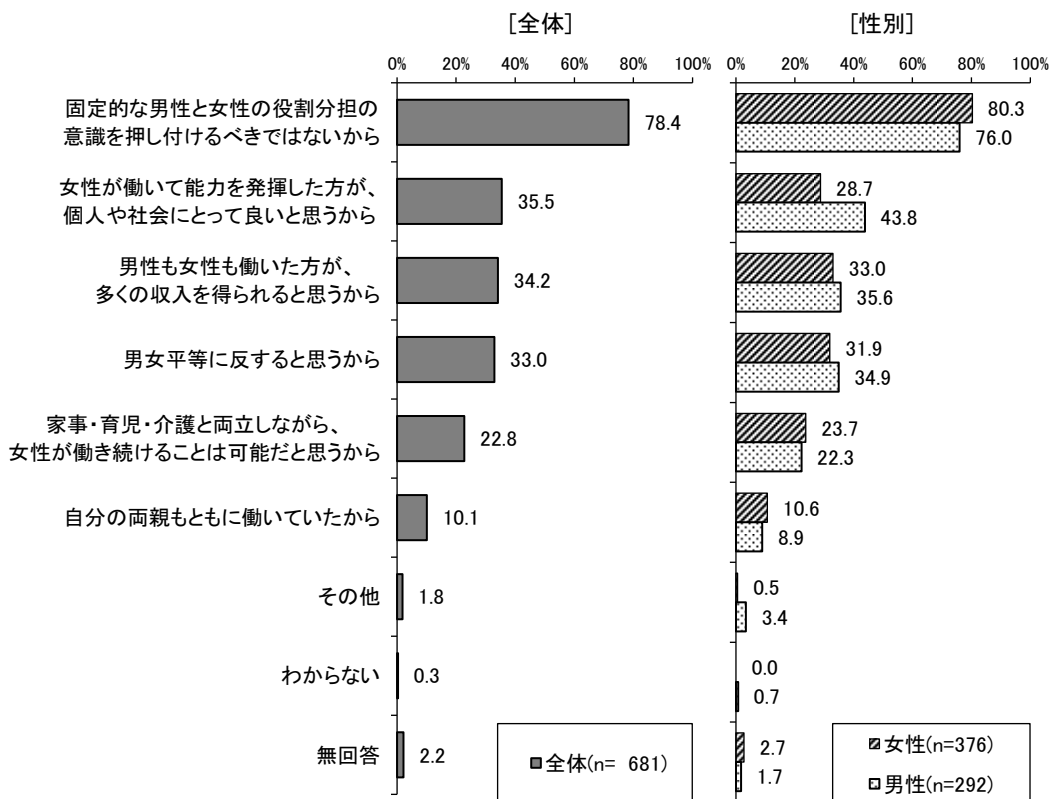
問3-2 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

性別役割分担に反対する人にその理由をたずねたところ、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」が78.4%で最も高く、次いで、「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が35.5%、「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が34.2%、「男女平等に反すると思うから」が33.0%となっている。

性別にみると、「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」は女性28.7%・男性43.8%と、男性の方が15.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性の10・20歳代で「男女平等に反すると思うから」が5割以上となっており、男性の40歳代以上で「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が約5割以上となっている。また、女性の10・20歳代と男性の40歳代で「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」、男性の40歳代で「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が他の年齢層より高くなっている。

図 性別 性別役割分担に反対する理由



II 市民意識調査の結果

表 性年齢別 性別役割分担に反対する理由

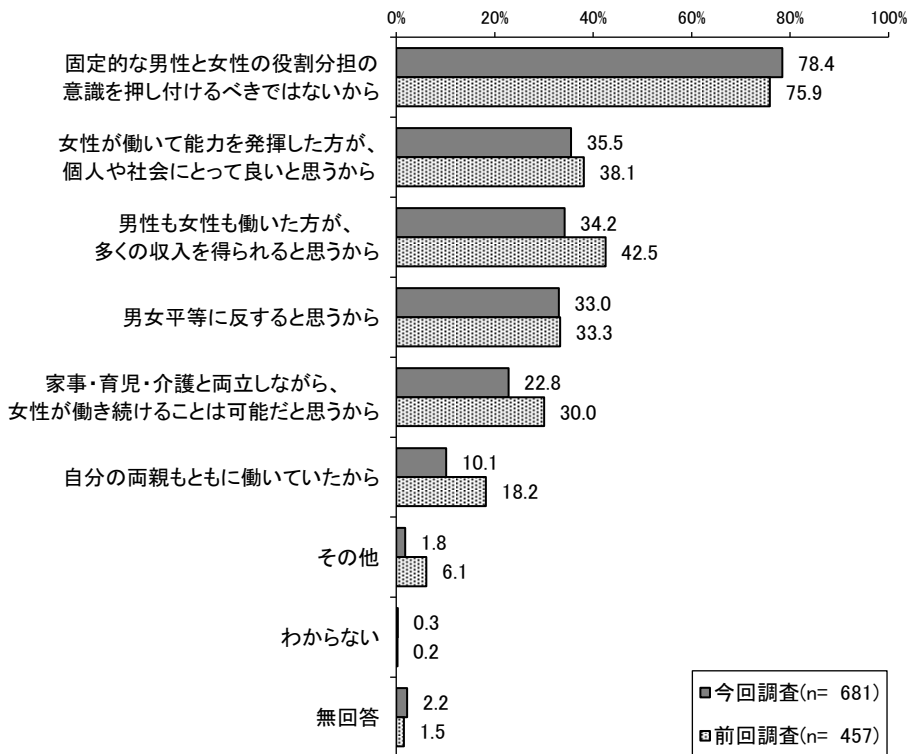
		回答者数(n)	固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから	女性が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	男女平等に反すると思うから	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから	自分の両親もともに働いていたから	その他	わからない	無回答
全体		681	78.4	35.5	34.2	33.0	22.8	10.1	1.8	0.3	2.2
性年齢別	女性										
	10・20歳代	43	93.0	18.6	30.2	53.5	20.9	20.9	-	-	-
	30歳代	54	83.3	29.6	38.9	29.6	24.1	14.8	1.9	-	-
	40歳代	68	86.8	27.9	38.2	27.9	20.6	8.8	1.5	-	1.5
	50歳代	65	83.1	23.1	27.7	27.7	18.5	3.1	-	-	3.1
	60歳代	64	81.3	28.1	31.3	28.1	32.8	12.5	-	-	1.6
	70歳以上	81	63.0	38.3	32.1	32.1	24.7	8.6	-	-	7.4
	男性										
	10・20歳代	42	78.6	26.2	26.2	19.0	16.7	4.8	-	2.4	-
	30歳代	42	76.2	19.0	40.5	31.0	21.4	9.5	4.8	-	2.4
	40歳代	55	90.9	49.1	50.9	38.2	14.5	12.7	3.6	-	-
	50歳代	54	75.9	48.1	29.6	31.5	31.5	9.3	1.9	-	-
	60歳代	37	62.2	64.9	27.0	40.5	24.3	2.7	5.4	-	2.7
	70歳以上	62	69.4	51.6	35.5	45.2	24.2	11.3	4.8	1.6	4.8

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」と「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから」と「自分の両親もともに働いていたから」が前回調査より7～8ポイント程度低くなっている。

図 性別役割分担に反対する理由(前回調査との比較)



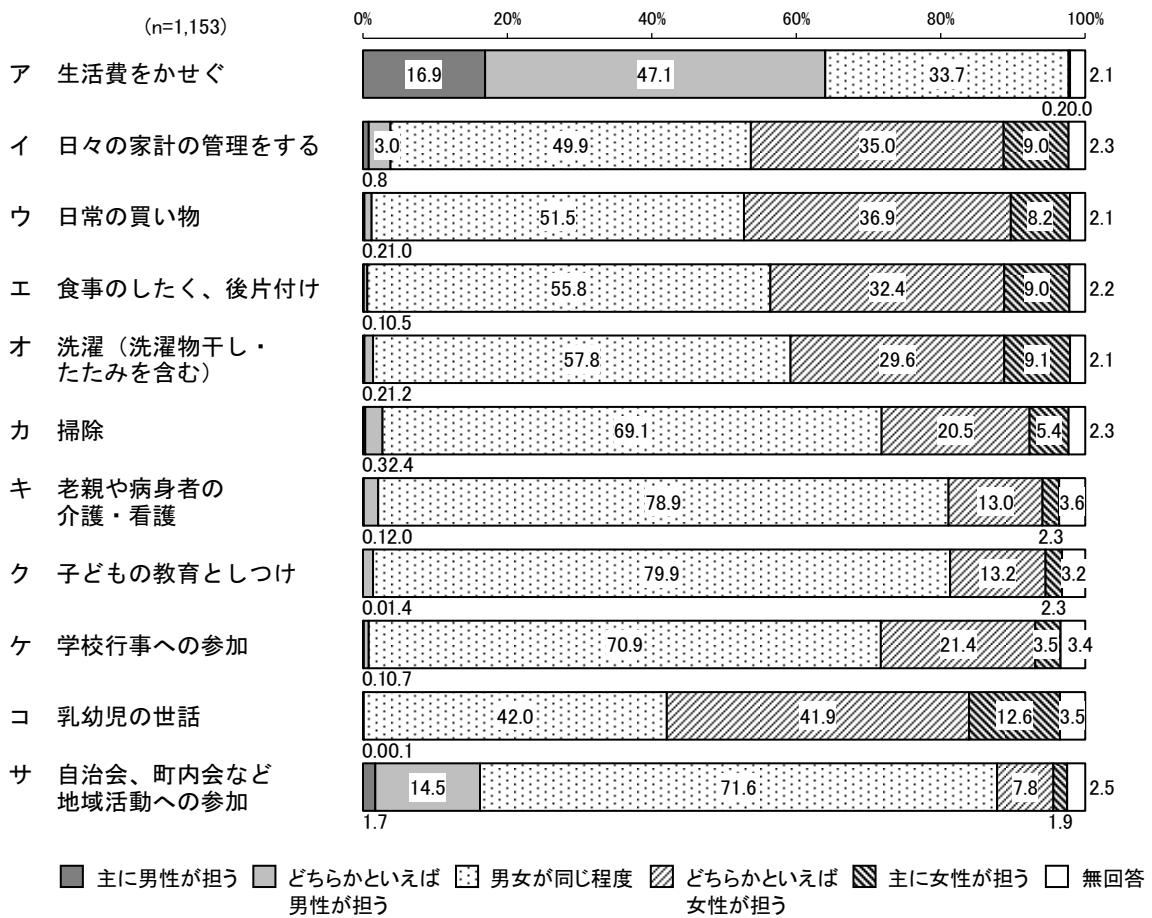
(5) 家庭の仕事の役割分担

《全員におたずねします。》

問4 家庭におけるさまざまな役割について、おたずねします。あなたは以下のことがらをどのように分担するのが良いと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

家庭の仕事の役割分担についてたずねたところ、「ア 生活費をかせぐ」と「コ 乳幼児の世話」を除くすべての分野で「男女が同じ程度」が約半数以上となっており、特に「ク 子どもの教育としつけ」が79.9%、「キ 老親や病身者の介護・看護」が78.9%と高くなっている。一方で、「ア 生活費をかせぐ」は『男性が担う』（「主に男性が担う」と「どちらかといえば男性が担う」の合計）が、「コ 乳幼児の世話」は『女性が担う』（「主に女性が担う」と「どちらかといえば女性が担う」の合計）がそれぞれ64.0%、54.5%と高くなっている。

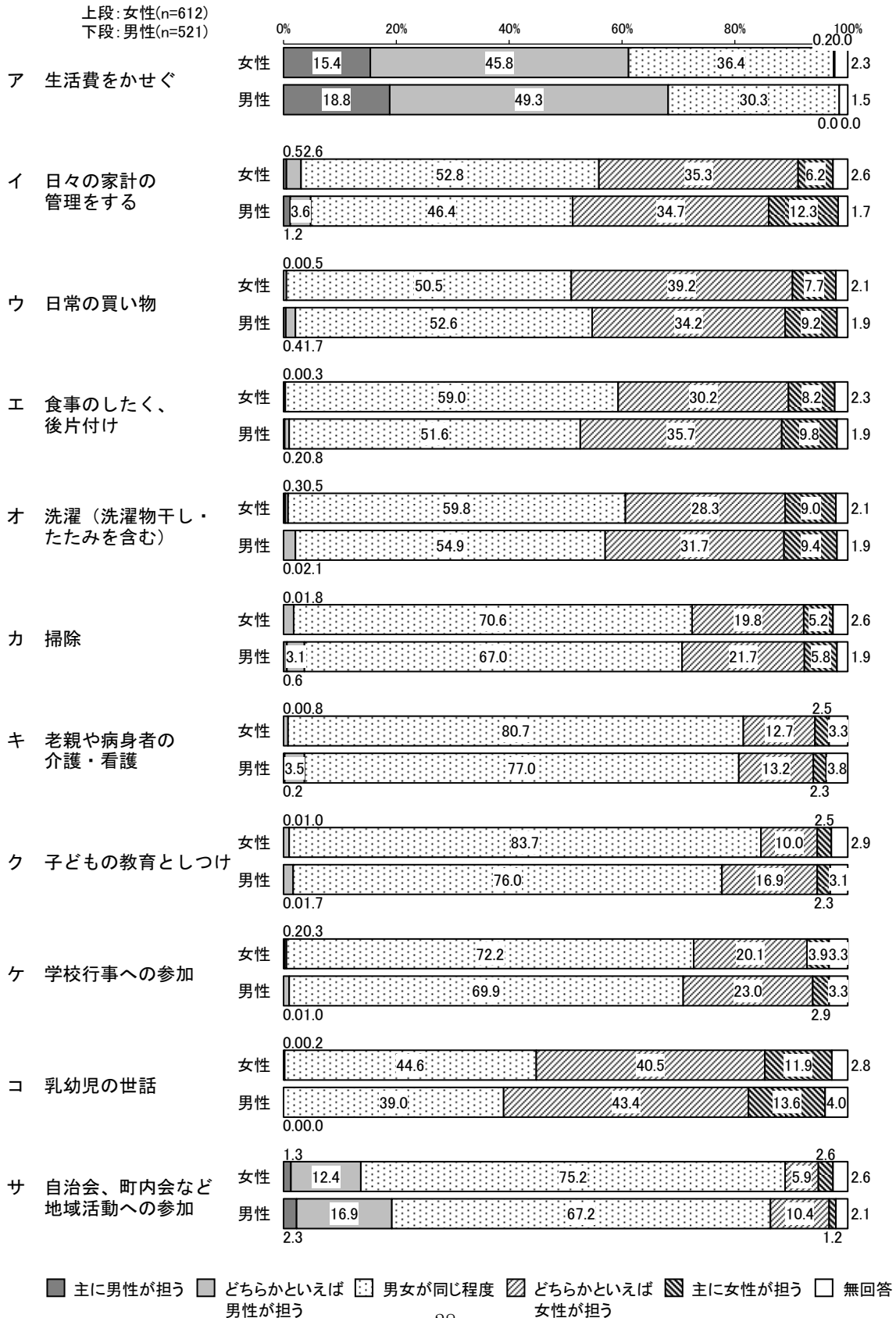
図 家庭の仕事の役割分担



II 市民意識調査の結果

性別にみると、「ア 生活費をかせぐ」は男性の方が『男性が担う』の割合が、女性よりも6.9ポイント高くなっている。また、「エ 食事のしたく、後片付け」と「ク 子どもの教育としつけ」は男性の方が『女性が担う』の割合がそれぞれ7.1ポイント、6.7ポイント高くなっている。「ウ 日常の買い物」を除くすべての分野で女性の方が「男女が同じ程度」の割合が高くなっている。

図 性別 家庭の仕事の役割分担

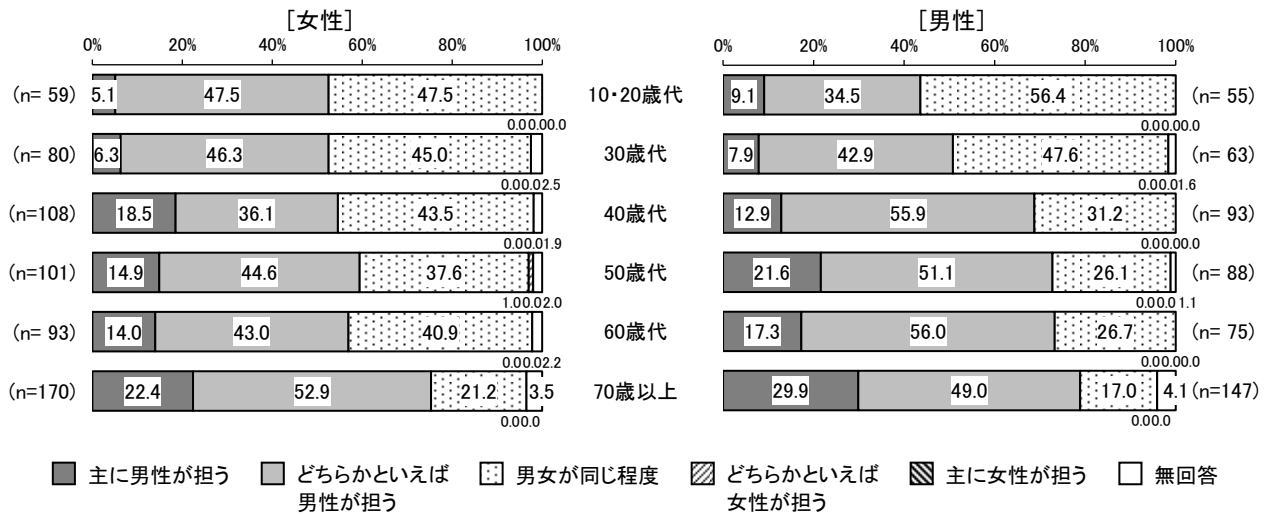


ア 生活費をかせぐ

女性では、70歳以上で『男性が担う』が7割以上と、他の年齢層と比べて高くなっている。

男性では、年齢が高くなるにつれて『男性が担う』の割合が高くなっている。

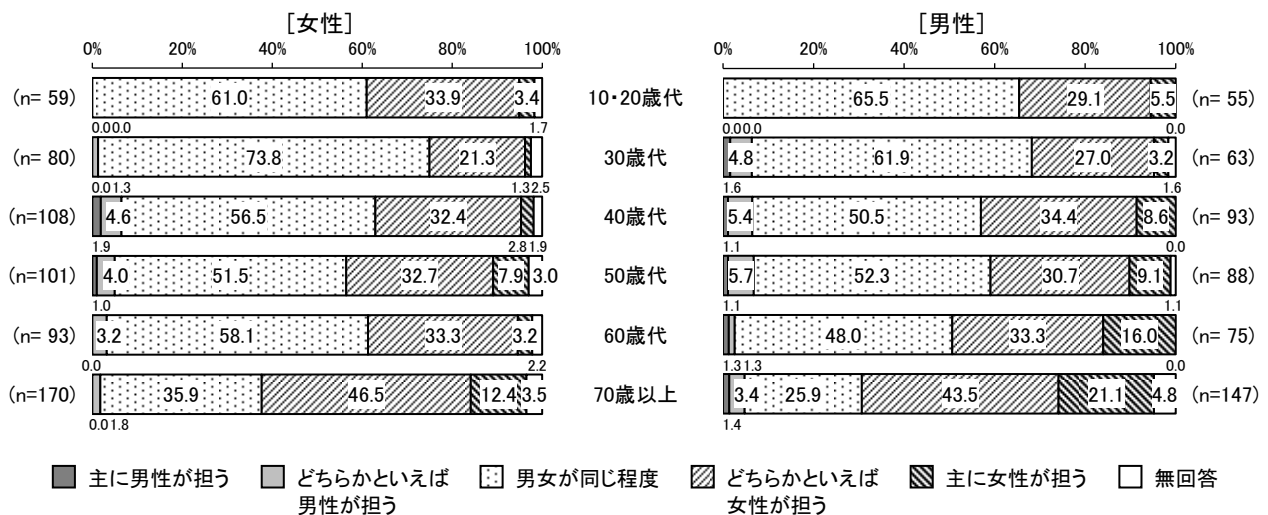
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — ア 生活費をかせぐ



イ 日々の家計の管理をする

男女ともに、30歳代で『女性が担う』が最も低くなっており、女性の30歳代では「男女が同じ程度」が73.8%と高くなっている。

図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — イ 日々の家計の管理をする

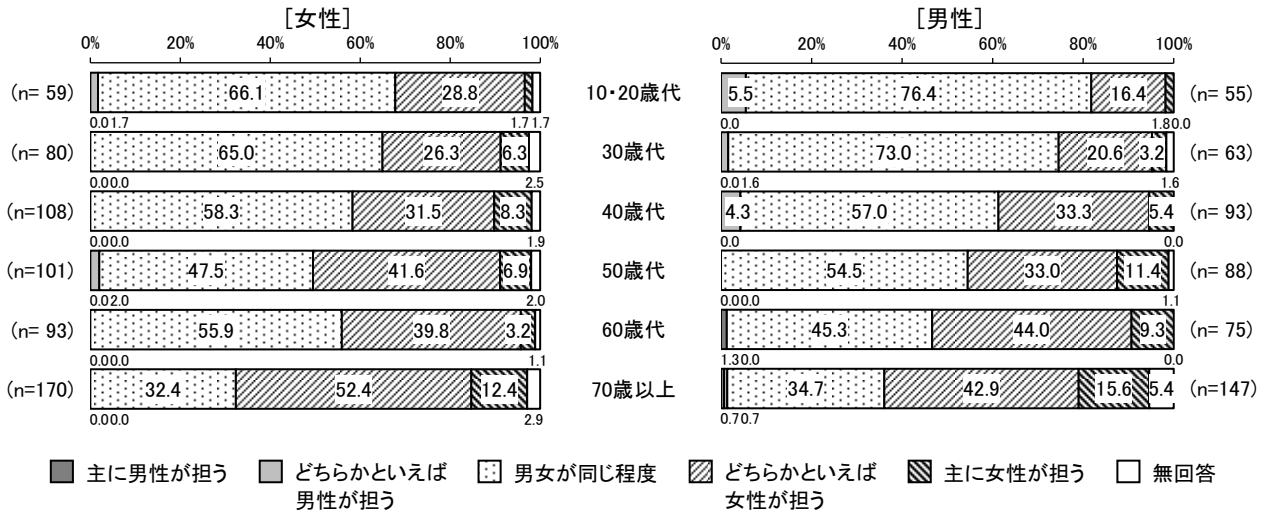


II 市民意識調査の結果

ウ 日常の買い物

男女とも10・20・30歳代では「男女が同じ程度」が女性は6割台、男性は7割台と高くなっている。男性では、年齢が高くなるにつれて『女性が担う』の割合が高くなっている。

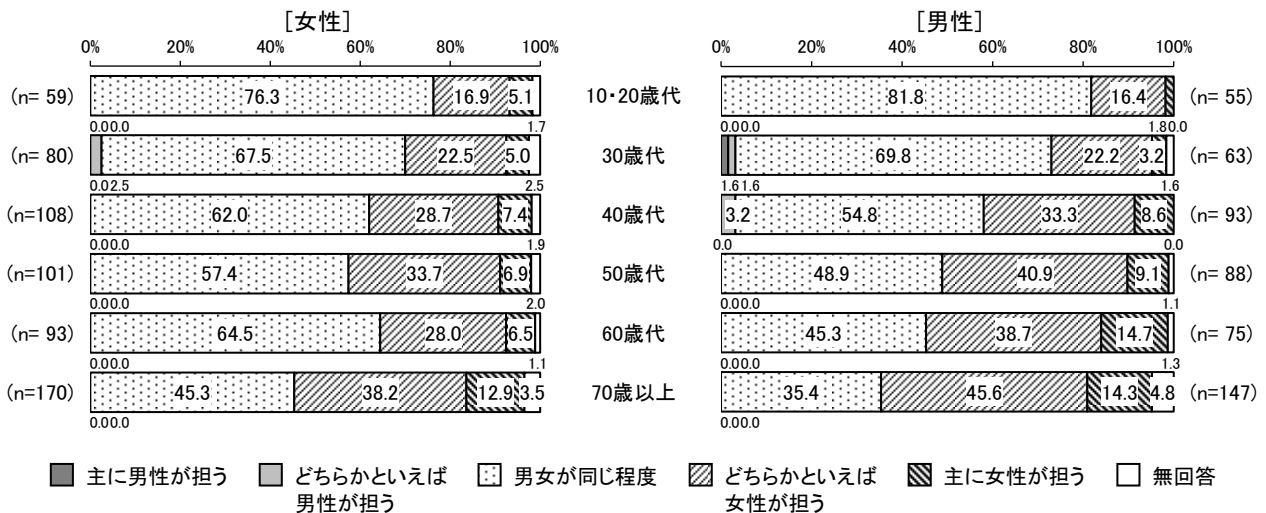
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - ウ 日常の買い物



エ 食事のしたく、後片付け

男女とも10・20歳代では「男女が同じ程度」が女性は7割台、男性は8割台と高くなっている。男性では、年齢が高くなるにつれて『女性が担う』の割合が高くなっており、50歳代以上は5割を超えている。

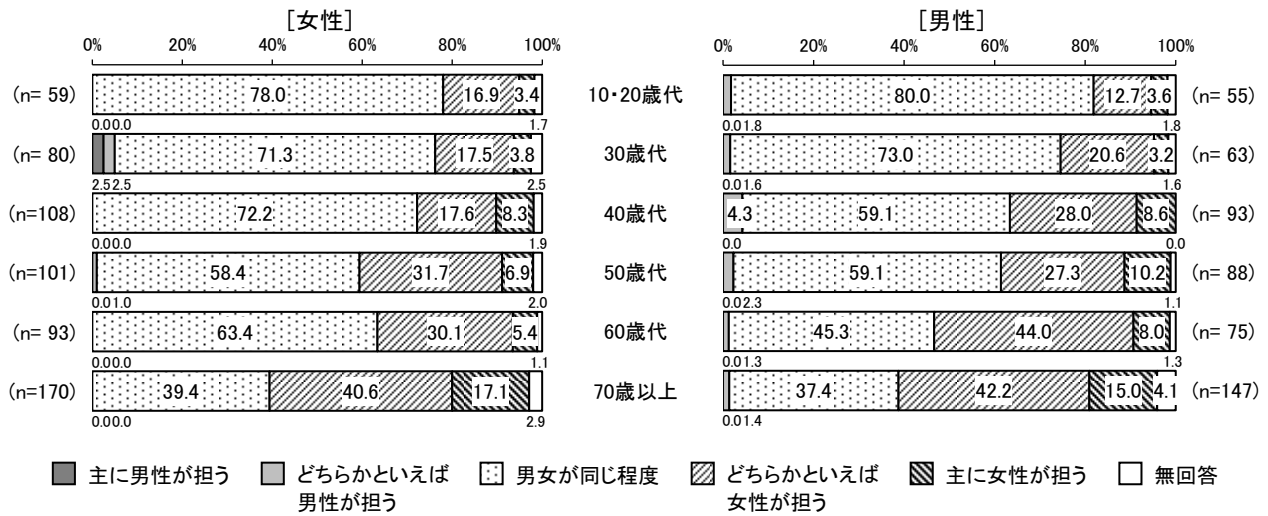
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - エ 食事のしたく、後片付け



オ 洗濯(洗濯物干し・たたみを含む)

男女とも10・20・30歳代では「男女が同じ程度」が7割以上と高くなっている。男性では、年齢が高くなるにつれて『女性が担う』の割合が高くなっており、60歳代以上は5割を超えている。

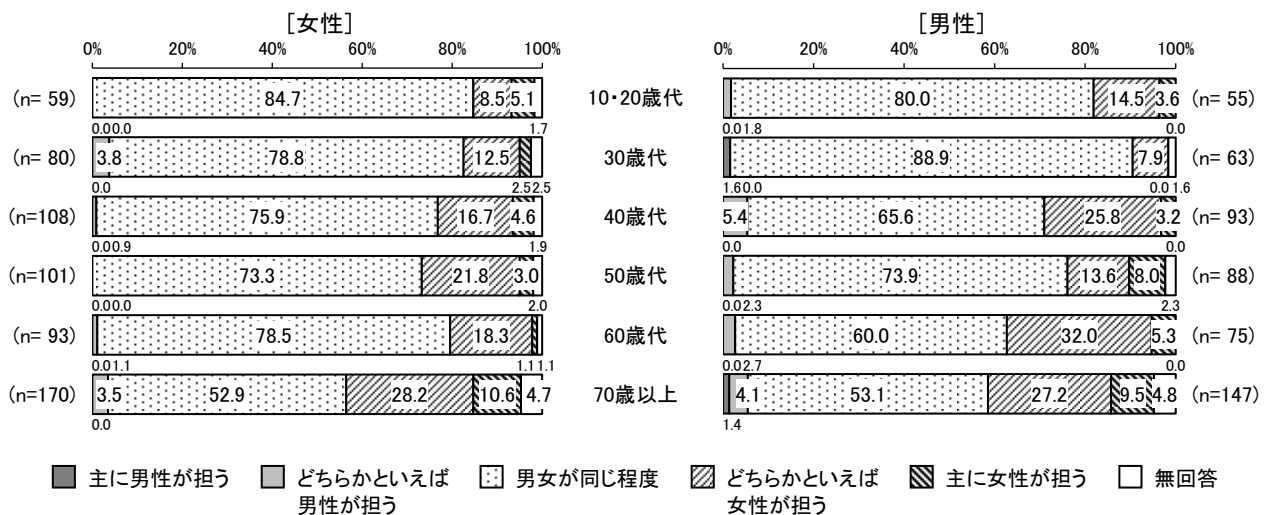
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - オ 洗濯(洗濯物干し・たたみを含む)



カ 掃除

男女とも、すべての年齢層で「男女が同じ程度」が5割を超えており、女性の10・20歳代と男性の10～30歳代では8割以上となっている。一方で、女性の70歳以上と男性の60歳代以上では『女性が担う』がそれぞれ3割台となっている。

図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - カ 掃除

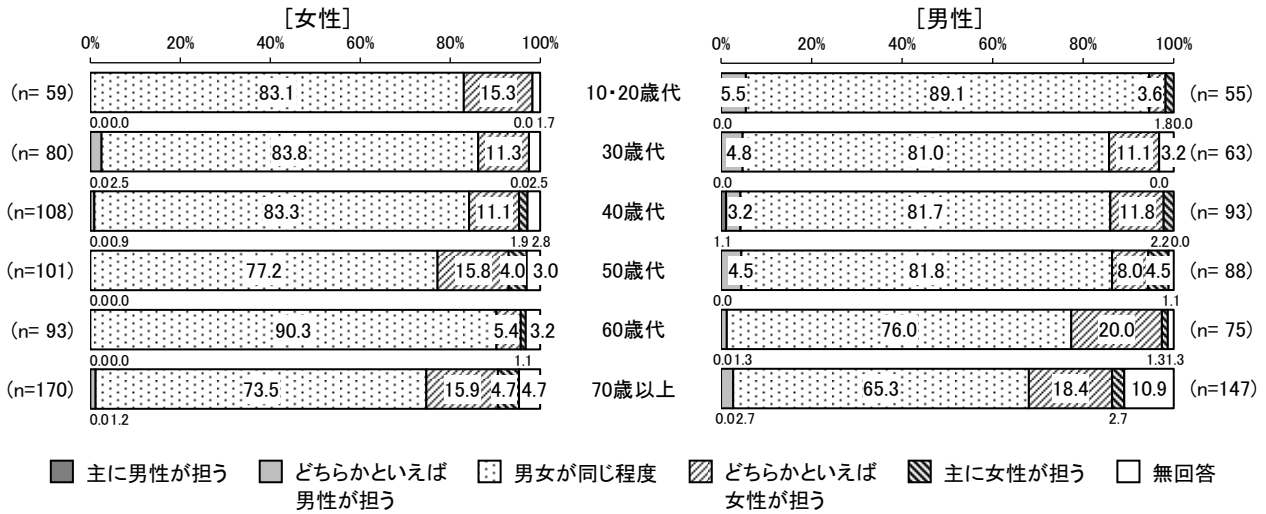


II 市民意識調査の結果

キ 老親や病身者の介護・看護

男女とも、いずれの年齢層も「男女が同じ程度」が高い割合を占めている。女性の50歳代と70歳以上と男性の60歳代以上で『女性が担う』が約2割となっている。

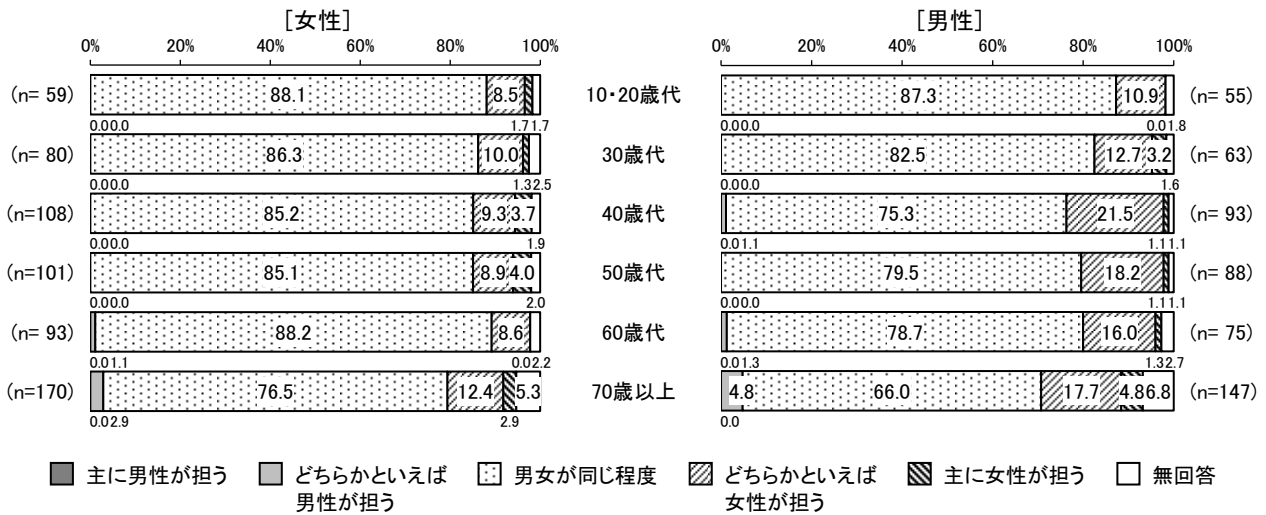
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — キ 老親や病身者の介護・看護



ク 子どもの教育としつけ

男女とも、いずれの年齢層も「男女が同じ程度」が高い割合を占めている。『女性が担う』は、いずれの年齢層も女性が約1割、男性が1～2割程度となっている。

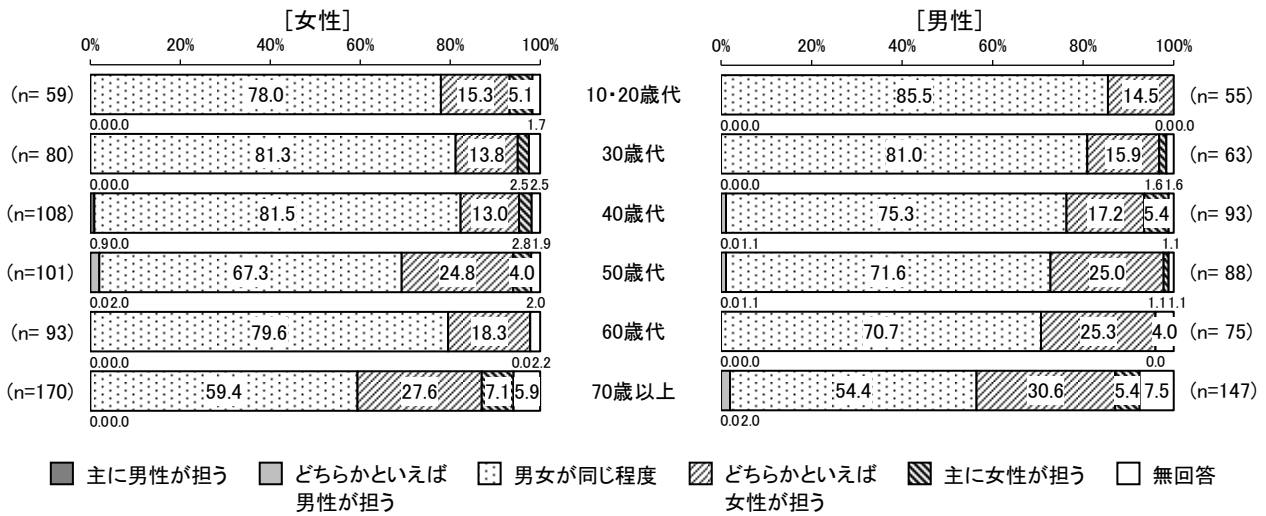
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — ク 子どもの教育としつけ



ケ 学校行事への参加

女性の30・40歳代と男性の10・20・30歳代では「男女が同じ程度」が8割以上と高くなっている。男性では、年齢が高くなるにつれて『女性が担う』の割合が高くなっている。

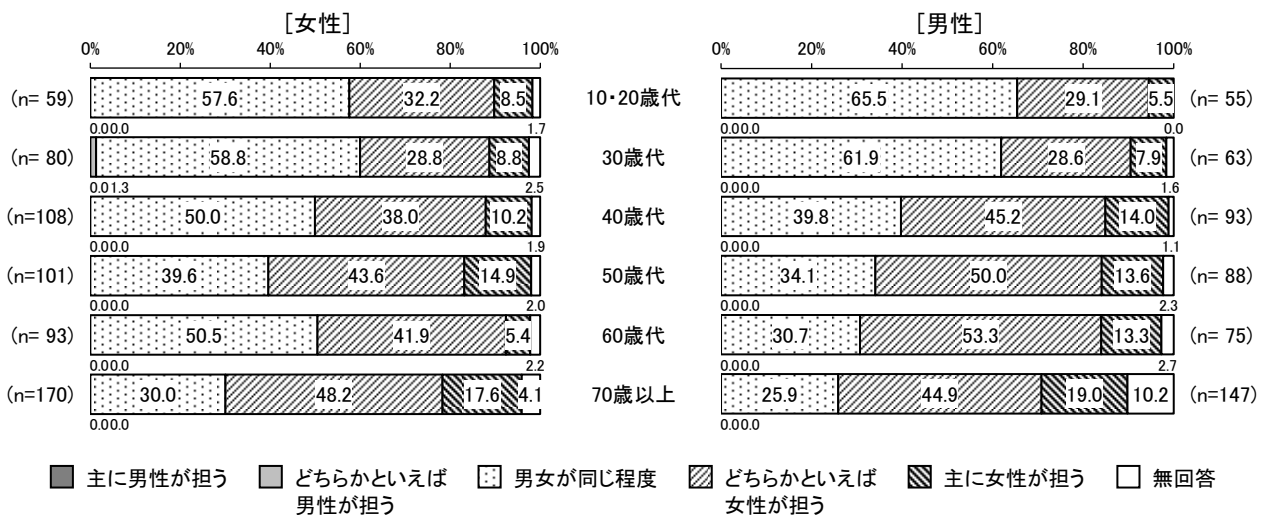
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - ケ 学校行事への参加



コ 乳幼児の世話

男性では、年齢が低いほど「男女が同じ程度」の割合が高くなり、年齢が高くなるほど『女性が担う』の割合が高くなる。女性の70歳代以上と男性の50歳代以上で『女性が担う』がそれぞれ6割以上となっている。

図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - コ 乳幼児の世話

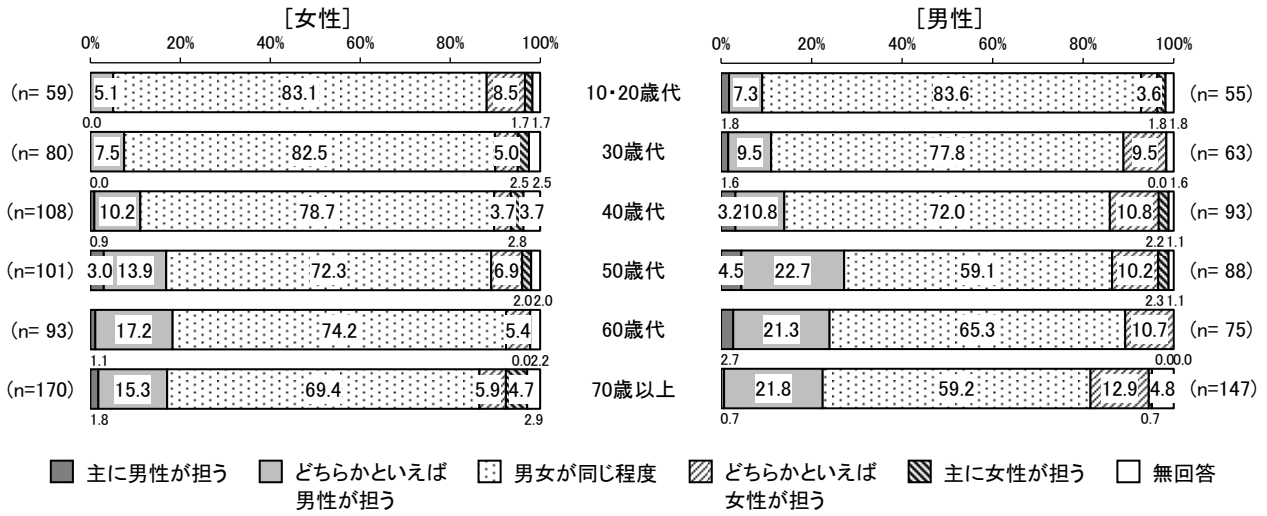


II 市民意識調査の結果

サ 自治会、町内会など地域活動への参加

男女とも、年齢が高くなるにつれ「男女が同じ程度」の割合が低くなる傾向となっており、男性の50歳以上で『男性が担う』が2割台となっている。

図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - サ 自治会、町内会など地域活動への参加



(6)「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無

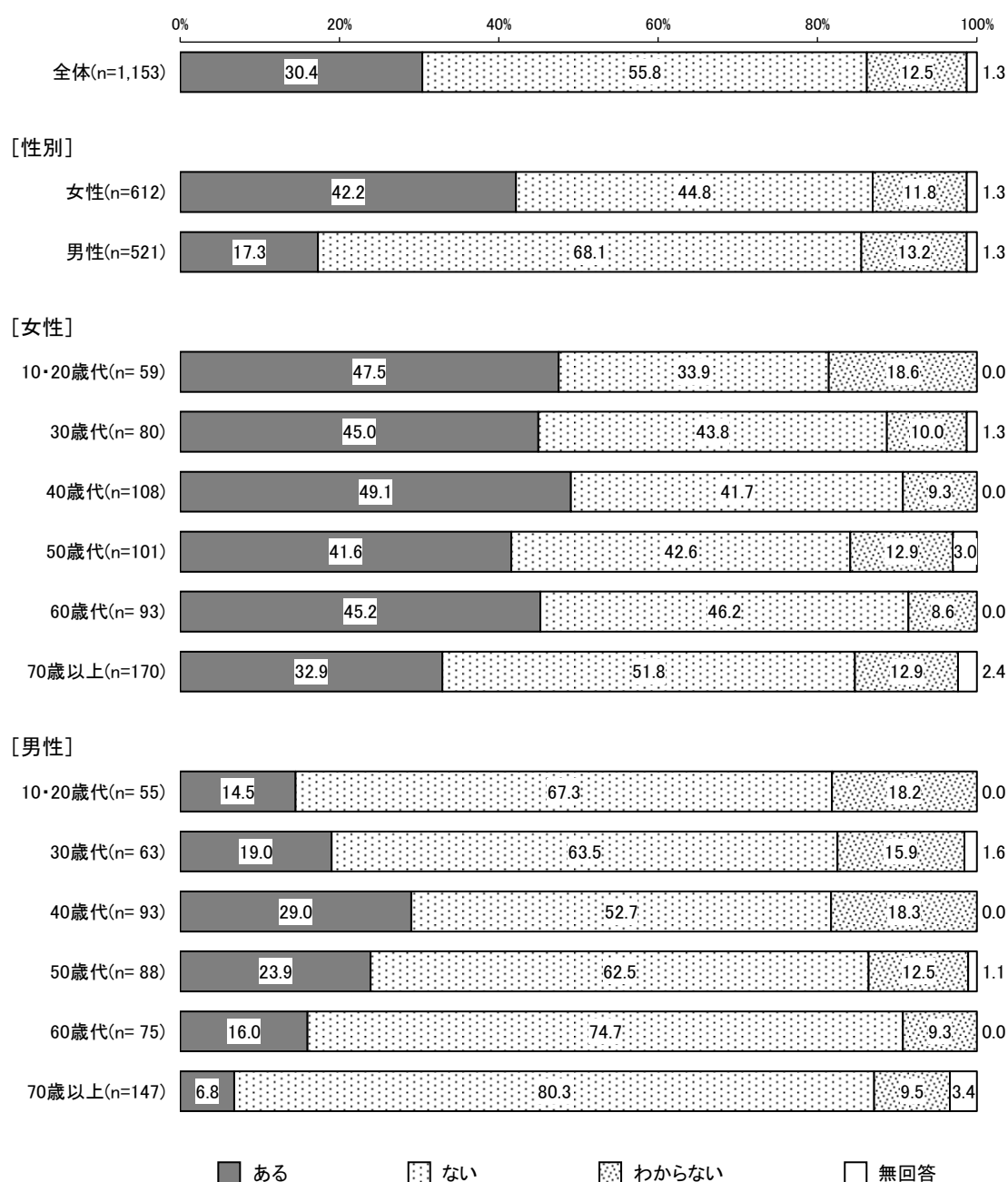
問5 あなたは、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(〇は1つ)

「女性・男性であること」によって感じた負担感や生きづらさの有無についてたずねたところ、「ある」が30.4%、「ない」が55.8%、「わからない」が12.5%となっている。

性別にみると、「ある」と回答した女性の割合が、男性よりも24.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性では10～40歳代ではいずれも「ある」の割合が「ない」を上回っており、70歳以上では「ある」が32.9%と他の年齢層と比べて低くなっている。男性では40歳代の「ある」が3割弱で、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性別、性年齢別 「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無



II 市民意識調査の結果

(7)「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたこと

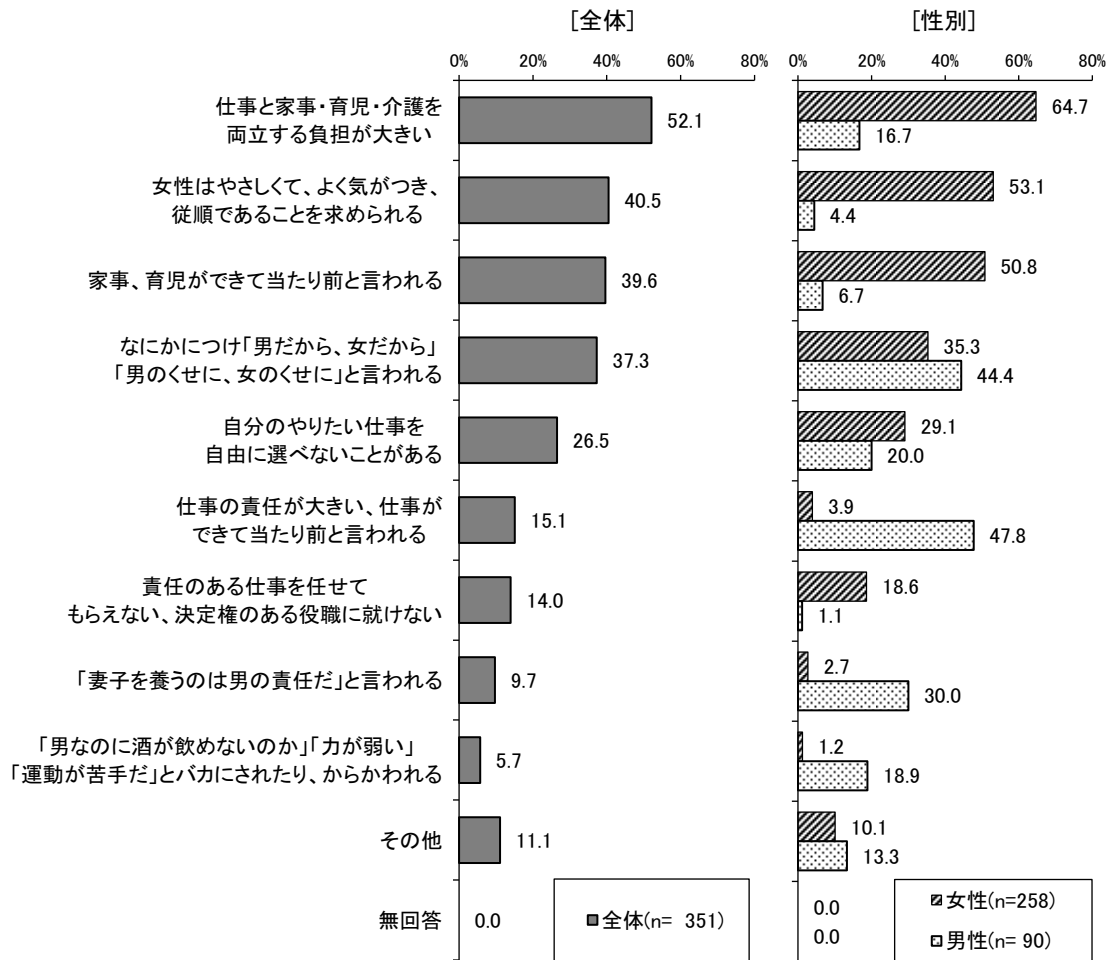
《問5で、「1. ある」と答えた方におたずねします。》

問6 それは、どのようなときに感じましたか。(〇はいくつでも)

「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことの内容についてたずねたところ、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が52.1%で最も高く、次いで「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」(40.5%)、「家事、育児ができて当たり前と言われる」(39.6%)、「なにかにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」(37.3%)となっている。

性別にみると、女性は「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」「家事、育児ができて当たり前と言われる」がいずれも5割以上となっている。男性は「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる」「なにかにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」がいずれも4割以上となっている。

図 性別「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたこと



年齢別にみると、女性の40～60歳代で「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が7割以上と、他の年齢層と比べて高くなっている。男性の30歳代以上では約半数が「仕事の責任が大きい、仕事ができたり前と言われる」と答えている。

表 性年齢別「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたこと

		回答者数(n)	仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい	女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる	家事、育児ができて当たり前と言われる	なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる	自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	仕事の責任が大きい、仕事ができたり前と言われる	責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職に就けない	「妻子を養うのは男の責任だ」と言われる	「男なのに酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる	その他	無回答	
全体		351	52.1	40.5	39.6	37.3	26.5	15.1	14.0	9.7	5.7	11.1	-	
性年齢別	女性	10・20歳代	28	39.3	57.1	50.0	39.3	32.1	3.6	21.4	-	-	10.7	-
		30歳代	36	58.3	55.6	58.3	30.6	33.3	2.8	25.0	2.8	5.6	13.9	-
		40歳代	53	71.7	45.3	49.1	17.0	28.3	5.7	24.5	-	-	20.8	-
		50歳代	42	71.4	59.5	50.0	38.1	33.3	2.4	14.3	-	-	4.8	-
		60歳代	42	73.8	52.4	50.0	40.5	21.4	2.4	11.9	7.1	-	9.5	-
		70歳以上	56	62.5	53.6	48.2	46.4	28.6	5.4	16.1	5.4	1.8	1.8	-
		全体	251	62.5	48.2	46.4	46.4	28.6	5.4	16.1	5.4	1.8	1.8	-
	男性	10・20歳代	8	-	12.5	12.5	50.0	12.5	25.0	-	25.0	37.5	12.5	-
		30歳代	12	-	-	16.7	58.3	25.0	50.0	8.3	33.3	25.0	8.3	-
		40歳代	27	18.5	3.7	7.4	33.3	18.5	48.1	-	18.5	18.5	18.5	-
		50歳代	21	9.5	4.8	4.8	47.6	14.3	52.4	-	42.9	9.5	14.3	-
		60歳代	12	16.7	-	-	41.7	41.7	50.0	-	16.7	8.3	16.7	-
		70歳以上	10	60.0	10.0	-	50.0	10.0	50.0	-	50.0	30.0	-	-
		全体	100	60.0	10.0	-	50.0	10.0	50.0	-	50.0	30.0	-	-

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

II 市民意識調査の結果

(8) 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響

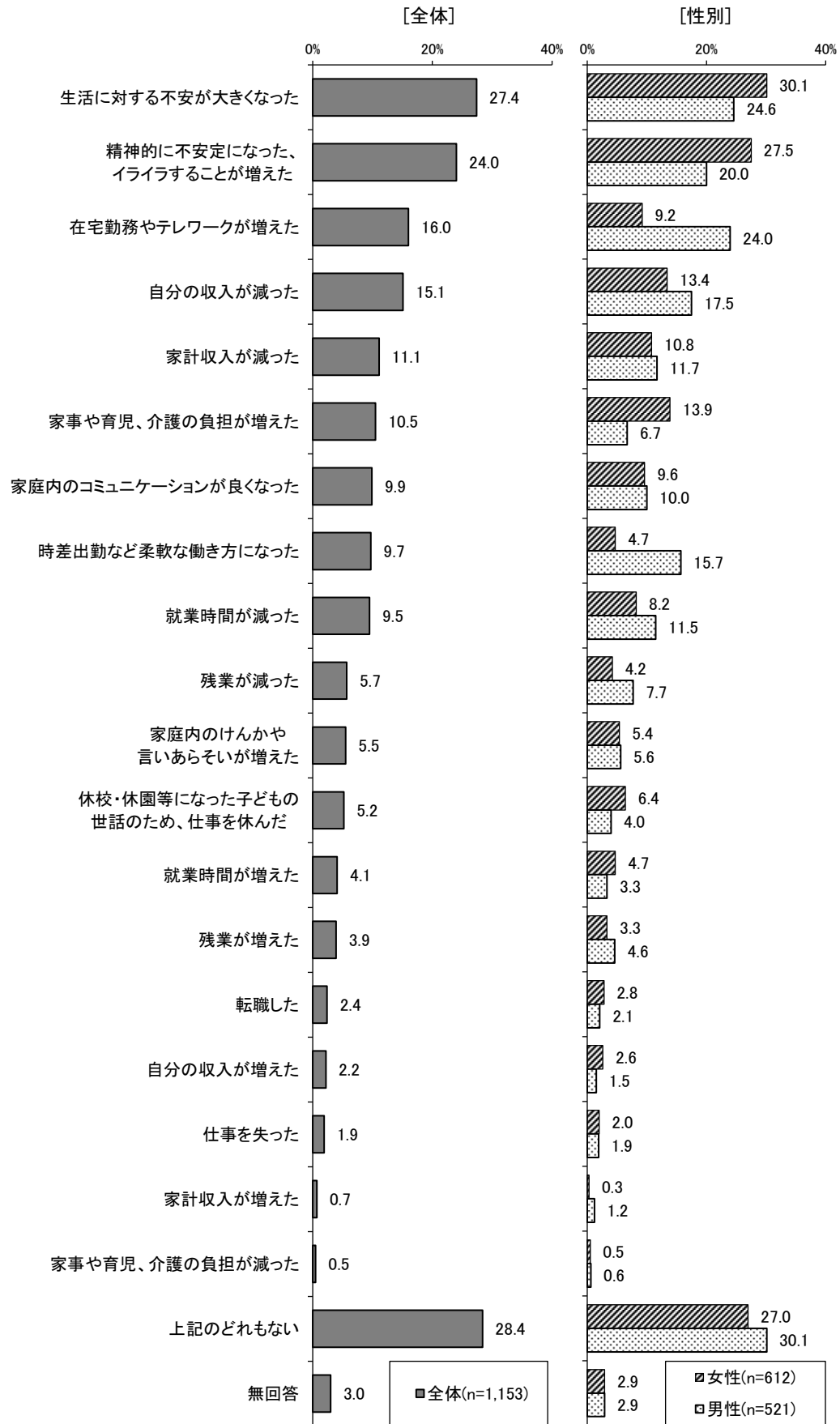
《全員におたずねします。》

問7 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響についておたずねします。新型コロナウイルス感染症拡大以前（概ね2020年3月以前）と、現在の仕事や生活の状況を比べて、次のようなことがありますか。（○はいくつでも）

新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響についてたずねたところ、「生活に対する不安が大きくなった」が27.4%で最も高く、次いで「精神的に不安定になった、イライラすることが増えた」（24.0%）、「在宅勤務やテレワークが増えた」（16.0%）、「自分の収入が減った」（15.1%）となっている。「上記のどれもない」は28.4%となっている。

性別にみると、男女で違いがみられるのは、「生活に対する不安が大きくなった」「精神的に不安定になった、イライラすることが増えた」「家事や育児、介護の負担が増えた」が女性の方が高く、「在宅勤務やテレワークが増えた」「自分の収入が減った」「時差出勤など柔軟な働き方になった」が男性の方が高くなっている。

図 性別 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性の30・40歳代で「家事や育児、介護の負担が増えた」が2割台、男性の10～50歳代で「在宅勤務やテレワークが増えた」が3割台と、他の年齢層と比べて高くなっている。また、男性の50歳代では「自分の収入が減った」、30歳代では「時差出勤など柔軟な働き方になった」も3割台と高くなっている。男女とも70歳以上では「上記のどれもない」が約4割を占めている。

表 性年齢別 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響

		回答者数(n)	生活に対する不安が大きくなった	精神的に不安定になった、イライラすることが増えた	在宅勤務やテレワークが増えた	自分の収入が減った	家計収入が減った	家事や育児、介護の負担が増えた	家庭内のコミュニケーションが良くなった	時差出勤など柔軟な働き方になった	就業時間が減った	残業が減った	家庭内のけんかや言いあそいが増えた	
全体		1,153	27.4	24.0	16.0	15.1	11.1	10.5	9.9	9.7	9.5	5.7	5.5	
性年齢別	女性													
	10・20歳代	59	32.2	30.5	16.9	23.7	5.1	1.7	8.5	8.5	10.2	10.2	3.4	
	30歳代	80	25.0	31.3	17.5	12.5	8.8	26.3	7.5	6.3	3.8	10.0	8.8	
	40歳代	108	27.8	24.1	12.0	11.1	15.7	25.9	15.7	11.1	11.1	4.6	4.6	
	50歳代	101	27.7	29.7	8.9	22.8	18.8	16.8	12.9	3.0	11.9	4.0	5.0	
	60歳代	93	31.2	24.7	8.6	16.1	9.7	11.8	7.5	4.3	9.7	1.1	6.5	
	70歳以上	170	34.1	26.5	1.2	4.7	6.5	4.1	6.5	-	4.7	1.2	4.7	
	男性													
	10・20歳代	55	18.2	20.0	34.5	10.9	5.5	5.5	14.5	20.0	7.3	1.8	1.8	
	30歳代	63	22.2	19.0	39.7	15.9	11.1	17.5	7.9	31.7	14.3	15.9	4.8	
40歳代	93	26.9	19.4	30.1	22.6	17.2	8.6	7.5	15.1	14.0	14.0	2.2		
50歳代	88	23.9	20.5	35.2	31.8	17.0	5.7	13.6	25.0	17.0	10.2	5.7		
60歳代	75	29.3	17.3	20.0	16.0	8.0	5.3	8.0	13.3	12.0	4.0	5.3		
70歳以上	147	24.5	21.8	4.8	9.5	9.5	2.7	9.5	3.4	6.8	2.7	9.5		

		回答者数(n)	休校・休園等になった子どもの世話のため、仕事を休んだ	就業時間が減った	残業が増えた	転職した	自分の収入が増えた	仕事を失った	家計収入が増えた	家事や育児、介護の負担が減った	上記のどれもない	無回答	
全体		1,153	5.2	4.1	3.9	2.4	2.2	1.9	0.7	0.5	28.4	3.0	
性年齢別	女性												
	10・20歳代	59	-	8.5	8.5	3.4	6.8	1.7	-	-	16.9	-	
	30歳代	80	13.8	2.5	3.8	2.5	2.5	2.5	2.5	-	17.5	1.3	
	40歳代	108	19.4	4.6	3.7	5.6	1.9	1.9	-	0.9	22.2	-	
	50歳代	101	3.0	6.9	4.0	4.0	4.0	1.0	-	-	21.8	2.0	
	60歳代	93	1.1	8.6	4.3	2.2	3.2	5.4	-	2.2	30.1	2.2	
	70歳以上	170	1.8	1.2	-	0.6	0.6	0.6	-	-	39.4	7.6	
	男性												
	10・20歳代	55	-	3.6	3.6	7.3	1.8	-	1.8	-	25.5	-	
	30歳代	63	14.3	3.2	7.9	4.8	3.2	-	3.2	-	27.0	3.2	
40歳代	93	7.5	8.6	9.7	2.2	4.3	2.2	3.2	-	24.7	-		
50歳代	88	3.4	3.4	5.7	1.1	-	1.1	-	-	17.0	1.1		
60歳代	75	1.3	1.3	2.7	1.3	-	5.3	-	1.3	36.0	2.7		
70歳以上	147	0.7	0.7	0.7	-	0.7	2.0	-	1.4	41.5	6.8		

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

3. 子育てや学校教育について

(1) 子育てについての考え方

問8 子育てについて、あなたの考え方に近いものはどれですか。(○はそれぞれ1つ)

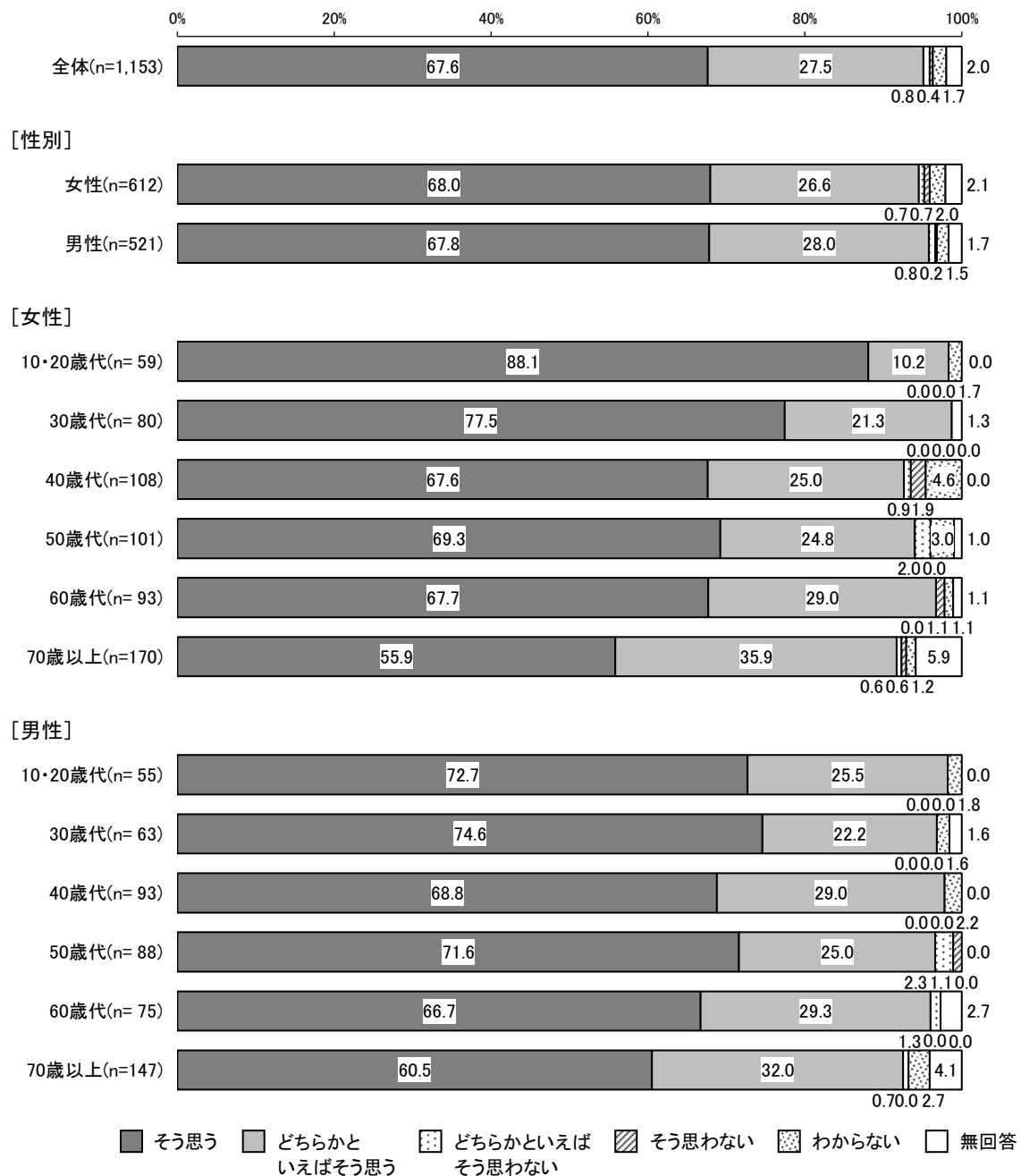
ア 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方が良い

子育てについての考え方についてたずねたところ、「ア 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方が良い」という考え方については、「そう思う」が67.6%、「どちらかといえばそう思う」が27.5%となっており、『賛成』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が95.1%と大多数を占めている。

性別による意識の違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、男女とも年齢が低いほど「そう思う」の割合が高くなる傾向となっており、女性の10・20歳代では9割弱となっている。

図 性別、性年齢別 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方が良い



II 市民意識調査の結果

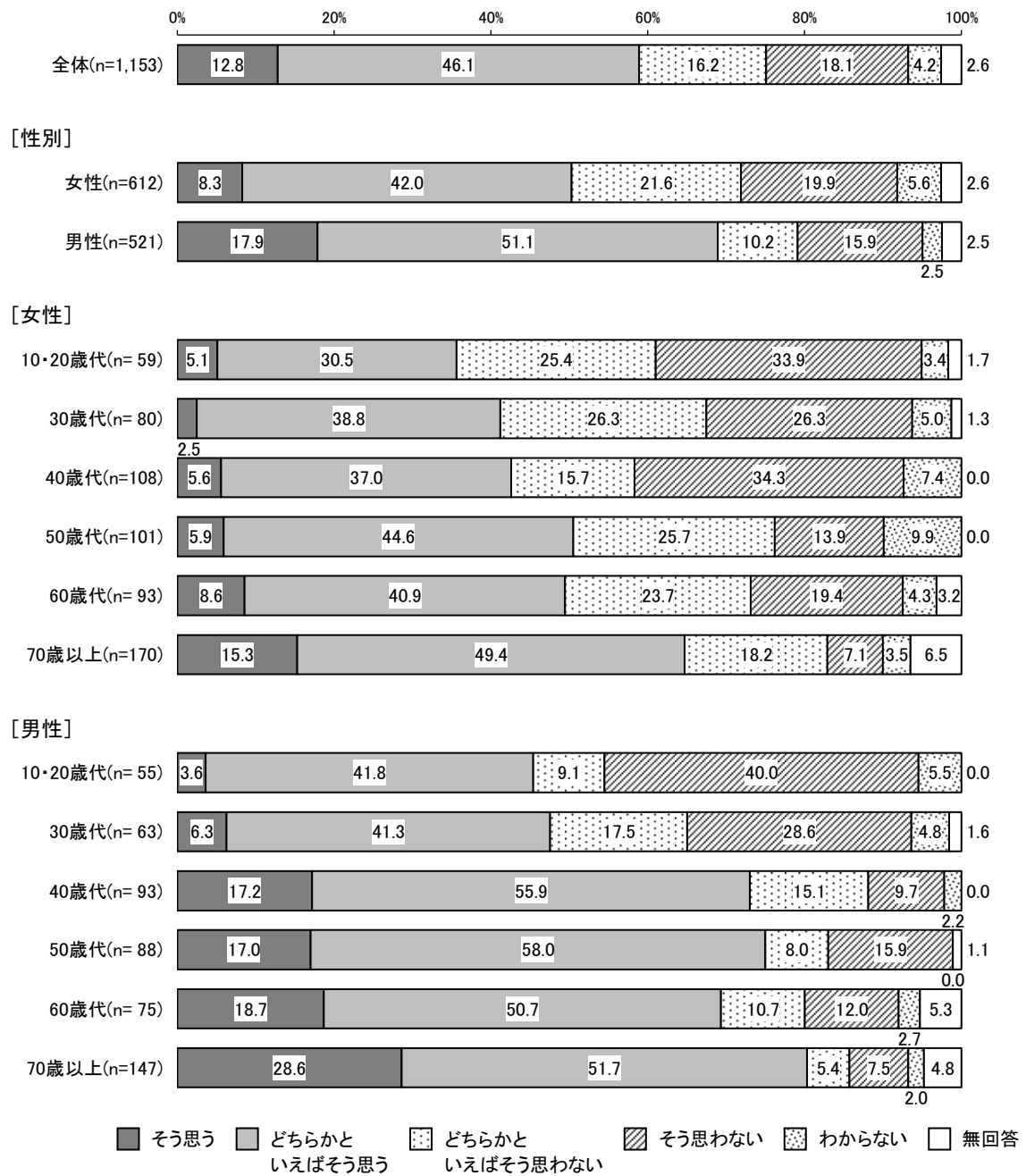
イ 言葉遣いや仕草など、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのが良い

「イ 言葉遣いや仕草など、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのが良い」という考え方については、「どちらかといえばそう思う」が46.1%で最も高く、次いで「そう思わない」が18.1%となっており、『賛成』は58.9%となっている。対して『反対』(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)は34.3%となっている。

性別にみると、男女とも『賛成』が半数を上回り、男性の方が18.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性は40歳代以下、男性は30歳代以下で『反対』が高くなっている。しかし、年齢が高くなると『賛成』の割合が高くなる傾向がみられ、男性の70歳以上では、『賛成』が約8割となっている。

図 性別、性年齢別 言葉遣いや仕草など、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのが良い



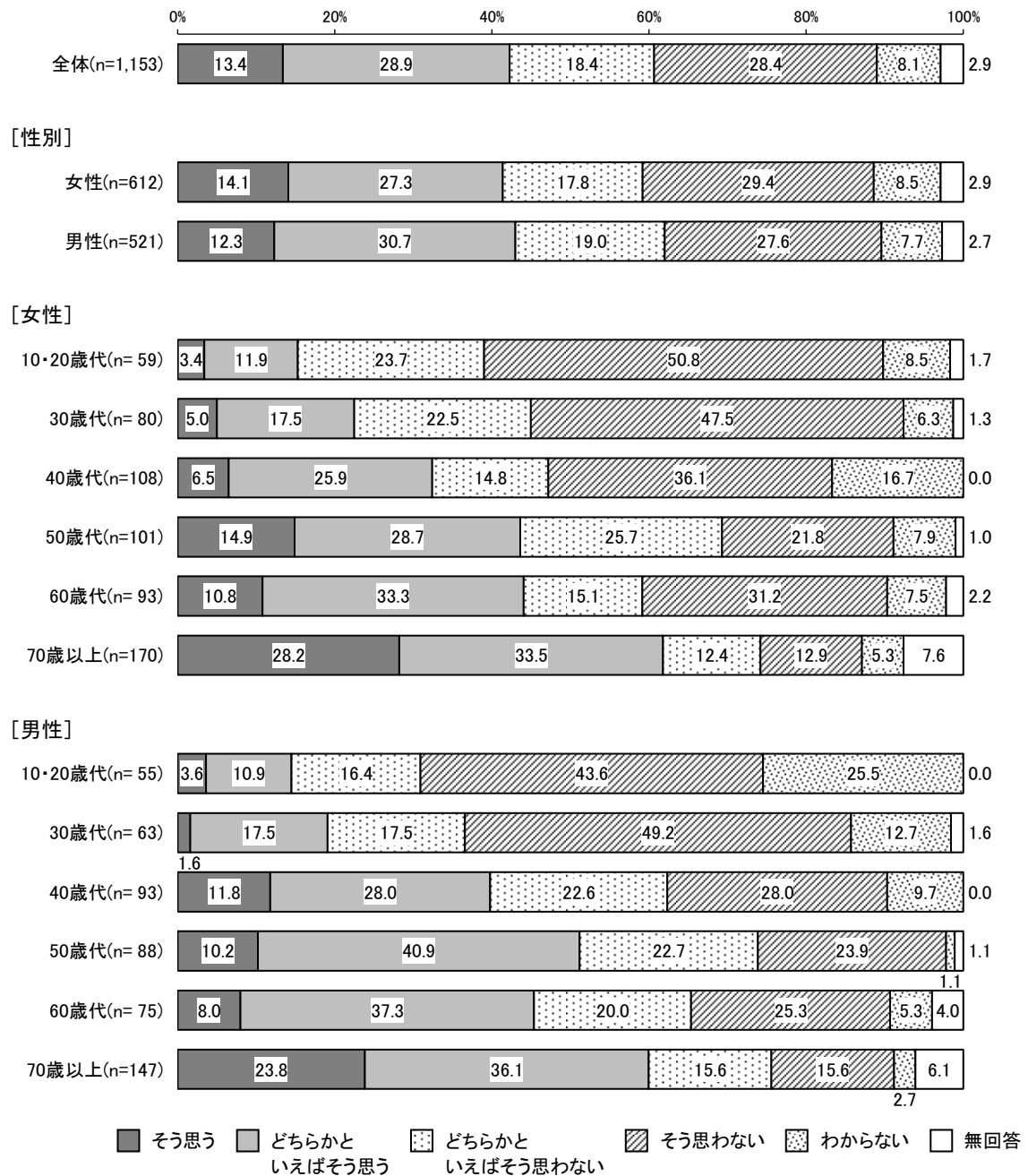
ウ 子どもが3歳くらいまでは母親が育てた方がよい

「ウ 子どもが3歳くらいまでは母親が育てた方がよい」という考え方については、「どちらかといえばそう思う」が28.9%と最も高く、次いで「そう思わない」が28.4%となっている。『賛成』は42.3%、『反対』は46.8%と拮抗している。

性別による意識の違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、男女とも年齢が低いほど『反対』の割合が高く、年齢が高いほど『賛成』が高くなる傾向にある。男性の10・20歳代では「わからない」が25.5%を占めており、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性別、性年齢別 子どもが3歳くらいまでは母親が育てた方がよい



II 市民意識調査の結果

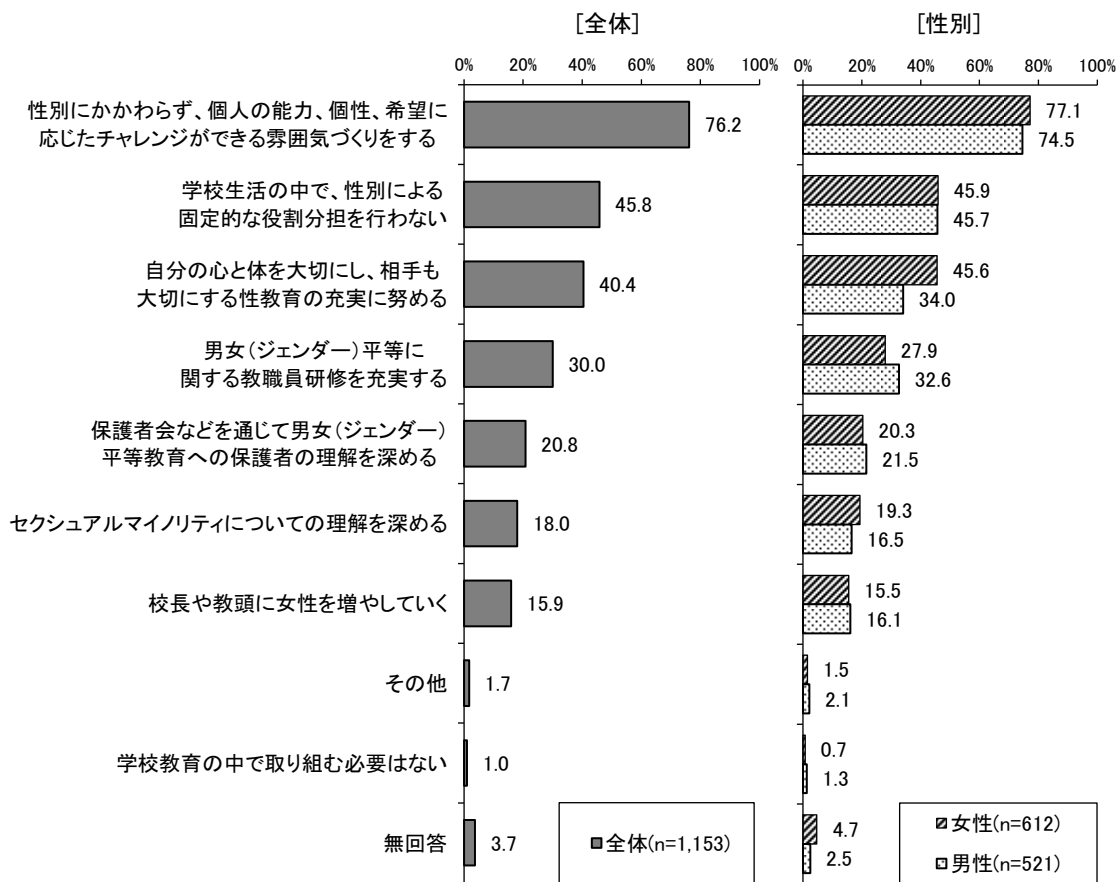
(2) 学校教育や学校生活の中で男女共同参画を進めるために必要なこと

問9 学校教育や学校生活の中で、男女共同参画を進めるために、どのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

学校教育や学校生活の中で男女共同参画を進めるために必要な取組についてたずねたところ、「性別にかかわらず、個人の能力、個性、希望に応じたチャレンジができる雰囲気づくりをする」が76.2%で最も高く、次いで「学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない」(45.8%)、「自分の心と体を大切にし、相手も大切にする性教育の充実に努める」(40.4%)、「男女(ジェンダー)平等に関する教職員研修を充実する」(30.0%)となっている。

性別にみると、「自分の心と体を大切にし、相手も大切にする性教育の充実に努める」が、女性の方が男性と比べて10ポイント以上高くなっている。

図 性別 学校教育や学校生活の中で男女共同参画を進めるために必要なこと



年齢別にみると、女性の10～40歳代と男性の30歳代で「自分の心と体を大切にし、相手も大切にする性教育の充実に努める」が5割以上、女性の10～30歳代で「セクシュアルマイノリティについての理解を深める」が3割以上で、他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 学校教育や学校生活の中で男女共同参画を進めるために必要なこと

		回答者数(n)	性別にかかわらず、個人の能力、個性、希望に応じたチャレンジができる雰囲気づくりをする	学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない	自分の心と体を大切にし、相手も大切に性教育の充実に努める	男女(ジェンダー)平等に関する教職員研修を充実する	深める 保護者会などを通じて男女(ジェンダー)平等教育への保護者の理解を深める	セクシュアルマイノリティについての理解を深める	校長や教頭に女性を増やしていく	その他	学校教育の中で取り組む必要はない	無回答
全体		1,153	76.2	45.8	40.4	30.0	20.8	18.0	15.9	1.7	1.0	3.7
性年齢別	10・20歳代	59	71.2	44.1	50.8	33.9	23.7	37.3	23.7	-	-	-
	30歳代	80	75.0	45.0	50.0	21.3	11.3	32.5	15.0	2.5	-	2.5
	40歳代	108	86.1	49.1	52.8	28.7	13.0	17.6	19.4	-	0.9	-
	50歳代	101	78.2	54.5	36.6	29.7	23.8	24.8	13.9	4.0	-	-
	60歳代	93	82.8	52.7	47.3	26.9	20.4	15.1	16.1	2.2	1.1	2.2
	70歳以上	170	71.2	36.5	41.8	28.2	25.9	7.1	11.2	0.6	1.2	14.1
	10・20歳代	55	78.2	43.6	41.8	27.3	10.9	21.8	14.5	3.6	3.6	-
	30歳代	63	71.4	39.7	50.8	28.6	11.1	20.6	7.9	1.6	1.6	1.6
	40歳代	93	69.9	44.1	37.6	31.2	24.7	22.6	18.3	4.3	1.1	2.2
	50歳代	88	72.7	46.6	20.5	38.6	23.9	20.5	17.0	2.3	1.1	-
	60歳代	75	81.3	50.7	33.3	33.3	28.0	10.7	14.7	1.3	-	2.7
	70歳以上	147	74.8	46.9	29.9	33.3	23.1	9.5	19.0	0.7	1.4	5.4

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

4. 家庭生活と仕事などについて

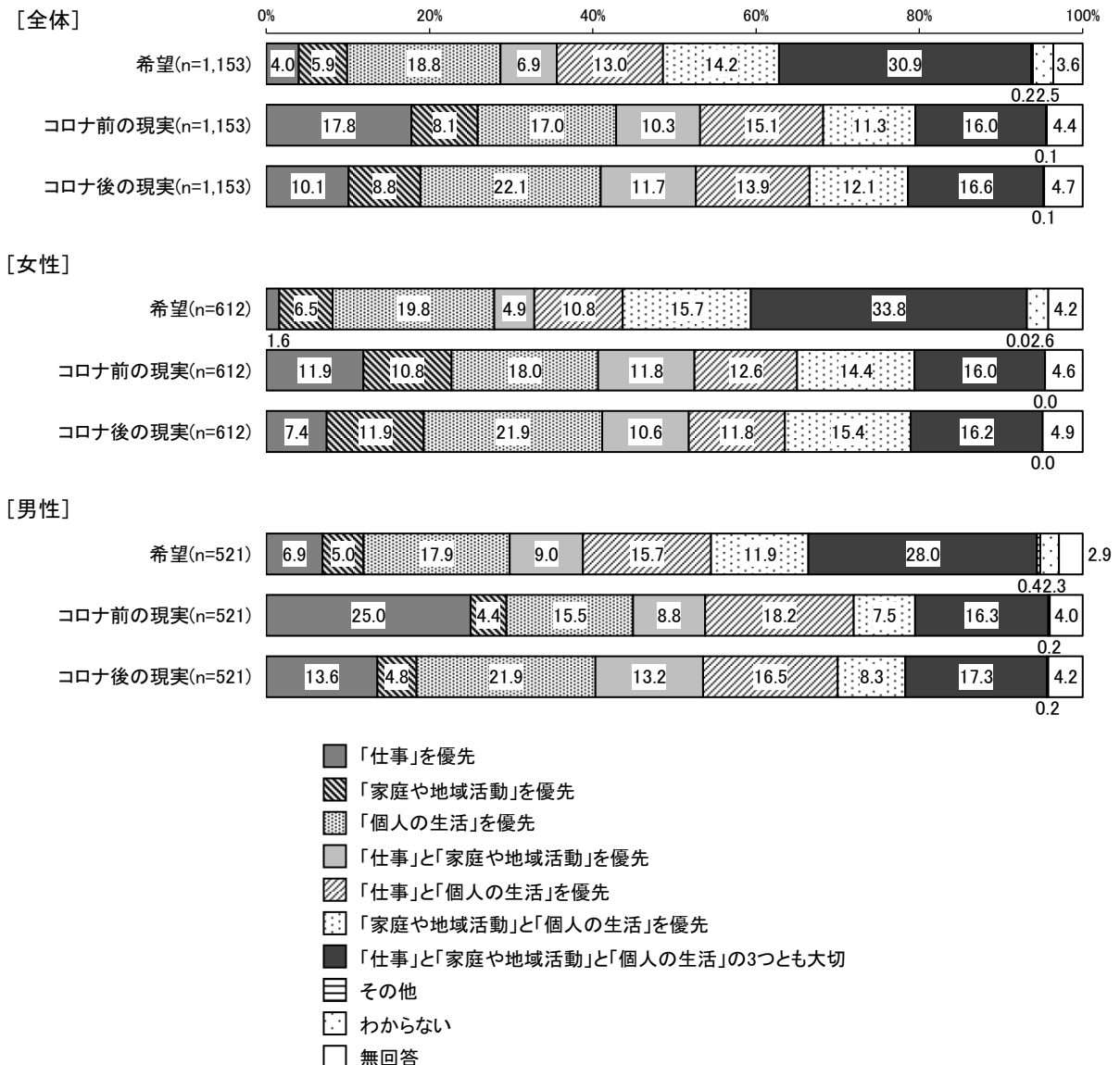
(1) 生活の中で優先したいこと、していること

問10 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

生活の中で優先したいことと、していることについてたずねたところ、生活の中で優先したいことは、「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切」が30.9%で最も高く、次いで「『個人の生活』を優先」(18.8%)、「『家庭や地域活動』と『個人の生活』を優先」(14.2%)となっている。性別にみると、「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切」は女性が33.8%、男性が28.0%で女性の方がやや高くなっている。

生活の中で優先していることは、コロナウイルス感染拡大前は「『仕事』を優先」が17.8%で最も高かったが、コロナウイルス感染拡大後は「『個人の生活』を優先」が22.1%で最も高くなっている。この意識の変化は男性の方が顕著で、加えて男性は「『仕事』と『家庭や地域活動』を優先」もやや高くなっている。

図 性別 生活の中で優先したいこと、していること

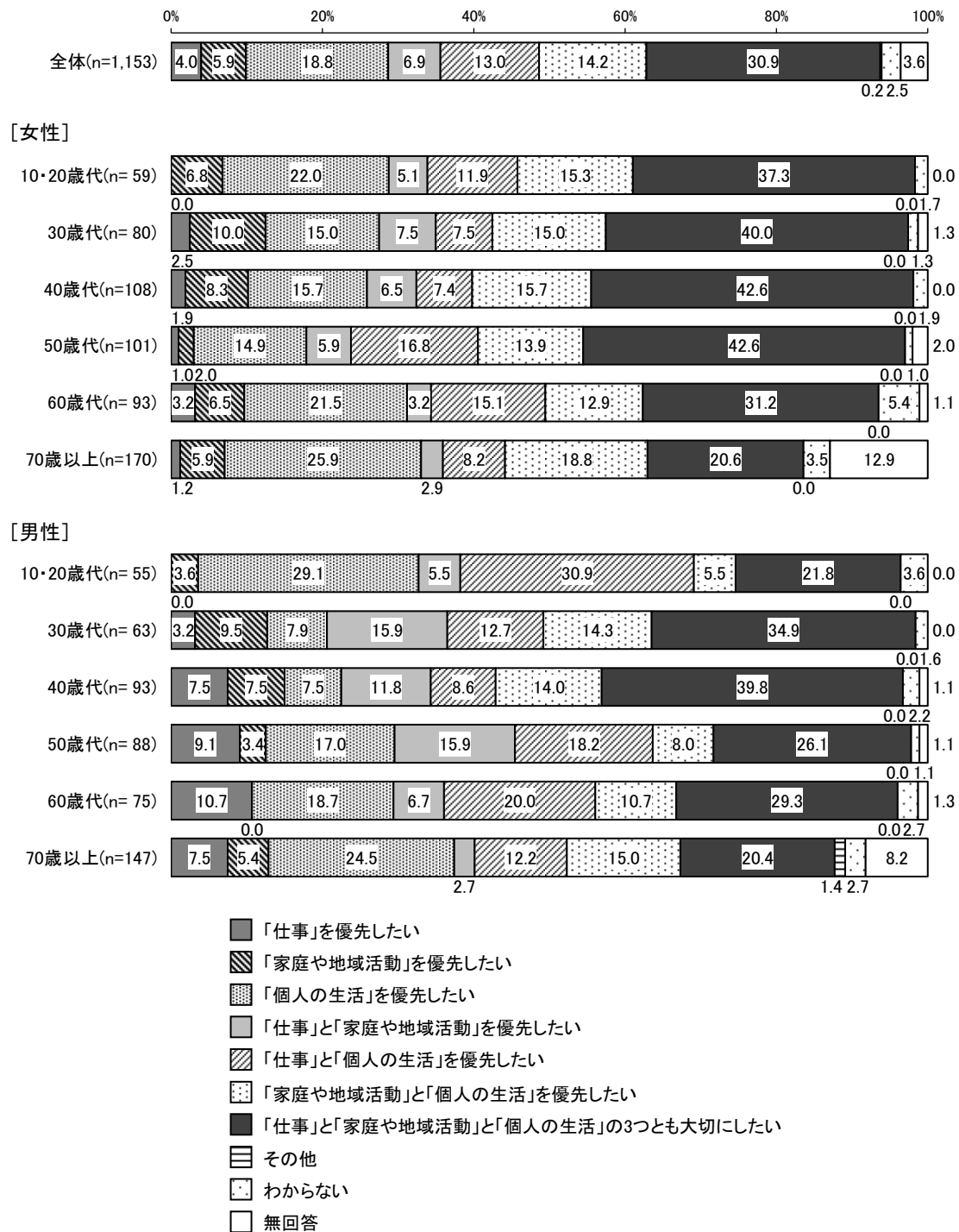


希望

生活の中で優先したいことについて年齢別にみると、女性では30～50歳代で『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい』が4割以上となっており、70歳以上で『個人の生活』を優先したい』が最も高い。

男性では30～60歳代で『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい』、70歳以上で『個人の生活』を優先したい』が最も高くなっている。また10・20歳代で『個人の生活』を優先したい』と『仕事』と『個人の生活』を優先したい』がそれぞれ29.1%、30.9%と高くなっている。

図 性年齢別 生活の中で優先したいこと



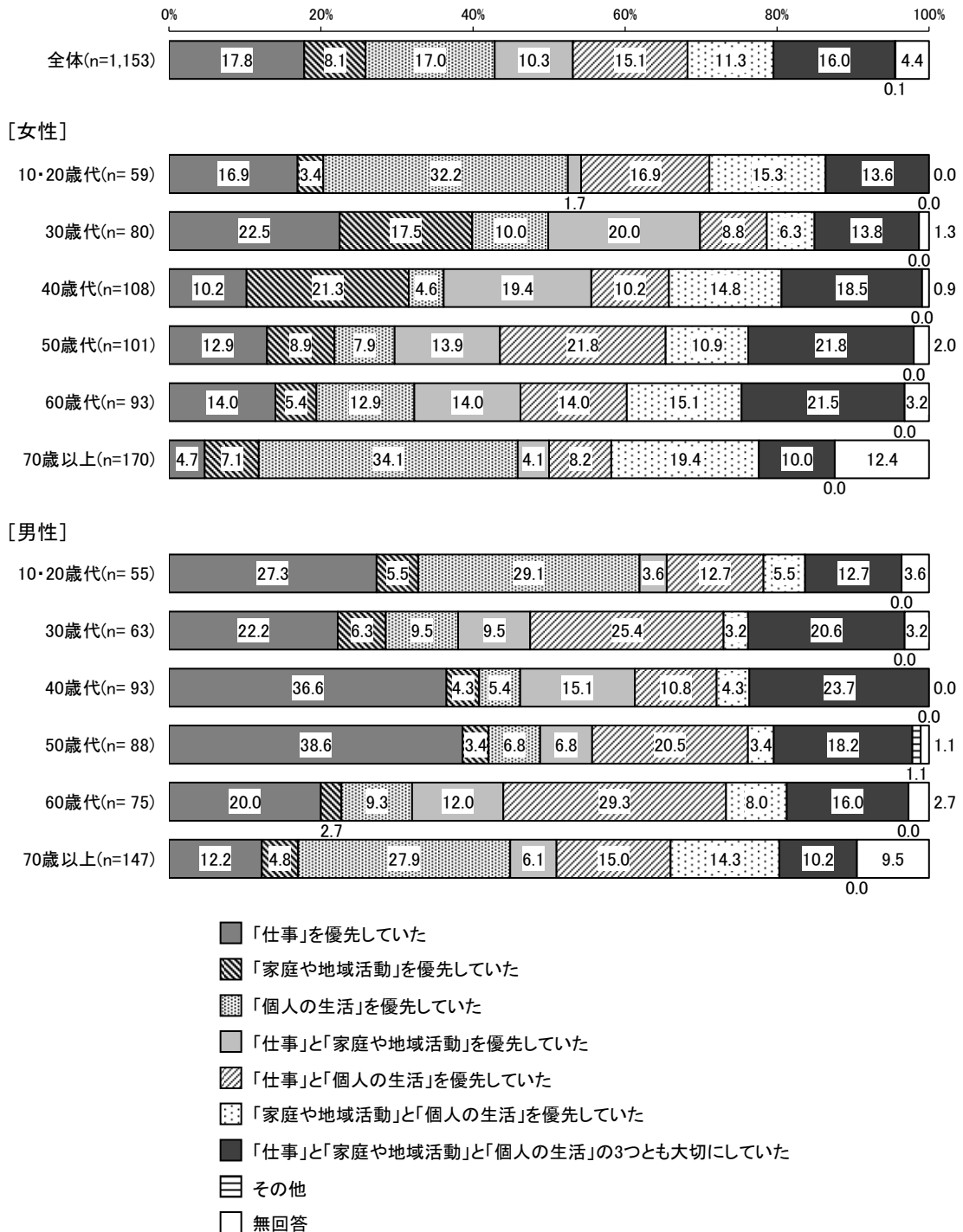
II 市民意識調査の結果

コロナ前の現実

コロナウイルス感染拡大前で、生活の中で優先していることについて年齢別にみると、女性では20歳代以下と70歳代以上で『個人の生活』を優先していた、30歳代で『仕事』を優先していた、40歳代で『家庭や地域活動』を優先していたが最も高くなっている。

男性では20歳代以下と70歳代以上で『個人の生活』を優先していた、30・60歳代で『仕事』と『個人の生活』を優先していた、40・50歳代で『仕事』を優先していたがそれぞれ最も高くなっており、年齢によって生活の実態が異なっている。

図 性年齢別 コロナ前に生活の中で優先していたこと

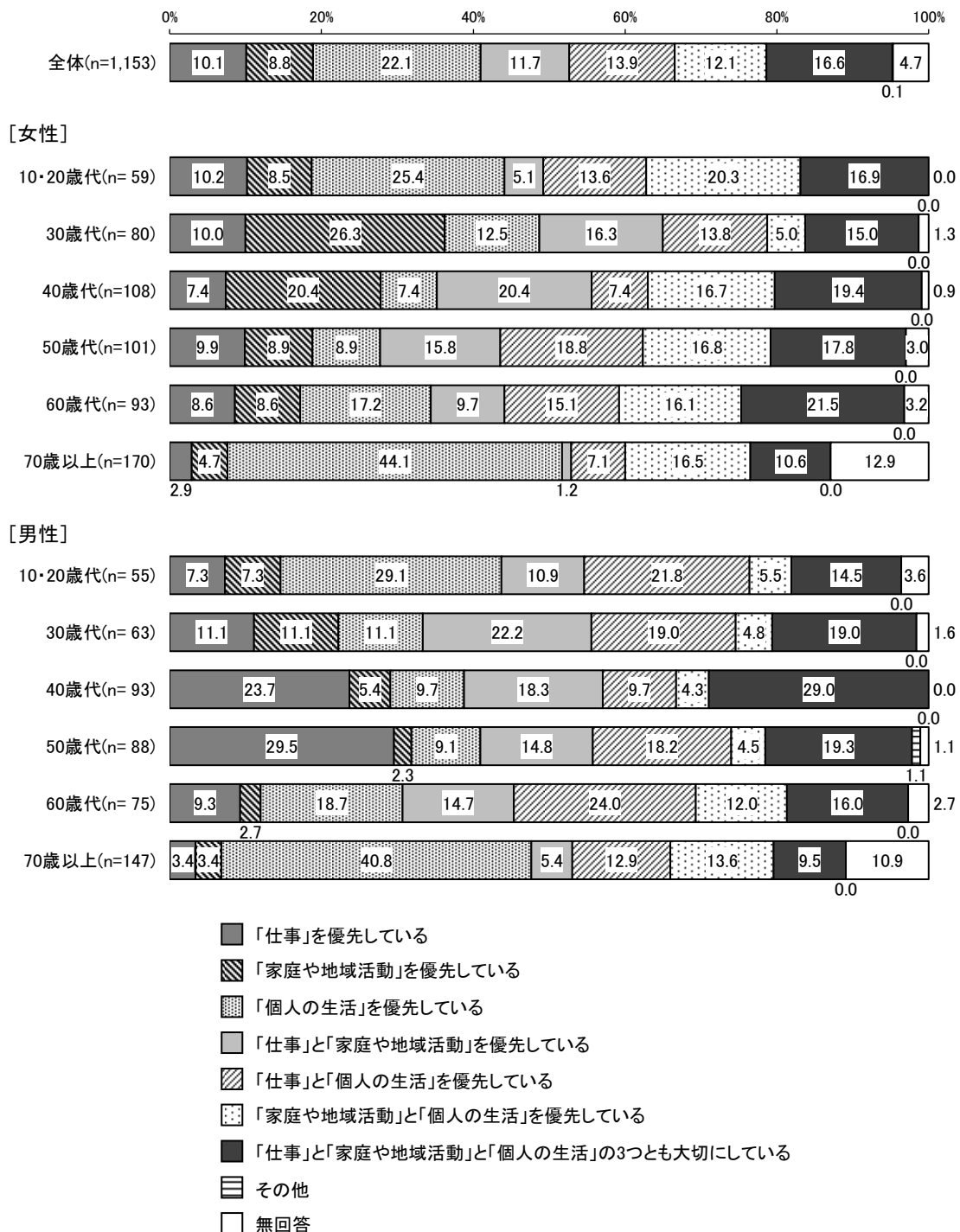


コロナ後の現実

コロナウイルス感染拡大後で、生活の中で優先していることについて年齢別にみると、女性では300歳代で『家庭や地域活動』を優先している」、40歳代で『家庭や地域活動』を優先している」と『仕事』と『家庭や地域活動』を優先している」の両方、70歳代以上で『個人の生活』を優先している」が最も高くなっている。

男性では30歳代で『仕事』と『家庭や地域活動』を優先している」が、40歳代で『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしている」、60歳代で『仕事』と『個人の生活』を優先している」が最も高くなっている。

図 性年齢別 コロナ後に生活の中で優先していること

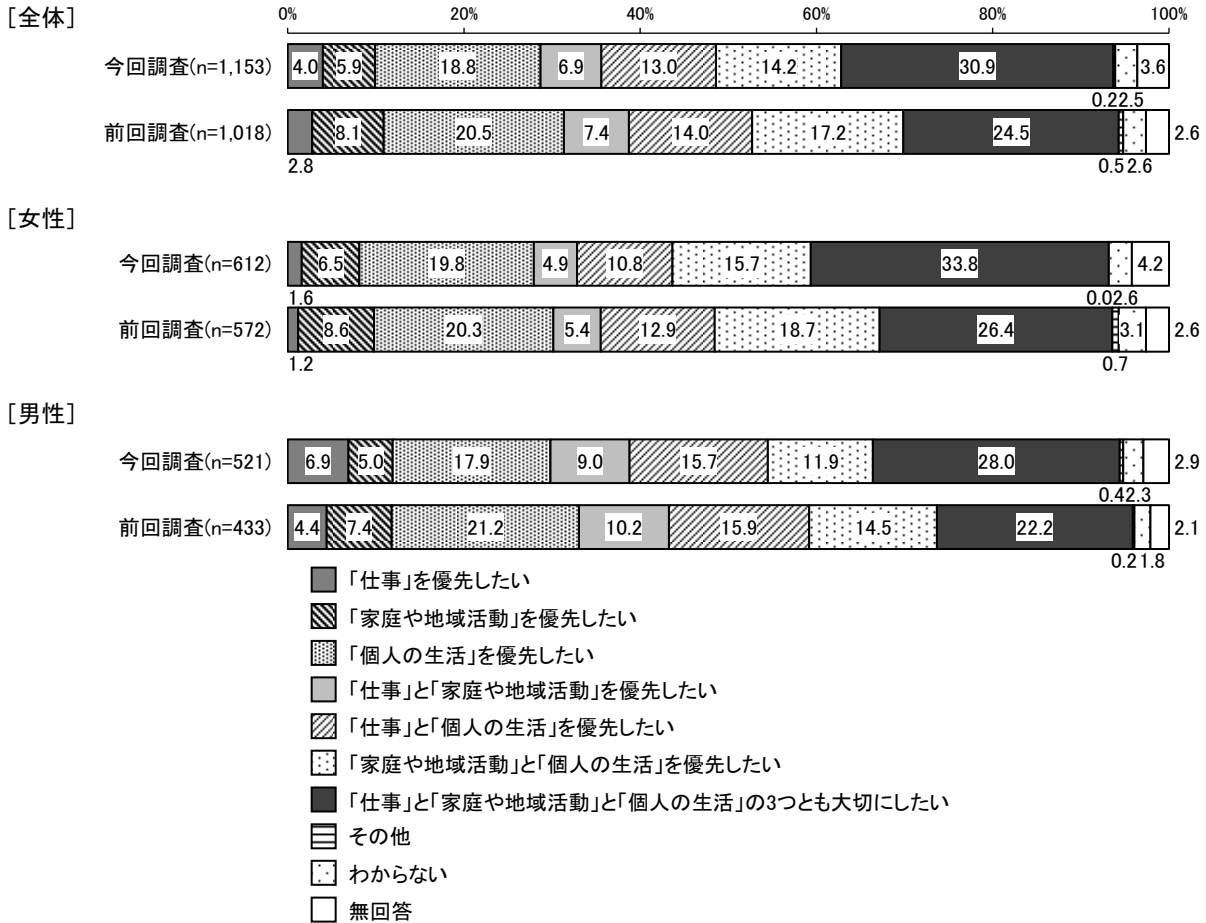


II 市民意識調査の結果

■ 前回調査との比較

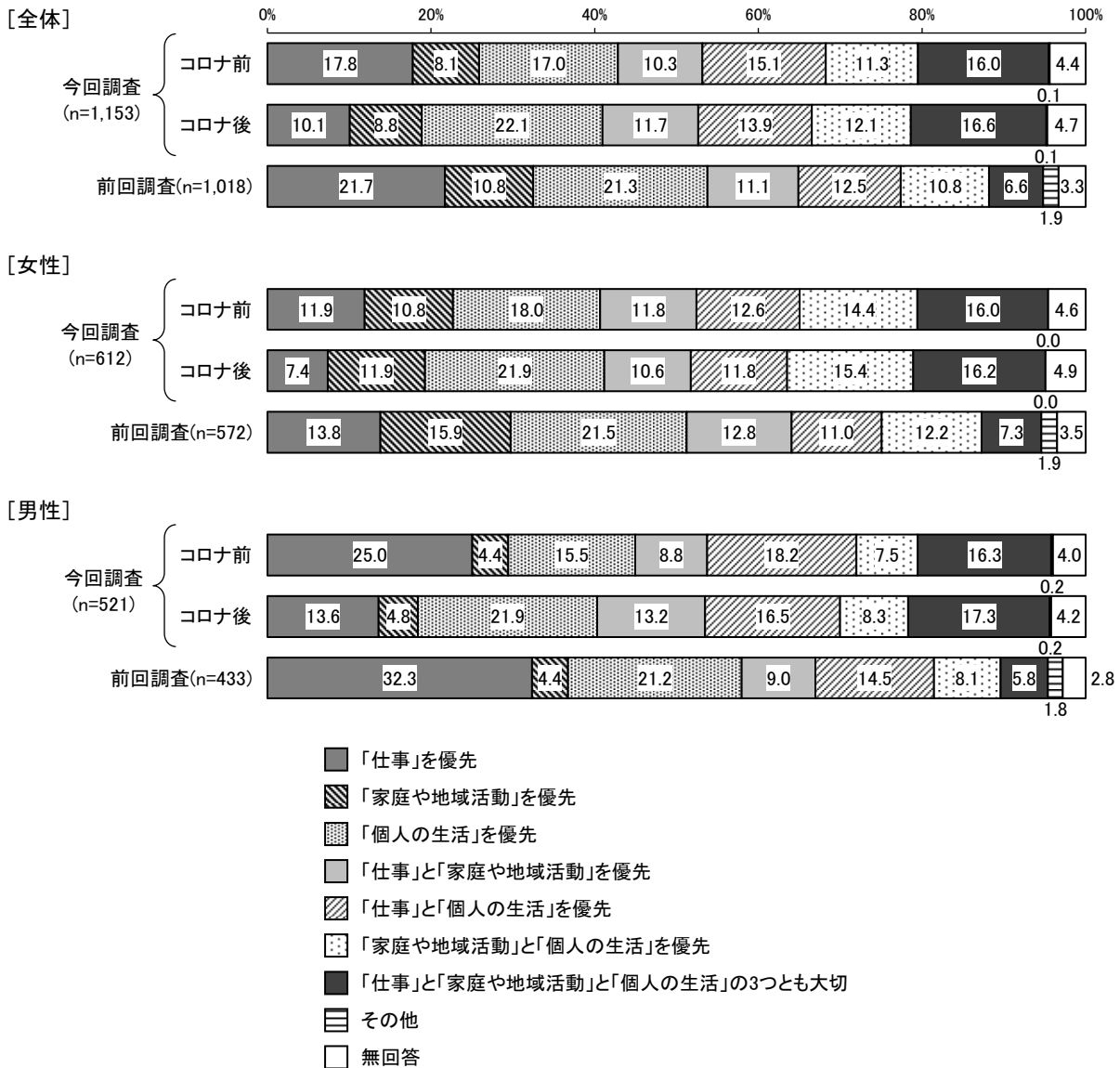
平成28年度に実施した前回調査と比較すると、生活の中で優先したいことについては、「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい」が前回調査より6.4ポイント高くなっており、性別では女性で7.4ポイント、男性で5.8ポイント高くなっている。

図 性別 生活の中で優先したいこと(前回調査との比較)



生活の中で優先していることについては、前回調査よりも「『仕事』を優先」の割合が低く、「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切」が高くなっている。特に「『仕事』を優先」の変化は、男性の方が女性よりも顕著で、男性はコロナ前が7.3ポイント、コロナ後が18.7ポイント、前回調査より低くなっている。

図 性別 生活の中で優先していること(前回調査との比較)



II 市民意識調査の結果

(2) ワーク・ライフ・バランスの認知度

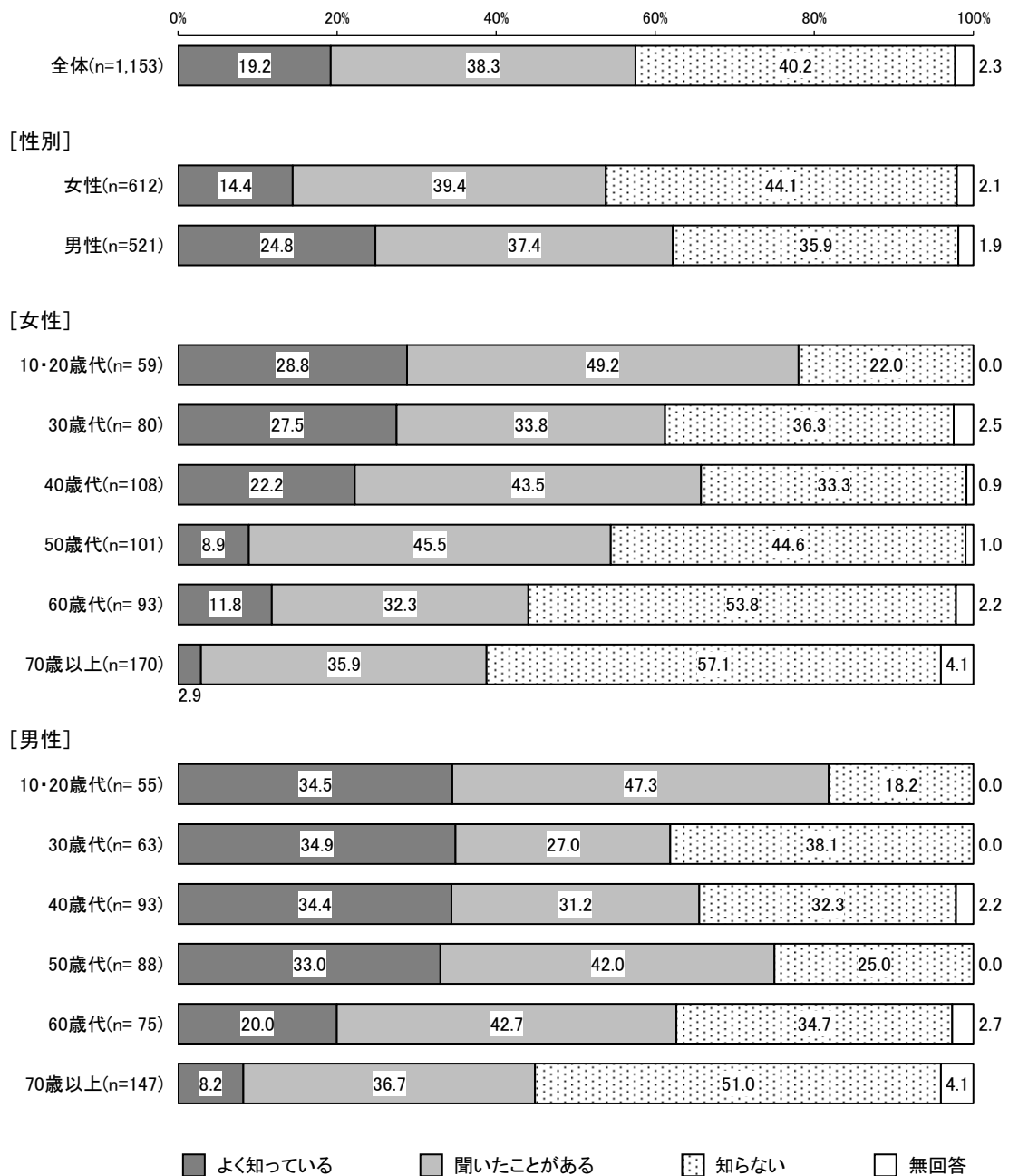
問11 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」について、どの程度知っていますか。（〇は1つ）

ワーク・ライフ・バランスの認知度についてたずねたところ、「知らない」が40.2%で最も高く、次いで「聞いたことがある」(38.3%)、「よく知っている」(19.2%)となっており、『聞いたことがある』(「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計)は57.5%となっている。

性別にみると、『聞いたことがある』は男性の方が8.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女とも10・20歳代で『聞いたことがある』の割合が高く、女性で78.0%、男性で81.8%となっている。また、男性の50歳代以下では「よく知っている」がいずれも3割以上と高くなっている。

図 性別、性年齢別 ワーク・ライフ・バランスの認知度



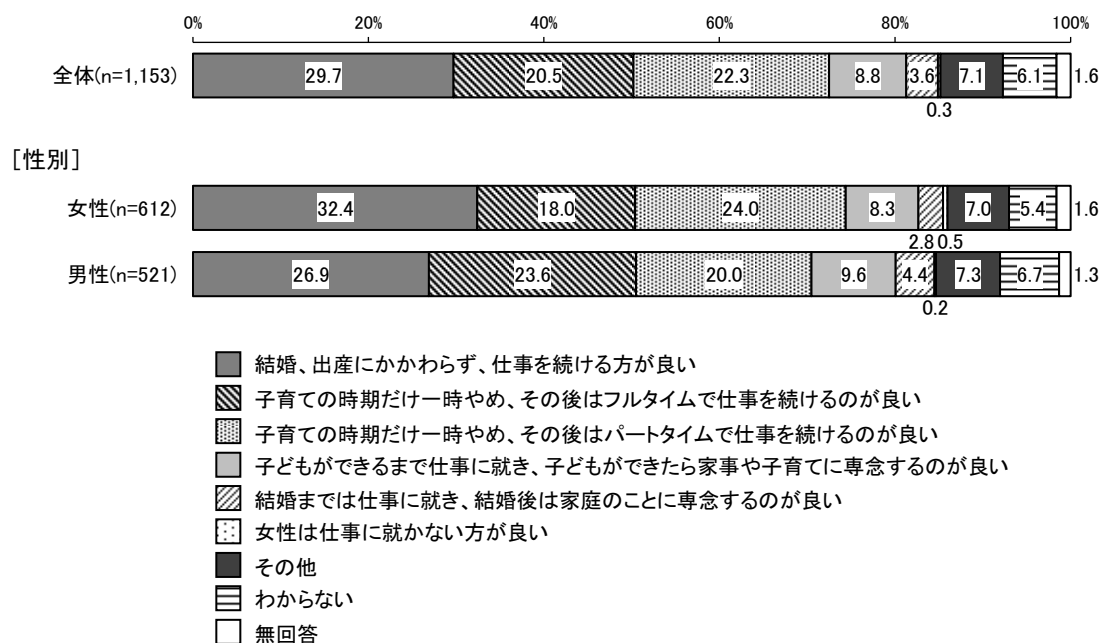
(3) 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え

問12 一般的なこととして、女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわりについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考えについてたずねたところ、「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」が29.7%で最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い」(22.3%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けるのが良い」(20.5%)、「子どもができるまで仕事に就き、子どもができたなら家事や子育てに専念するのが良い」(8.8%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」で5.5ポイント、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い」で4.0ポイントとそれぞれ高くなっている。

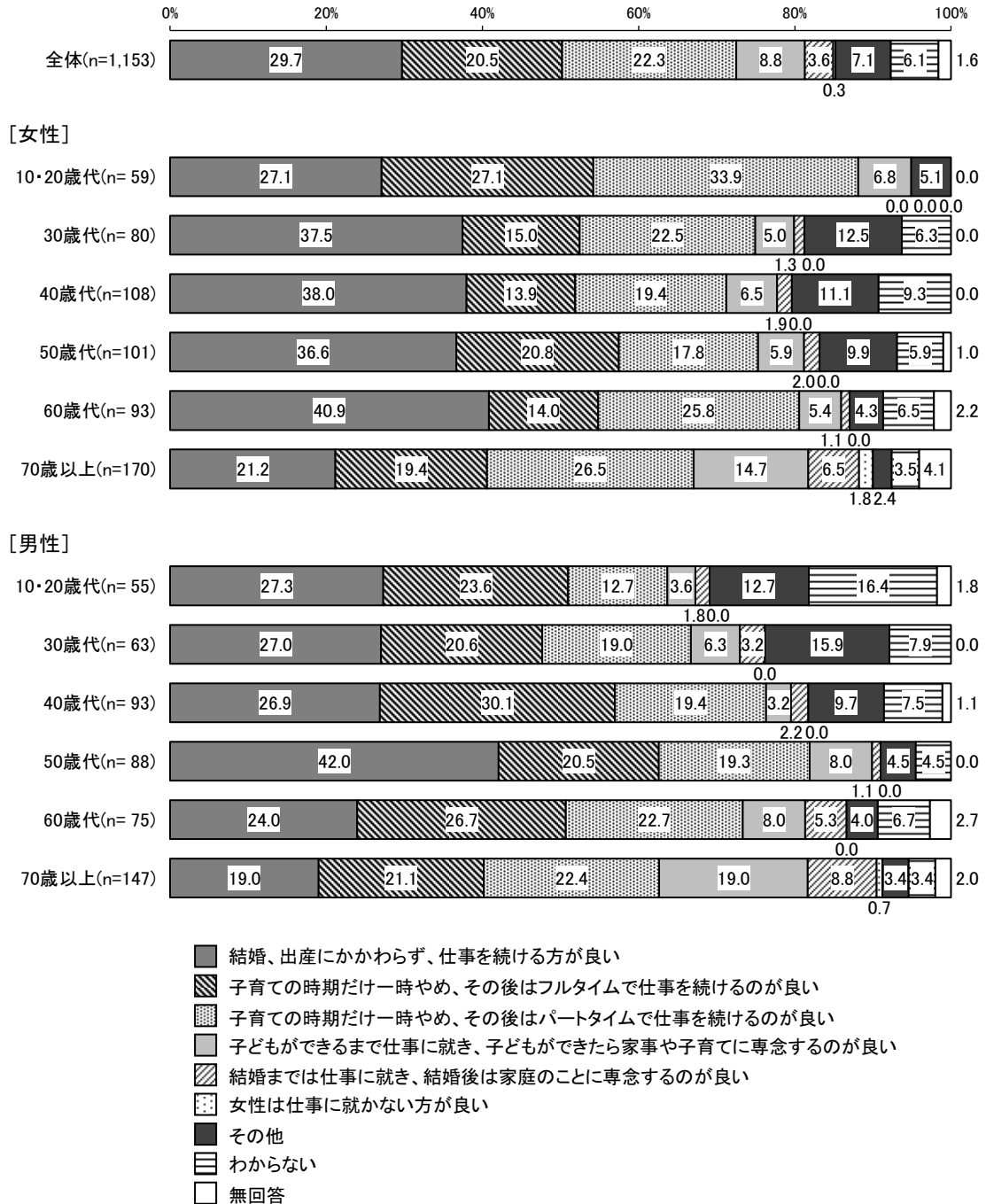
図 性別 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では10・20歳代で「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い」、30～60歳代で「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」が他の年齢層と比べて高くなっている。男性では10・20歳代で「わからない」、50歳代で「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」が他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性年齢別 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え



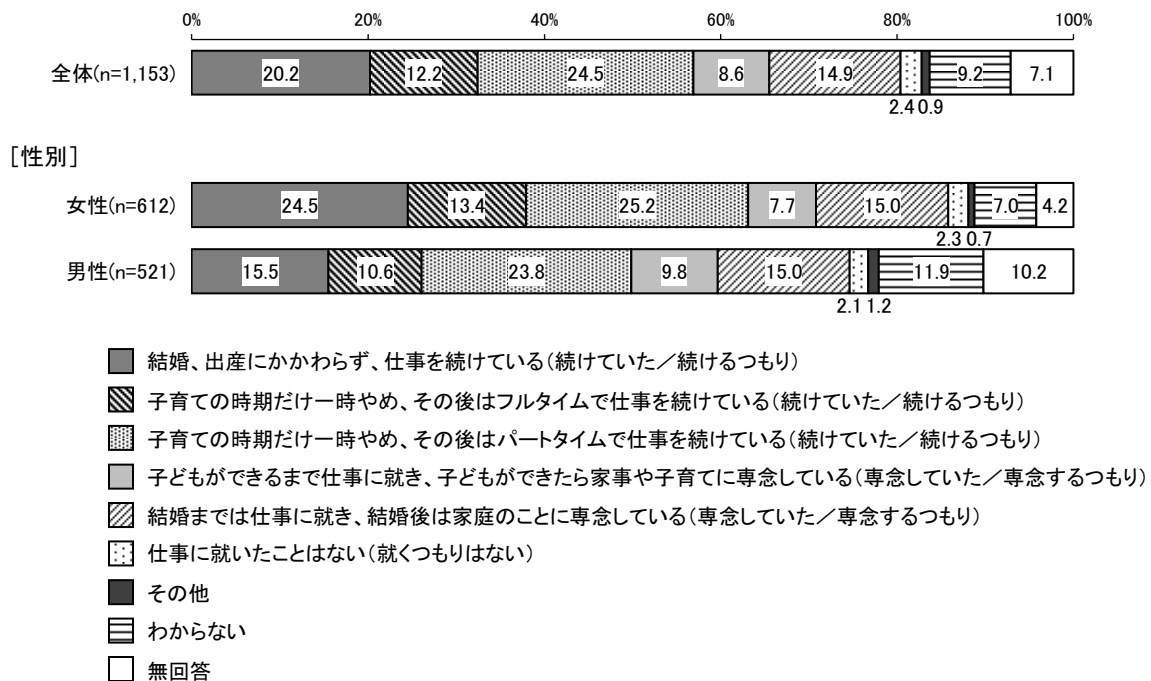
(4) 実際の女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方

問13 女性の方→ あなたの場合、実際の働き方は、どれにあたりますか。またはどのようにされるつもりですか。(○は1つ)
 男性の方→ あなたに配偶者・パートナーがいる場合、あなたの配偶者・パートナーの実際の働き方は、どれにあたりますか。またはどのようにされると思いますか。(○は1つ)

実際の女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についてたずねたところ、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事をしている(続けていた/続けるつもり)」が24.5%で最も高く、次いで「結婚、出産にかかわらず、仕事をしている(続けていた/続けるつもり)」(20.2%)、「結婚までは仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念している(専念していた/専念するつもり)」(14.9%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「結婚、出産にかかわらず、仕事をしている(続けていた/続けるつもり)」が9.0ポイント高くなっている。

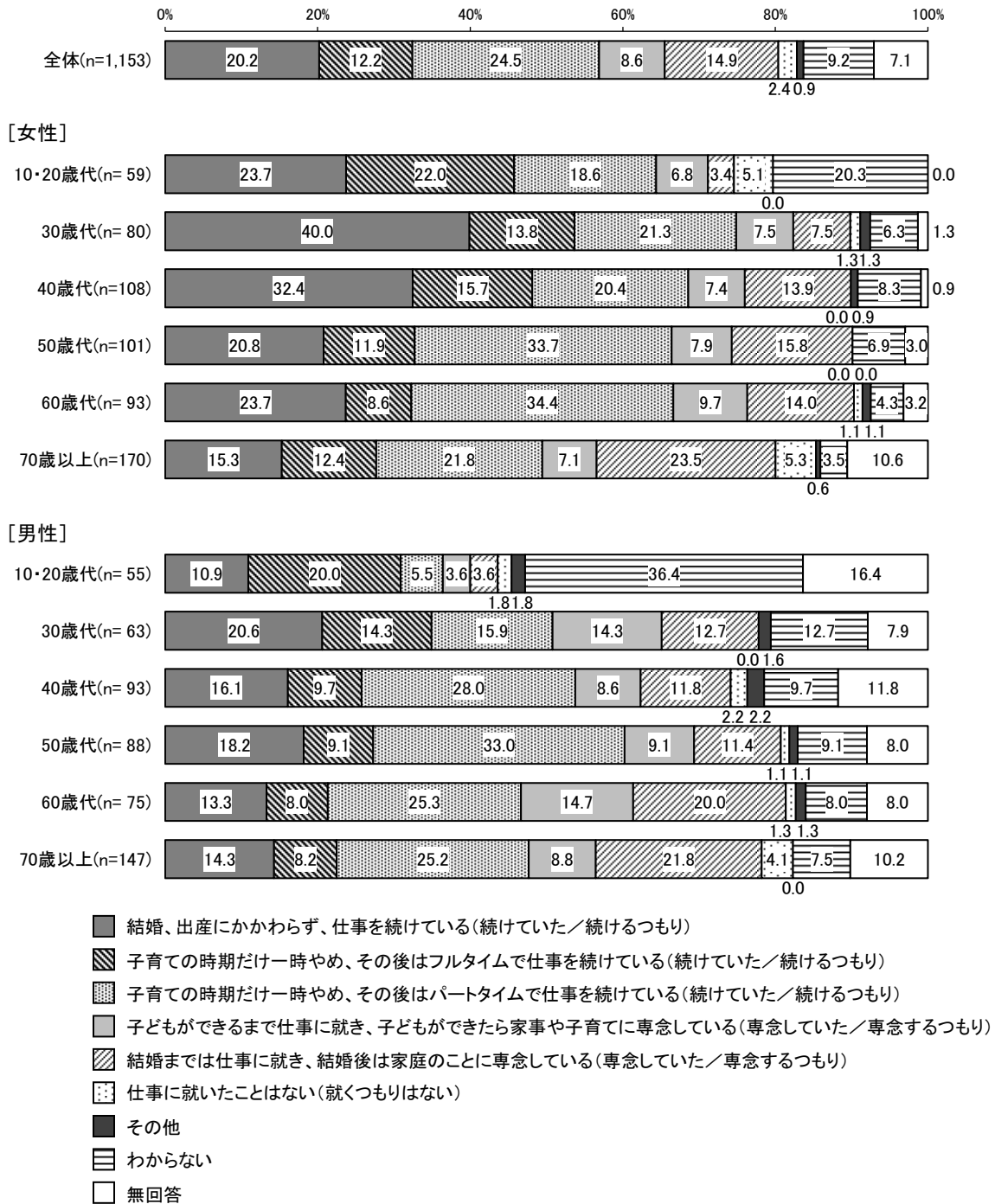
図 性別 実際の女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では30歳代と40歳代は「結婚、出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」、50歳代と60歳代は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」の割合が最も高くなっている。男性では30歳代で「結婚、出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」の割合が20.6%と高くなっている。男女とも10・20歳代では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」の割合が約2割、「わからない」が2割以上と高くなっている。

図 性年齢別 実際の女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方



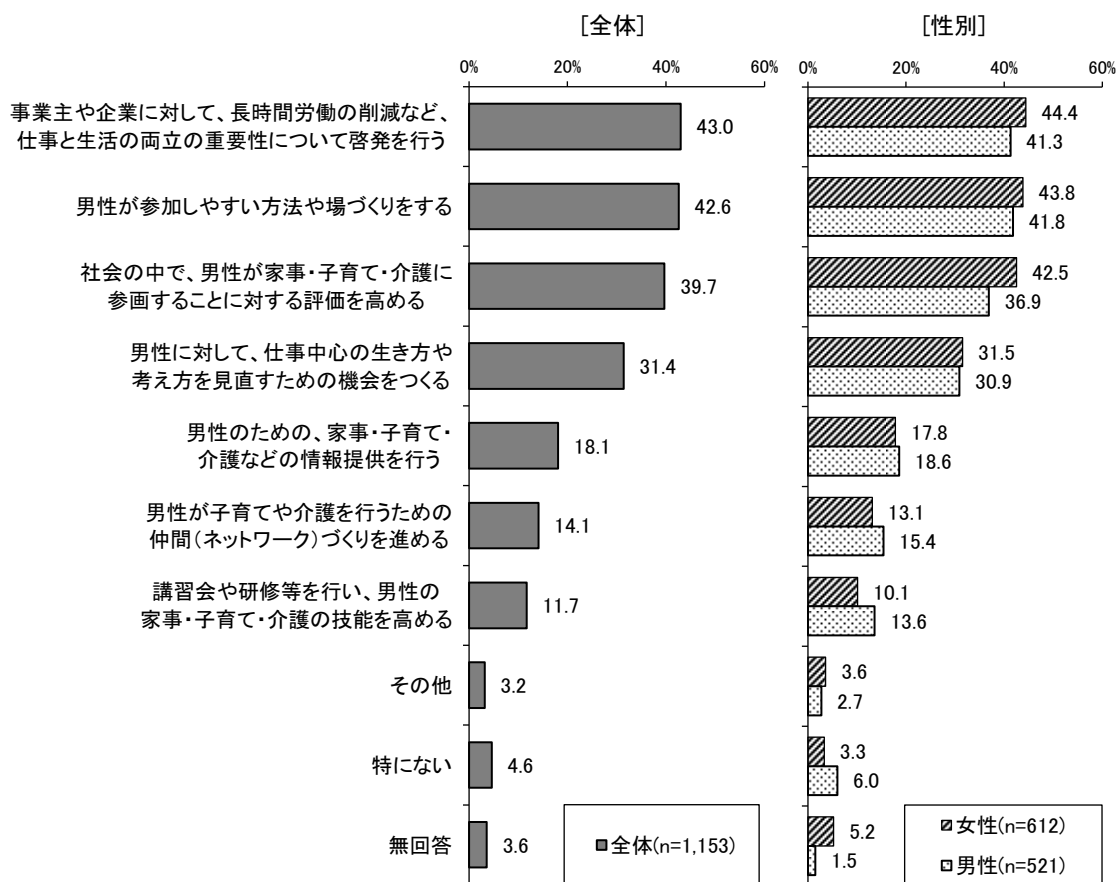
(5) 男性が家事子育てなどに積極的に参加していくために必要なこと

問14 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男性が家事子育てなどに積極的に参加していくために必要なことをたずねたところ、「事業主や企業に対して、長時間労働の削減など、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行う」が43.0%で最も高く、次いで「男性が参加しやすい方法や場づくりをする」(42.6%)、「社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める」(39.7%)、「男性に対して、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくる」(31.4%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める」が5.6ポイント高くなっている。

図 性別 男性が家事子育てなどに積極的に参加していくために必要なこと



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では40歳代で「事業主や企業に対して、長時間労働の削減など、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行う」と「社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める」が高く、上位3項目はいずれも5割以上があげている。

男性では10・20歳代で「社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める」が52.7%、70歳代以上で「講習会や研修等を行い、男性の家事・子育て・介護の技能を高める」が21.8%と高くなっている。

表 性年齢別 男性が家事子育てなどに積極的に参加していくために必要なこと

		回答者数(n)	事業主や企業に対して、長時間労働の削減など、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行う	男性が参加しやすい方法や場づくりをする	社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める	男性に対して、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくる	男性のための、家事・子育て・介護などの情報提供を行う	男性が子育てや介護を行うための仲間(ネットワーク)づくりを進める	講習会や研修等を行い、男性の家事・子育て・介護の技能を高める	その他	特にない	無回答
全体		1,153	43.0	42.6	39.7	31.4	18.1	14.1	11.7	3.2	4.6	3.6
性年齢別	10・20歳代	59	39.0	52.5	33.9	35.6	27.1	20.3	20.3	1.7	3.4	-
	30歳代	80	45.0	46.3	43.8	30.0	21.3	11.3	10.0	3.8	1.3	1.3
	40歳代	108	56.5	50.0	50.0	29.6	12.0	11.1	5.6	4.6	0.9	0.9
	50歳代	101	51.5	52.5	44.6	30.7	16.8	14.9	5.9	5.0	1.0	2.0
	60歳代	93	50.5	46.2	41.9	40.9	14.0	9.7	5.4	6.5	4.3	1.1
	70歳以上	170	31.2	29.4	39.4	27.6	19.4	13.5	14.7	1.2	6.5	15.3
	10・20歳代	55	40.0	41.8	52.7	27.3	21.8	20.0	9.1	3.6	3.6	-
	30歳代	63	41.3	41.3	49.2	28.6	20.6	22.2	7.9	3.2	6.3	-
	40歳代	93	46.2	41.9	41.9	33.3	15.1	15.1	11.8	5.4	6.5	1.1
	50歳代	88	45.5	46.6	35.2	38.6	15.9	15.9	8.0	2.3	4.5	1.1
	60歳代	75	34.7	44.0	38.7	28.0	14.7	16.0	14.7	2.7	4.0	2.7
	70歳以上	147	39.5	38.1	22.4	28.6	22.4	10.2	21.8	0.7	8.2	2.7

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

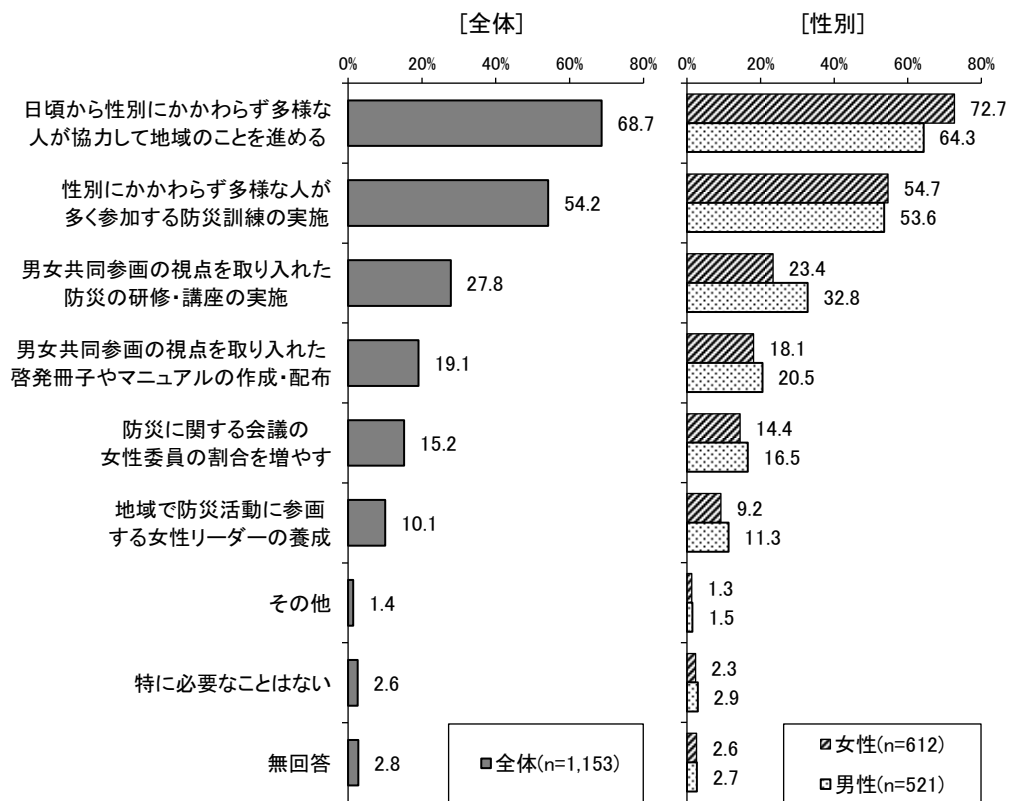
(6) 性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと

問15 災害時において、性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくためには、日頃からのようなことを行っていく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なことをたずねたところ、「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」が68.7%で最も高く、次いで「性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」(54.2%)、「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」(27.8%)、「男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニュアルの作成・配布」(19.1%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」が8.4ポイント高く、男性の方が女性よりも「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」が9.4ポイント高くなっている。

図 性別 性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」と「性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」を全年齢層で5割以上があげている。また30歳代では「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」が21.3%で他の年齢層と比べて高くなっている。

男性では60歳代で「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」、40歳代以上で「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」、10・20・50歳代で「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」が、他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと

		回答者数(n)	日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める	性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施	男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施	男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニュアルの作成・配布	防災に関する会議の女性委員の割合を増やす	地域で防災活動に参画する女性リーダーの養成	その他	特に必要なことはない	無回答	
全体		1,153	68.7	54.2	27.8	19.1	15.2	10.1	1.4	2.6	2.8	
性年齢別	女性	10・20歳代	59	78.0	52.5	18.6	22.0	11.9	8.5	1.7	-	-
		30歳代	80	66.3	57.5	21.3	16.3	21.3	10.0	-	2.5	1.3
		40歳代	108	68.5	57.4	20.4	17.6	18.5	10.2	1.9	4.6	0.9
		50歳代	101	72.3	55.4	18.8	13.9	13.9	7.9	2.0	1.0	1.0
		60歳代	93	76.3	57.0	29.0	14.0	15.1	10.8	2.2	2.2	2.2
		70歳以上	170	74.7	50.6	27.6	22.9	8.8	8.2	0.6	2.4	6.5
	男性	10・20歳代	55	52.7	49.1	27.3	20.0	21.8	10.9	-	7.3	-
		30歳代	63	58.7	46.0	25.4	23.8	17.5	17.5	1.6	1.6	3.2
		40歳代	93	62.4	57.0	34.4	20.4	11.8	11.8	2.2	4.3	2.2
		50歳代	88	63.6	54.5	31.8	14.8	25.0	8.0	-	4.5	-
		60歳代	75	76.0	54.7	36.0	24.0	13.3	9.3	2.7	-	2.7
		70歳以上	147	66.7	55.1	36.1	21.1	13.6	11.6	2.0	1.4	5.4

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

5. 男女の人権について

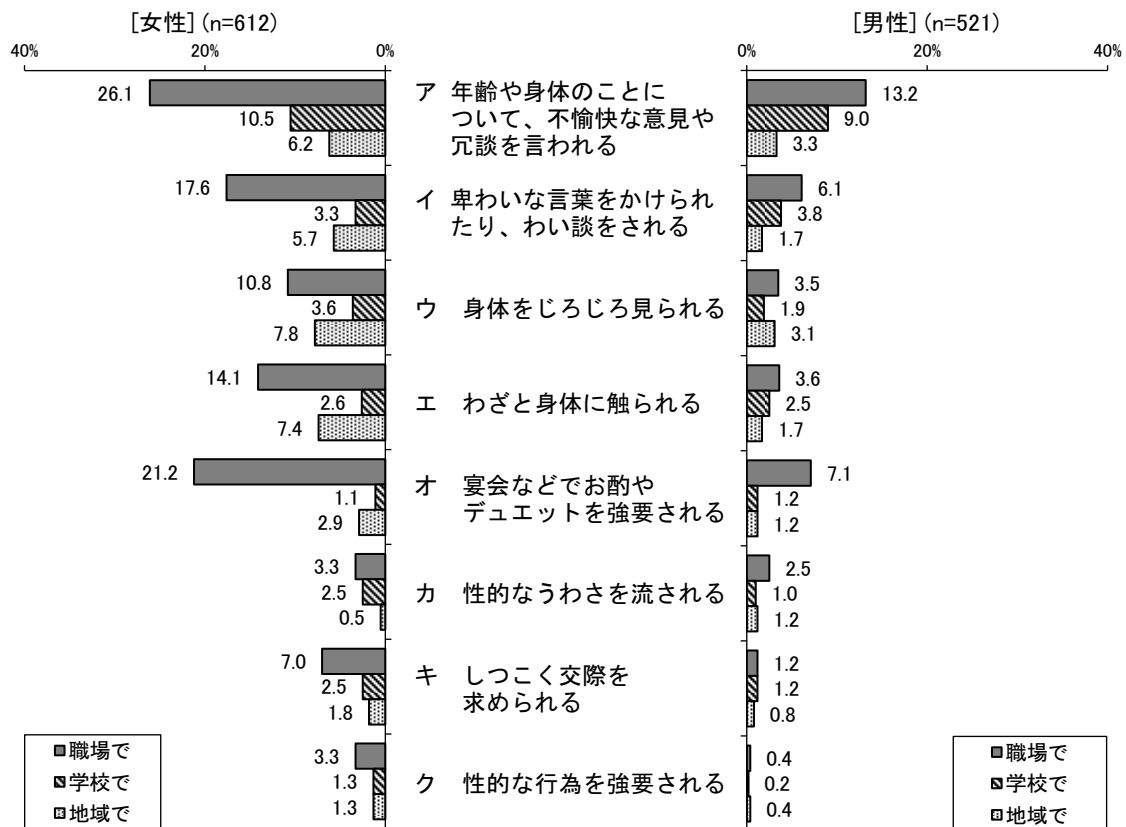
(1) セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

問16 セクシュアル・ハラスメントについておたずねします。あなたは、職場や学校、地域などで次のような行為をされたことがありますか。(〇はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験をたずねたところ、女性では「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」「イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が職場で、「ウ 身体をじろじろ見られる」「エ わざと身体に触られる」が職場と地域であったと答えた割合が高くなっている。

男性では「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」が職場と学校で、「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が職場であったと答えた割合が高くなっている。

図 性別 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では30～50歳代が職場、10・20歳代が学校で「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」、30～50歳代が職場で「イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」、50歳代が職場、10・20歳代が地域で「ウ 身体をじろじろ見られる」、40・50歳代が職場、30歳代が地域で「エ わざと身体に触られる」、40～60歳代が職場で「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が他の年齢層と比べて高くなっている。

男性では、30歳代が学校で「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」が他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

		回答者数(n)	ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる					イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる					
			職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	
			全体	1,153	20.2	9.8	5.1	62.8	9.1	12.4	3.6	4.0	71.9
性 年 齢 別	女 性	10・20 歳代	59	27.1	22.0	6.8	59.3	-	13.6	6.8	5.1	74.6	3.4
		30 歳代	80	33.8	11.3	3.8	57.5	2.5	26.3	7.5	8.8	62.5	2.5
		40 歳代	108	33.3	17.6	8.3	53.7	0.9	23.1	5.6	6.5	69.4	1.9
		50 歳代	101	40.6	8.9	5.9	48.5	5.0	29.7	3.0	5.9	56.4	7.9
		60 歳代	93	26.9	5.4	5.4	60.2	7.5	17.2	1.1	5.4	67.7	10.8
		70 歳以上	170	8.8	5.3	6.5	61.2	19.4	4.7	-	4.1	65.3	25.9
		10・20 歳代	55	7.3	14.5	3.6	76.4	3.6	-	9.1	-	87.3	3.6
男 性	30 歳代	63	19.0	20.6	4.8	71.4	-	9.5	11.1	1.6	82.5	-	
	40 歳代	93	23.7	15.1	3.2	67.7	2.2	14.0	3.2	2.2	84.9	1.1	
	50 歳代	88	13.6	5.7	3.4	77.3	3.4	5.7	4.5	2.3	88.6	4.5	
	60 歳代	75	14.7	5.3	1.3	72.0	9.3	2.7	1.3	1.3	86.7	10.7	
	70 歳以上	147	5.4	2.0	3.4	62.6	27.2	4.1	-	2.0	63.3	31.3	

		回答者数(n)	ウ 身体をじろじろ見られる					エ わざと身体に触られる					
			職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	
			全体	1,153	7.5	2.9	6.0	75.4	11.8	9.2	2.6	4.8	74.7
性 年 齢 別	女 性	10・20 歳代	59	10.2	1.7	18.6	66.1	3.4	8.5	5.1	8.5	78.0	1.7
		30 歳代	80	12.5	6.3	8.8	73.8	2.5	12.5	5.0	15.0	72.5	2.5
		40 歳代	108	13.9	6.5	8.3	76.9	2.8	20.4	4.6	7.4	72.2	2.8
		50 歳代	101	20.8	4.0	5.9	66.3	8.9	19.8	2.0	5.0	69.3	5.0
		60 歳代	93	8.6	3.2	7.5	74.2	9.7	17.2	2.2	5.4	66.7	8.6
		70 歳以上	170	3.5	1.2	4.7	65.3	26.5	7.6	-	5.9	63.5	23.5
		10・20 歳代	55	1.8	1.8	3.6	92.7	3.6	-	7.3	5.5	85.5	3.6
男 性	30 歳代	63	1.6	1.6	1.6	96.8	-	3.2	3.2	1.6	92.1	-	
	40 歳代	93	7.5	5.4	6.5	84.9	2.2	10.8	4.3	2.2	82.8	2.2	
	50 歳代	88	3.4	1.1	2.3	90.9	4.5	2.3	2.3	1.1	93.2	4.5	
	60 歳代	75	4.0	1.3	1.3	84.0	12.0	1.3	-	-	86.7	12.0	
	70 歳以上	147	2.0	0.7	2.7	64.6	30.6	2.7	0.7	1.4	64.6	31.3	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

		回答者数(n)	オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される					カ 性的なうわさを流される					
			職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	
全体		1,153	14.8	1.1	2.2	71.6	11.8	2.9	1.9	0.8	83.3	12.1	
性 年 齢 別	女 性	10・20 歳代	59	16.9	5.1	3.4	76.3	3.4	1.7	8.5	-	86.4	3.4
		30 歳代	80	23.8	2.5	-	71.3	5.0	8.8	5.0	2.5	85.0	2.5
		40 歳代	108	29.6	1.9	5.6	64.8	2.8	5.6	3.7	0.9	88.9	2.8
		50 歳代	101	30.7	-	2.0	59.4	7.9	3.0	2.0	-	85.1	10.9
		60 歳代	93	25.8	-	1.1	65.6	8.6	3.2	-	-	86.0	10.8
		70 歳以上	170	8.2	-	4.1	62.4	25.9	-	-	-	73.5	26.5
		10・20 歳代	55	9.1	-	-	87.3	3.6	-	1.8	-	94.5	3.6
男 性	30 歳代	63	7.9	3.2	4.8	87.3	-	4.8	3.2	1.6	93.7	-	
	40 歳代	93	11.8	3.2	-	82.8	2.2	1.1	-	3.2	93.5	2.2	
	50 歳代	88	9.1	1.1	1.1	87.5	3.4	4.5	2.3	2.3	89.8	4.5	
	60 歳代	75	4.0	-	2.7	80.0	13.3	4.0	-	-	82.7	13.3	
	70 歳以上	147	3.4	-	-	64.6	32.0	1.4	-	-	67.3	31.3	

		回答者数(n)	キ しつこく交際を求められる					ク 性的な行為を強要される					
			職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	
全体		1,153	4.3	1.9	1.3	81.3	12.2	1.9	0.8	1.0	84.6	12.4	
性 年 齢 別	女 性	10・20 歳代	59	10.2	6.8	5.1	78.0	3.4	3.4	5.1	6.8	84.7	3.4
		30 歳代	80	11.3	5.0	-	85.0	2.5	6.3	2.5	1.3	88.8	3.8
		40 歳代	108	9.3	3.7	3.7	80.6	4.6	2.8	2.8	-	90.7	3.7
		50 歳代	101	12.9	2.0	3.0	74.3	9.9	5.0	-	1.0	83.2	10.9
		60 歳代	93	2.2	-	-	86.0	11.8	2.2	-	2.2	84.9	11.8
		70 歳以上	170	1.8	0.6	0.6	71.8	25.3	1.8	-	-	71.8	26.5
		10・20 歳代	55	-	1.8	-	94.5	3.6	-	-	-	96.4	3.6
男 性	30 歳代	63	1.6	-	1.6	96.8	-	-	-	-	100.0	-	
	40 歳代	93	3.2	3.2	-	91.4	3.2	-	-	-	97.8	2.2	
	50 歳代	88	1.1	2.3	1.1	93.2	4.5	1.1	1.1	2.3	93.2	4.5	
	60 歳代	75	-	-	-	86.7	13.3	-	-	-	86.7	13.3	
	70 歳以上	147	0.7	-	1.4	66.7	31.3	0.7	-	-	68.0	31.3	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

II 市民意識調査の結果

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、女性では職場で「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」と「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が、前回調査より10ポイント以上高くなっている。男性では職場で「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が、前回調査より4.8ポイント高くなっている。男女とも職場、学校ではすべての項目で前回調査より割合が高くなっている。

図 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験(前回調査との比較) — 女性

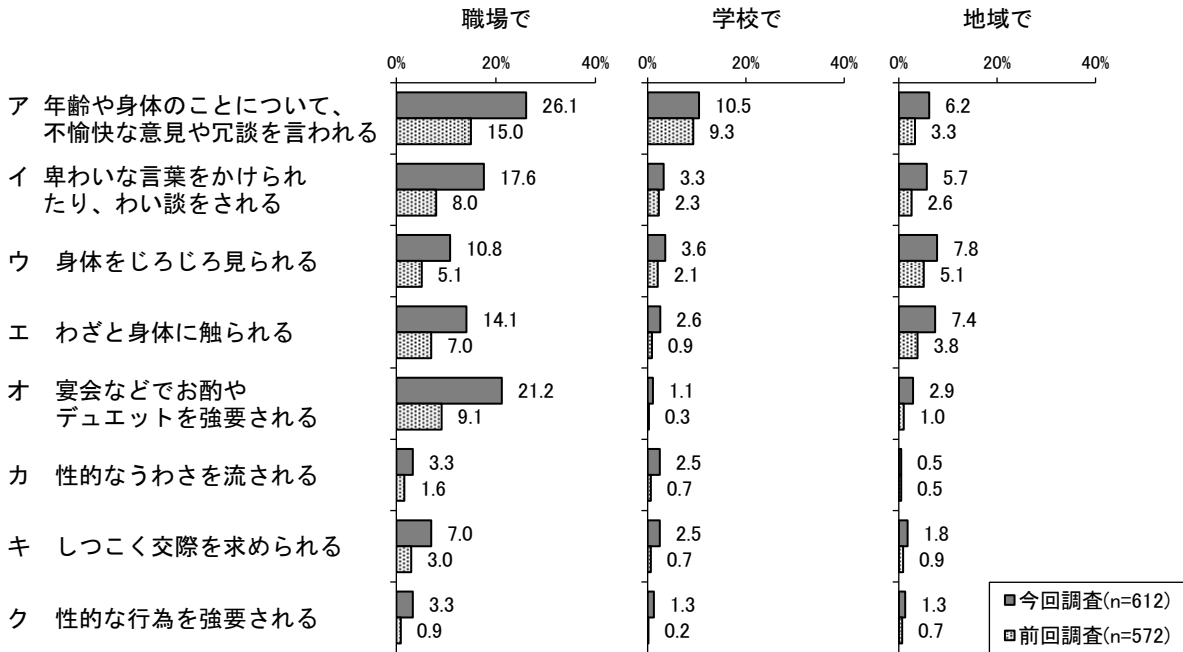
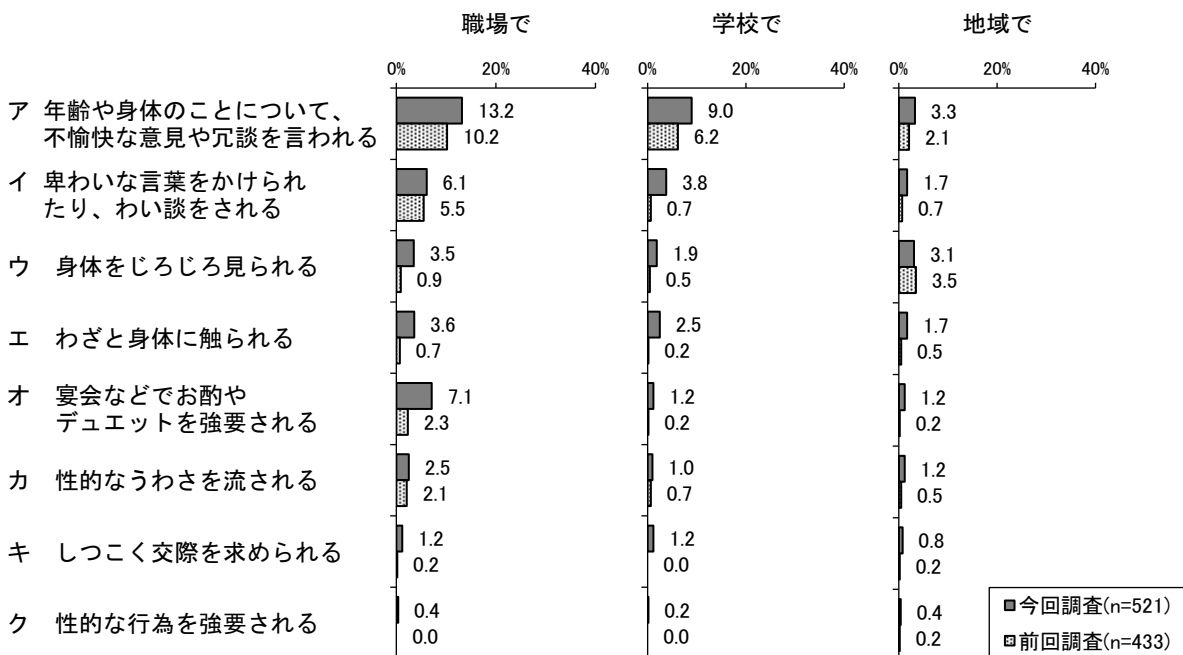


図 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験(前回調査との比較) — 男性

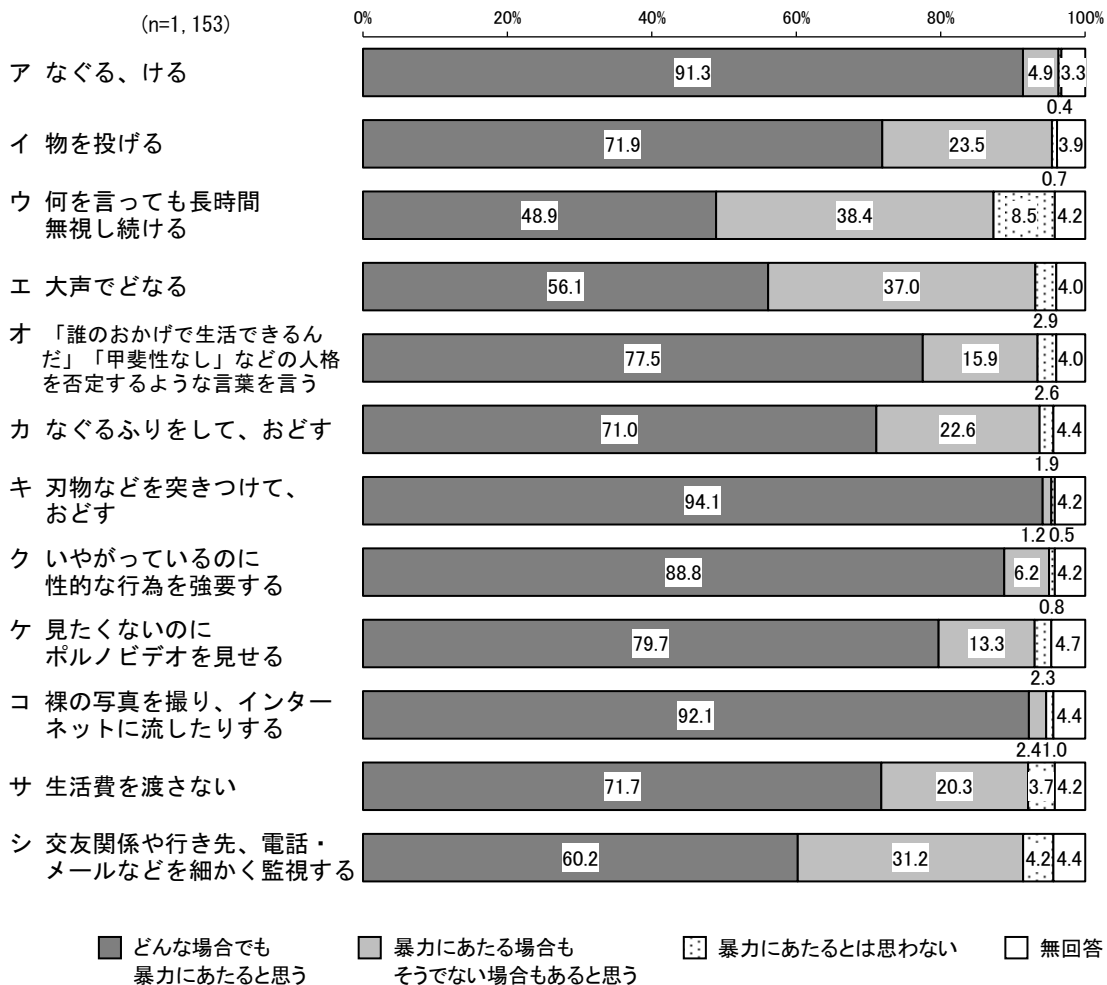


(2) 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと

問17 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、暴力だと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うことについてたずねたところ、「ア なぐる、ける」「キ 刃物などを突きつけて、おどす」「コ 裸の写真を撮り、インターネットに流したりする」は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割以上と高くなっている。一方で、「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」では「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が他の項目と比較して高く、3割以上となっている。

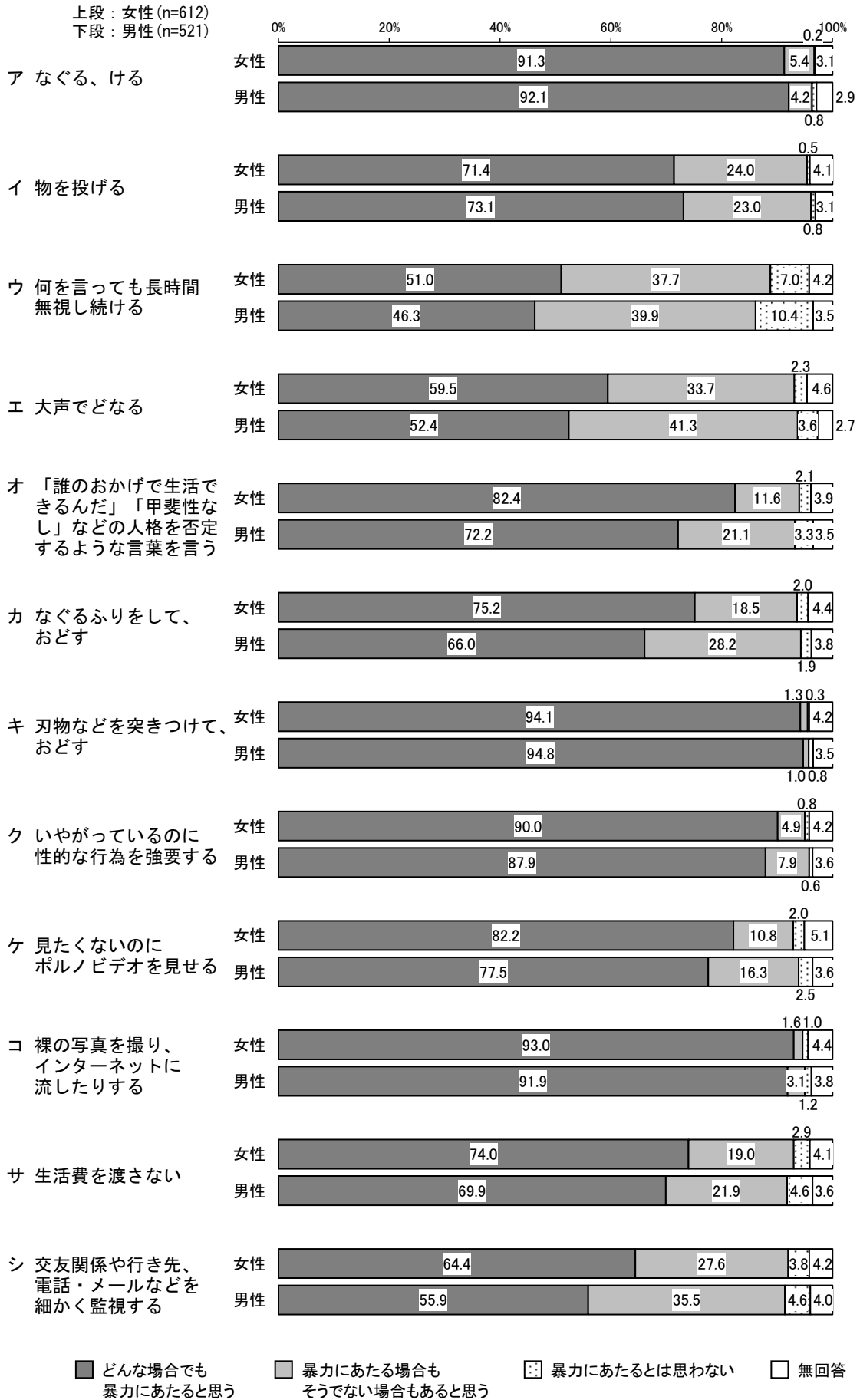
図 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと



性別にみると、「ア なぐる、ける」「イ 物を投げる」「キ 刃物などを突きつけて、おどす」は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が男女でほぼ同率で、それ以外の項目は女性の方が男性よりも高くなっている。特に「オ 『誰のおかげで生活できるんだ』『甲斐性なし』などの人格を否定するような言葉を使う」と「カ なぐるふりをして、おどす」で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える割合は、女性の方が男性よりも10ポイント前後高くなっている。

II 市民意識調査の結果

図 性別 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと



年齢別にみると、女性では10～40歳代で「カ なぐるふりをして、おどす」、10・20歳代で「ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる」、50歳代で「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「オ 『誰のおかげで生活できるんだ』『甲斐性なし』などの人格を否定するような言葉を言う」、60歳代で「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」が他の年齢層と比べて高くなっている。一方、70歳以上で「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「カ なぐるふりをして、おどす」、10・20歳代で「サ 生活費を渡さない」が他の年齢層と比べて低くなっている。

男性では、10・20歳代で「ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる」が他の年齢層と比べて高くなっており、70歳以上で「カ なぐるふりをして、おどす」「ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる」が他の年齢層と比べて低くなっている。

表 性年齢別 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと

－ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合

		回答者数(n)	ア なぐる、ける	イ 物を投げる	ウ 何を言っても長時間無視し続ける	エ 大声でどなる	オ 「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などの人格を否定するような言葉を言う	カ なぐるふりをして、おどす	キ 刃物などを突きつけて、おどす	ク いやがつているのに性的な行為を強要する	ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる	コ 裸の写真を撮り、インターネットに流したりする	サ 生活費を渡さない	シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	
全体		1,153	91.3	71.9	48.9	56.1	77.5	71.0	94.1	88.8	79.7	92.1	71.7	60.2	
性年齢別	女性	10・20歳代	59	91.5	74.6	54.2	57.6	86.4	88.1	96.6	89.8	91.5	94.9	61.0	55.9
		30歳代	80	93.8	73.8	55.0	62.5	82.5	82.5	91.3	91.3	85.0	91.3	76.3	65.0
		40歳代	108	97.2	72.2	55.6	62.0	87.0	84.3	99.1	92.6	85.2	98.1	76.9	66.7
		50歳代	101	96.0	71.3	61.4	67.3	88.1	80.2	100.0	100.0	89.1	100.0	80.2	68.3
		60歳代	93	91.4	68.8	50.5	65.6	86.0	78.5	94.6	91.4	86.0	95.7	78.5	73.1
		70歳以上	170	84.1	70.6	39.4	49.4	72.9	57.1	88.2	81.8	70.0	84.7	70.0	58.8
	男性	10・20歳代	55	94.5	70.9	56.4	49.1	80.0	78.2	98.2	94.5	90.9	94.5	70.9	60.0
		30歳代	63	92.1	69.8	44.4	46.0	71.4	77.8	96.8	87.3	84.1	93.7	71.4	49.2
		40歳代	93	91.4	74.2	45.2	57.0	77.4	69.9	96.8	93.5	79.6	92.5	65.6	50.5
		50歳代	88	94.3	76.1	58.0	56.8	79.5	72.7	95.5	92.0	80.7	95.5	76.1	67.0
		60歳代	75	96.0	69.3	41.3	58.7	69.3	65.3	97.3	90.7	78.7	97.3	74.7	58.7
		70歳以上	147	88.4	74.8	39.5	47.6	63.3	50.3	89.8	78.2	66.0	85.0	65.3	52.4

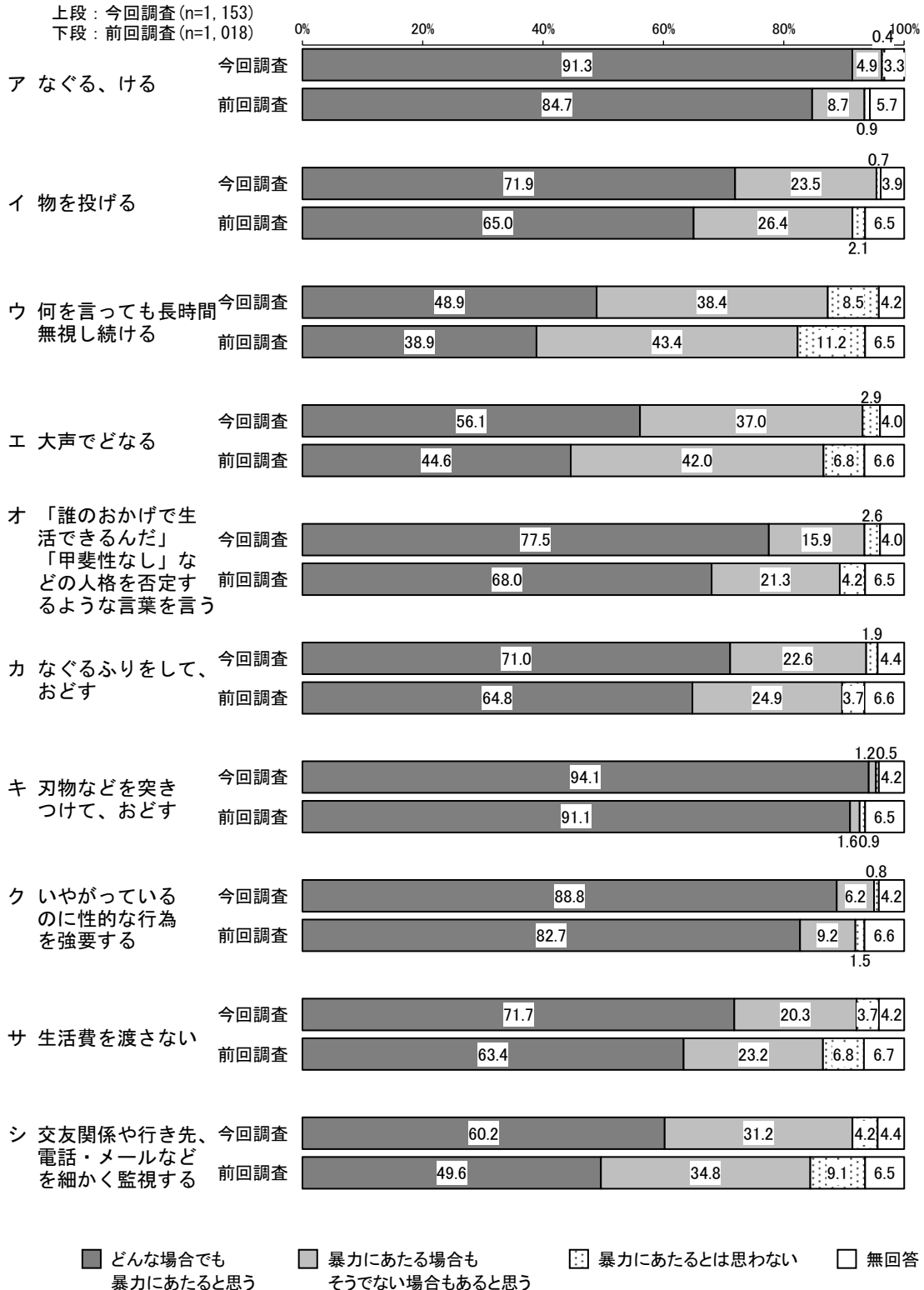
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

II 市民意識調査の結果

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、すべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が前回調査よりも高くなっている。特に「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」は、前回調査よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が10ポイント以上高くなっている。

図 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと(前回調査との比較)



(3) 交際相手の有無

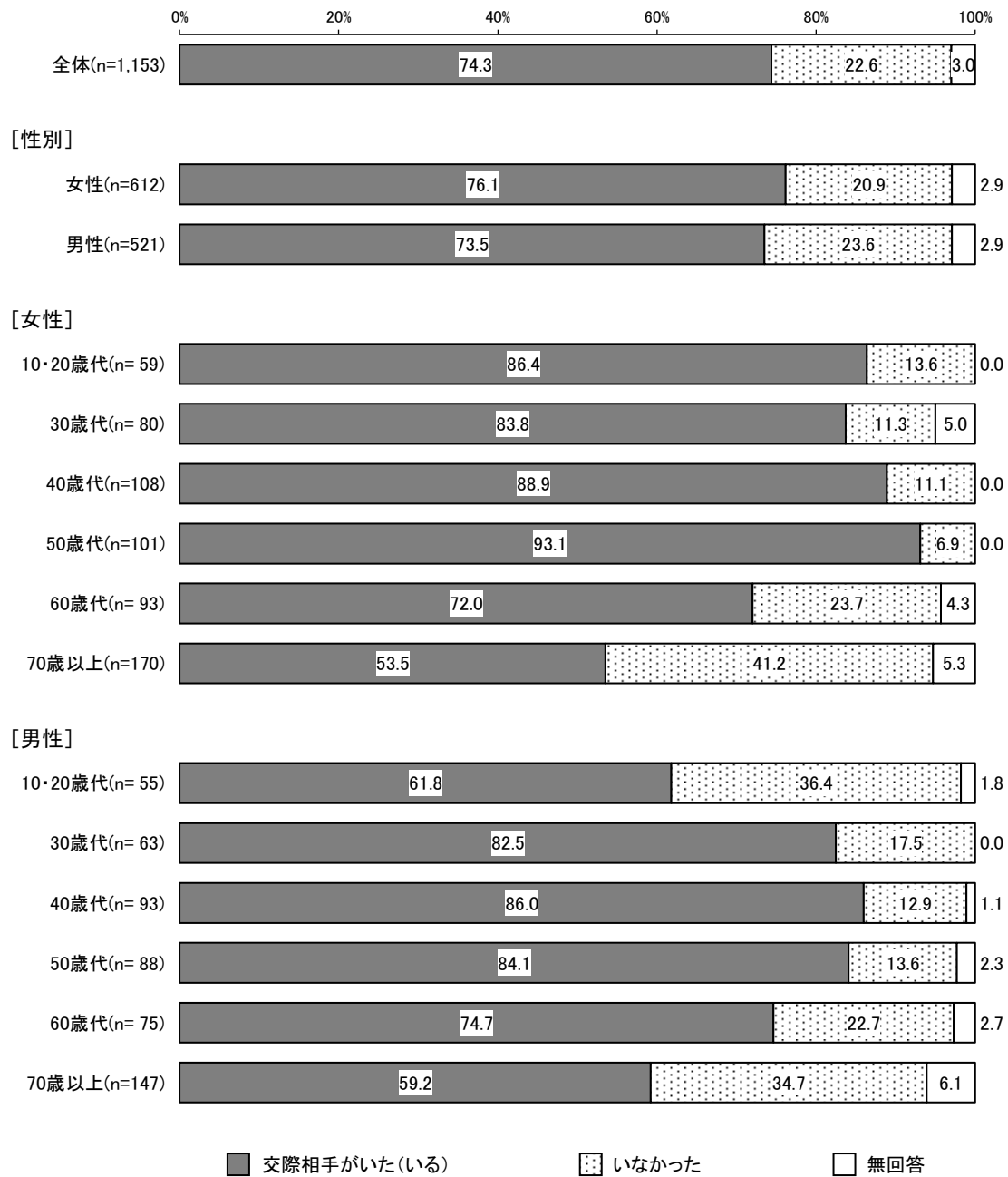
問18 あなたは、これまでに交際相手がありましたか。(結婚している方は結婚前について) (○は1つ)

交際相手の有無についてたずねたところ、「交際相手があった(いる)」が74.3%、「いなかった」が22.6%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「交際相手があった(いる)」の割合がやや高くなっている。

年齢別にみると、10・20歳代では「いなかった」が女性で13.6%、男性で36.4%となっている。

図 性別、性年齢別 交際相手の有無



II 市民意識調査の結果

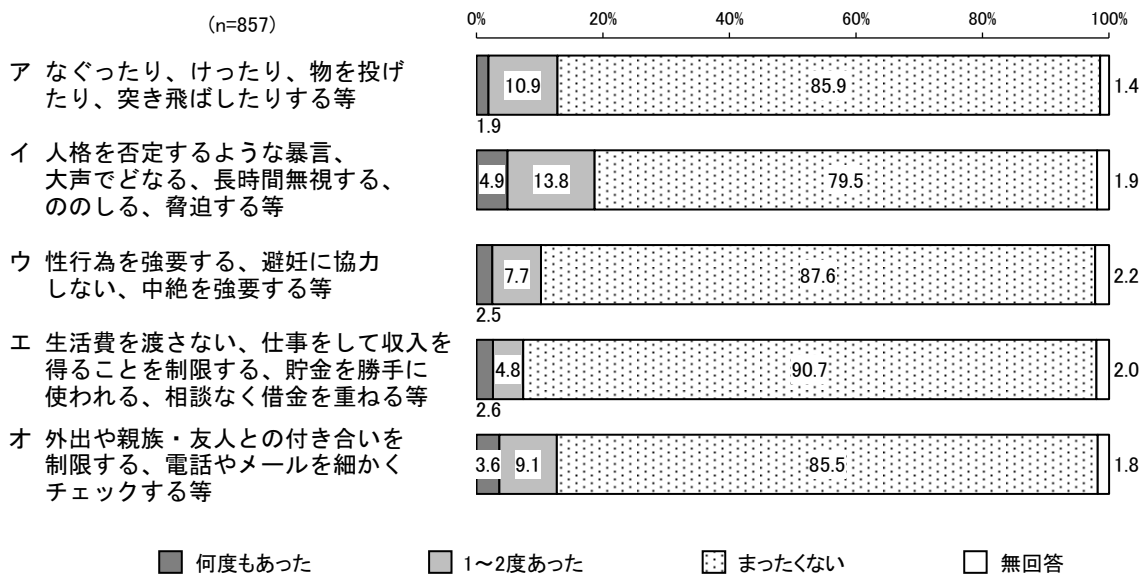
(4) 交際相手からの暴力の有無

《交際相手のいた(いる)方におたずねします。》

問19 これまでに交際相手が、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

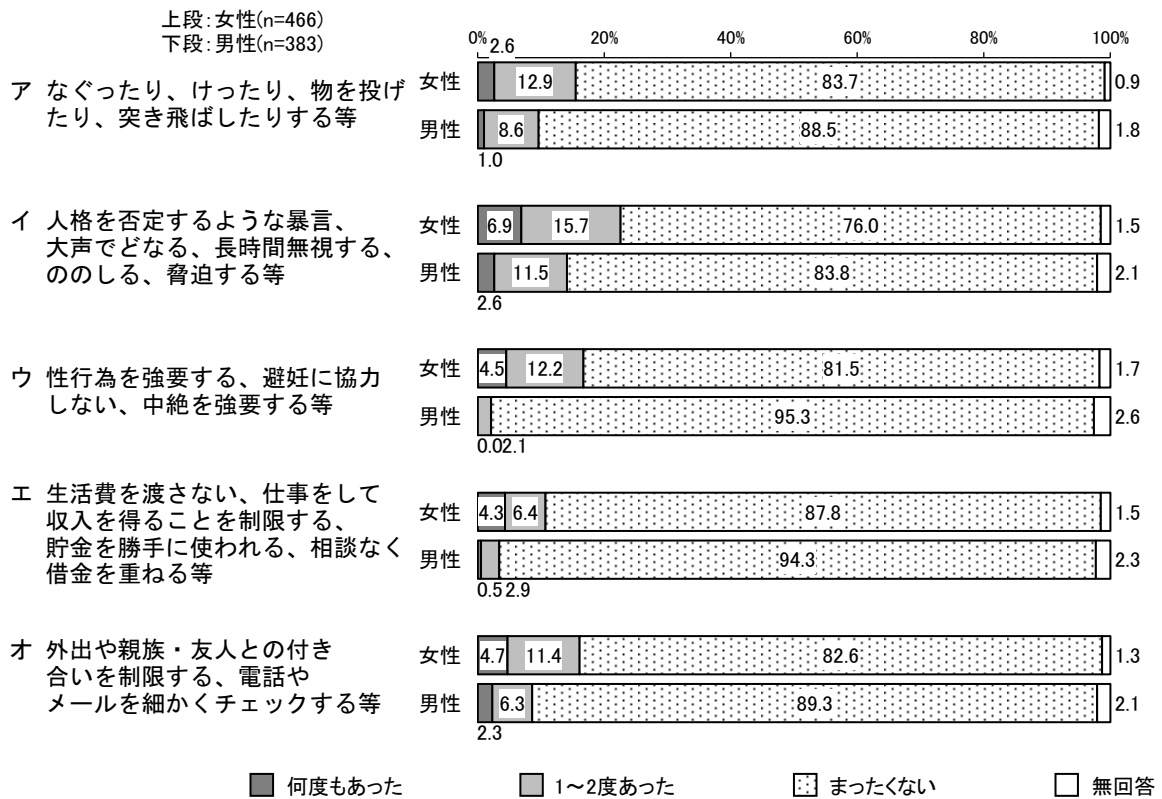
交際相手からの暴力の有無についてたずねたところ、『あった』(「何度もあった」と「1~2度あった」の合計)は「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」で18.7%、「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」で12.8%、「オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等」で12.7%、「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等」で10.2%、「エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等」で7.4%となっている。

図 交際相手からの暴力の有無



性別にみると、いずれの項目でも『あった』の割合は女性の方が高くなっており、特に「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等」は男性よりも14.6ポイント高くなっている。

図 性別 交際相手からの暴力の有無



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性の30歳代で「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等」、女性の40・50歳代で「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」と「オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等」、女性の50歳代で「エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等」が他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 交際相手からの暴力の有無 — 「何度もあった」と「1～2度あった」の計

		回答者数(n)	ア なぐったり、けつたり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等	イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等	ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等	エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等	オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等
全体		857	12.8	18.7	10.2	7.4	12.7
性年齢別	女性						
	10・20歳代	51	11.8	11.7	19.6	5.9	9.8
	30歳代	67	17.9	25.4	28.4	6.0	20.9
	40歳代	96	18.8	31.3	19.8	12.5	22.9
	50歳代	94	20.2	28.7	13.8	18.0	23.4
	60歳代	67	12.0	16.5	14.9	9.0	9.0
	70歳以上	91	9.9	15.4	7.7	8.8	6.6
男性							
10・20歳代	34	8.8	5.9	-	-	14.7	
30歳代	52	15.3	19.3	1.9	1.9	11.5	
40歳代	80	11.3	17.5	2.5	6.3	8.8	
50歳代	74	14.9	21.7	4.1	4.1	10.9	
60歳代	56	5.4	10.7	-	3.6	5.4	
70歳以上	87	3.4	6.9	2.3	2.3	4.6	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

(5)「デートDV」の認知度

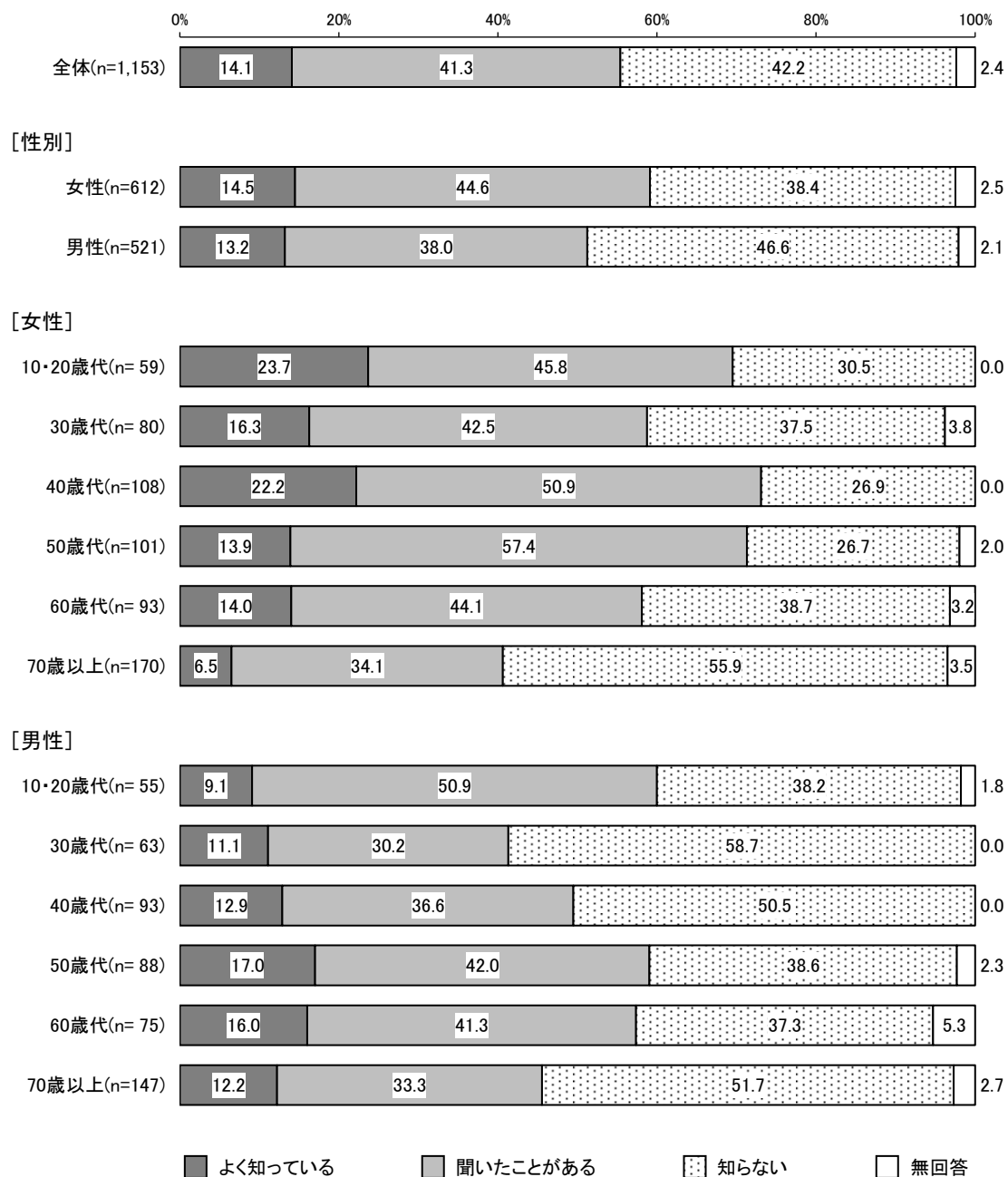
《全員におたずねします。》

問20 あなたは、「デートDV」について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

「デートDV」の認知度についてたずねたところ、「知らない」が42.2%で最も高く、次いで「聞いたことがある」(41.3%)、「よく知っている」(14.1%)となっており、『聞いたことがある』(「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計)は55.4%となっている。

性別にみると、『聞いたことがある』は女性の方が男性よりも7.9ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、女性の40・50歳代では『聞いたことがある』の割合が7割以上と高くなっている。
 男性では30歳代で『聞いたことがある』の割合が41.3%と他の年齢層と比べて低くなっている。

図 性別、性年齢別「デートDV」の認知度



II 市民意識調査の結果

(6) 配偶者の有無

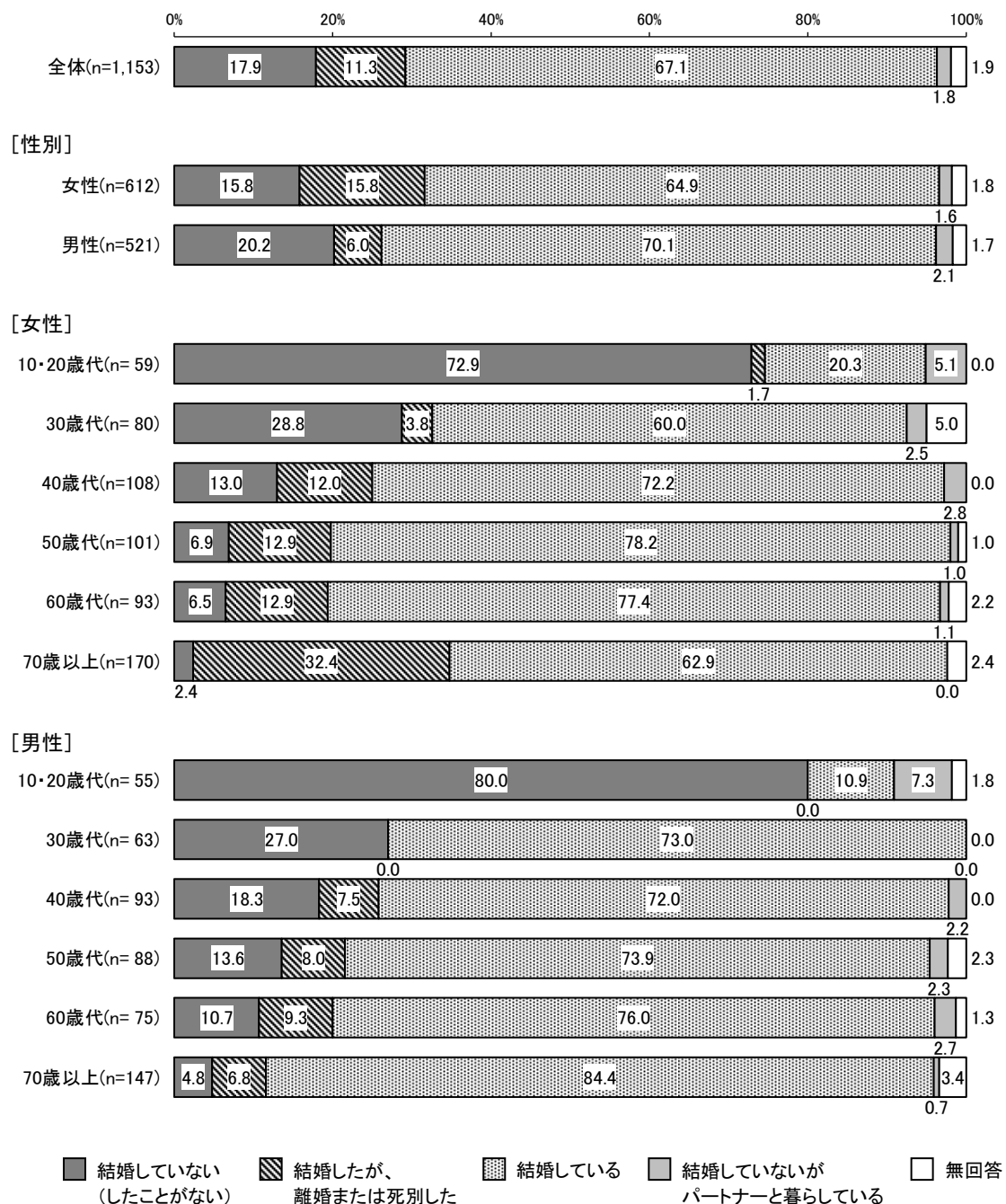
問21 あなたは、結婚（事実婚を含む）していますか。（○は1つ）

配偶者の有無は、「結婚している」が67.1%と最も高く、次いで、「結婚していない(したことがない)」(17.9%)、「結婚したが、離婚または死別した」(11.3%)、「結婚していないがパートナーと暮らしている」(1.8%)となっている。

性別にみると、女性の「結婚したが、離婚または死別した」が男性よりも9.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女とも10・20歳代で「結婚していない(したことがない)」が、それぞれ7割以上を占めている。また、女性の70歳代以上で「結婚したが、離婚または死別した」が32.4%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性別、性年齢別 配偶者の有無



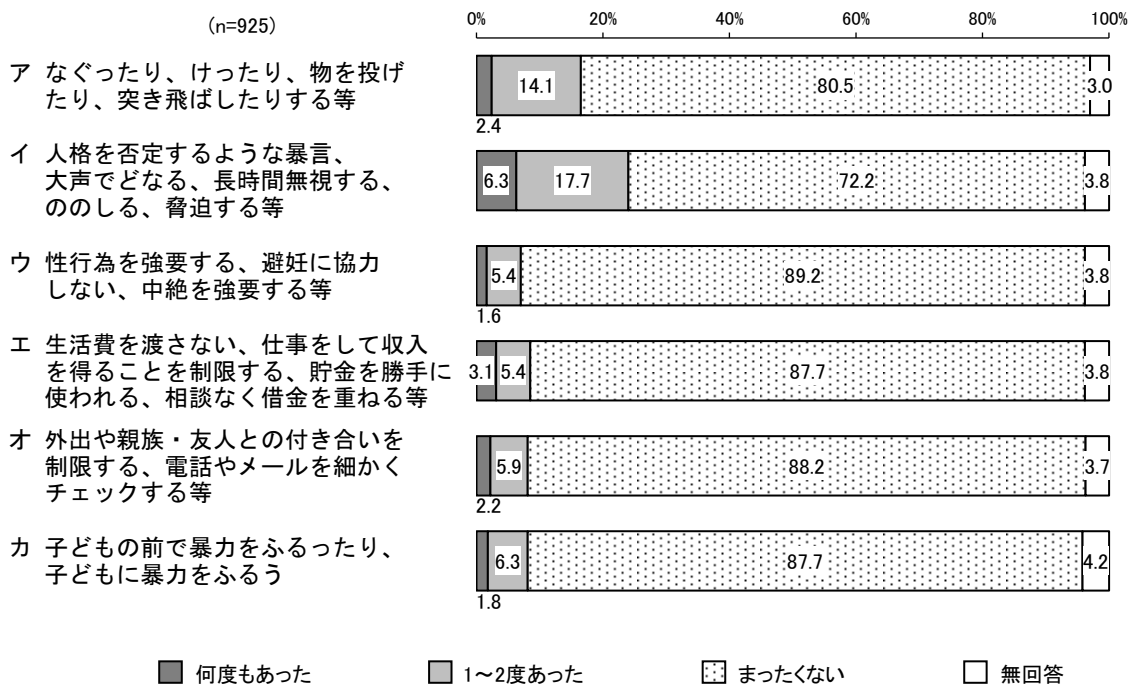
(7) 配偶者・パートナーからの暴力の有無

《結婚（事実婚を含む）したことのある方におたずねします。》

問22 これまでに配偶者・パートナーが、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

配偶者・パートナーからの暴力の有無についてたずねたところ、『あった』(「何度もあった」と「1～2度あった」の合計)は「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」で24.0%、「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」で16.5%となっている。

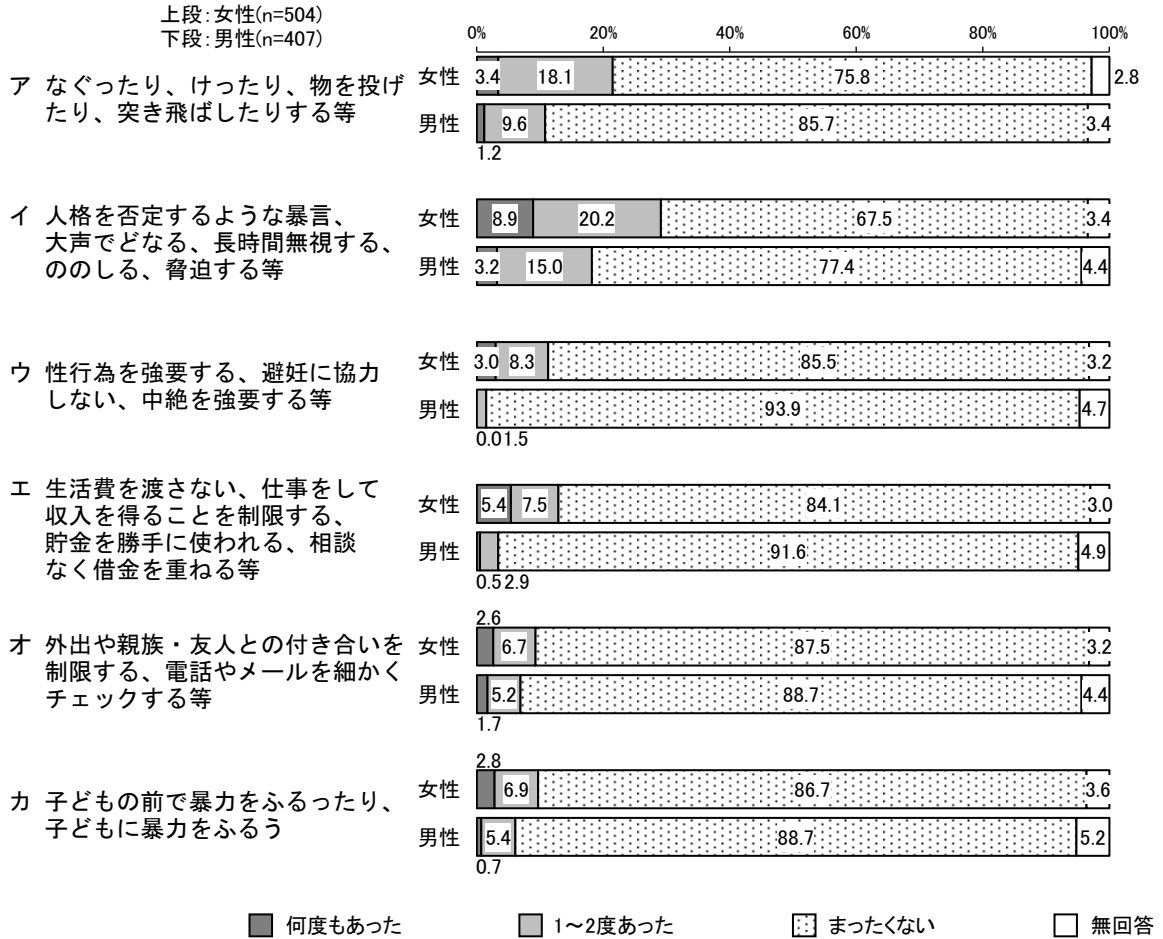
図 配偶者・パートナーからの暴力の有無



II 市民意識調査の結果

性別にみると、いずれの項目でも『あった』の割合は女性の方が高くなっており、特に「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」と「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」で男性よりも10ポイント以上高くなっている。

図 性別 配偶者・パートナーからの暴力の有無



年齢別にみると、女性では50歳代は全項目で相対的に割合が高く、「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」は37.6%、「エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等」は20.4%と他の年齢層より高くなっている。また、50歳代以上で「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」の割合が40歳代以下と比べて高くなっている。

男性では50歳代で「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」が27.0%、30歳代で「オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等」が15.2%と高くなっている。

表 性年齢別 配偶者・パートナーからの暴力の有無

－ 「何度もあった」と「1～2度あった」の計

		回答者数(n)	ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等	イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等	ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等	エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等	オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等	カ 子どもの前で暴力をふるったり、子どもに暴力をふるう
全体		925	16.5	24.0	7.0	8.5	8.1	8.1
性年齢別	10・20歳代	16	6.3	12.5	-	12.6	18.8	-
	30歳代	53	15.1	20.8	5.7	3.8	1.9	1.9
	40歳代	94	15.9	30.8	10.6	12.8	11.7	10.7
	50歳代	93	25.8	37.6	14.0	20.4	14.0	16.1
	60歳代	85	28.2	34.1	17.7	11.7	7.1	9.4
	70歳以上	162	21.6	25.3	9.8	12.3	8.1	9.3
	男性	10	-	-	-	-	-	-
10・20歳代	10	-	-	-	-	-	-	
30歳代	46	6.5	21.8	2.2	-	15.2	10.9	
40歳代	76	15.8	19.7	1.3	5.3	9.2	7.9	
50歳代	74	16.3	27.0	1.4	4.1	6.8	5.5	
60歳代	66	10.6	16.7	-	3.0	9.1	7.6	
70歳以上	135	7.4	13.3	2.2	3.7	2.2	3.7	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

II 市民意識調査の結果

(8) 暴力を受けた際の相談状況

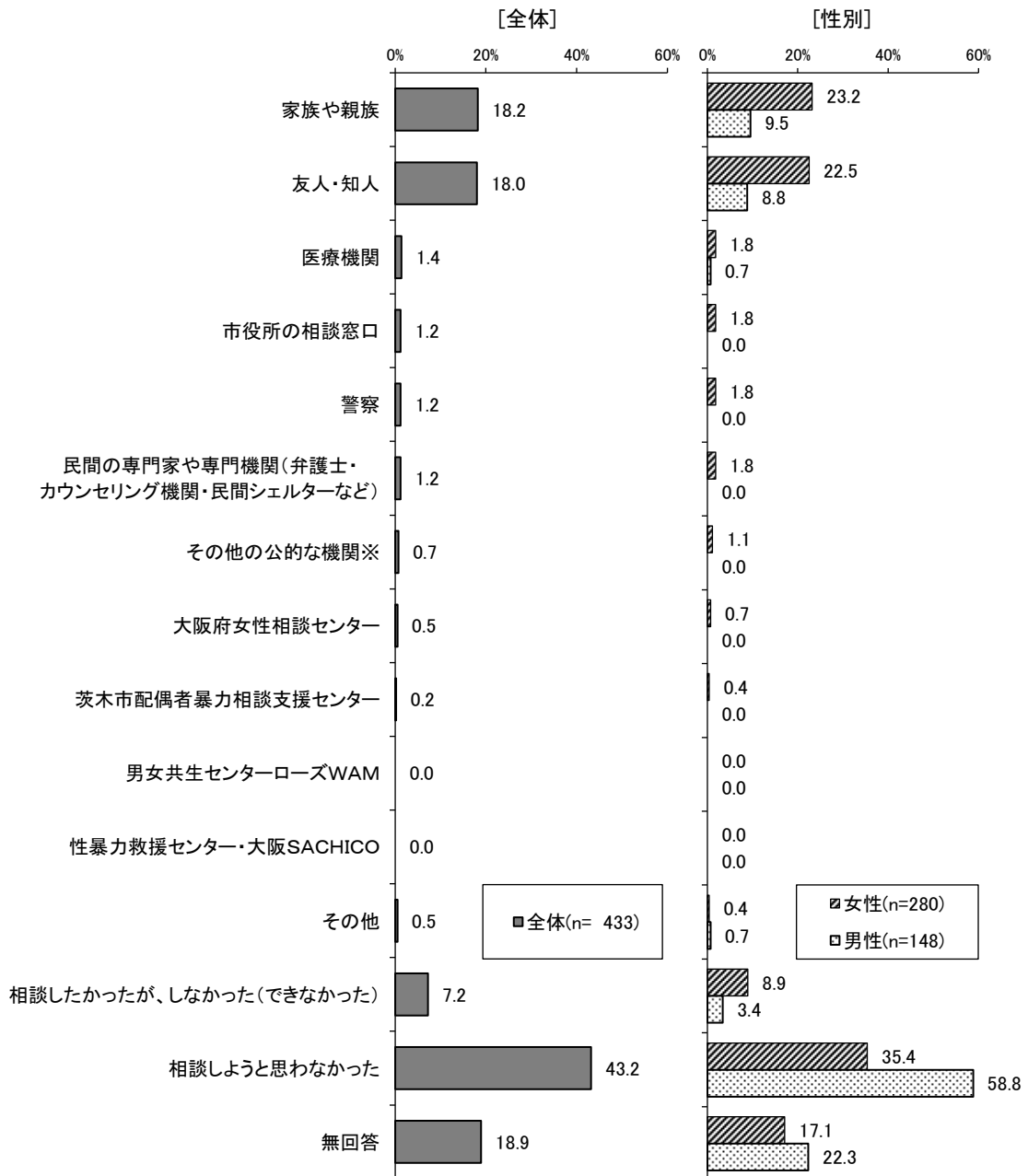
《問19・問22で、1つでもされたことがあったと答えた方におたずねします。》

問23 そのことを誰か（どこか）に相談しましたか。（〇はいくつでも）

暴力を受けた際の相談状況についてたずねたところ、「家族や親族」(18.2%)と「友人・知人」(18.0%)の2項目が特に高くなっている。一方で、「相談したかったが、しなかった(できなかった)」は7.2%、「相談しようと思わなかった」は43.2%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「家族や親族」と「友人・知人」でそれぞれ13.7ポイント高くなっている。一方で「相談しようと思わなかった」は、男性が女性よりも23.4ポイント高くなっている。

図 性別 暴力を受けた際の相談状況



※その他の公的な機関 …… 「茨木市配偶者暴力相談支援センター」「男女共生センターローズ WAM」「市役所の相談窓口」「大阪府女性相談センター」「性暴力救援センター・大阪 SACHICO」「警察」以外の相談機関

年齢別にみると、女性では10～40歳代は「友人・知人」が最も高く、50歳代以上は「家族や親族」が最も高くなっている。

男性の50・60歳代で「相談しようと思わなかった」が7割以上と高くなっている。

表 性年齢別 暴力を受けた際の相談状況

		回答者数(n)	家族や親族	友人・知人	医療機関	市役所の相談窓口	警察	民間の専門家や専門機関(弁護士・カウンセリング機関・民間シェルターなど)	3～8以外の公的な機関	大阪府女性相談センター	茨木市配偶者暴力相談支援センター	M 男女共生センターローズWA	
全体		433	18.2	18.0	1.4	1.2	1.2	1.2	0.7	0.5	0.2	-	
性年齢別	女性	10・20歳代	18	11.1	33.3	5.6	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	33	24.2	30.3	-	-	3.0	-	-	-	-	-
		40歳代	58	15.5	29.3	1.7	1.7	5.2	3.4	1.7	1.7	-	-
		50歳代	57	29.8	26.3	1.8	3.5	-	3.5	1.8	-	1.8	-
		60歳代	41	26.8	24.4	2.4	-	-	-	-	2.4	-	-
		70歳以上	72	25.0	6.9	1.4	2.8	1.4	1.4	1.4	-	-	-
		男性	10・20歳代	6	16.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	25		8.0	16.0	4.0	-	-	-	-	-	-	-	
40歳代	30		10.0	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
50歳代	28		10.7	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
60歳代	25		8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
70歳以上	34		8.8	8.8	-	-	-	-	-	-	-	-	

		回答者数(n)	性暴力救援センター・大阪SACHICO	その他	相談したかったが、しなかった(できなかった)	相談しようと思わなかった	無回答	
全体		433	-	0.5	7.2	43.2	18.9	
性年齢別	女性	10・20歳代	18	-	-	5.6	22.2	33.3
		30歳代	33	-	-	3.0	36.4	18.2
		40歳代	58	-	-	5.2	41.4	13.8
		50歳代	57	-	1.8	12.3	28.1	10.5
		60歳代	41	-	-	12.2	43.9	7.3
		70歳以上	72	-	-	11.1	33.3	26.4
		男性	10・20歳代	6	-	-	-	33.3
30歳代	25		-	-	4.0	48.0	28.0	
40歳代	30		-	3.3	-	50.0	30.0	
50歳代	28		-	-	10.7	71.4	7.1	
60歳代	25		-	-	-	76.0	16.0	
70歳以上	34		-	-	2.9	55.9	26.5	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

II 市民意識調査の結果

(9) 暴力を相談しなかった、しようと思わなかった理由

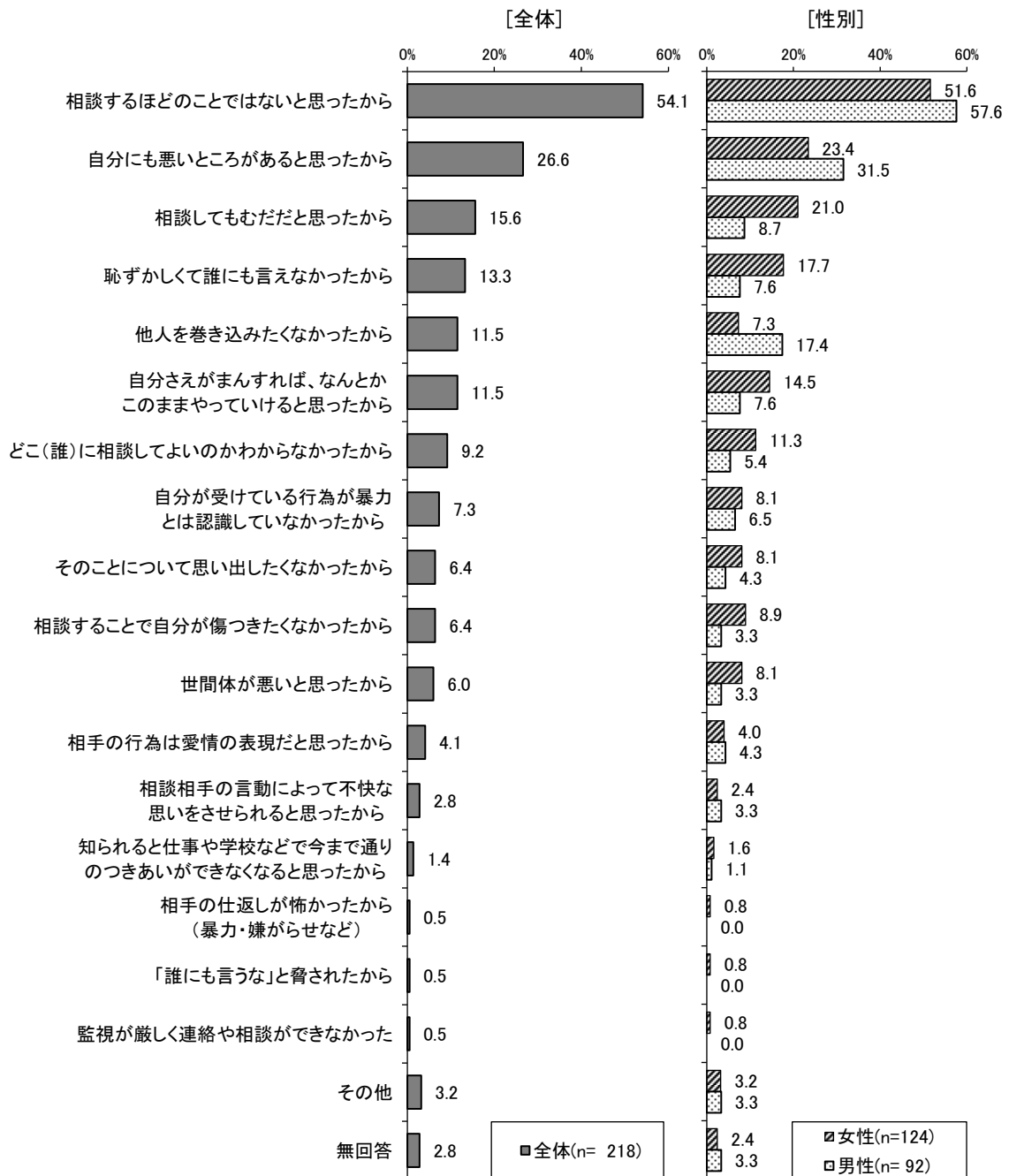
《問23で「13. 相談したかったが、しなかった（できなかった）」「14. 相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします。》

問24 相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

暴力を相談しなかった、しようと思わなかった理由についてたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が54.1%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(26.6%)、「相談してもむだだと思ったから」(15.6%)、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(13.3%)となっている。

性別にみると、女性の方が高い項目として「相談してもむだだと思ったから」と「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」があり、それぞれ男性よりも10ポイント以上高くなっている。一方で男性の方が高い項目として「他人を巻き込みたくなかったから」があり、女性よりも10ポイント以上高くなっている。

図 性別 暴力を相談しなかった、しようと思わなかった理由



年齢別にみると、女性の60歳代で「相談してもむだだと思ったから」と「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、男性の40歳代で「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」が他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 暴力を相談しなかった、しようと思わなかった理由

		回答者数(n)	相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談してもむだだと思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	自分さえがまんすれば、のかわからなかったから	ど(誰)に相談してよいかわからなかったから	自分が受けている行為が暴力とは認識していなかったから	そのことについて思い出しにくかったから	相談することで自分が傷つきにくかったから
全体		218	54.1	26.6	15.6	13.3	11.5	11.5	9.2	7.3	6.4	6.4	
性年齢別	女性	10・20歳代	5	60.0	40.0	40.0	60.0	-	20.0	20.0	20.0	40.0	60.0
		30歳代	13	69.2	30.8	7.7	7.7	-	15.4	-	23.1	-	7.7
		40歳代	27	59.3	29.6	14.8	3.7	18.5	11.1	14.8	3.7	14.8	3.7
		50歳代	23	43.5	21.7	21.7	13.0	4.3	8.7	13.0	4.3	8.7	8.7
		60歳代	23	52.2	13.0	30.4	30.4	4.3	17.4	-	4.3	-	8.7
		70歳以上	32	40.6	21.9	21.9	21.9	6.3	18.8	18.8	9.4	6.3	6.3
		10・20歳代	2	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	男性	30歳代	13	61.5	38.5	15.4	23.1	23.1	23.1	7.7	15.4	15.4	15.4
		40歳代	15	73.3	40.0	-	-	6.7	-	6.7	6.7	-	-
		50歳代	23	52.2	30.4	8.7	13.0	21.7	4.3	4.3	-	-	-
		60歳代	19	47.4	36.8	10.5	5.3	15.8	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
		70歳以上	20	65.0	20.0	10.0	-	10.0	10.0	5.0	10.0	5.0	-

		回答者数(n)	世間体が悪いと思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	知られると仕事や学校などで今まで通りのつきあいができなくなると思ったから	知られると仕事や学校などで(暴力・嫌がらせなど)相手の仕返しを怖かったから	「誰にも言うな」と脅されたから	監視が厳しく連絡や相談ができなかった	その他	無回答	
全体		218	6.0	4.1	2.8	1.4	0.5	0.5	0.5	3.2	2.8	
性年齢別	女性	10・20歳代	5	20.0	-	-	20.0	-	20.0	-	-	-
		30歳代	13	7.7	7.7	-	-	-	-	-	7.7	7.7
		40歳代	27	3.7	3.7	-	-	-	-	3.7	3.7	-
		50歳代	23	4.3	4.3	-	4.3	4.3	-	-	8.7	-
		60歳代	23	13.0	-	4.3	-	-	-	-	-	4.3
		70歳以上	32	9.4	6.3	6.3	-	-	-	-	-	3.1
		10・20歳代	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性	30歳代	13	15.4	7.7	7.7	7.7	-	-	-	7.7	-
		40歳代	15	-	20.0	-	-	-	-	-	6.7	-
		50歳代	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		60歳代	19	-	-	5.3	-	-	-	-	-	10.5
		70歳以上	20	5.0	-	5.0	-	-	-	-	5.0	5.0

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

6. セクシュアルマイノリティについて

(1) セクシュアルマイノリティの認知度

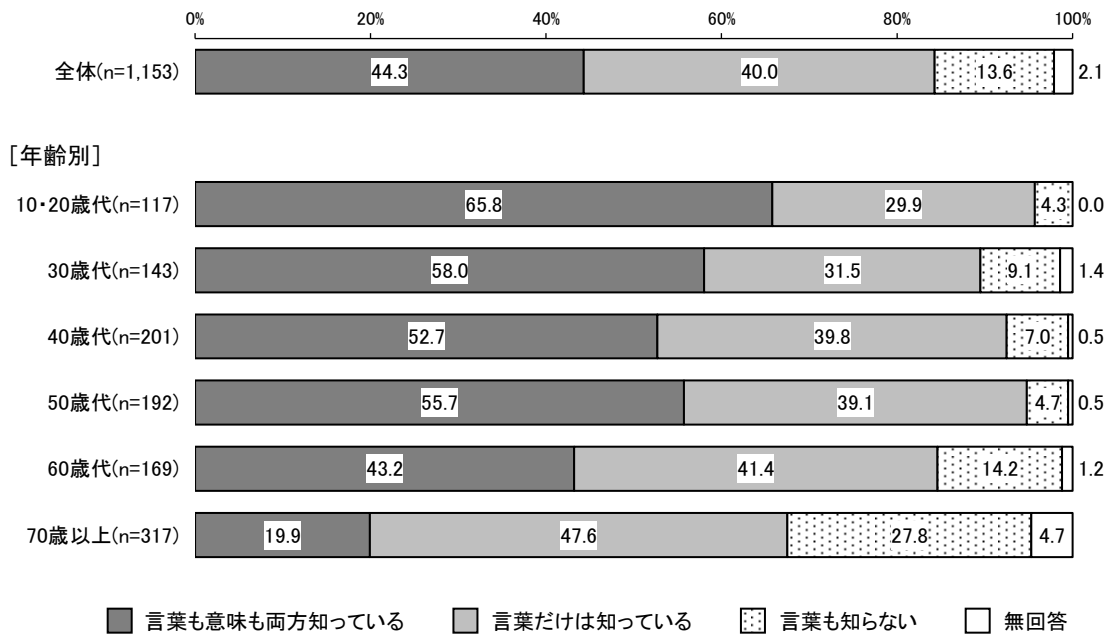
《全員におたずねします。》

問25 あなたは、LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティについて、どの程度知っていますか。(〇は1つ)

セクシュアルマイノリティの認知度についてたずねたところ、「言葉も意味も両方知っている」が44.3%で最も高く、次いで「言葉だけは知っている」(40.0%)、「言葉も知らない」(13.6%)となっており、『知っている』(「言葉も意味も両方知っている」と「言葉だけは知っている」の合計)は84.3%となっている。

年齢別にみると、年齢が低いほど『知っている』の割合が高くなる傾向となっており、10・20歳代では大多数が『知っている』と答えている。

図 年齢別 セクシュアルマイノリティの認知度

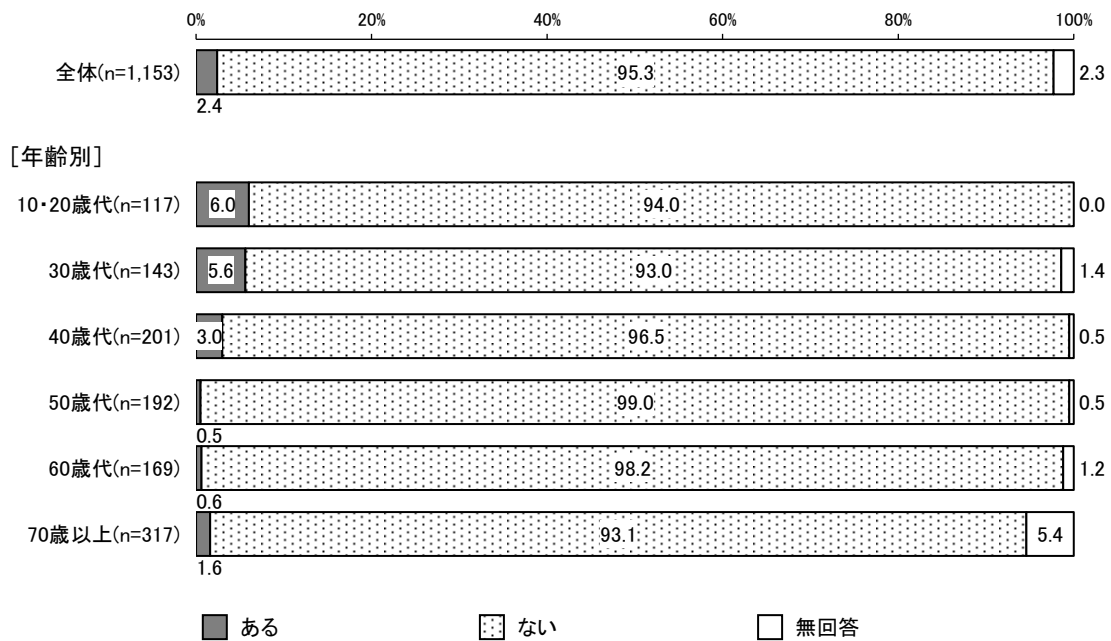


(2) 性自認・性的指向で悩んだことの有無

問26 あなたは、今までに性自認（自分で自分の性別をどう思うか）または性的指向（どんな性別の人を好きになるか）に悩んだことがありますか。（○は1つ）

性自認・性的指向で悩んだことの有無についてたずねたところ、「ある」は2.4%となっている。
年齢別にみると、「ある」は20歳代で6.0%、30歳代で5.6%となっている。

図 年齢別 性自認・性的指向で悩んだことの有無



II 市民意識調査の結果

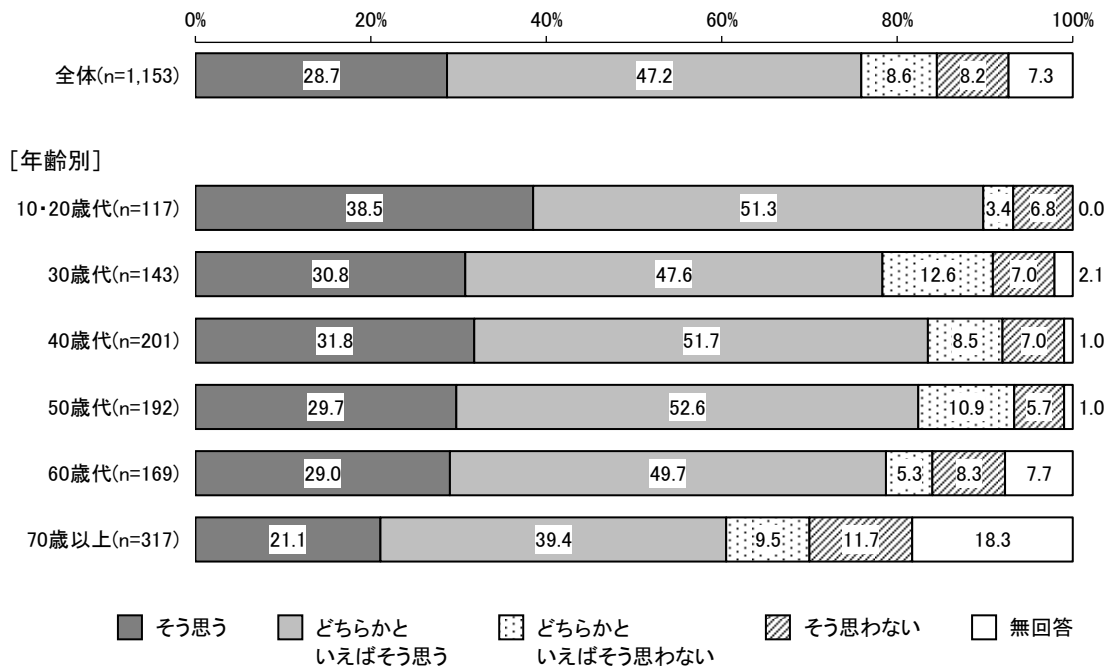
(3) セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか

問27 LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。
(○は1つ)

セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うかについてたずねたところ、「そう思う」が28.7%、「どちらかといえばそう思う」が47.2%となっており、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が75.9%となっている。

年齢別にみると、10・20歳代で『そう思う』の割合が約9割と、他の年齢層に比べて高くなっている。

図 年齢別 セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか



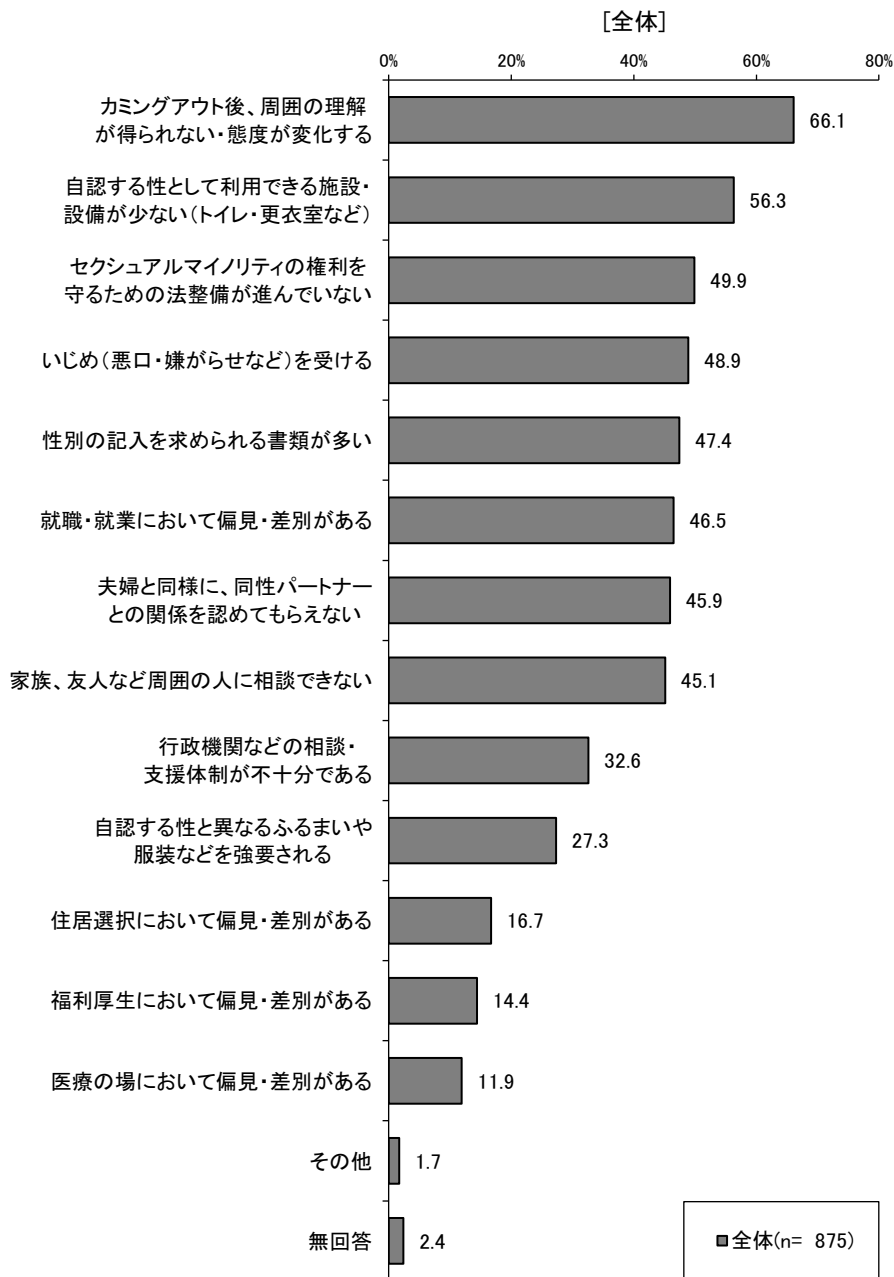
(4)セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由

《問27で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と答えた方におたずねします。》

問28 どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(〇はいくつでも)

セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由についてたずねたところ、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が66.1%と最も高く、次いで「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」(56.3%)、「セクシュアルマイノリティの権利を守るための法整備が進んでいない」(49.9%)、「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」(48.9%)となっている。

図 セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、10・20歳代で「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」と「自認する性と異なるふるまいや服装などを強要される」、30歳代で「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」「家族、友人など周囲の人に相談できない」、40歳代で「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」が他の年齢層と比べて高くなっている。

表 年齢別 セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由

		回答者数(n)	カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する	自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)	セクシュアルマイノリティの権利を守るための法整備が進んでいない	いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける	性別の記入を求められる書類が多い	就職・就業において偏見・差別がある	夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない	家族、友人など周囲の人に相談できない	行政機関などの相談・支援体制が不十分である	自認する性と異なるふるまいや服装などを強要される
全体		875	66.1	56.3	49.9	48.9	47.4	46.5	45.9	45.1	32.6	27.3
年齢別	10・20歳代	105	73.3	69.5	46.7	49.5	53.3	41.0	51.4	46.7	29.5	41.9
	30歳代	112	80.4	70.5	50.9	52.7	51.8	51.8	57.1	58.0	33.0	36.6
	40歳代	168	73.8	58.3	49.4	60.1	50.0	51.2	50.6	47.0	36.9	32.7
	50歳代	158	71.5	62.0	58.2	50.6	46.8	47.5	45.6	44.9	36.1	27.8
	60歳代	133	64.7	51.1	54.9	49.6	51.9	50.4	49.6	43.6	38.3	19.5
	70歳以上	192	44.3	39.6	42.2	35.4	36.5	40.1	30.7	35.9	24.0	14.6

		回答者数(n)	住居選択において偏見・差別がある	福利厚生において偏見・差別がある	医療の場において偏見・差別がある	その他	無回答
全体		875	16.7	14.4	11.9	1.7	2.4
年齢別	10・20歳代	105	14.3	16.2	11.4	-	1.0
	30歳代	112	21.4	17.0	15.2	1.8	0.9
	40歳代	168	14.9	14.9	11.9	2.4	0.6
	50歳代	158	19.0	12.7	13.9	1.9	0.6
	60歳代	133	16.5	18.0	12.8	0.8	2.3
	70歳以上	192	15.1	10.9	7.8	2.6	6.3

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

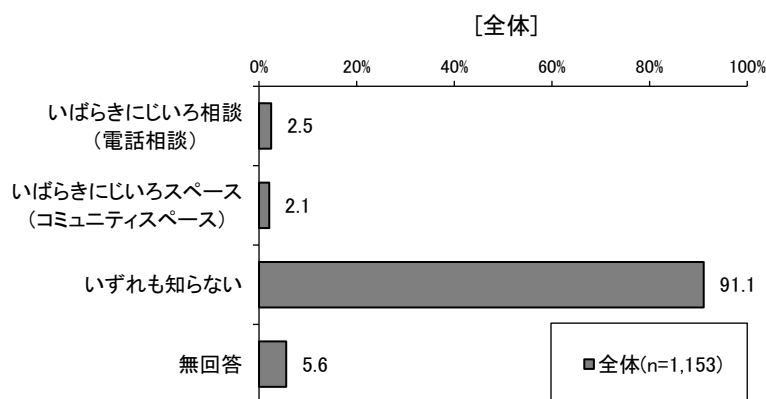
(5) 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度

《全員におたずねします。》

問29 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組を知っていますか。(○はいくつでも)

茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度についてたずねたところ、「いばらきにじいろ相談(電話相談)」が2.5%、「いばらきにじいろスペース(コミュニティスペース)」が2.1%となっており、「いずれも知らない」は91.1%と約9割を占めている。

図 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度



年齢別にみると、若年層の方がより「いずれも知らない」の割合が高くなっており、10・20歳代と30歳代では「いばらきにじいろ相談(電話相談)」と「いばらきにじいろスペース(コミュニティスペース)」はいずれも1%未満となっている。

表 年齢別 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度

		回答者数(n)	いばらきにじいろ相談 (電話相談)	いばらきにじいろスペース (コミュニティスペース)	いずれも知らない	無回答
全体		1,153	2.5	2.1	91.1	5.6
年齢別	10・20歳代	117	-	0.9	97.4	1.7
	30歳代	143	0.7	0.7	98.6	0.7
	40歳代	201	2.0	3.0	94.5	1.5
	50歳代	192	2.6	3.1	91.7	4.7
	60歳代	169	4.1	2.4	89.9	5.9
	70歳以上	317	3.5	1.9	84.2	11.7

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

7. 茨木市の取組について

(1) ローズWAMの認知度

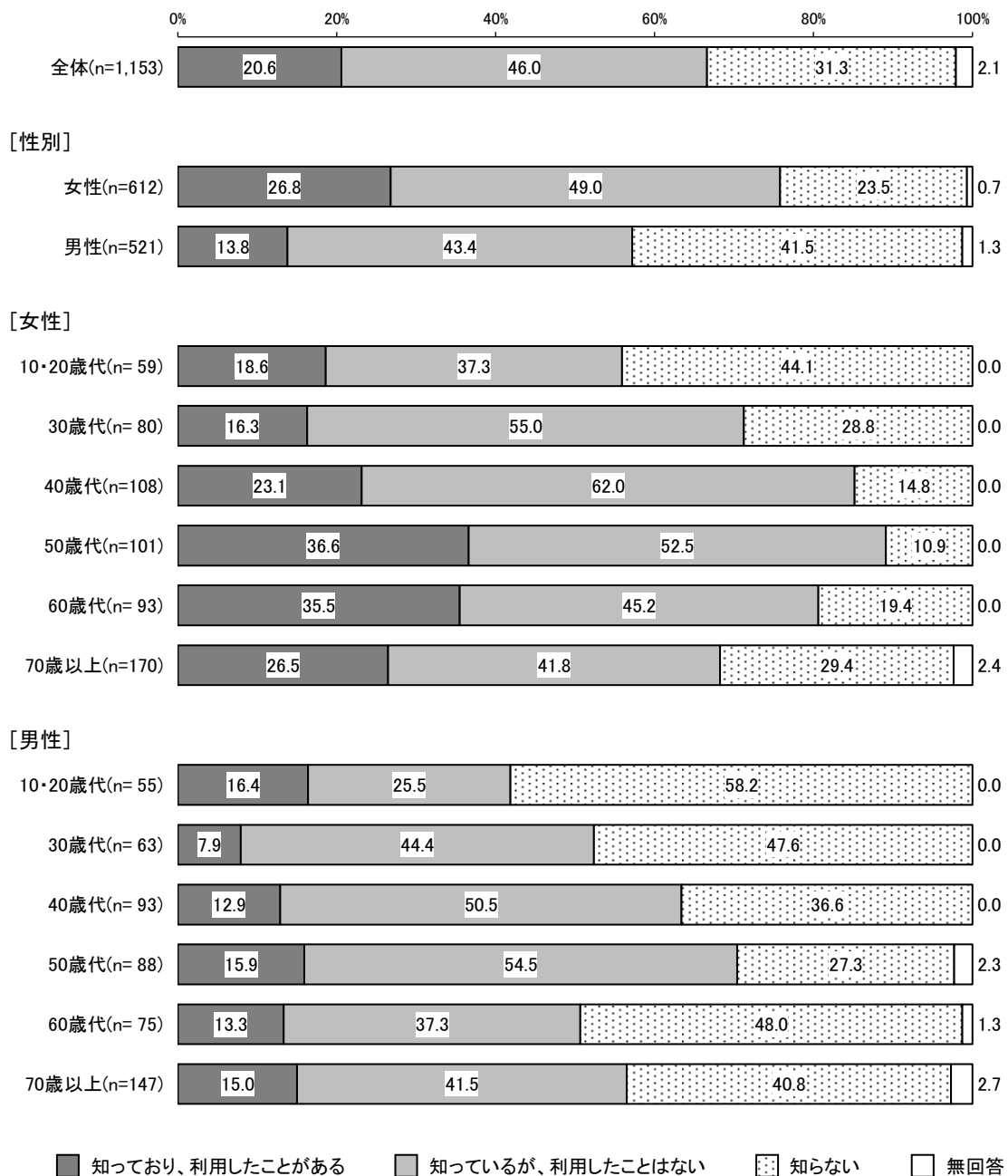
問30 あなたは、男女共生センターローズWAMを知っていますか。(○は1つ)

ローズWAMの認知度についてたずねたところ、「知っているが、利用したことはない」が46.0%で最も高く、次いで「知らない」(31.3%)、「知っており、利用したことがある」(20.6%)となっており、『知っている』(「知っており、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)は66.6%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも『知っている』が18.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女とも40・50歳代で『知っている』の割合が高い傾向にあり、女性の50歳代で『知っている』が89.1%と9割近くを占めている。

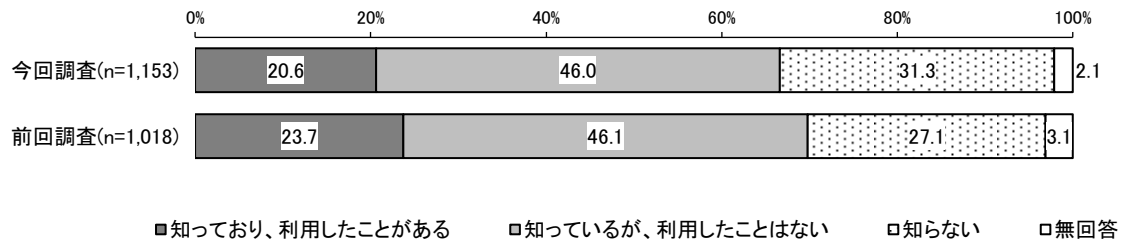
図 性別、性年齢別 ローズWAMの認知度



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、『知っている』が前回調査よりも3.2ポイント低くなっている。

図 ローズWAMの認知度(前回調査との比較)



II 市民意識調査の結果

(2) ローズWAMの利用内容

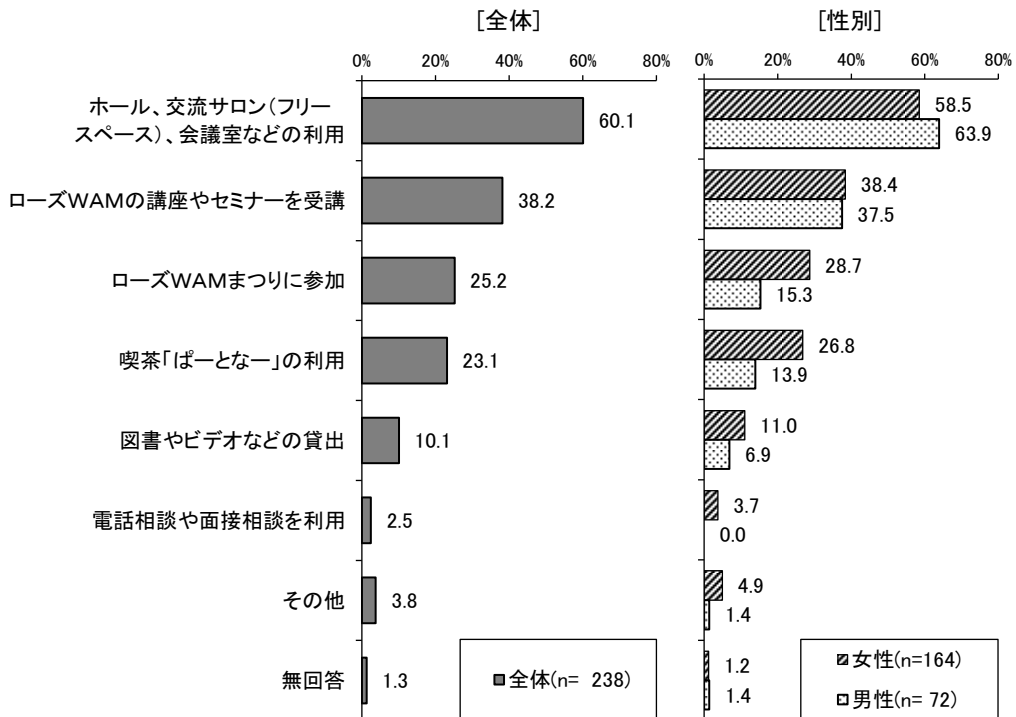
《問30で「1. 知っており、利用したことがある」と答えた方におたずねします。》

問31 どういったことで利用されましたか。(〇はいくつでも)

ローズWAMの利用内容についてたずねたところ、「ホール、交流サロン(フリースペース)、会議室などの利用」が60.1%と最も高く、次いで「ローズWAMの講座やセミナーを受講」(38.2%)、「ローズWAMまつりに参加」(25.2%)、「喫茶『ぱーとなー』の利用」(23.1%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「ローズWAMまつりに参加」と「喫茶『ぱーとなー』の利用」で10ポイント以上高くなっている。

図 性別 ローズWAMの利用内容



年齢別にみると、女性の60歳代以上で「ローズWAMまつりに参加」と「喫茶『ぱーとなー』の利用」が他の年齢層と比べて高くなっている。また、男性の70歳以上で「ローズWAMまつりに参加」が高くなっている。

表 性年齢別 ローズWAMの利用内容

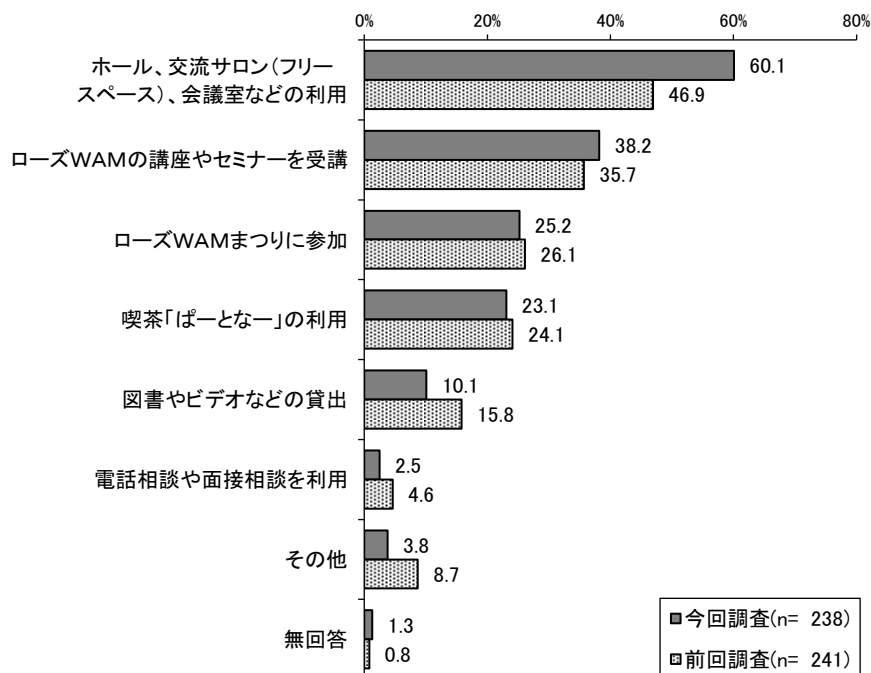
		回答者数(n)	ホール、交流サロン(フリースペース)、会議室などの利用	ローズWAMの講座やセミナーを受講	ローズWAMまつりに参加	喫茶「ぱーとなー」の利用	図書やビデオなどの貸出	電話相談や面接相談を利用	その他	無回答
全体		238	60.1	38.2	25.2	23.1	10.1	2.5	3.8	1.3
性年齢別	女性									
	10・20歳代	11	90.9	18.2	9.1	9.1	-	-	-	-
	30歳代	13	61.5	15.4	23.1	7.7	-	-	15.4	-
	40歳代	25	48.0	44.0	28.0	20.0	8.0	4.0	-	-
	50歳代	37	59.5	43.2	21.6	18.9	16.2	2.7	8.1	-
	60歳代	33	54.5	42.4	36.4	36.4	12.1	9.1	3.0	3.0
	70歳以上	45	57.8	40.0	35.6	40.0	13.3	2.2	4.4	2.2
	男性									
	10・20歳代	9	77.8	11.1	11.1	11.1	11.1	-	-	-
	30歳代	5	60.0	40.0	-	-	-	-	-	-
40歳代	12	75.0	8.3	16.7	16.7	16.7	-	-	-	
50歳代	14	64.3	42.9	-	14.3	7.1	-	-	-	
60歳代	10	40.0	70.0	10.0	10.0	-	-	10.0	10.0	
70歳以上	22	63.6	45.5	31.8	18.2	4.5	-	-	-	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「ホール、交流サロン(フリースペース)、会議室などの利用」が前回調査よりも13.2ポイント高くなっており、「図書やビデオなどの貸出」が5.7ポイント低くなっている。

図 ローズWAMの利用内容(前回調査との比較)



II 市民意識調査の結果

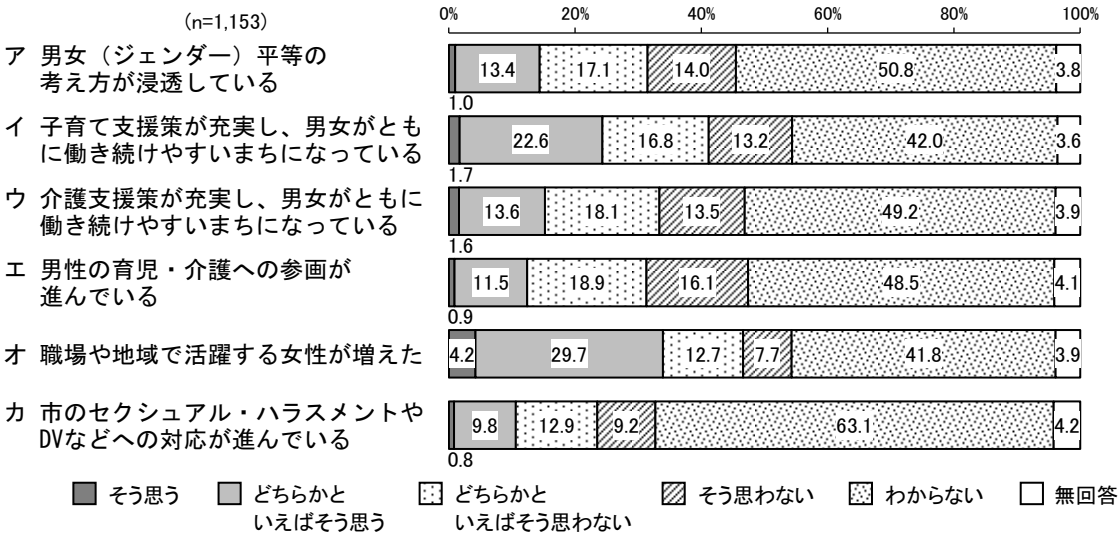
(3) 男女共同参画の進展に関する認識

《全員におたずねします。》

問32 この5年間くらいの間の茨木市の状況についておたずねします。あなたご自身の経験に照らして、あなたの考えに最も近いと思うものを選んでください。(○はそれぞれ1つ)

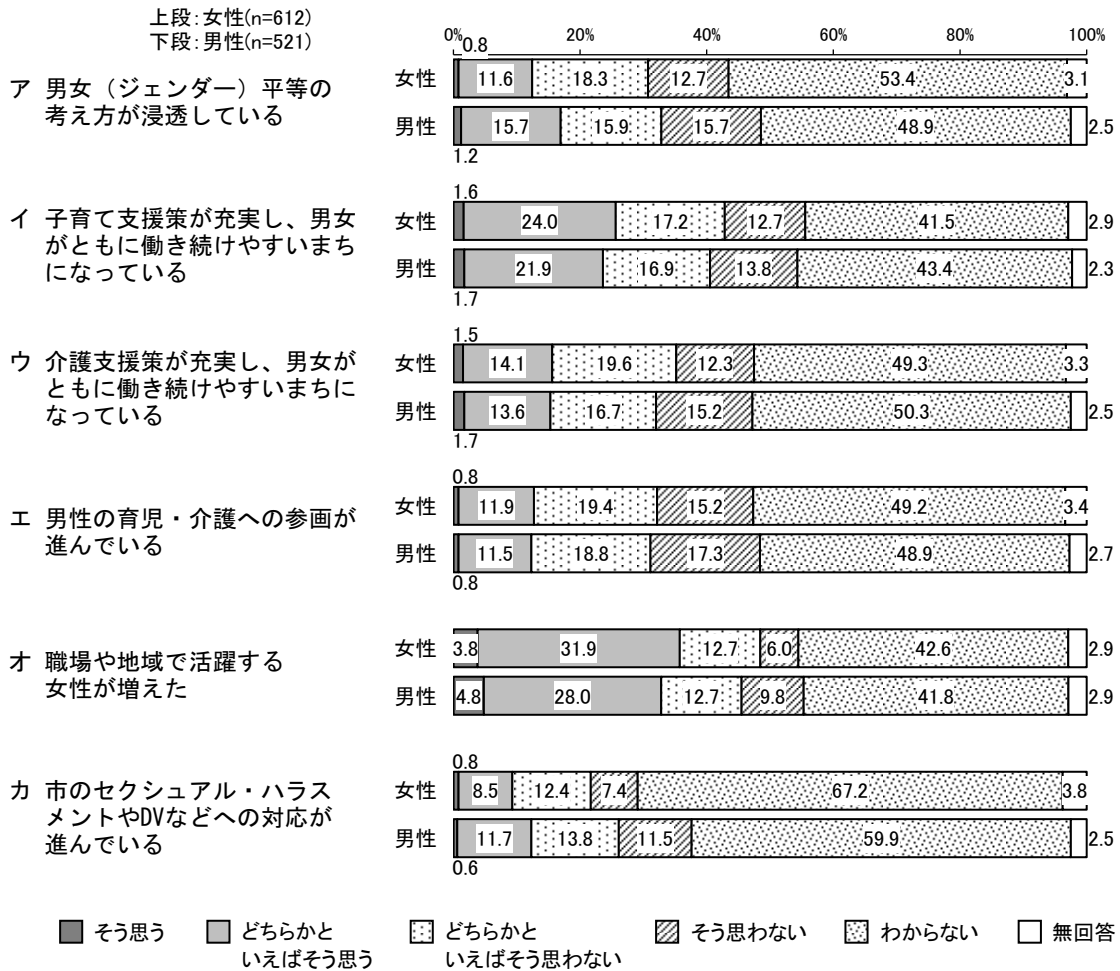
男女共同参画の進展に関する認識についてたずねたところ、「オ 職場や地域で活躍する女性が増えた」以外のすべての項目で、『そう思わない』(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)が『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)よりも高くなっている。また、すべての項目で「わからない」が4割以上を占めており、「市のセクシュアル・ハラスメントやDVなどへの対応が進んでいる」は6割を超えている。

図 男女共同参画の進展に関する認識



性別にみると、「ア 男女(ジェンダー)平等の考え方が浸透している」で、男性の方が女性よりも『そう思う』が4.5ポイント高く、「カ 市のセクシュアル・ハラスメントやDVなどへの対応が進んでいる」で、男性の方が女性より『そう思わない』が5.5ポイント高くなっている。

図 性別 男女共同参画の進展に関する認識



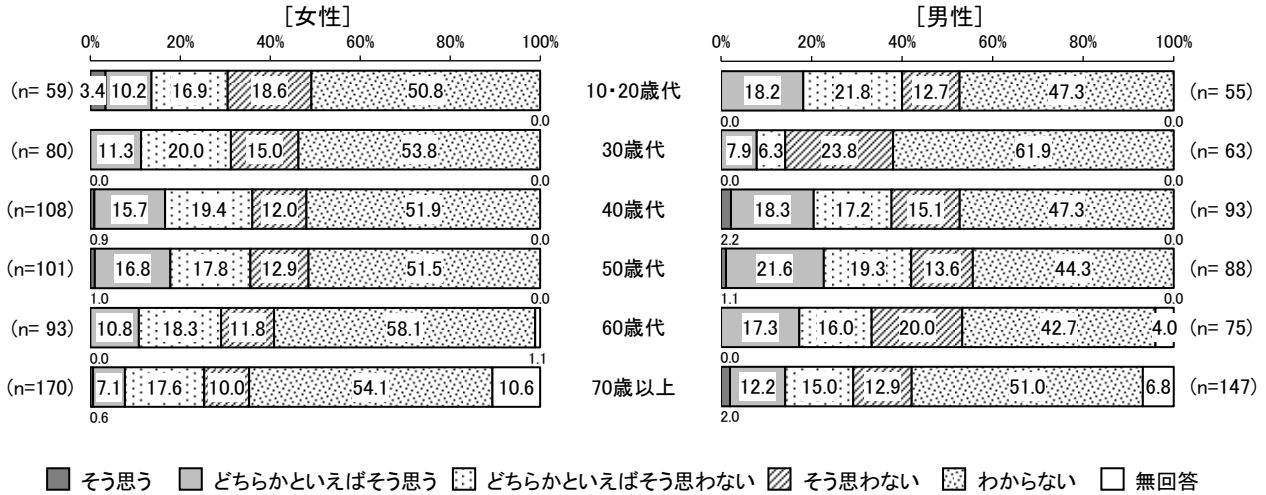
II 市民意識調査の結果

ア 男女(ジェンダー)平等の考え方が浸透している

女性は年齢が低いほど、『そう思わない』の割合が高くなる傾向がみられる。

男性の30歳代では、「わからない」が6割強となっており、『そう思う』が7.9%と、他の年齢層と比べて低くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — ア 男女(ジェンダー)平等の考え方が浸透している

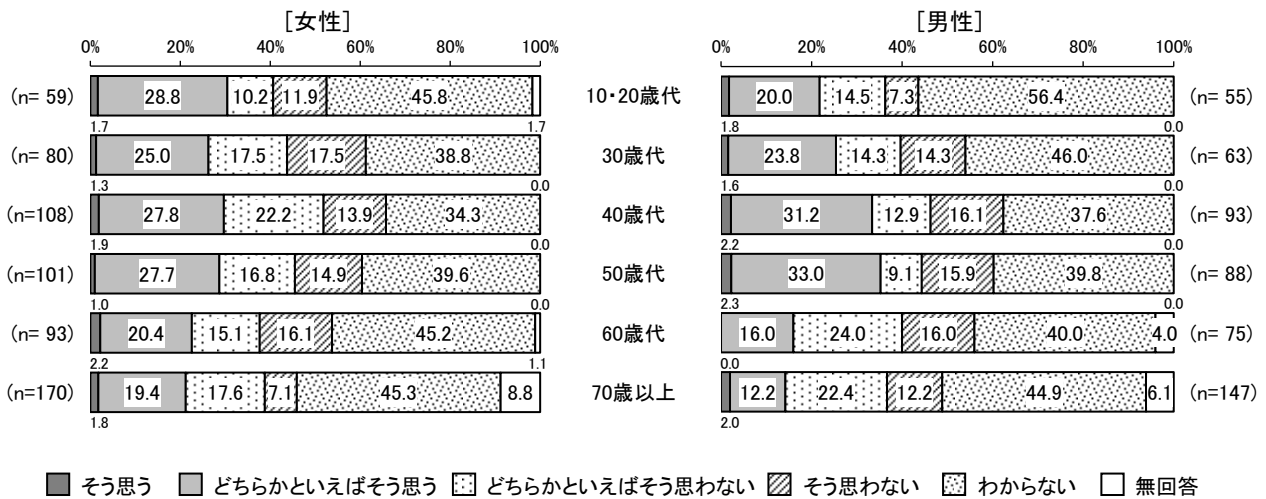


イ 子育て支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

女性の30・40歳代では『そう思わない』が、他の年齢層と比べてやや高くなっている。

男性は50歳代以下では『そう思う』が比較的高い割合を占めているが、60歳以上になると『そう思わない』が高くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — イ 子育て支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

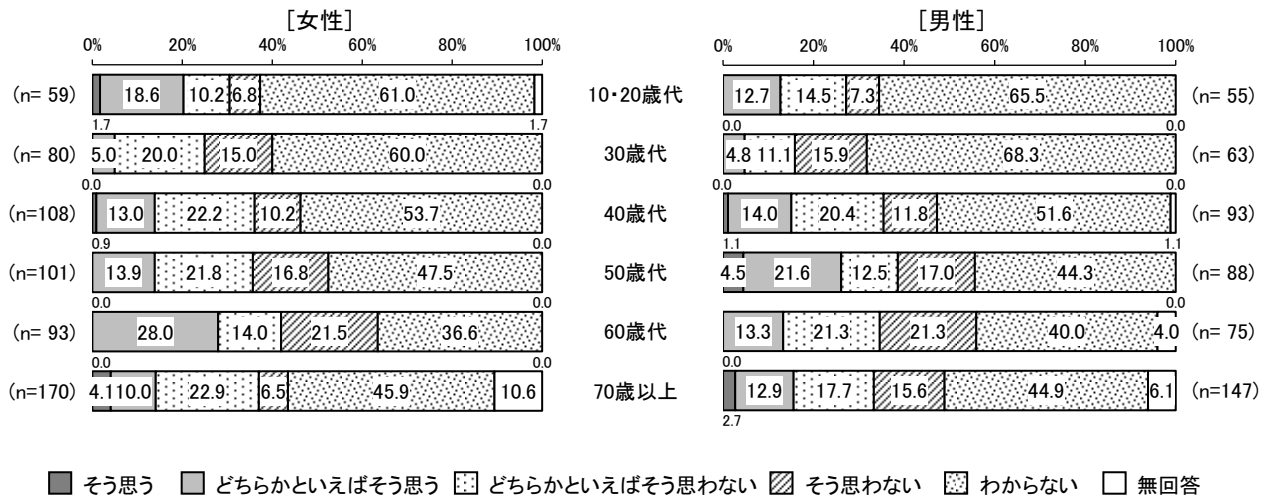


ウ 介護支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

女性の60歳代では、『そう思う』が28.0%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

男性の60歳代では、『そう思わない』が42.6%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — ウ 介護支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

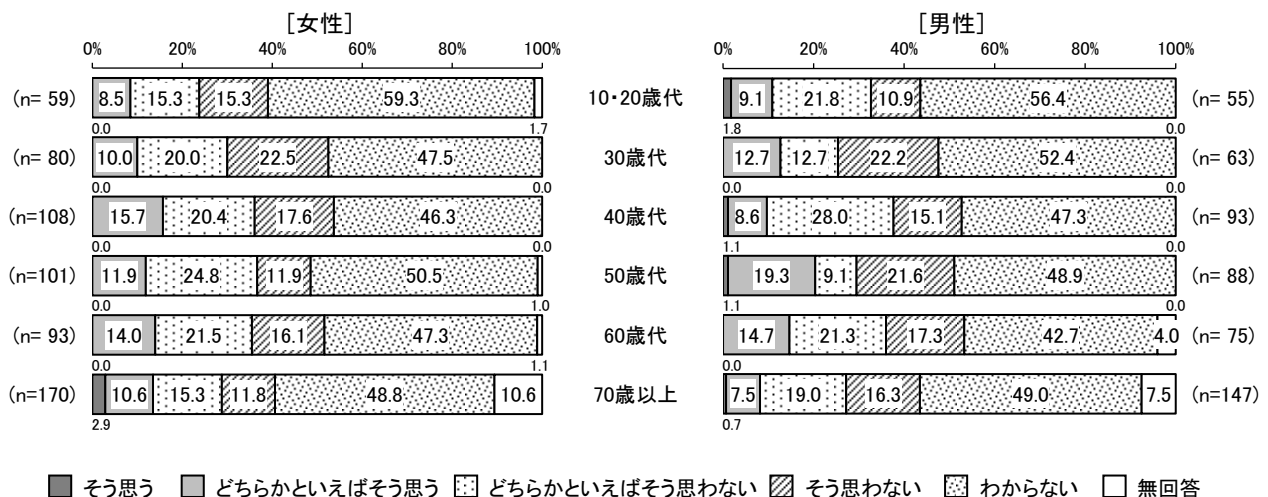


エ 男性の育児・介護への参画が進んでいる

女性の30歳代では、『そう思わない』が42.5%と、他の年齢層と比べてやや高くなっている。

男性の40歳代では、『そう思わない』が43.1%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — エ 男性の育児・介護への参画が進んでいる



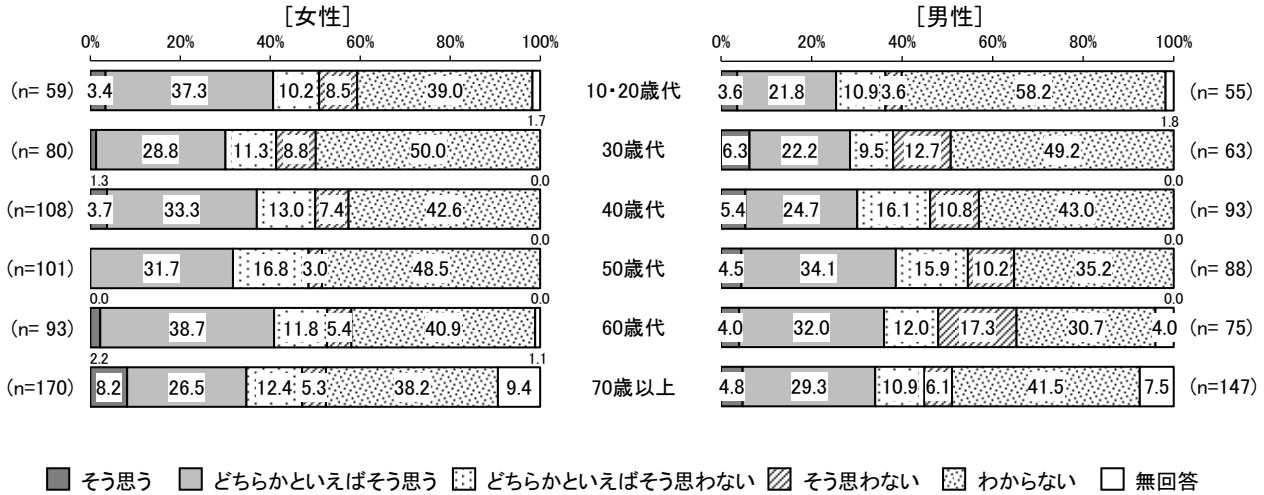
II 市民意識調査の結果

オ 職場や地域で活躍する女性が増えた

女性の30歳代では、『そう思う』が30.1%と、他の年齢層と比べて低くなっており、「わからない」が5割を占めている。

男性は50歳代以上で『そう思う』の割合が40歳代以下より高くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — オ 職場や地域で活躍する女性が増えた

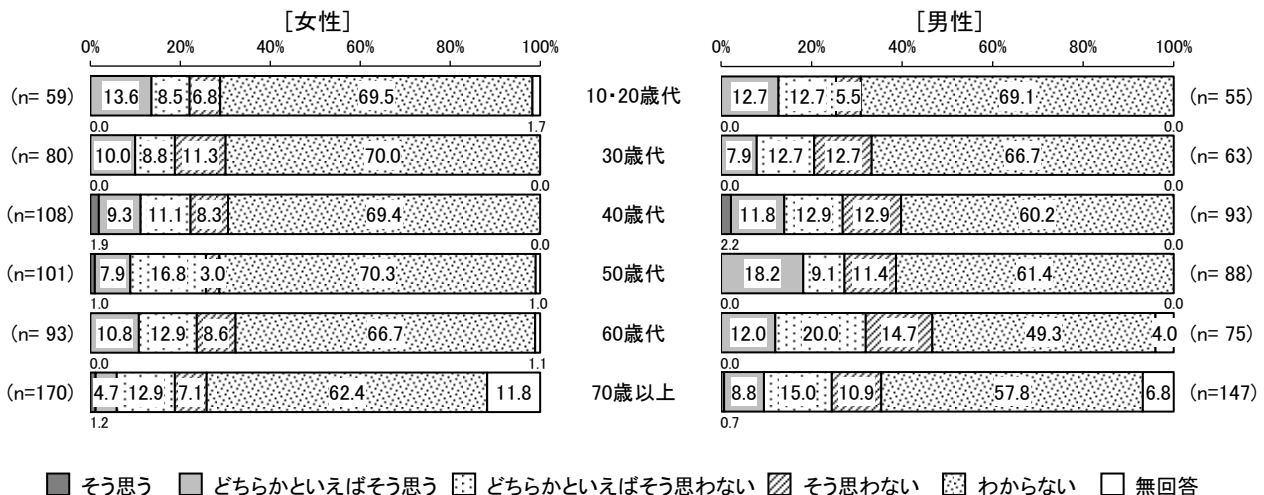


カ 市のセクシュアル・ハラスメントやDVなどへの対応が進んでいる

女性では全年齢層で「わからない」が6割以上を占めており、30・50歳代では7割に達している。

男性の60歳代では、『そう思わない』が34.7%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

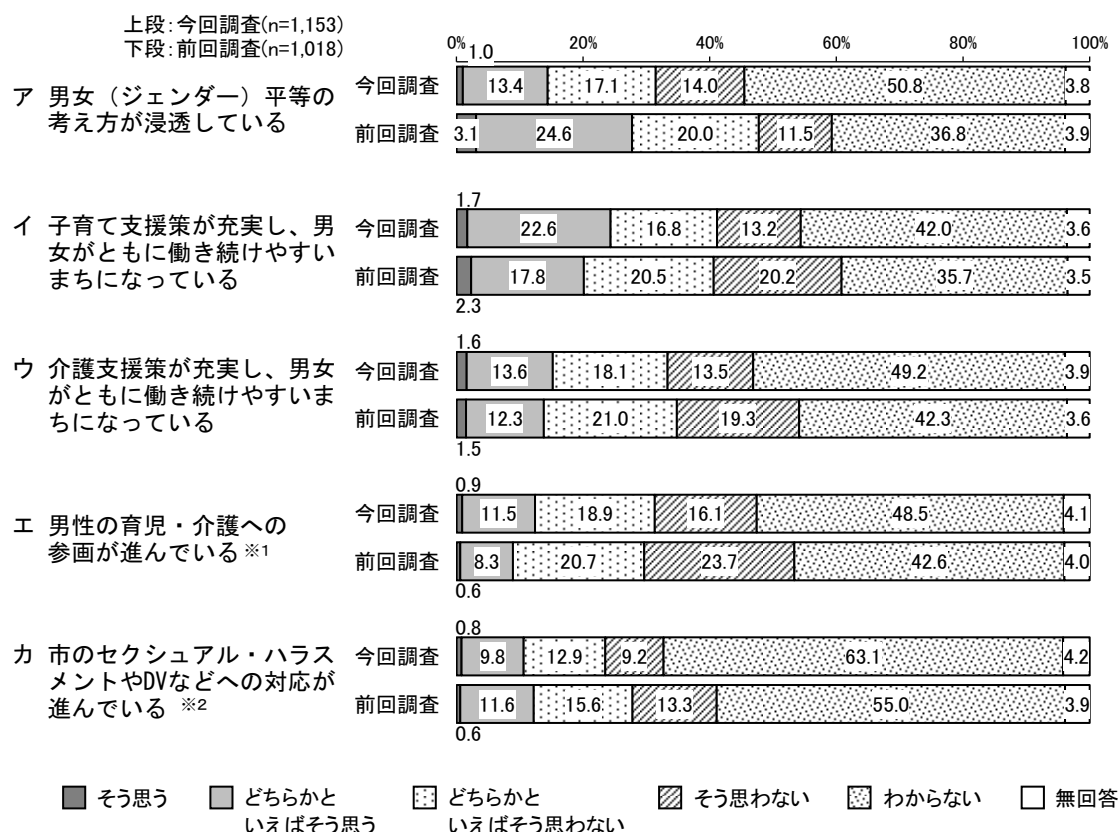
図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — カ 市のセクシュアル・ハラスメントやDVなどへの対応が進んでいる



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「イ 子育て支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている」「ウ 介護支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている」「エ 男性の育児・介護への参画が進んでいる」が前回調査よりも『そう思う』の割合が高くなっている。一方で「ア 男女（ジェンダー）平等の考え方が浸透している」の『そう思う』は前回調査よりも13.3ポイント低くなっており、「わからない」が14.0ポイント高くなっている。また、比較したすべての項目で『そう思わない』の割合は、前回調査よりも低くなっているが、「わからない」の割合はすべての項目で前回調査よりも高くなっている。

図 男女共同参画の進展に関する認識(前回調査との比較)



※1 前回調査では「男性の子育て・介護への参画が進んでいる」

※2 前回調査では「市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応が進んでいる」

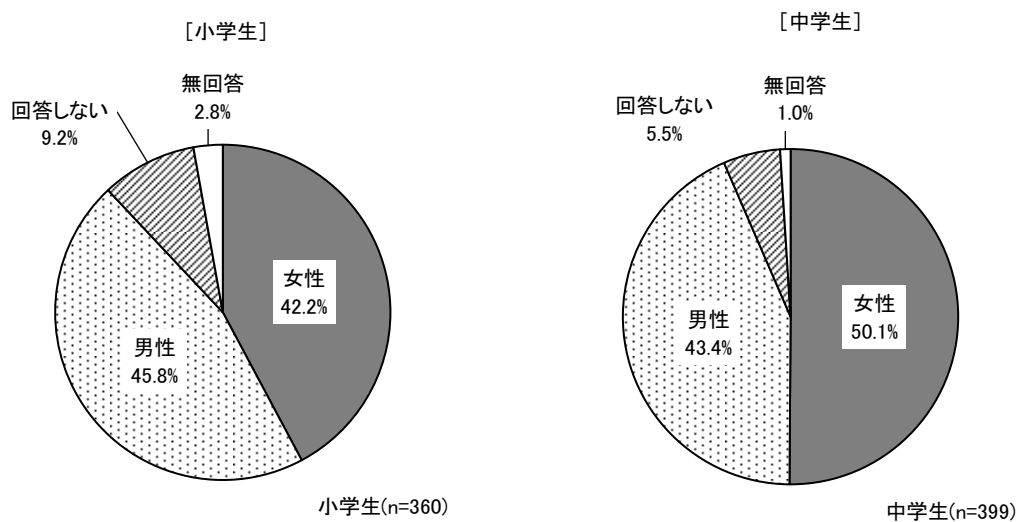
Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

1. あなた自身やご家族について

(1) 性別

回答者の性別は、小学生では「女性」が42.2%、「男性」が45.8%、「回答しない」が9.2%となっている。中学生では「女性」が50.1%、「男性」が43.4%、「回答しない」が5.5%となっている。

図 性別

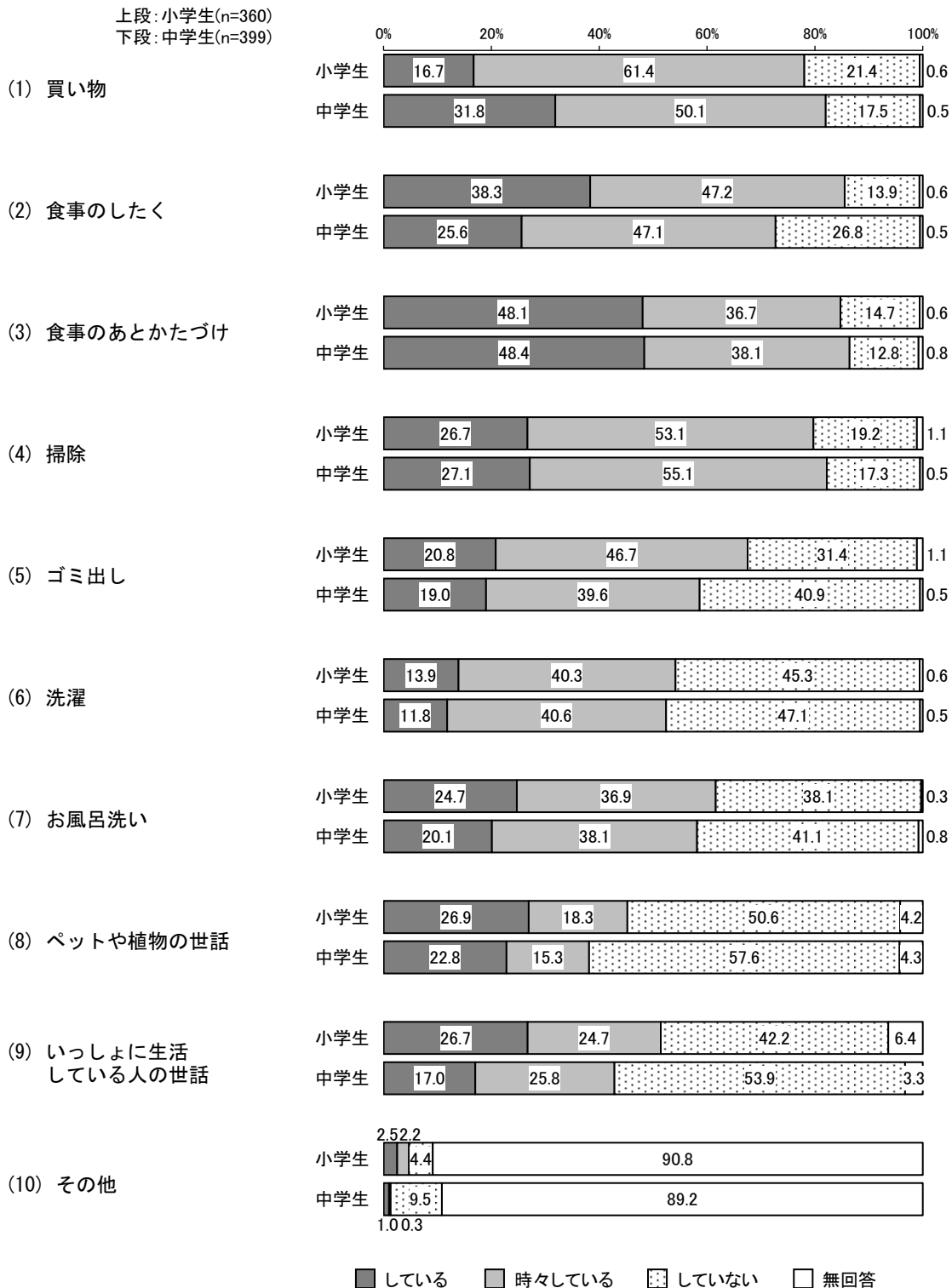


(2)家事分担などの内容

問1 あなたは、生活の中で次のようなことをしていますか。(○はそれぞれ1つ)

家で行っている家事分担などの内容についてたずねたところ、小学生・中学生ともに「(1) 買い物」「(2) 食事のしたく」「(3) 食事のあとかたづけ」「(4) 掃除」で『している』『している』と「時々している」の合計がそれぞれ7割以上となっている。中学生は小学生よりも『している』が「(2) 食事のしたく」で12.8ポイント、「(5) ゴミ出し」で8.9ポイント、「いっしょに生活している人の世話」で8.6ポイント低くなっている。

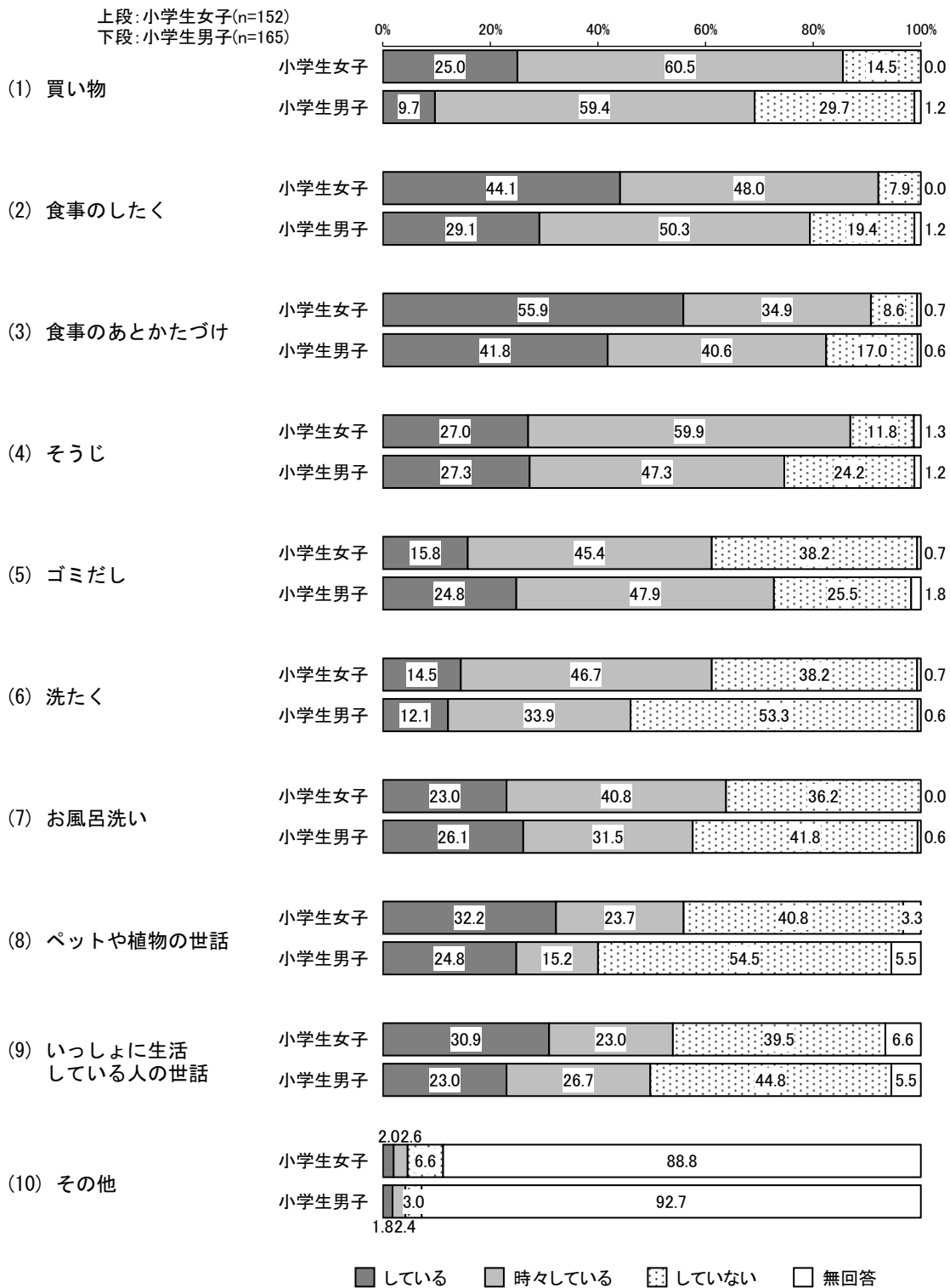
図 家事分担などの内容



Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

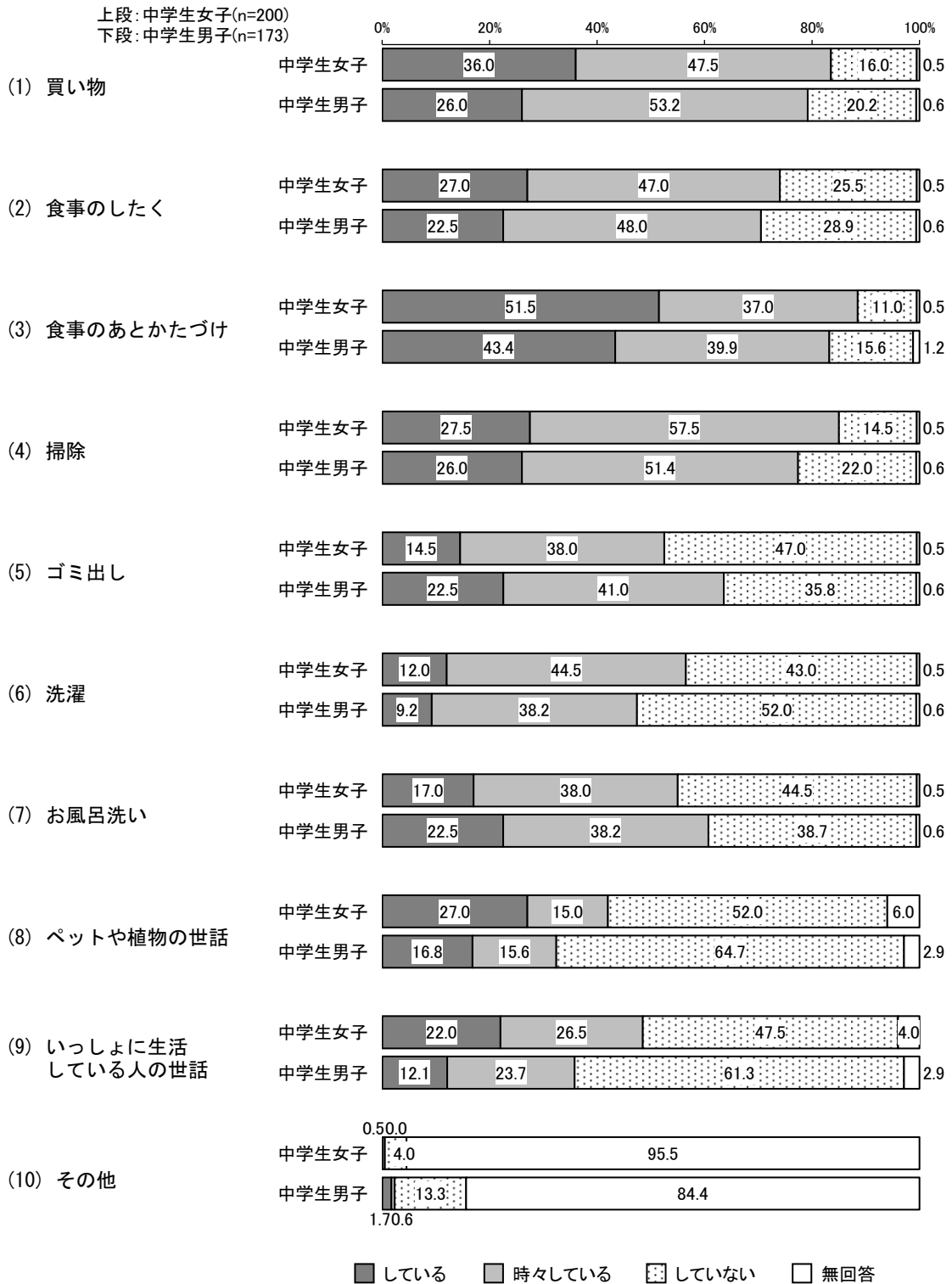
小学生で性別にみると、「(5) ゴミだし」を除くすべての項目で女子の『している』が男子よりも高くなっており、特に「(1) 買い物」「(6) 洗たく」「(8) ペットや植物の世話」は、女子の方が15ポイント以上高くなっている。

図 性別 家事分担などの内容(小学生)



中学生で性別にみると、「(5) ゴミ出し」と「(7) お風呂洗い」を除くすべての項目で女子の『している』が男子よりも高くなっており、特に「(9) いっしょに生活している人の世話」は、女子の方が12.7ポイント高くなっている。一方で「(5) ゴミ出し」は男子の『している』が女子よりも11.0ポイント高くなっている。

図 性別 家事分担などの内容(中学生)

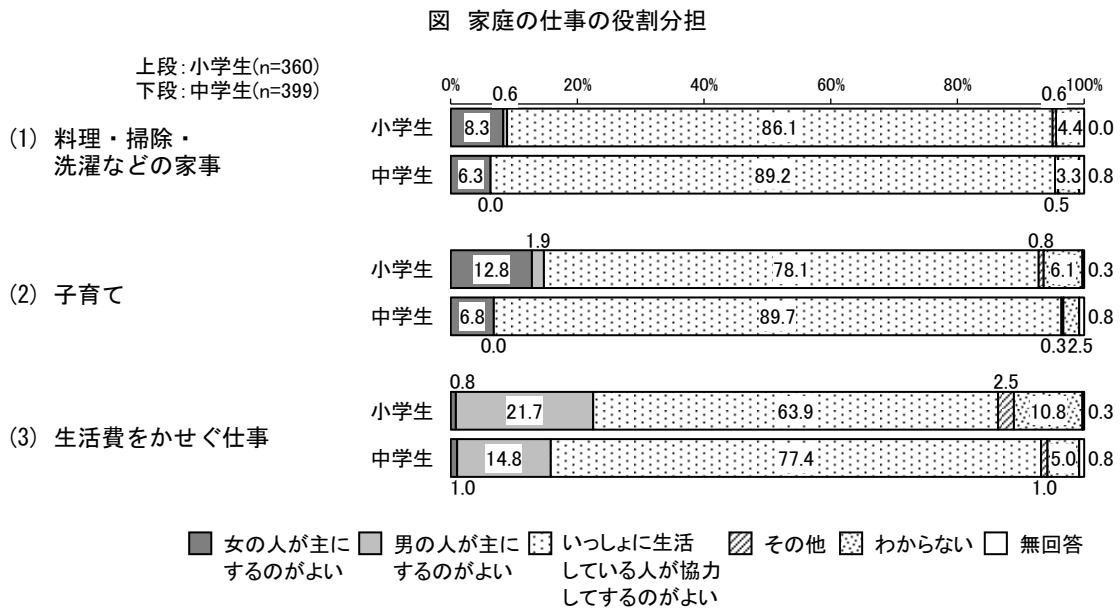


2. 男女共同参画に関する意識について

(1) 家庭の仕事の役割分担

問2 あなたは、次のようなことは、だれがするのが一番よいと思いますか。(○はそれぞれ1つ)

家での仕事の役割分担についてどう思いかたずねたところ、すべての項目で「いっしょに生活している人が協力してするのがよい」が6割以上となっており、中学生の方が小学生より高くなっている。「(1) 料理・掃除・洗濯などの家事」と「(2) 子育て」は「女の人が主にするのがよい」が、「(3) 生活費をかせぐ仕事」は「男の人が主にするのがよい」が、それぞれ小学生の方が中学生よりも割合が高くなっている。



性別にみると、小学生では「(1) 料理・掃除・洗濯などの家事」と「(2) 子育て」で「女の方が主にするのがよい」は男女で違いはほとんどみられないが、中学生では男子が女子よりも5ポイント以上高くなっている。「(3) 生活費をかせぐ仕事」は「男の方が主にするのがよい」は、小学生での男女差は5.3ポイントだが、中学生では13.4ポイントと大きくなっている。また、すべての項目で「いっしょに生活している人が協力するのがよい」の割合は女子の方が高くなっており、男女とも「(2) 子育て」は中学生の方が小学生より10ポイント以上高くなっている。

図 性別 家庭の仕事の役割分担(小学生)

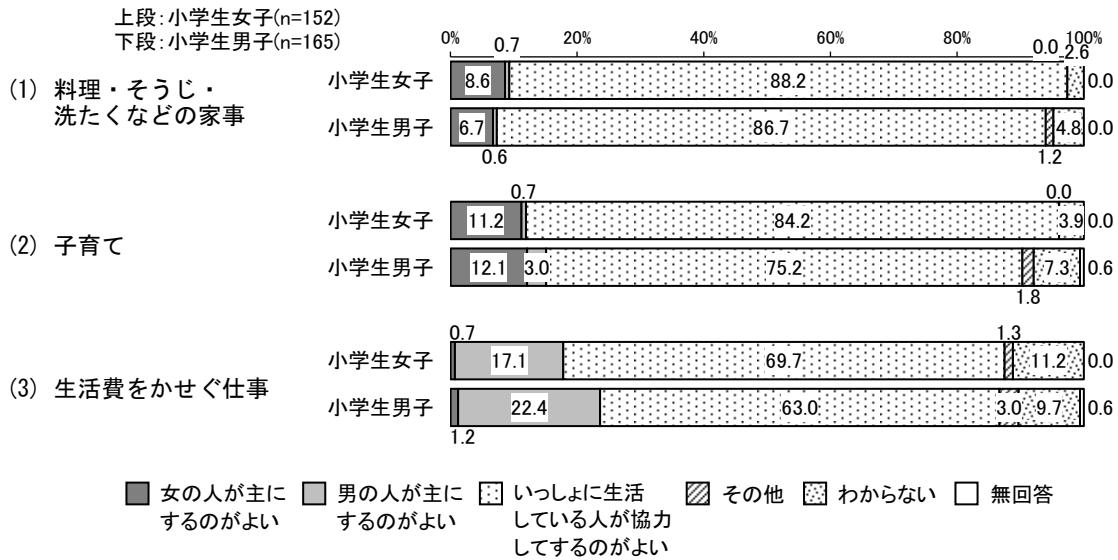
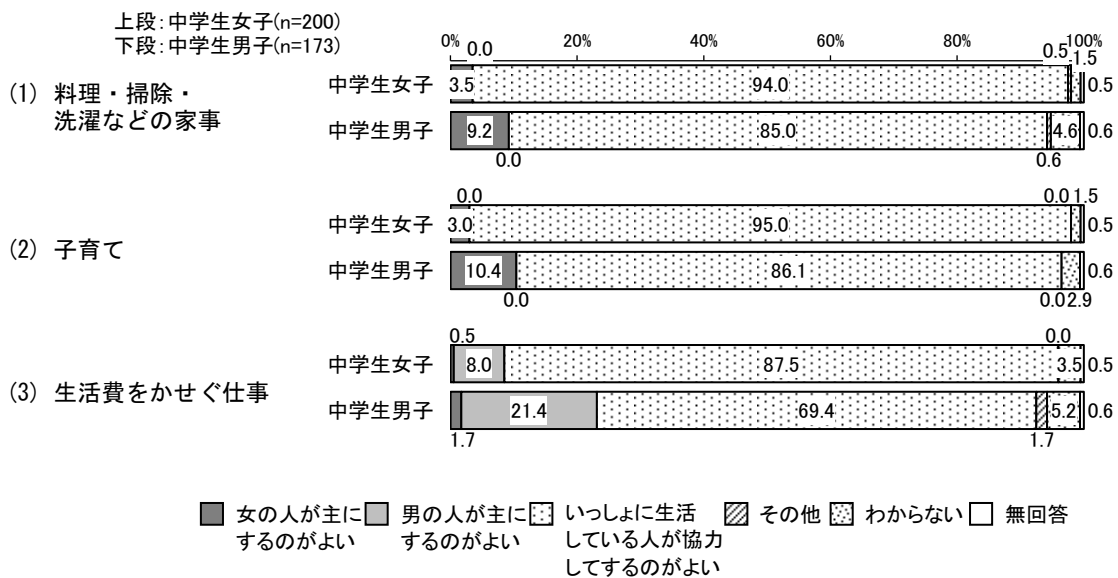


図 性別 家庭の仕事の役割分担(中学生)

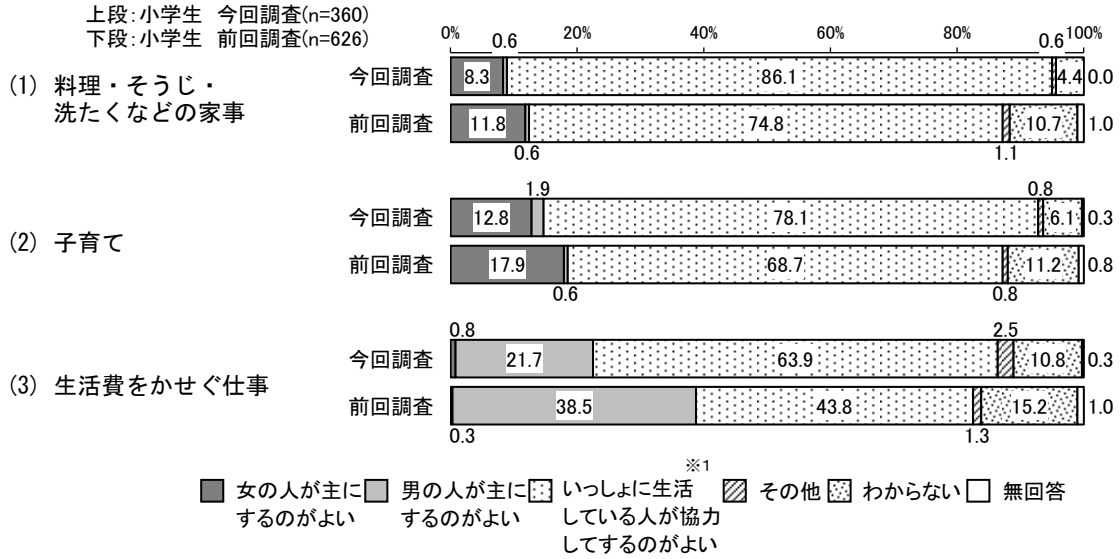


Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

■ 前回調査との比較

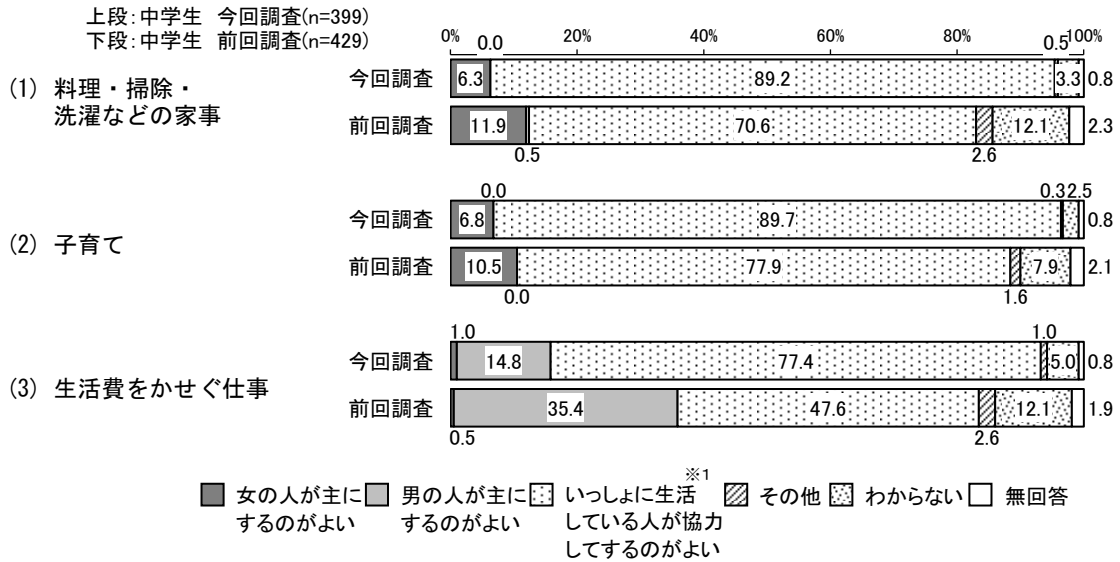
平成28年度に実施した前回調査と比較すると、すべての項目で「いっしょに生活している人が協力するのがよい」の割合が前回調査よりも高くなっており、特に「(3) 生活費をかせぐ仕事」では小学生で20.1ポイント、中学生で29.8ポイント高くなっている。

図 性別 家庭の仕事の役割分担(小学生 前回調査との比較)



※1 前回調査では「家族で協力してするのがよい」

図 性別 家庭の仕事の役割分担(中学生 前回調査との比較)



※1 前回調査では「家族で協力してするのがよい」

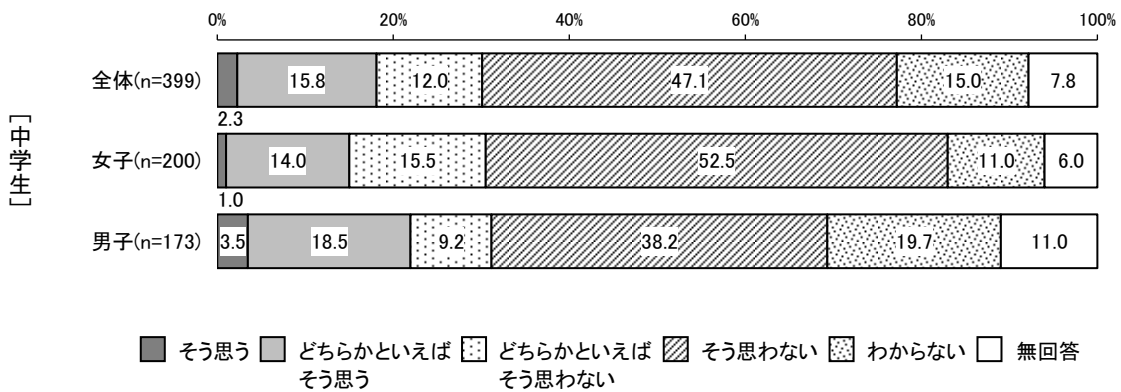
(2) 性別役割分担意識

《中学生調査のみ》

問3 「家庭の外の仕事は男性、家庭の中の仕事は女性」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

「家庭の外の仕事は男性、家庭の中の仕事は女性」という考え方(性別役割分担意識)についてどう思っ
 かつたところ、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が18.1%で、『そう
 思わない』(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)が59.1%と、『そう思
 わない』が高くなっている。
 性別にみると、女子の方が男子よりも『そう思わない』が20.6ポイント高くなっている。

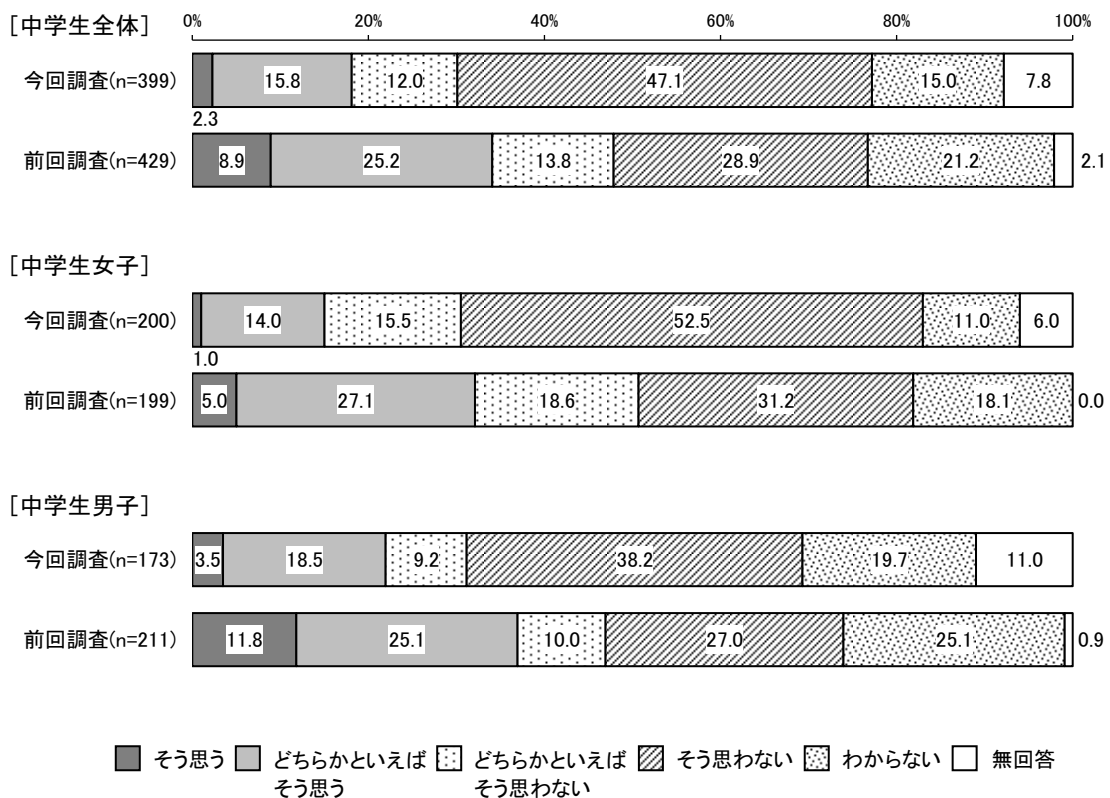
図 性別役割分担意識



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、前回調査よりも『そう思う』が低く、『そう思
 わない』が高くな
 っており、この傾向は女子の方が顕著である。

図 性別役割分担意識(前回調査との比較)



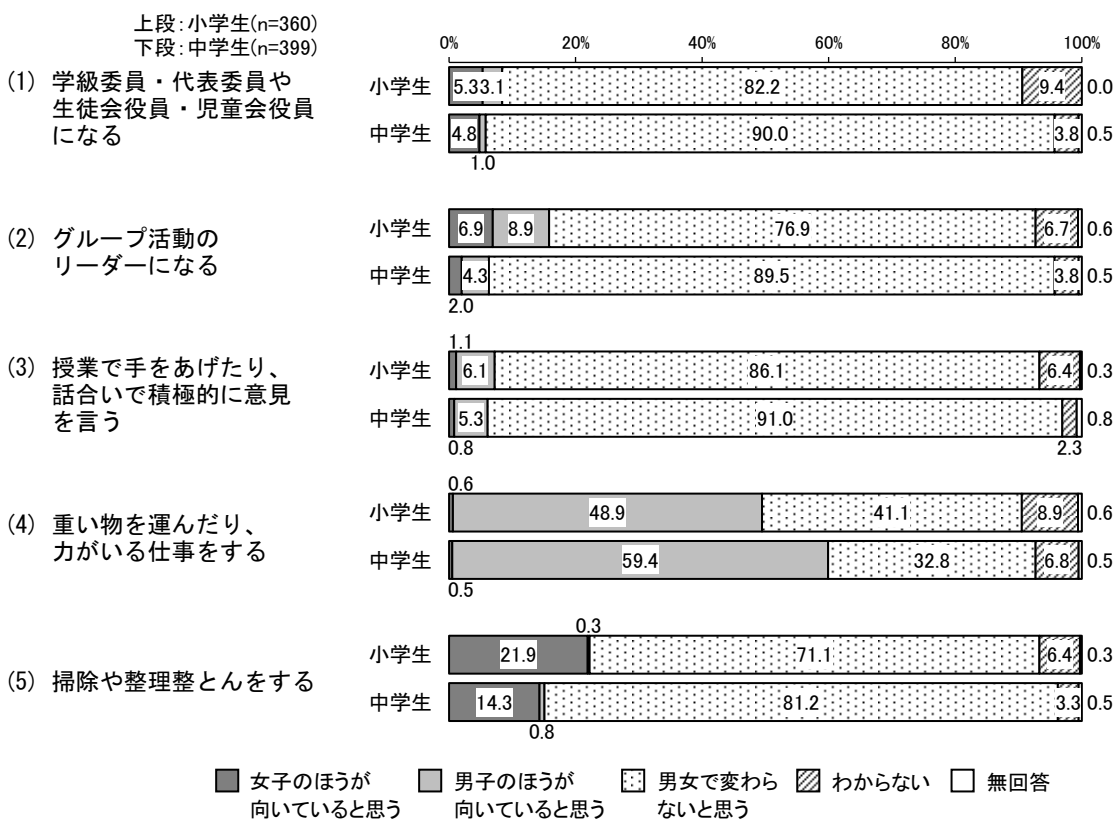
3. 学校生活について

(1) 学校生活における役割分担

問4 学校での生活について聞きます。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

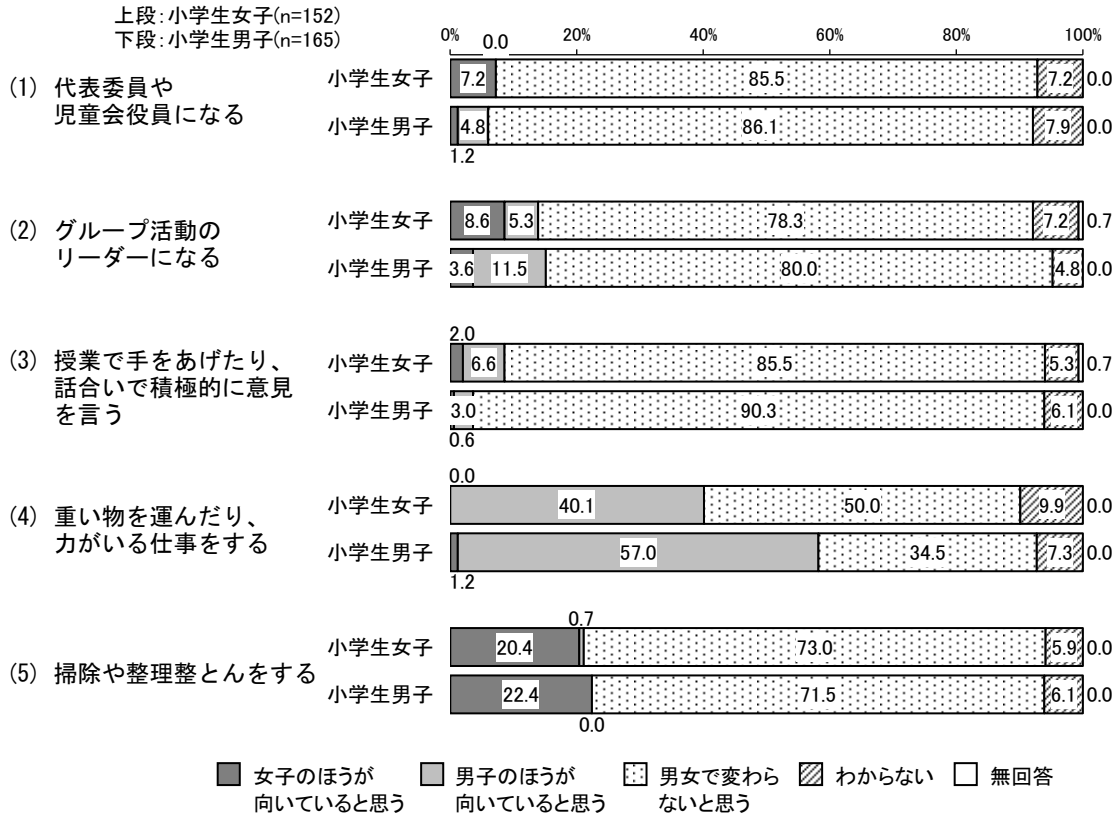
学校生活での役割分担についてどう思いかたずねたところ、「(4) 重い物を運んだり、力がある仕事をする」を除くすべての項目で、「男女で変わらないと思う」が7割以上となっており、「(2) グループ活動のリーダーになる」は小学生で76.9%、中学生で89.5%となり、中学生の方が12.6ポイント高くなっている。小学生・中学生ともに「(4) 重い物を運んだり、力がある仕事をする」は「男子のほうが向いていると思う」(小学生48.9%・中学生59.4%)が5割前後と高くなっている。「(5) 掃除や整理整頓をする」で「女子のほうが向いていると思う」(小学生21.9%・中学生14.3%)が他の項目と比べて高くなっている。

図 学校生活における役割分担



小学生で性別にみると、「(4) 重い物を運んだり、力がある仕事をする」では、女子は「男女で変わらないと思う」が50.0%、男子は「男子のほうが向いていると思う」が57.0%と最も高くなっている。また「(1) 代表委員や児童会役員になる」と「(2) グループ活動のリーダーになる」では、「女子のほうが向いていると思う」と「男子のほうが向いていると思う」の回答をみると、男女とも自身の性別が向いていると答える傾向となっている。

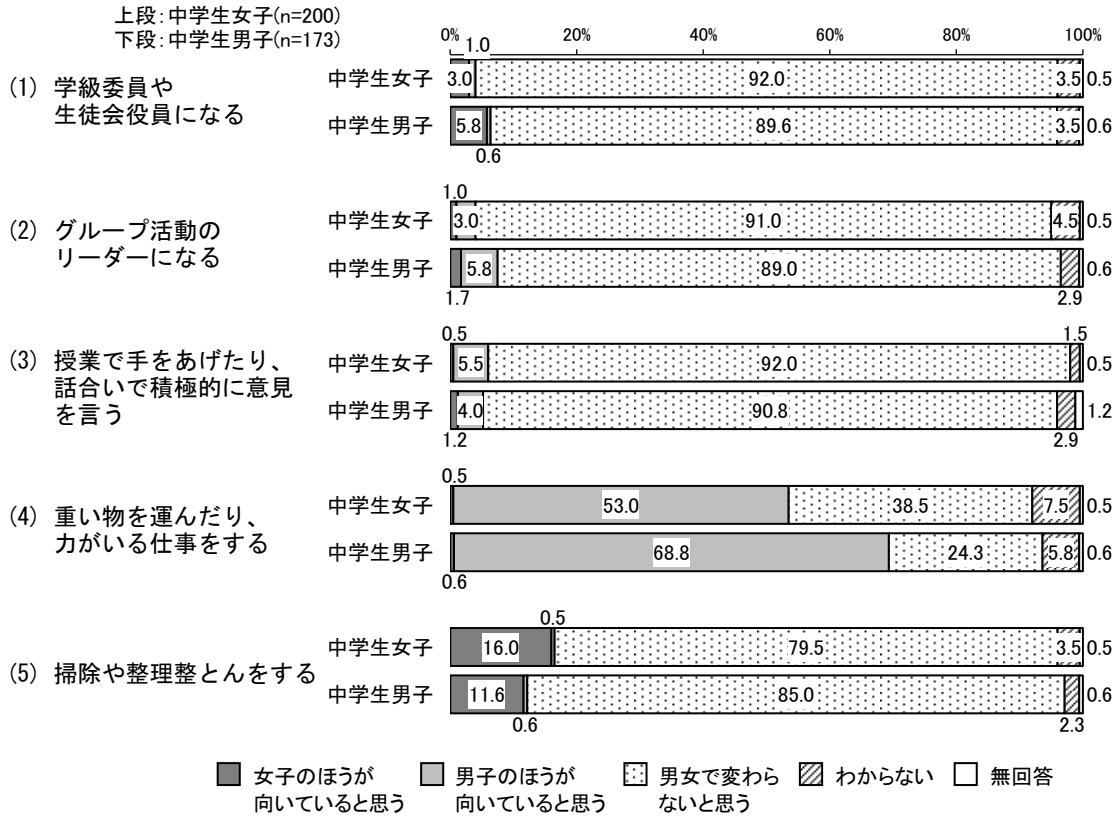
図 性別 学校生活における役割分担(小学生)



Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

中学生で性別にみると、「(4) 重い物を運んだり、力がある仕事をする」では、「男子のほうが向いていると思う」の割合が男子の方が女子よりも15.8ポイント高くなっており、性別役割分担意識が小学生よりも明確になっている。

図 性別 学校生活における役割分担(中学生)



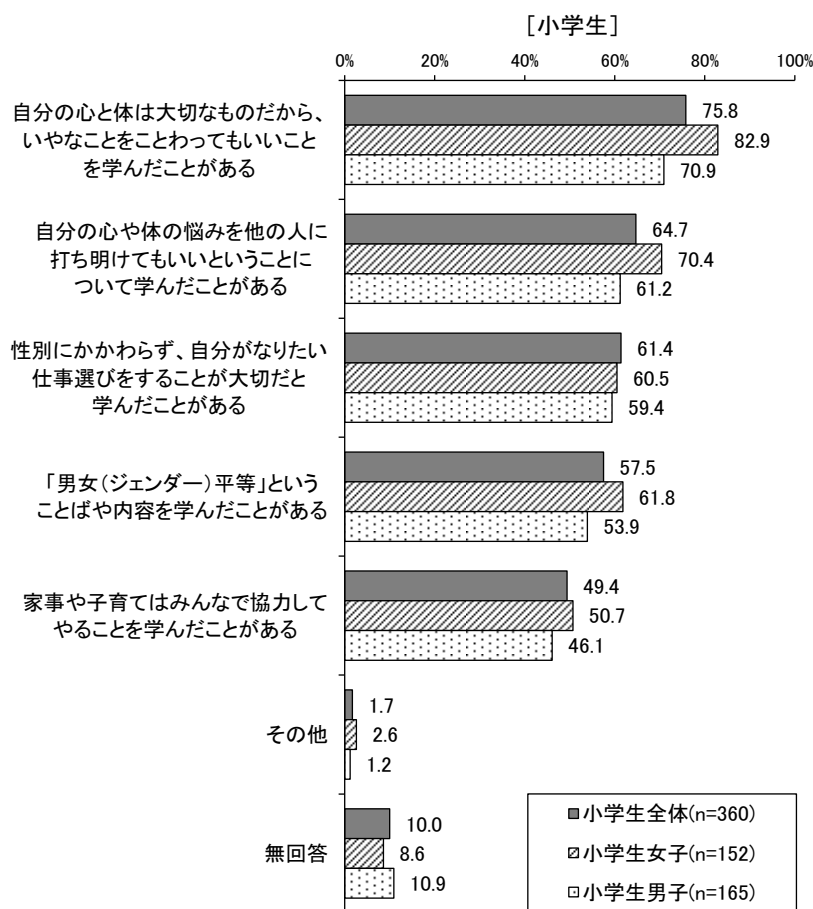
(2) 学校で勉強した内容

問5 あなたは、学校などで、次のようなことを学んだことがありますか。(〇はいくつでも)

小学生が学校で勉強した内容についてたずねたところ、「自分の心と体は大切なものだから、いやなことをこわってもいいことを学んだことがある」が75.8%で最も高く、次いで「自分の心や体の悩みを他の人に打ち明けてもいいということについて学んだことがある」(64.7%)、「性別にかかわらず、自分がなりたい仕事選びをすることが大切だと学んだことがある」(61.4%)となっている。

性別にみると、すべての項目で女子の方が男子より割合が高くなっており、「自分の心と体は大切なものだから、いやなことをこわってもいいことを学んだことがある」と「自分の心や体の悩みを他の人に打ち明けてもいいということについて学んだことがある」が、男子よりも10ポイント前後割合が高くなっている。

図 学校で勉強した内容(小学生)

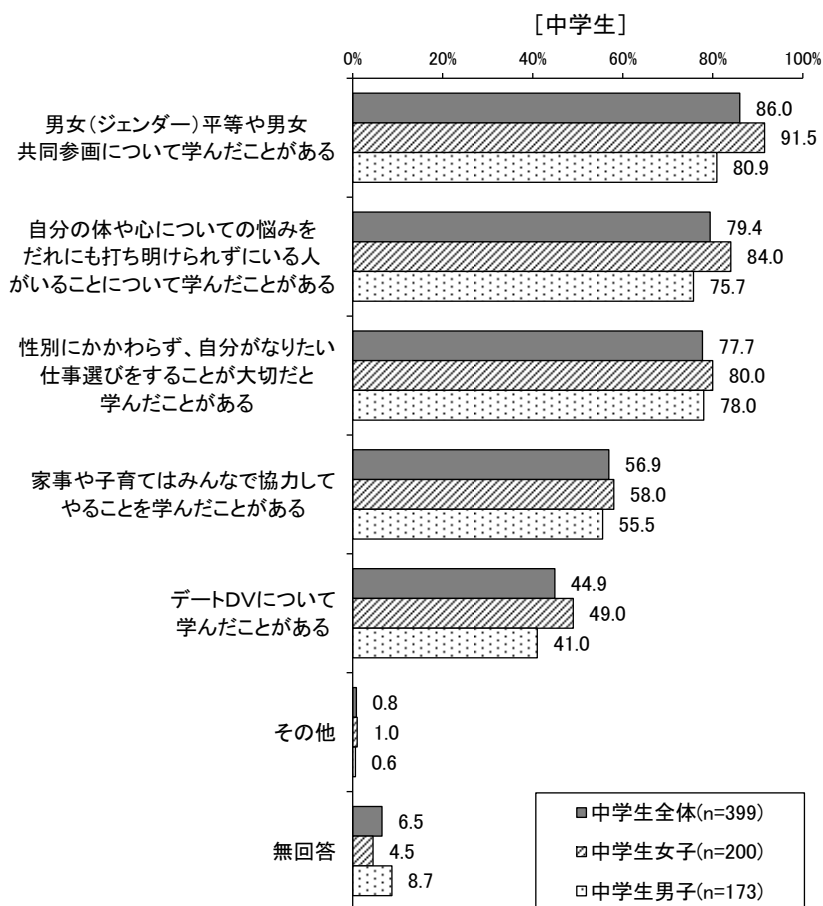


Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

中学生が学校で勉強した内容についてたずねたところ、「男女(ジェンダー)平等や男女共同参画について学んだことがある」が86.0%で最も高く、次いで「自分の体や心についての悩みをだれにも打ち明けられずにいる人がいることについて学んだことがある」(79.4%)、「性別にかかわらず、自分がなりたい仕事選びをすることが大切だと学んだことがある」(77.7%)となっている。

性別にみると、すべての項目で女子の方が男子より割合が高くなっており、「男女(ジェンダー)平等や男女共同参画について学んだことがある」は、男子よりも10.6ポイント高くなっている。

図 学校で勉強した内容(中学生)



4. 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたこと

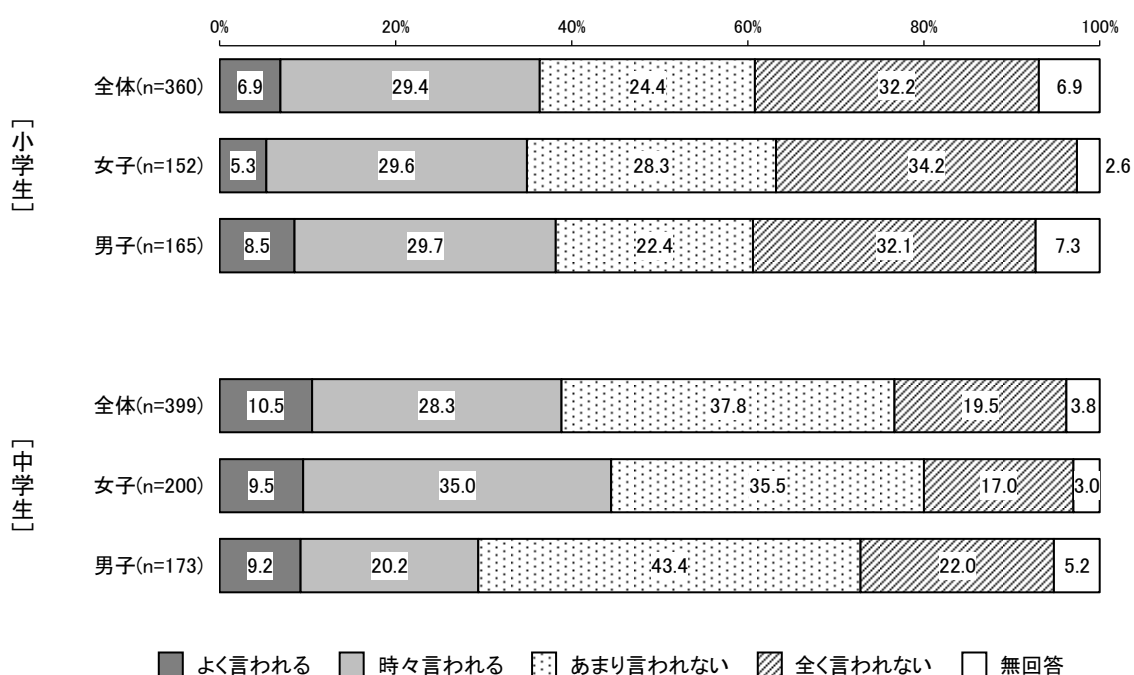
(1) 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた経験の有無

問6 あなたは、たとえば「男の子は泣いてはいけない」や「女の子はやさしく」など「男だから〇〇」や「女だから〇〇」のようにだれかに言われたことがありますか。(〇は1つ)

「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた経験の有無についてたずねたところ、『言われる』(「よく言われる」と「時々言われる」の合計)が小学生で36.3%、中学生で38.8%となっており、小学生・中学生ともに『言われる』が3割台となっている。

性別にみると、小学生の『言われる』は女子34.9%・男子38.2%と、男子の方が3.3ポイント高く、中学生の『言われる』は女子44.5%・男子29.4%と、女子の方が15.1ポイント高くなっている。

図 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた経験の有無

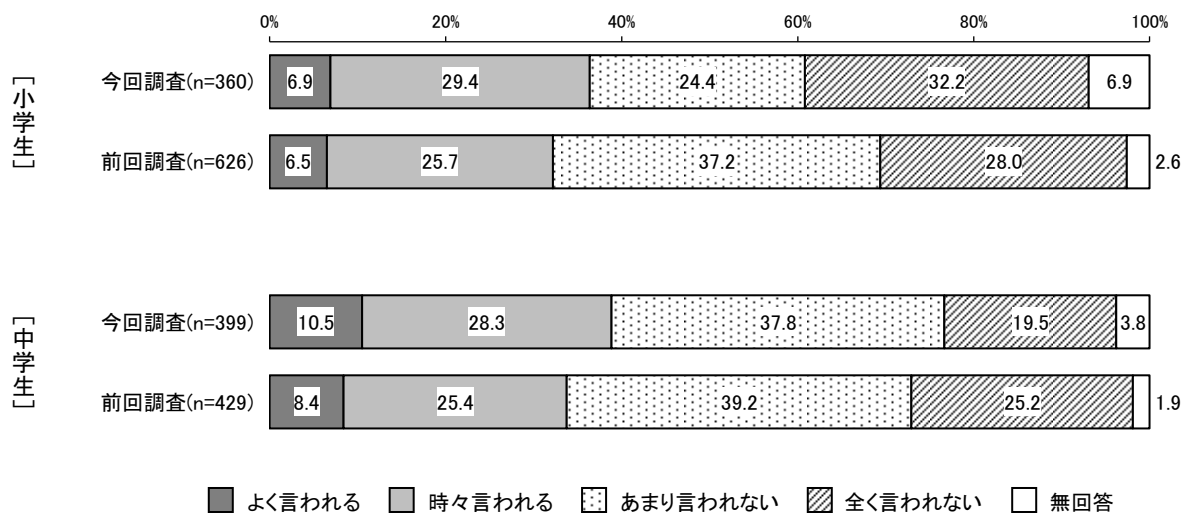


Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、前回調査よりも小学生・中学生ともに『言われる』が高くなり、『言われない』（「あまり言われない」と「全く言われない」の合計）が低くなっている。

図 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた経験の有無（前回調査との比較）



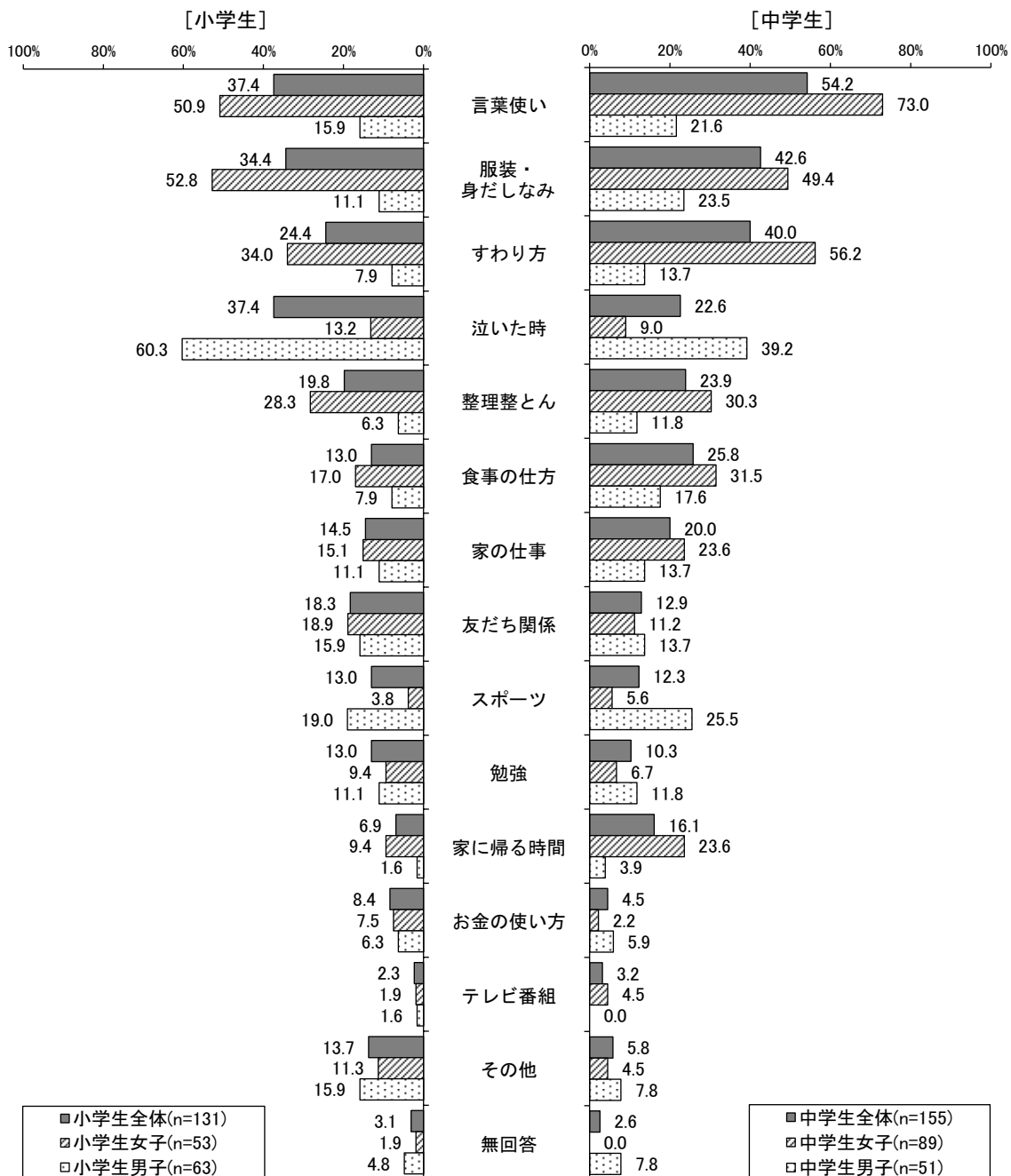
(2)「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた原因

《問6で「1. よく言われる」、「2. 時々言われる」と答えた方に質問します。》
問6-1 どんなことで言われましたか。(〇はいくつでも)

「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた原因についてたずねたところ、小学生では「言葉使い」と「泣いた時」がそれぞれ37.4%で最も高く、次いで「服装・身だしなみ」(34.4%)、「すわり方」(24.4%)となっている。中学生では「言葉使い」が54.2%で最も高く、次いで「服装・身だしなみ」(42.6%)、「すわり方」(40.0%)、「食事の仕方」(25.8%)となっている。

性別にみると、小学生・中学生ともに「言葉使い」「服装・身だしなみ」「すわり方」「整理整とん」「食事の仕方」「家の仕事」「家に帰る時間」「テレビ番組」が女子の割合が高く、「泣いた時」「スポーツ」「勉強」が男子の割合が高くなっており、「言葉使い」「服装・身だしなみ」「すわり方」「泣いた時」はその差が顕著である。

図 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた原因

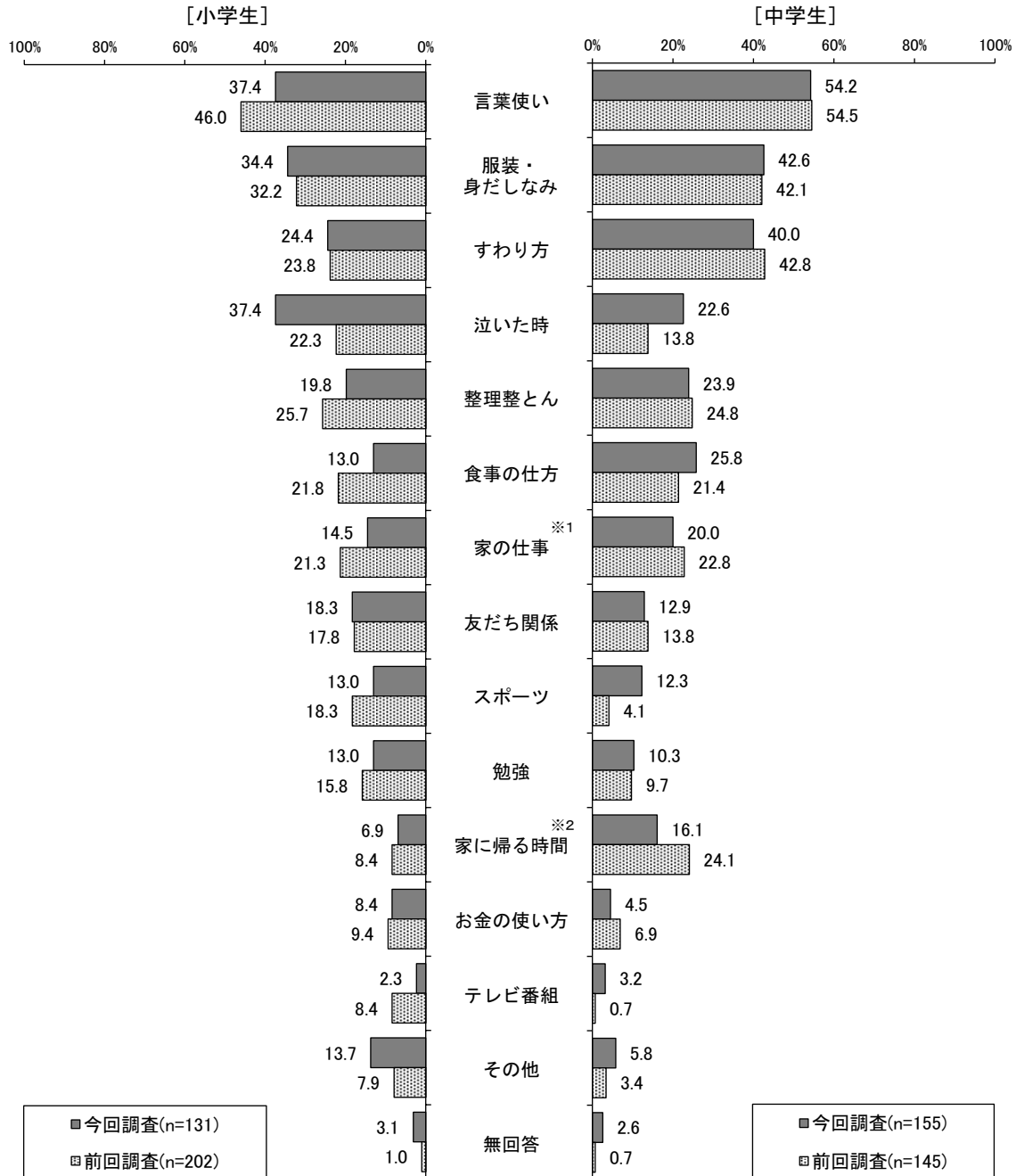


Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、小学生では「泣いた時」が前回調査よりも15.1ポイント高く、「言葉使い」が8.6ポイント低くなっている。中学生では「泣いた時」が前回調査よりも8.8ポイント高く、「家に帰る時間」が8.0ポイント低くなっている。

図 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた原因(前回調査との比較)



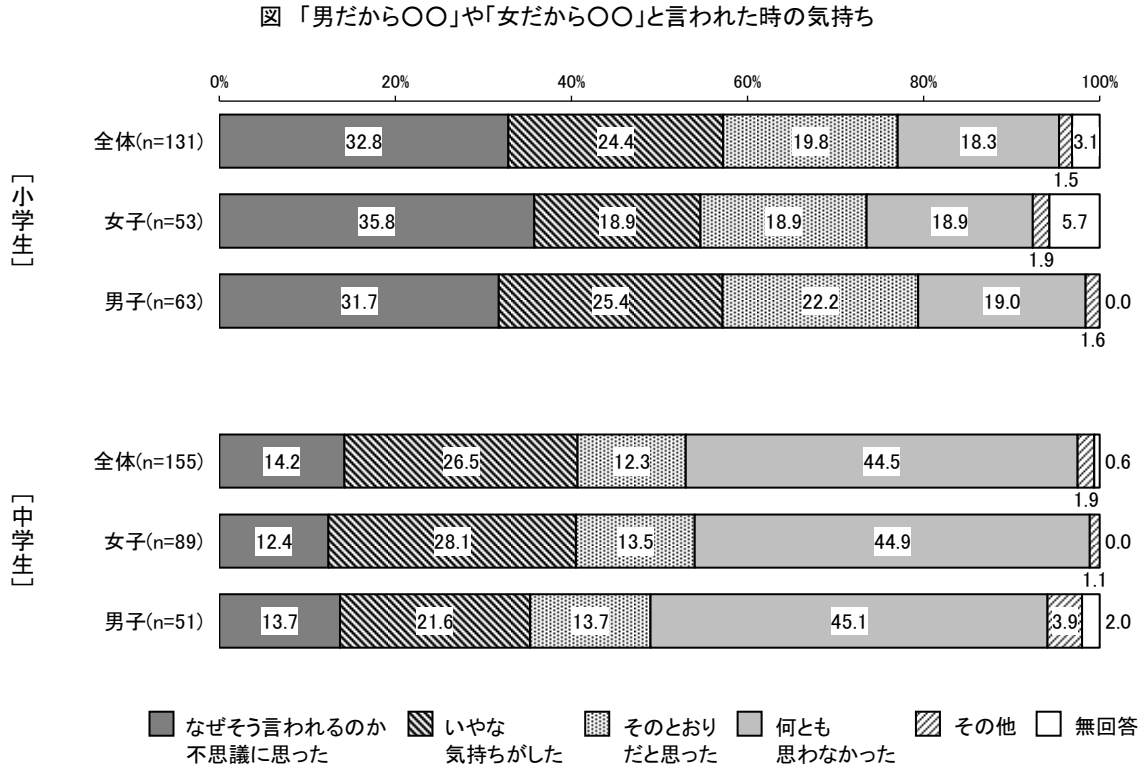
※1 前回調査では「手伝い」
 ※2 前回調査では「家に帰る時刻」

(3)「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた時の気持ち

問6-2 あなたは言われた時、どんな気持ちでしたか。(〇は1つ)

「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた時の気持ちについてたずねたところ、中学生は小学生よりも「何とも思わなかった」(小学生18.3%・中学生44.5%)の割合が、小学生は中学生よりも「なぜそう言われるのか不思議に思った」(小学生32.8%・中学生14.2%)の割合が高くなっている。

性別にみると、小学生では男子で「いやな気持ちでした」が女子よりも6.5ポイント高くなっている。中学生では女子で「いやな気持ちでした」が男子よりも6.5ポイント高くなっている。



Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

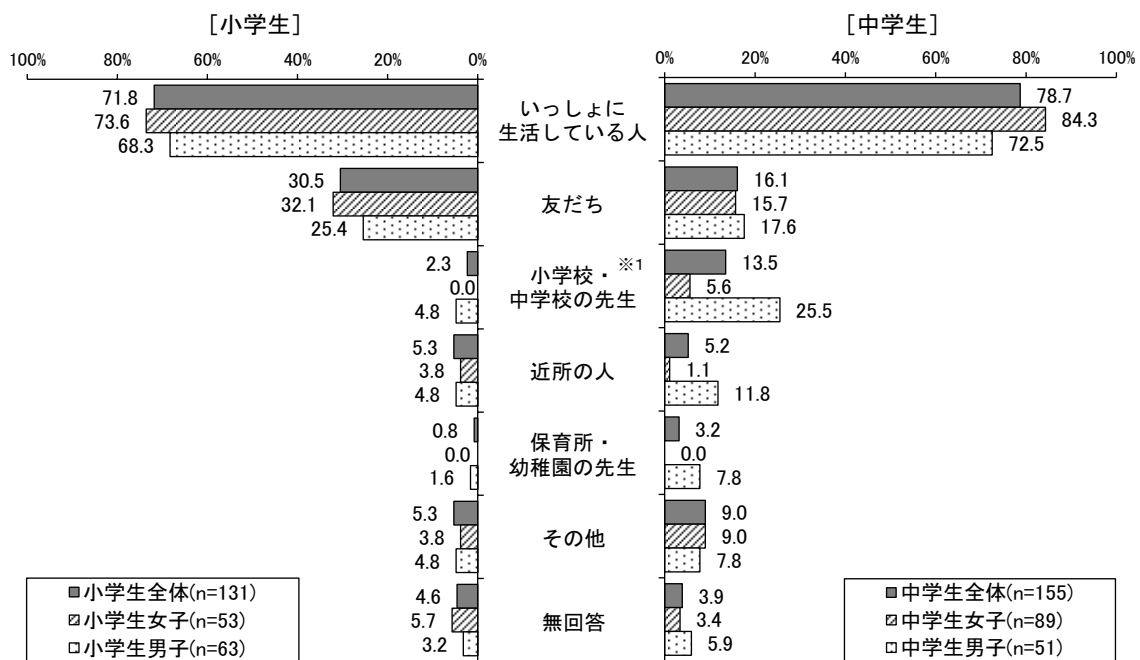
(4)「男だから○○」や「女だから○○」と言った相手

問6-3 それはだれに言われましたか。(○はいくつでも)

「男だから○○」や「女だから○○」と言った相手についてたずねたところ、小学生・中学生ともに「いっしょに生活している人」(小学生71.8%・中学生78.7%)が最も高く、次いで「友だち」(小学生30.5%・中学生16.1%)となっている。

性別にみると、小学生では男女で大きな違いはみられない。中学生では、女子で「いっしょに生活している人」が男子よりも11.8ポイント高く、男子で「小学校・中学校の先生」と「近所の人」が女子よりもそれぞれ19.9ポイント、10.7ポイント高くなっている。

図 「男だから○○」や「女だから○○」と言った相手



※1 小学生調査では「小学校の先生」

5. デートDVについて

(1)「デートDV」の認知度

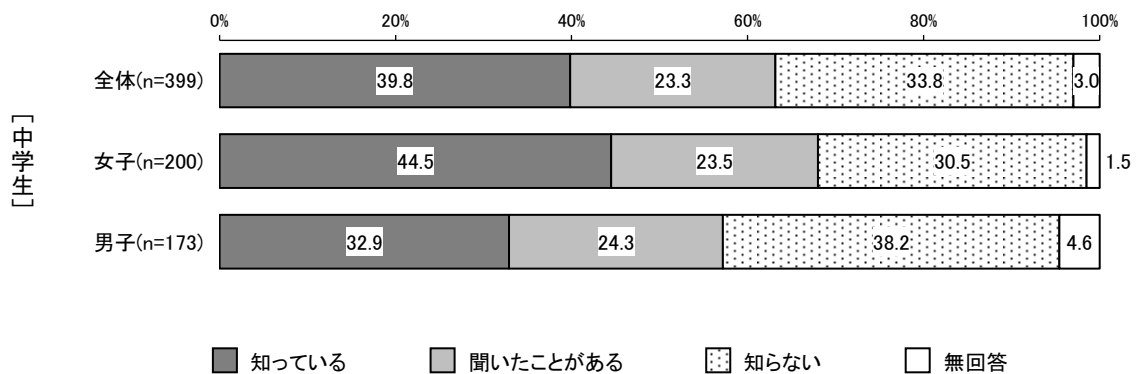
《中学生調査のみ》

問7 あなたは、「デートDV」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

「デートDV」という言葉の認知度についてたずねたところ、「知っている」が39.8%で最も高く、次いで「知らない」(33.8%)、「聞いたことがある」(23.3%)となっており、『聞いたことがある』(「知っている」と「聞いたことがある」の合計)は63.1%となっている。

性別にみると、『聞いたことがある』は女子の方が男子よりも10.8ポイント高くなっている。

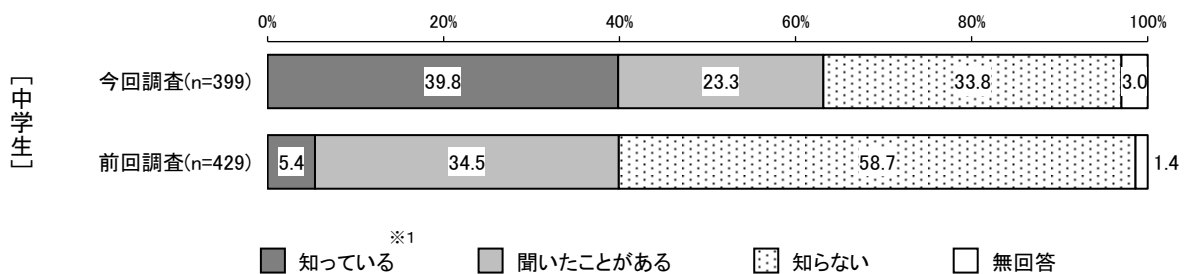
図 「デートDV」の認知度



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、『聞いたことがある』が前回調査よりも23.2ポイント高くなっている。

図 「デートDV」の認知度(前回調査との比較)



※1 前回調査では「よく知っている」

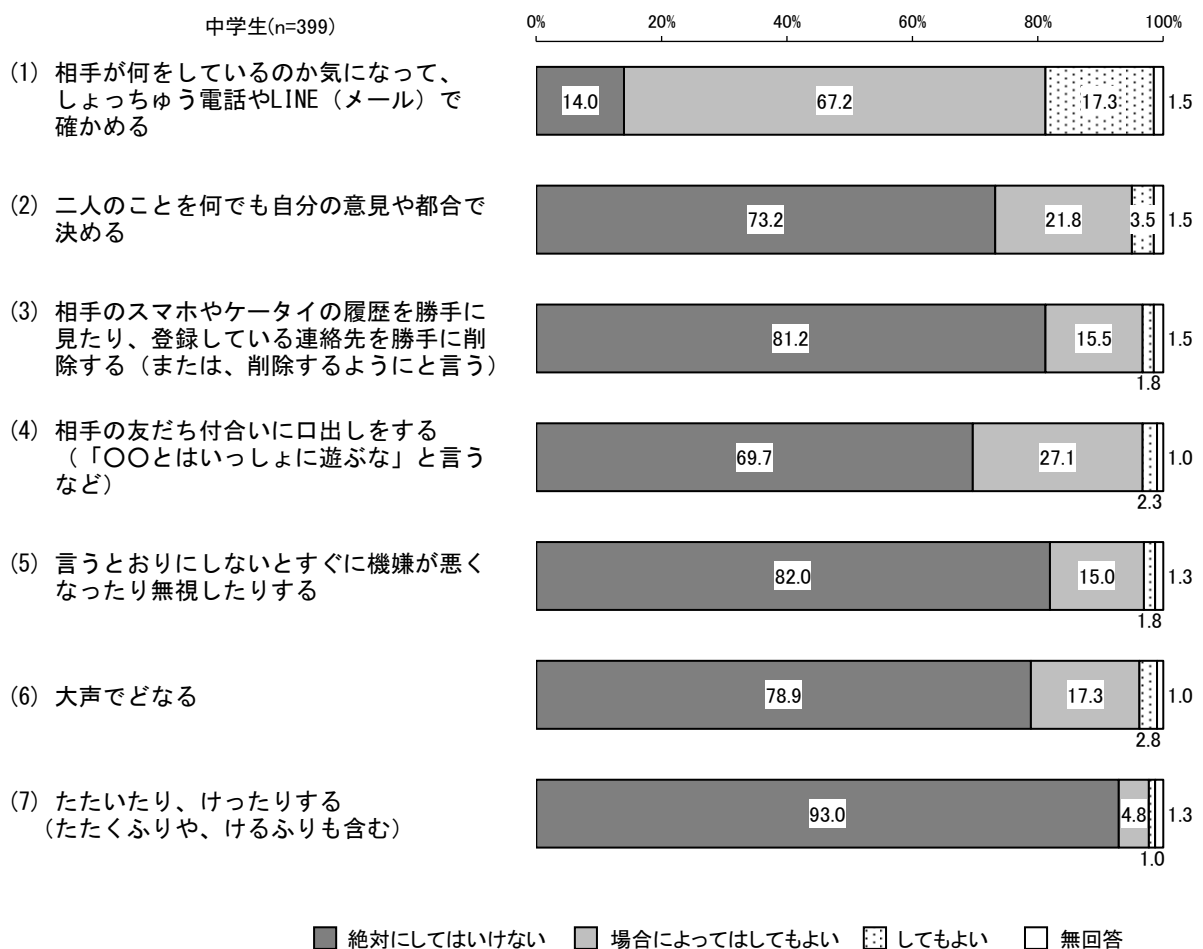
(2) 交際関係について変だと思うこと

《中学生調査のみ》

問8 あなたは、交際中の人同士で(1)から(7)のようなことをすることについてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

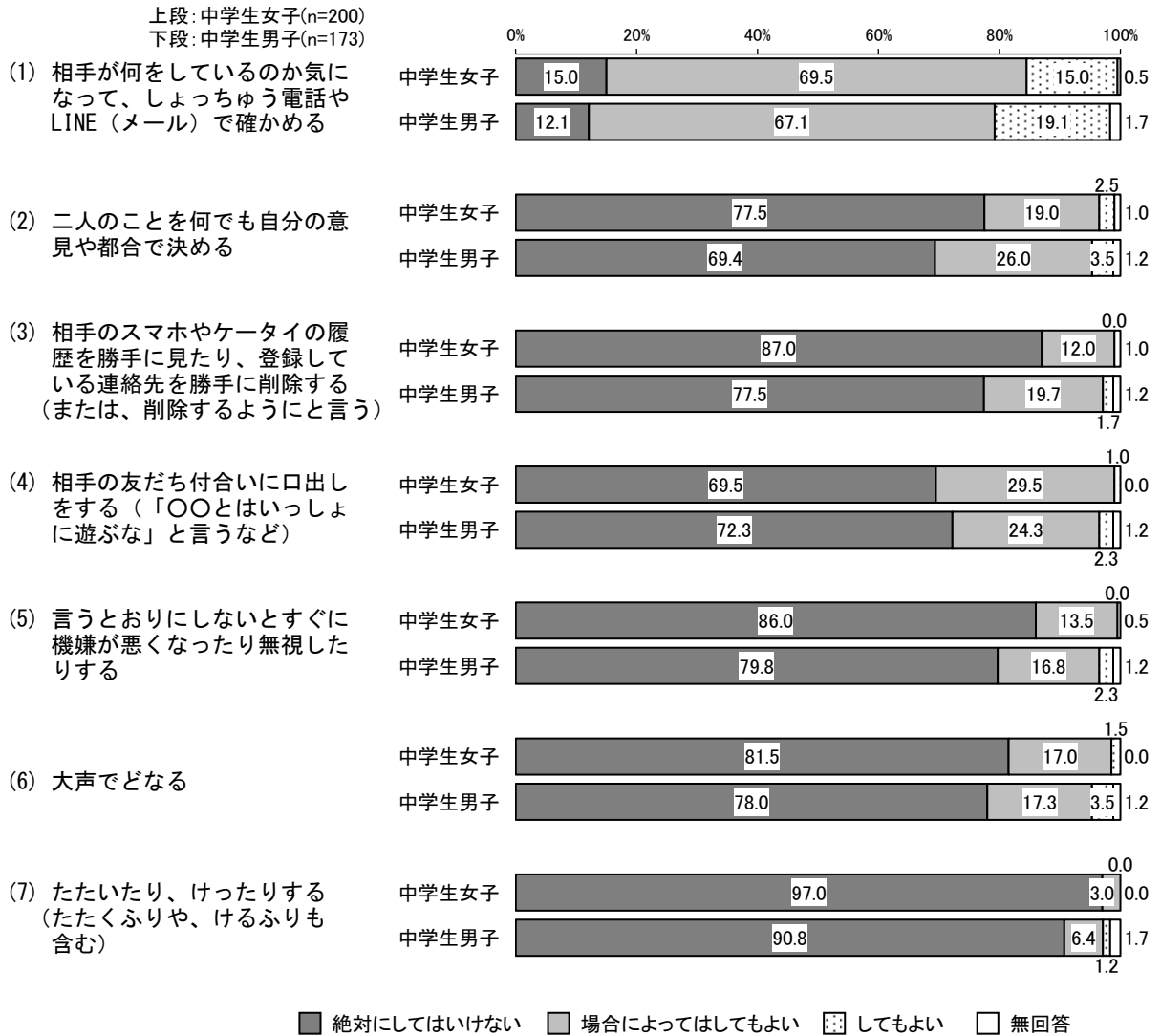
交際関係について変だと思うことについてたずねたところ、「(1) 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE(メール)で確かめる」を除くすべての項目で、「絶対にしてはいけない」がそれぞれ約7割以上となっている。一方、「(1) 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE(メール)で確かめる」では「場合によってはしてもよい」が67.2%と7割弱を占めており、「してもよい」が17.3%となっている。

図 交際関係について変だと思うこと



性別にみると、「(4) 相手の友だち付き合いに口出しをする(「〇〇とはいっしょに遊ぶな」と言うなど)」を除くすべての項目で、女子の方が男子よりも「絶対にしてはいけない」の割合が高くなっている。「(1) 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE(メール)で確かめる」では、男子の方が女子よりも「してもよい」が4.1ポイント高くなっている。

図 性別 交際関係について変だと思うこと



6. セクシュアルマイノリティについて

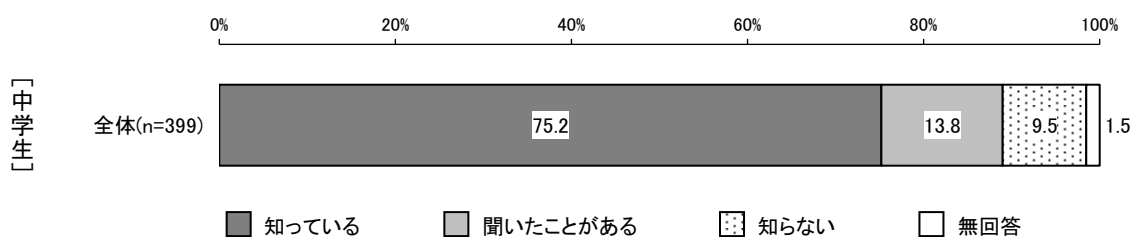
(1) セクシュアルマイノリティの認知度

《中学生調査のみ》

問9 あなたは、「セクシュアルマイノリティ（LGBTQなど）」という言葉を知っていますか。（○は1つ）

「セクシュアルマイノリティ(LGBTQなど)」という言葉の認知度についてたずねたところ、「知っている」が75.2%で最も高く、次いで「聞いたことがある」(13.8%)、「知らない」(9.5%)となっており、『聞いたことがある』(「知っている」と「聞いたことがある」の合計)は89.0%となっている。

図 セクシュアルマイノリティの認知度



7. 悩みごとの相談状況

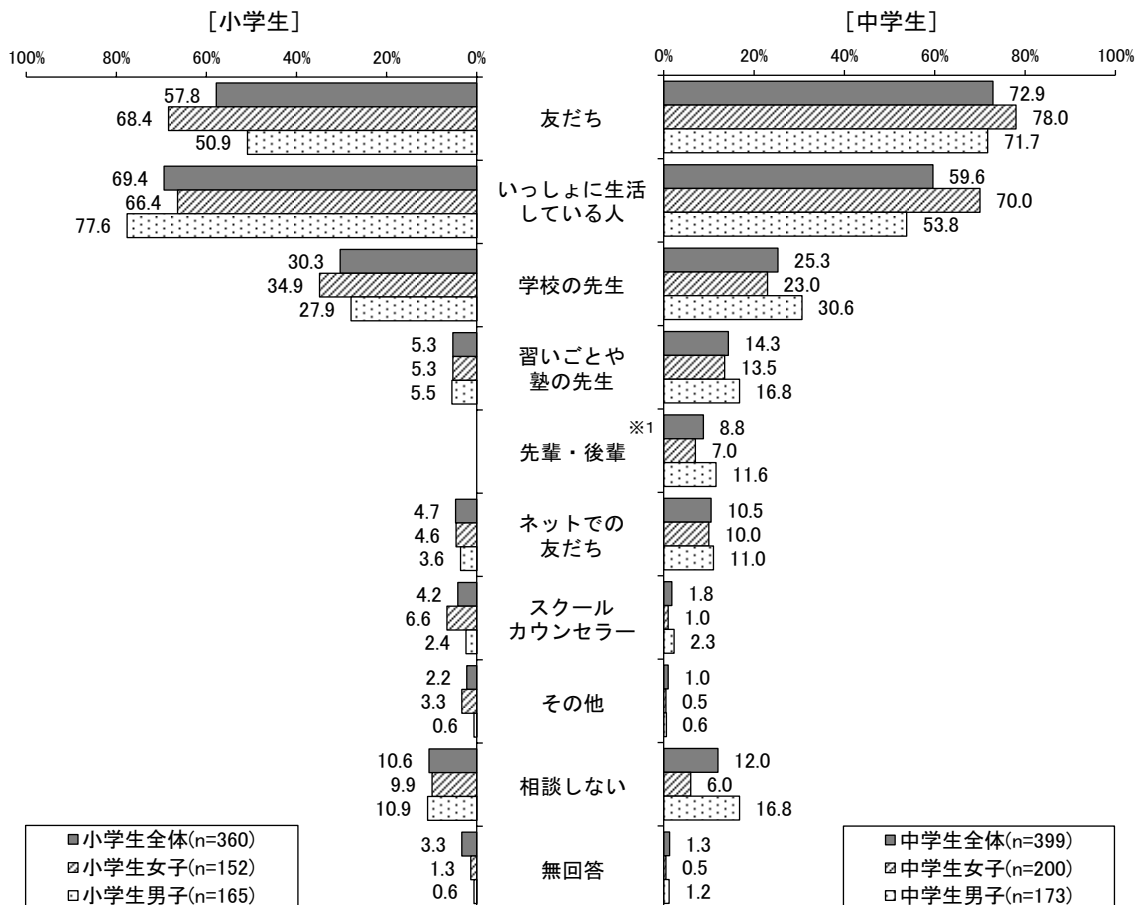
(1) 悩みごとや心配ごとがある時の相談相手

問10 あなたは、悩みごとや心配ごとがある時、だれに相談しますか。(○はいくつでも)

悩みごとや心配ごとを相談できる人についてたずねたところ、小学生・中学生ともに「友だち」(小学生57.8%・中学生72.9%)、「いっしょに生活している人」(小学生69.4%・中学生59.6%)、「学校の先生」(小学生30.3%・中学生25.3%)が上位3項目となっている。「相談しない」は小学生で10.6%、中学生で12.0%と1割台となっている。

性別にみると、小学生・中学生ともに女子の「友だち」が男子よりも高く、小学生では17.5ポイントの差となっている。「いっしょに生活している人」は小学生では男子の方が11.2ポイント、中学生では女子の方が16.2ポイント高くなっている。また、中学生男子の「相談しない」が、女子よりも10.8ポイント高くなっている。

図 悩みごとや心配ごとがある時の相談相手



※1 「先輩・後輩」は中学生調査のみの項目

8. 茨木市の取組について

(1) ローズWAMの認知度

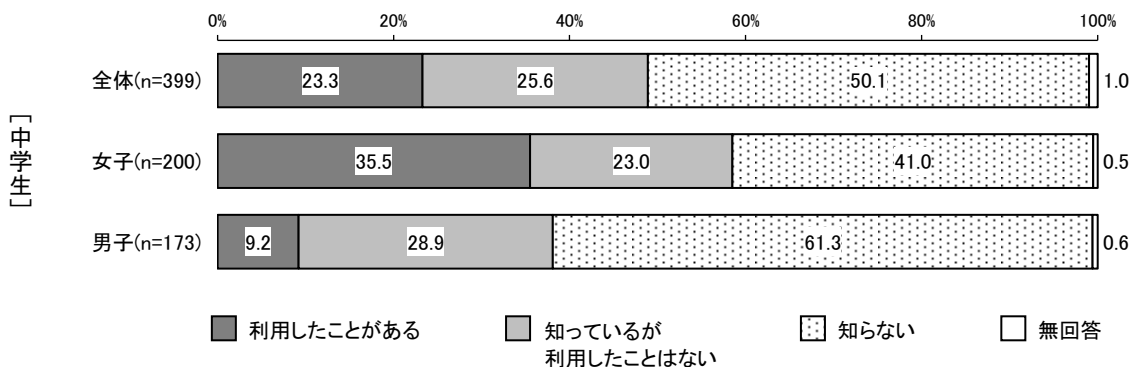
《中学生調査のみ》

問11 男女共生センター ローズWAMのことを知っていますか。(〇は1つ)

ローズWAMの認知度についてたずねたところ、「知らない」が50.1%で最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」(25.6%)、「利用したことがある」(23.3%)となっており、『知っている』(「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」の合計)は48.9%となっている。

性別にみると、女子の方が男子よりも『知っている』が20.4ポイント高くなっている。

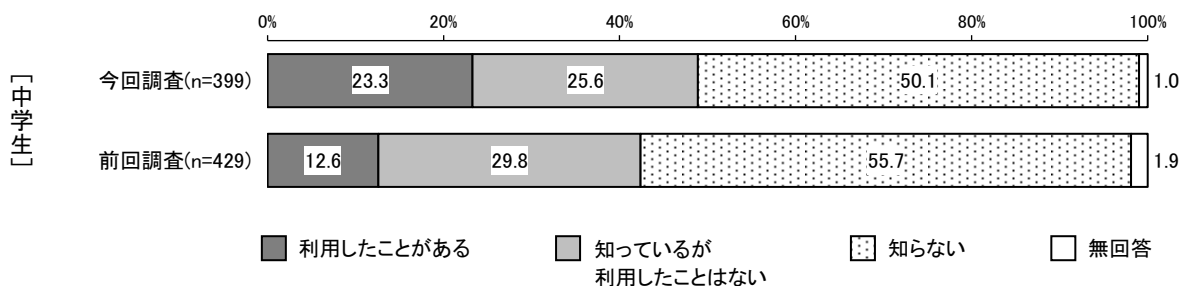
図 ローズWAMの認知度



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、『知っている』が前回調査よりも6.5ポイント微増している。

図 ローズWAMの認知度(前回調査との比較)



(2) ローズWAMの利用内容

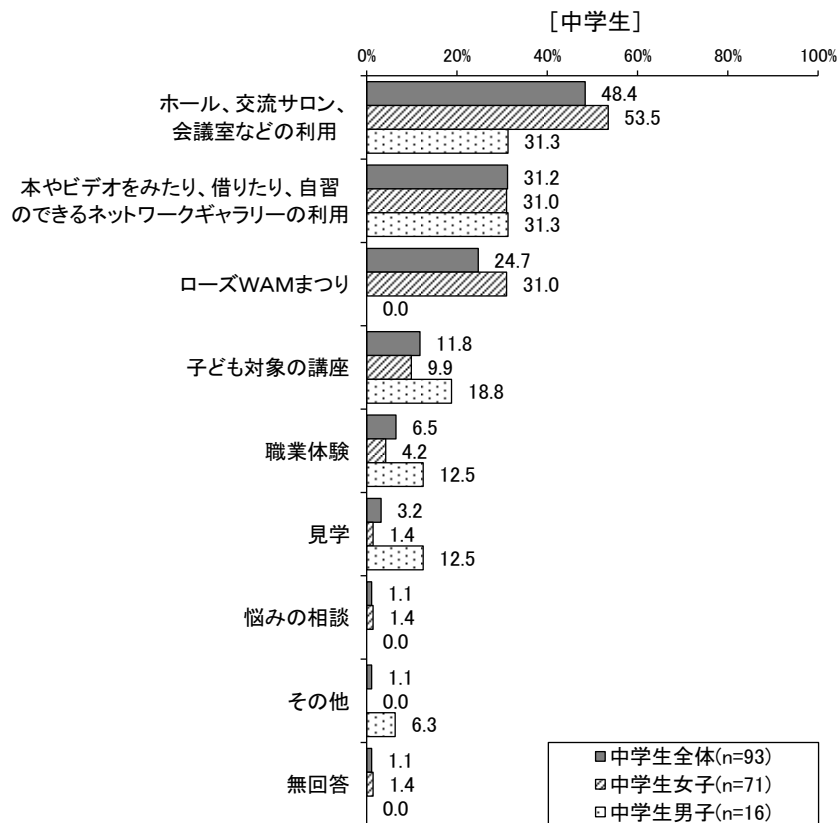
《中学生調査のみ》

問11-1 どんなことで利用しましたか。(〇はいくつでも)

ローズWAMの利用内容についてたずねたところ、「ホール、交流サロン、会議室などの利用」が48.4%と最も高く、次いで「本やビデオをみたり、借りたり、自習のできるネットワークギャラリーの利用」(31.2%)、「ローズWAMまつり」(24.7%)、「子ども対象の講座」(11.8%)となっている。

性別にみると、女子の方が男子よりも「ホール、交流サロン、会議室などの利用」と「ローズWAMまつり」で20ポイント以上高くなっている。

図 ローズWAMの利用内容

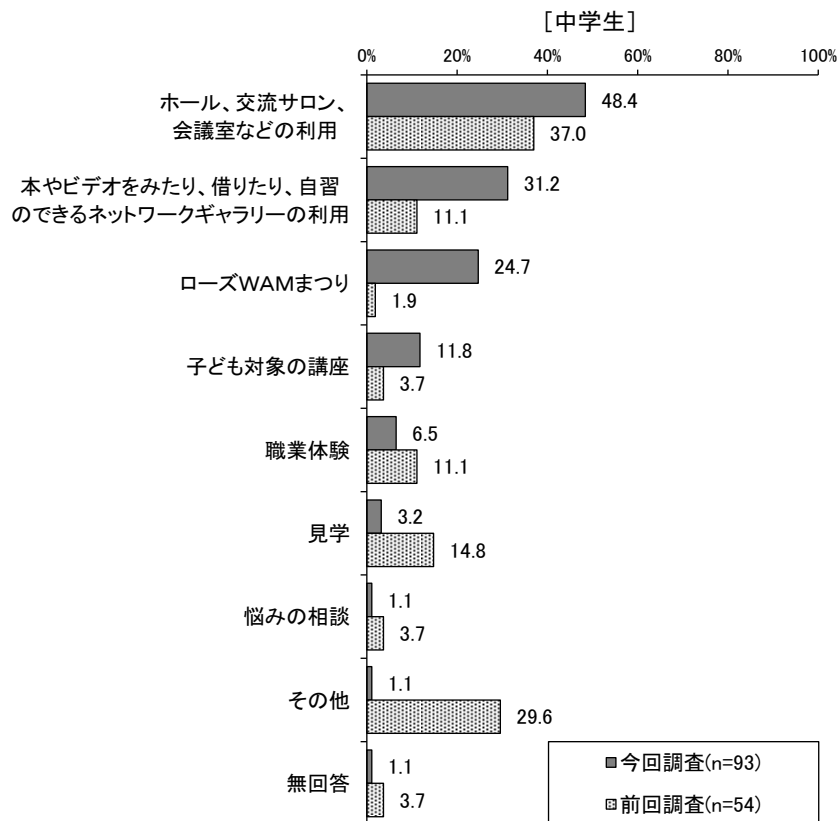


Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「本やビデオをみたり、借りたり、自習のできるネットワークギャラリーの利用」が20.1ポイント、「ローズWAMまつり」が22.8ポイント高くなっており、「見学」が11.6ポイント低くなっている。

図 ローズWAMの利用内容(前回調査との比較)

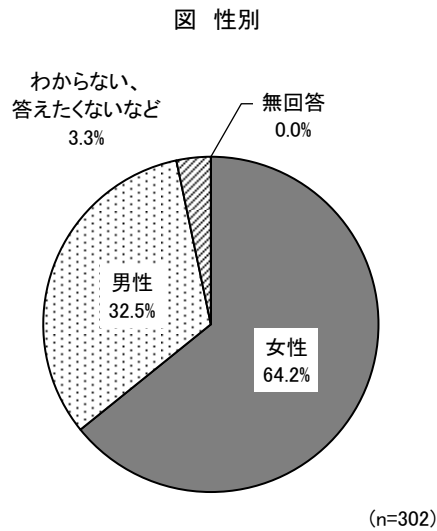


IV 大学生意識調査の結果

1. あなた自身について

(1) 性別

回答者の性別は「女性」が64.2%、「男性」が32.5%、「その他」が3.3%となっており、「女性」の割合が高くなっている。

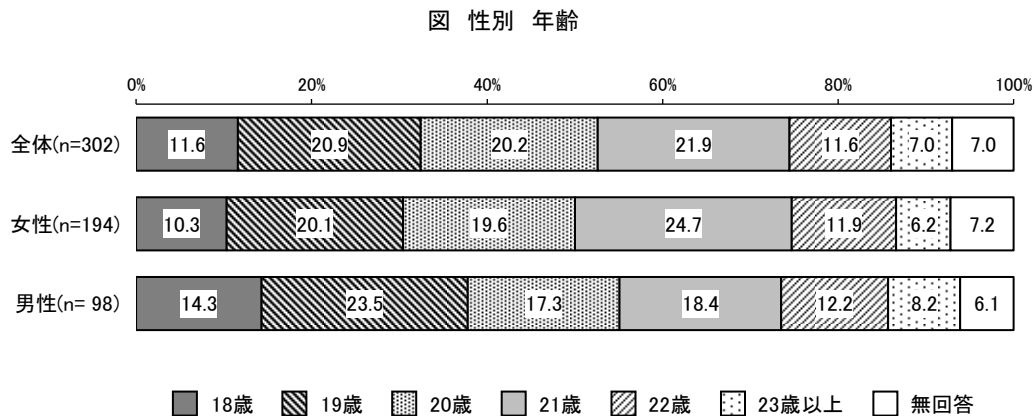


IV 大学生意識調査の結果

(2) 年齢

回答者の年齢は、「21歳」が21.9%で最も高く、次いで「19歳」が20.9%、「20歳」が20.2%となっており、20歳以上の回答者が約6割となっている。

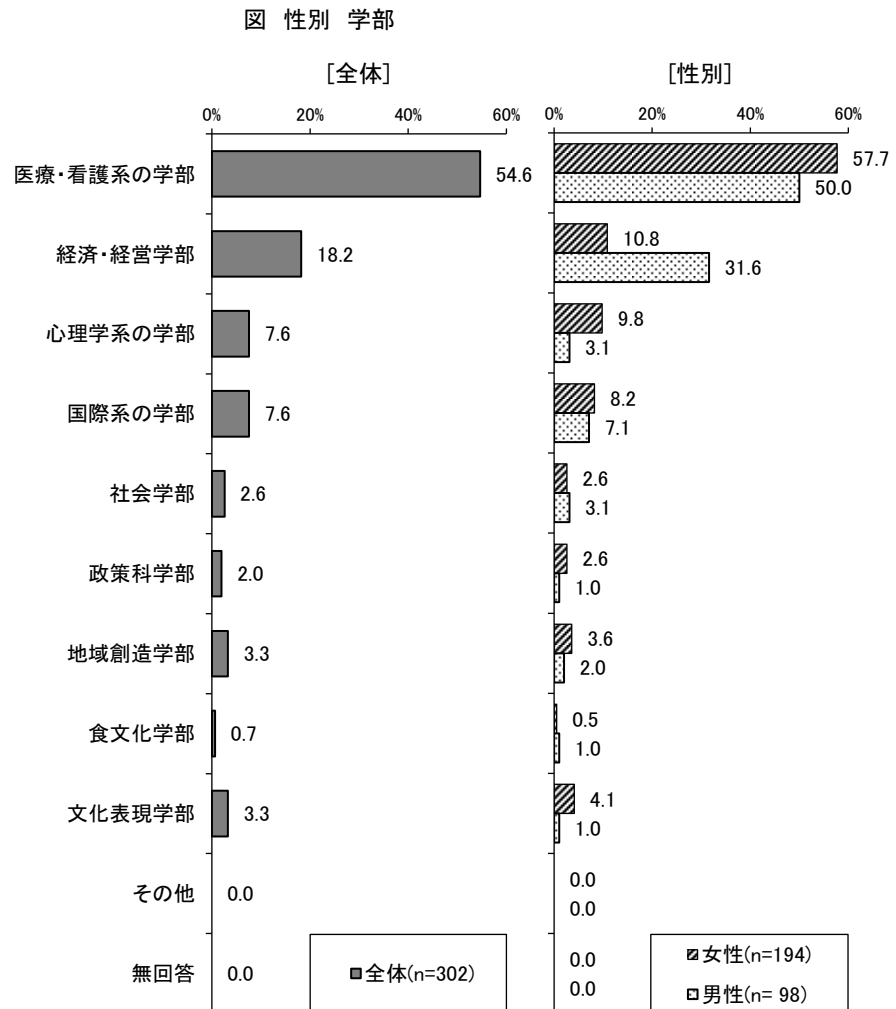
性別にみると、女性よりも男性の方が20歳以上の割合が6.3ポイント高くなっている。



(3) 学部

回答者の所属する学部は、「医療・看護系の学部」が54.6%で最も高く、次いで「経済・経営学部」が18.2%、「心理学系の学部」と「国際系の学部」がそれぞれ7.6%となっており、半数以上が「医療・看護系の学部」となっている。

性別にみると、男性の方が女性よりも「経済・経営学部」が20.8ポイント高くなっている。



2. 男女共同参画に関する意識について

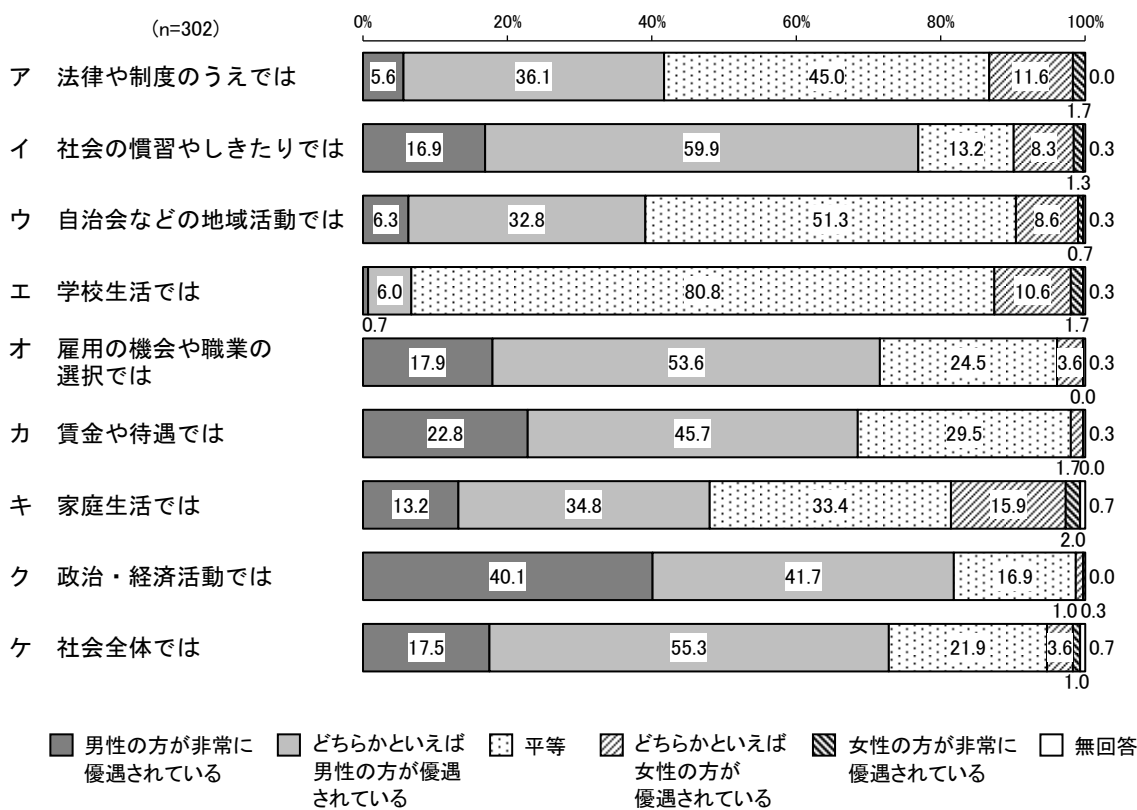
(1) 男女の地位の平等観

問1 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思われますか。次の分野で、あてはまる番号に○をつけてください。(それぞれ1つ)

社会の様々な分野において男女の地位がどの程度平等になっていると思うかたずねたところ、「ア 法律や制度のうえでは」「ウ 自治会などの地域活動では」「エ 学校生活では」の3分野は「平等」が『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）よりも高くなっており、特に「エ 学校生活では」は「平等」が80.8%と、他の分野と比べて高くなっている。

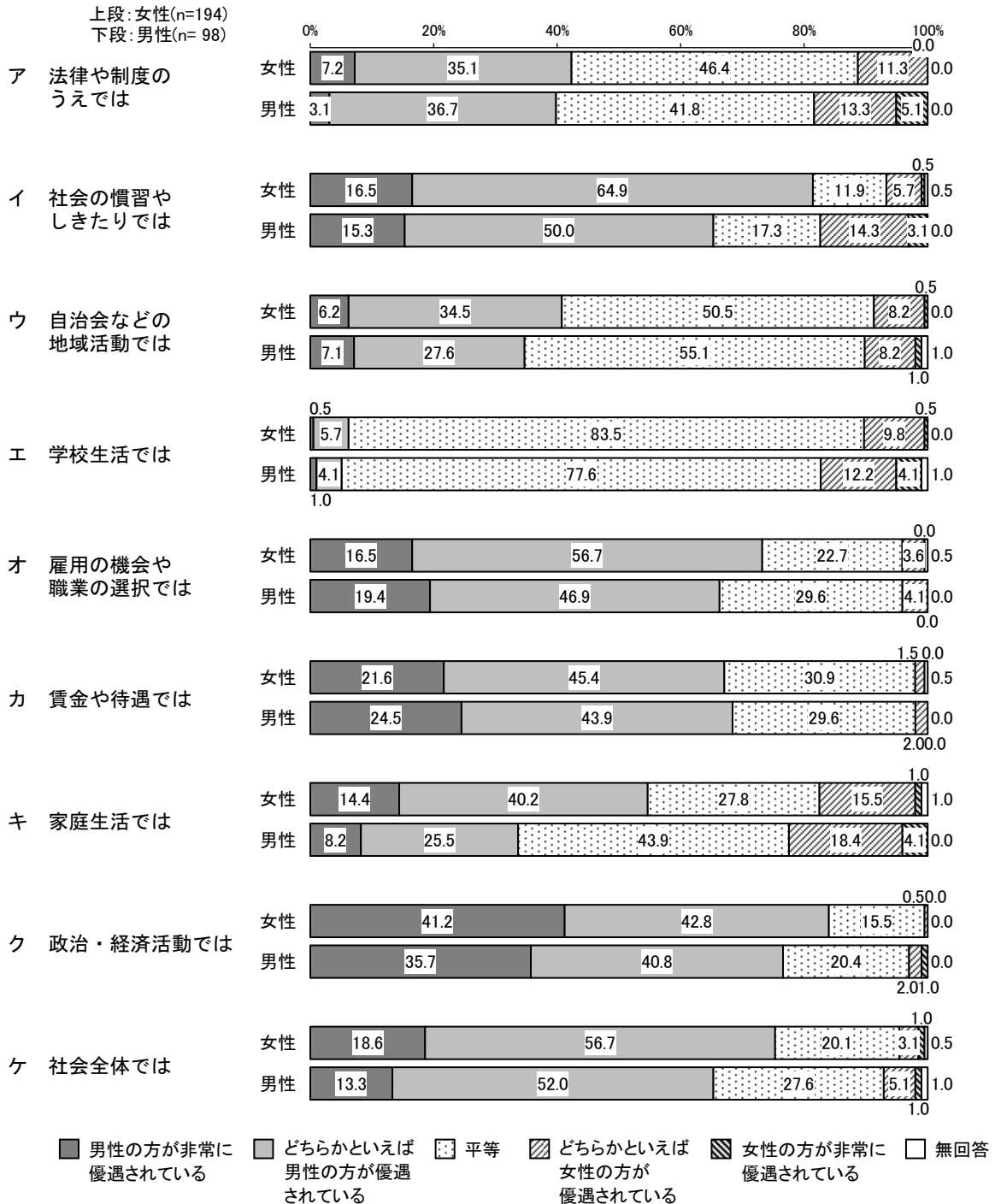
そのほかの分野はいずれも「平等」よりも『男性優遇』の割合が高くなっており、特に「ク 政治・経済活動では」(81.8%)、「イ 社会の慣習やしきたりでは」(76.8%)、「ケ 社会全体では」(72.8%)、「オ 雇用の機会や職業の選択では」(71.5%)で『男性優遇』の割合が高くなっている。

図 男女の地位の平等観



性別にみると、「カ 賃金や待遇では」を除くすべての分野で、『男性優遇』と回答した人の割合は女性の方が男性よりも高くなっており、特に「キ 家庭生活では」で20.9ポイント、「イ 社会の慣習やしきたりでは」で16.1ポイント、「ケ 社会全体では」で10.0ポイント高くなっている。一方、「エ 学校生活では」は、性別による『男性優遇』の違いはほとんどみられない。

図 性別 男女の地位の平等観



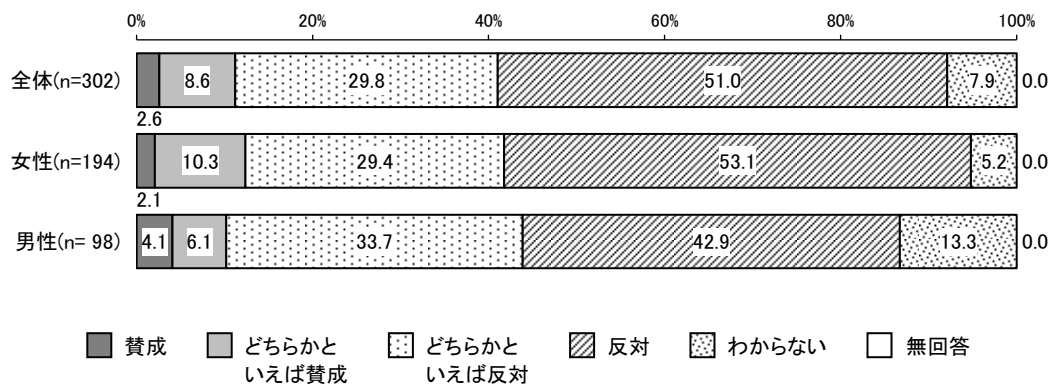
(2) 性別役割分担意識

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(1つだけ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方(性別役割分担意識)についてどう思うかたずねたところ、「賛成」(2.6%)と「どちらかといえば賛成」(8.6%)を合計した『賛成』が11.2%、「どちらかといえば反対」(29.8%)と「反対」(51.0%)を合計した『反対』が80.8%と、約8割が『反対』となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも『反対』の割合が5.9ポイント高くなっている。また男性では「わからない」が13.3%と1割以上を占めており、女性よりも8.1ポイント高くなっている。

図 性別 性別役割分担意識



(3) 性別役割分担に賛成する理由

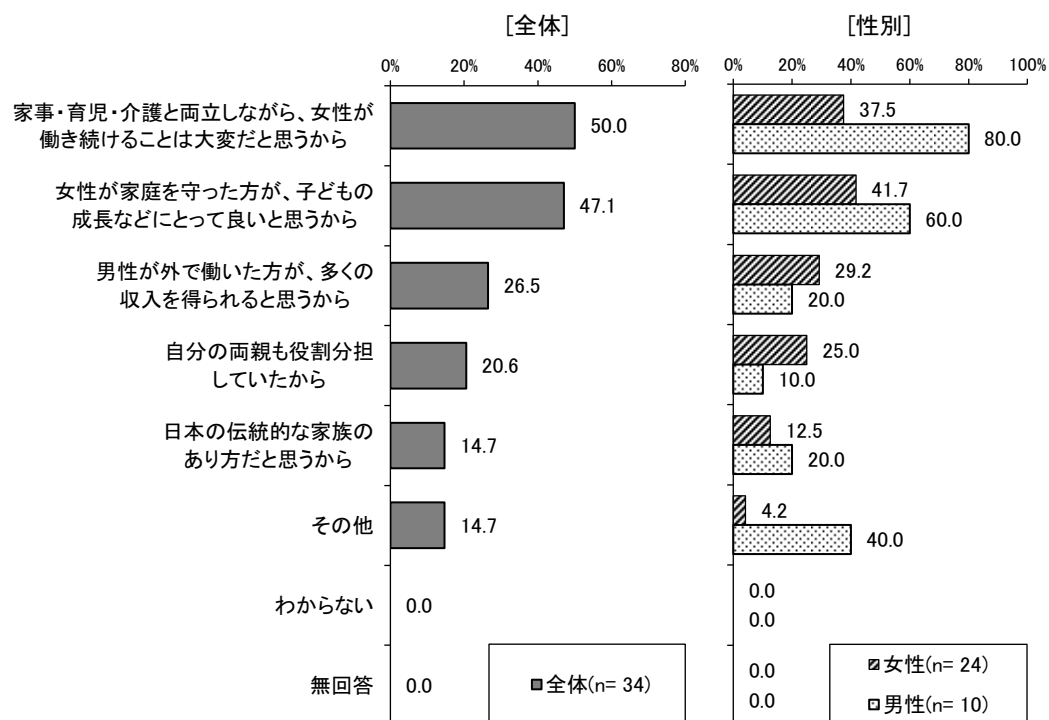
《問2で、「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。》

問3-1 それはなぜですか。(いくつでも)

性別役割分担に賛成する人にその理由をたずねたところ、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が50.0%で最も高く、次いで、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が47.1%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が26.5%となっている。

性別にみると、男性の方が女性よりも「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が42.5ポイント、「その他」が35.8ポイント高くなっている。また、女性の方が男性よりも「自分の両親も役割分担していたから」が15.0ポイント高くなっている。

図 性別 性別役割分担に賛成する理由



(4) 性別役割分担に反対する理由

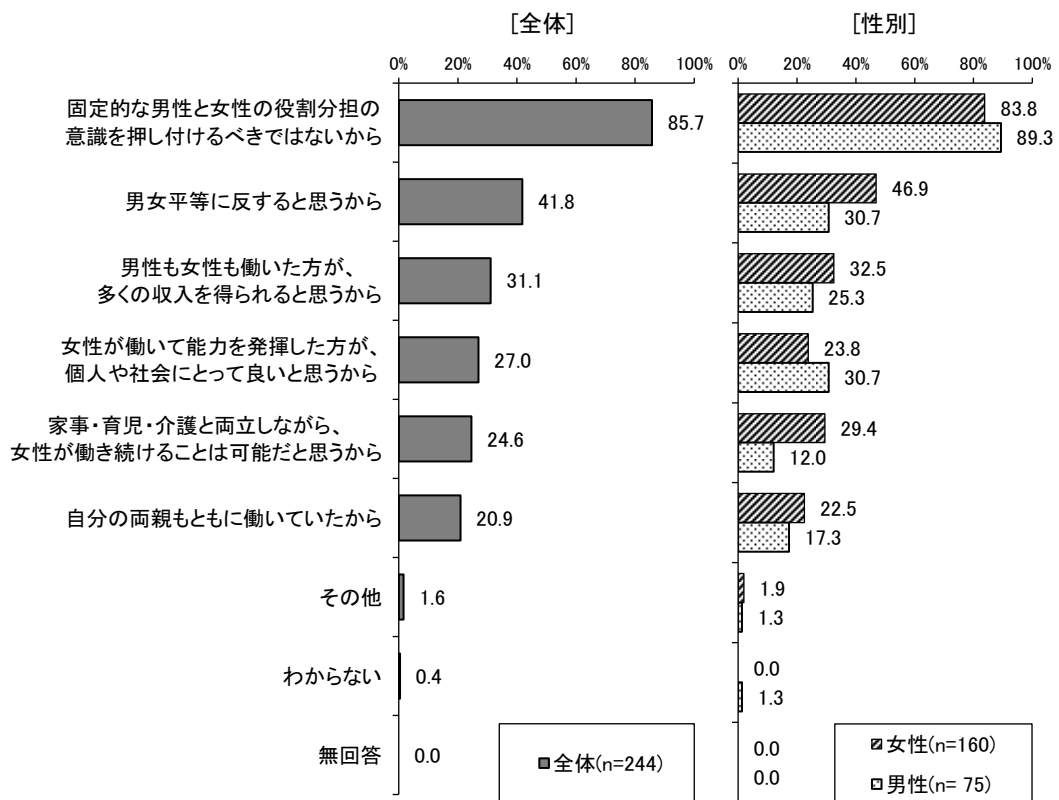
《問2で、「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方におたずねします。》

問3-2 それはなぜですか。(いくつでも)

性別役割分担に反対する人にその理由をたずねたところ、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」が85.7%で最も高く、次いで、「男女平等に反すると思うから」が41.8%、「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が31.1%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから」が17.4ポイント、「男女平等に反すると思うから」が16.2ポイント高くなっている。

図 性別 性別役割分担に反対する理由



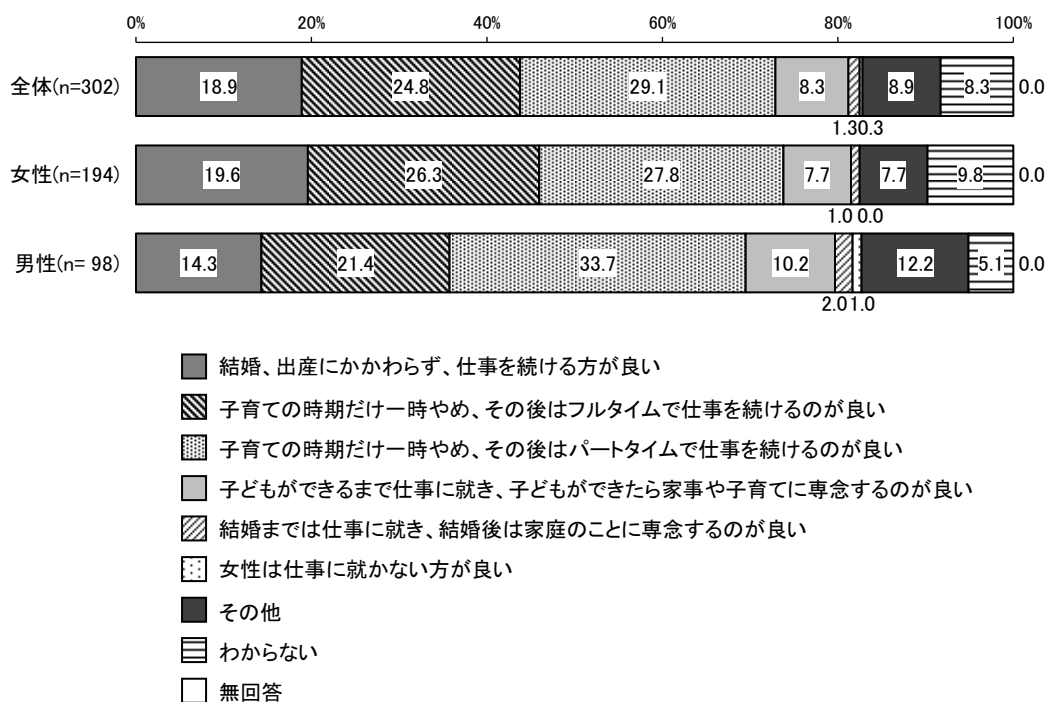
(5) 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え

問4 一般的なこととして、女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわりについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1つだけ)

女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考えについてたずねたところ、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事続けるのが良い」が29.1%で最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事続けるのが良い」(24.8%)、「結婚、出産にかかわらず、仕事続けるのが良い」(18.9%)、「その他」(8.9%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「結婚、出産にかかわらず、仕事続けるのが良い」で5.3ポイント、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事続けるのが良い」で4.9ポイント高くなっている。また、男性の方が女性よりも「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事続けるのが良い」で5.9ポイント高くなっている。

図 性別 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え



3. 男女の人権について

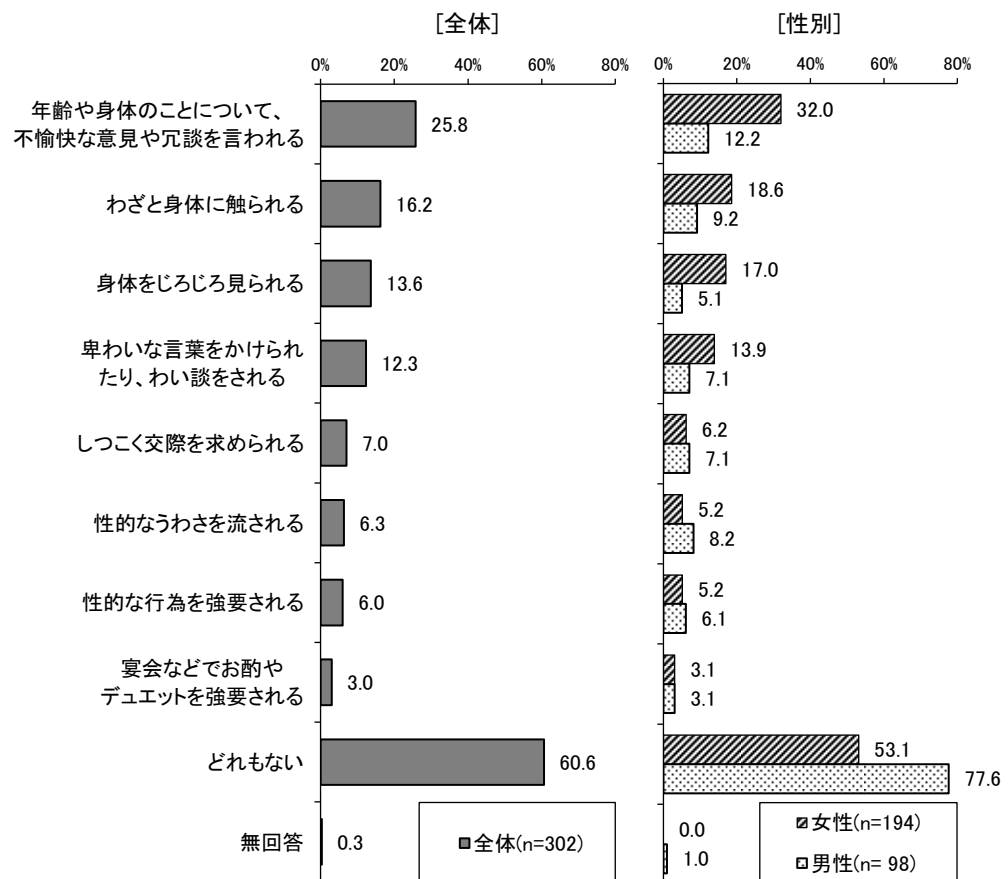
(1) セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

問5 セクシュアル・ハラスメントについておたずねします。あなたは、次のような行為をされたことがありますか。(いくつでも)

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験をたずねたところ、「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」が25.8%で最も高く、次いで「わざと身体に触られる」(16.2%)、「身体をじろじろ見られる」(13.6%)、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」(12.3%)となっており、「どれもない」は60.6%となっている。

性別にみると、女性の方がセクシュアル・ハラスメントを受けたと回答する割合が高く、特に「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」は19.8ポイント、「身体をじろじろ見られる」は11.9ポイント、男性よりも高くなっている。

図 性別 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

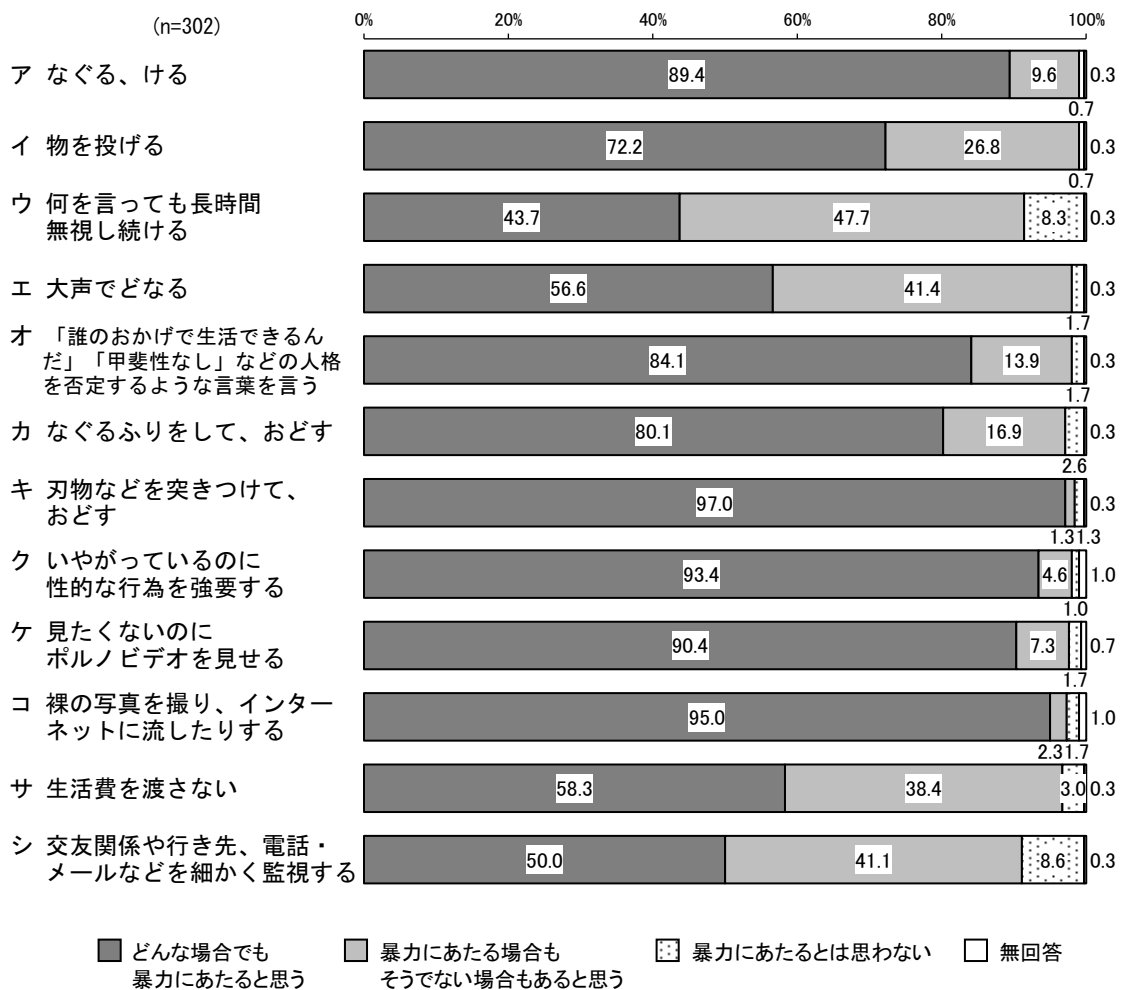


(2) 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと

問6 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、暴力だと思いますか。(それぞれ1つ)

配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思う事柄についてたずねたところ、多くの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上と高くなっているが、「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」では「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が他の項目と比較して高く、4割以上となっている。

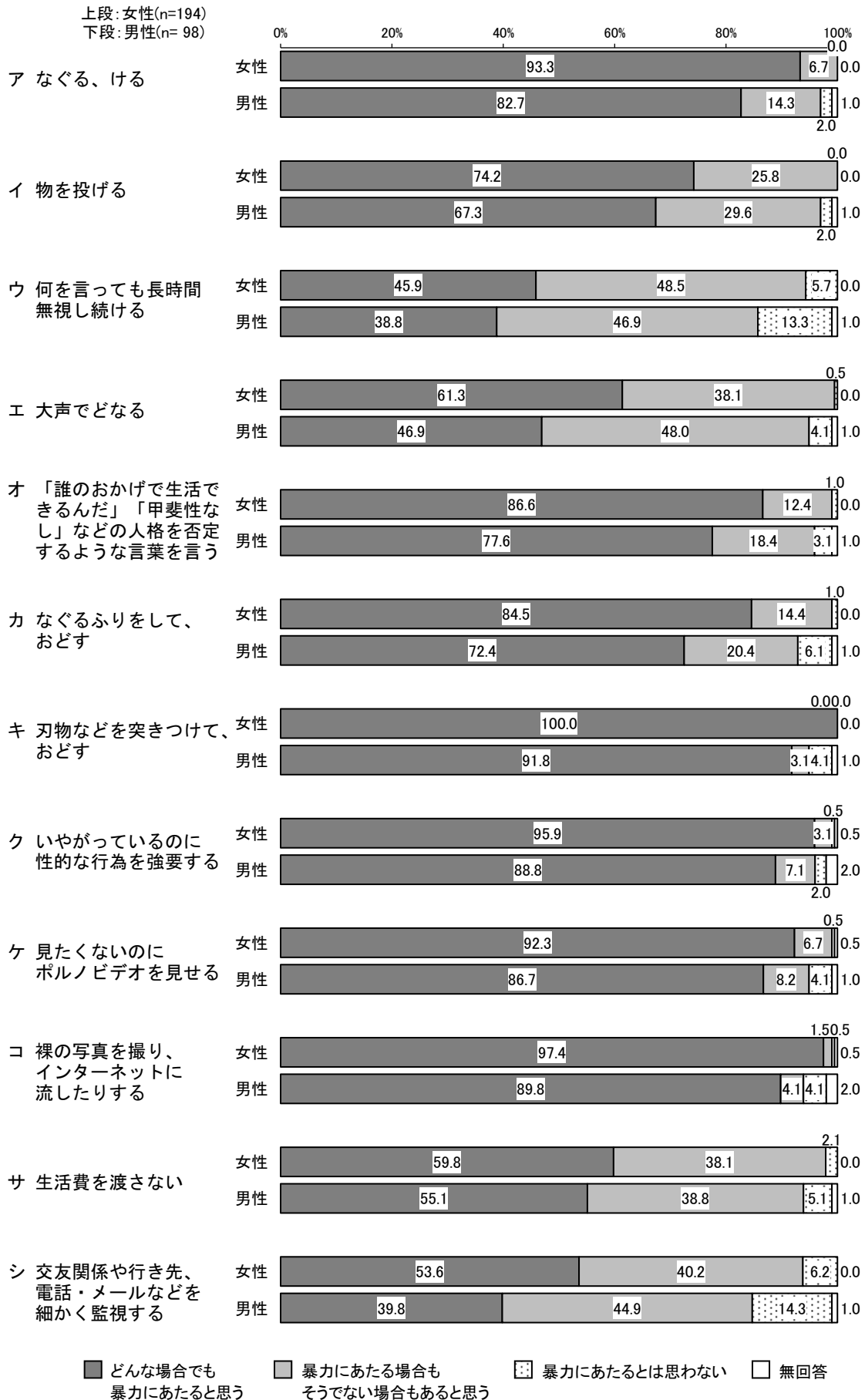
図 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと



性別にみると、すべての項目で女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっている。一方で、男性の「暴力にあたるとは思わない」で、「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」が14.3%、「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」が13.3%と、他の項目と比べて高くなっている。

IV 大学生意識調査の結果

図 性別 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと



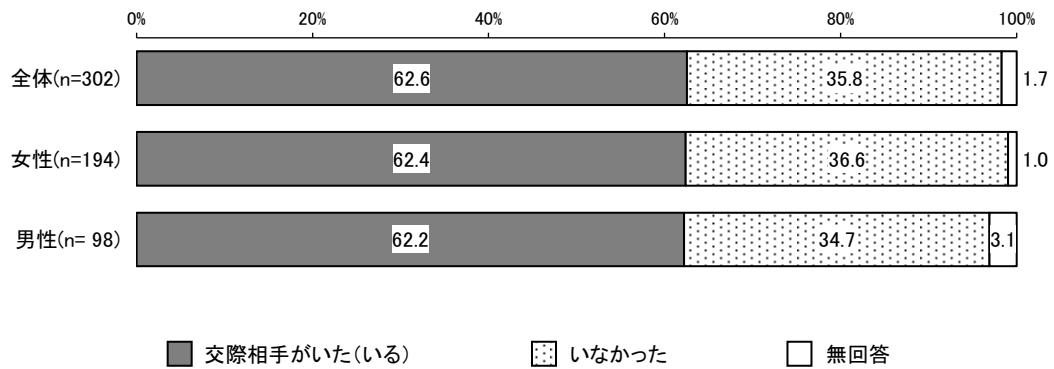
(3) 交際相手の有無

問7 あなたは、これまでに交際相手がありましたか。(1つだけ)

交際相手の有無についてたずねたところ、「交際相手がい(いる)」が62.6%、「いなかった」は 35.8% となっている。

性別による交際相手の有無の違いはほとんどみられない。

図 性別 交際相手の有無



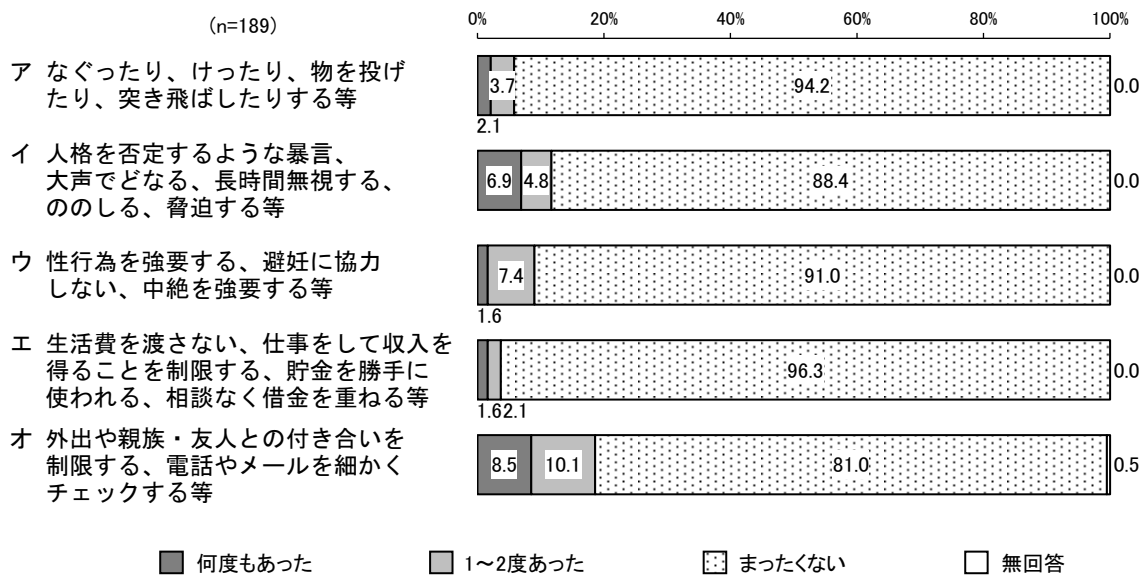
(4) 交際相手からの暴力の有無

《交際相手のいた(いる)方におたずねします。》

問8 これまでに交際相手が、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。(それぞれ1つ)

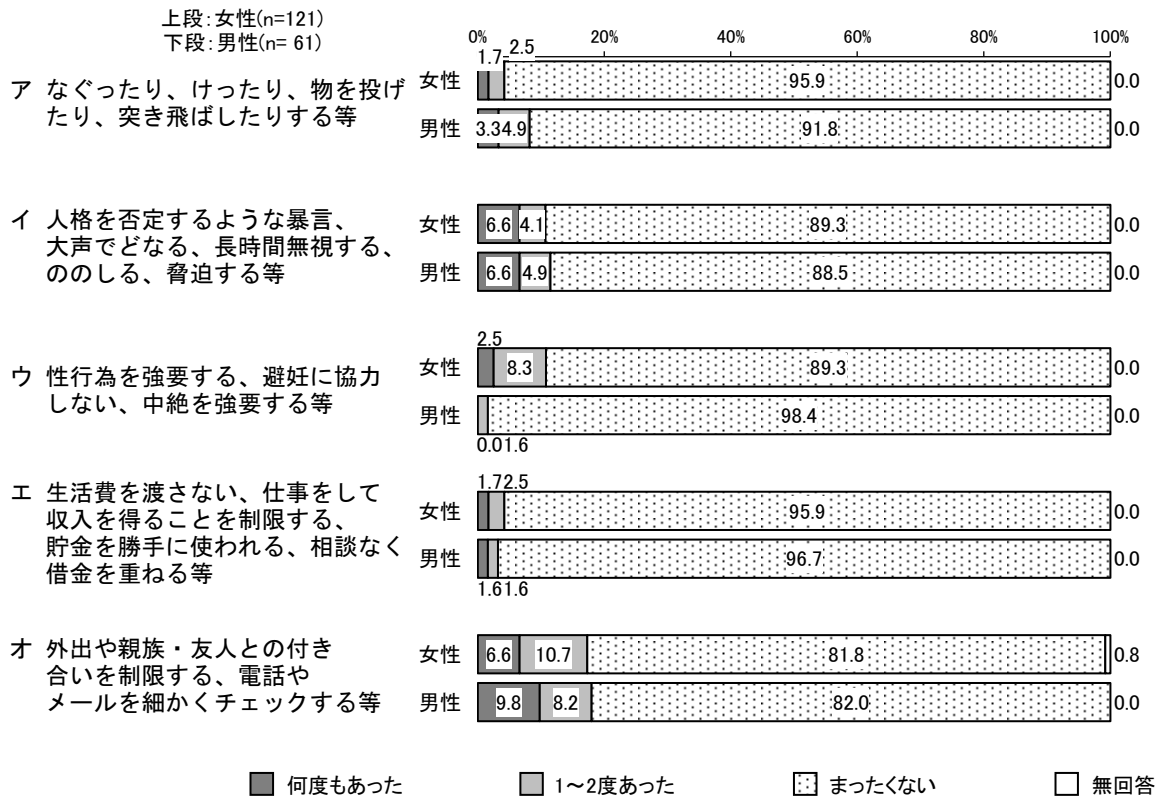
交際相手からの暴力の有無についてたずねたところ、『あった』(「何度もあった」と「1~2度あった」の合計)は「オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等」で18.6%、「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」で11.7%、「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する」で9.0%、「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」で5.8%、「エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等」で3.7%となっている。

図 交際相手からの暴力の有無



性別にみると、「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等」で女性の『あった』の割合は、男性よりも9.2ポイント高くなっている。一方で、「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」で男性の『あった』の割合は、女性よりも4.0ポイント高くなっている。

図 性別 交際相手からの暴力の有無



(5) 暴力を受けた際の相談状況

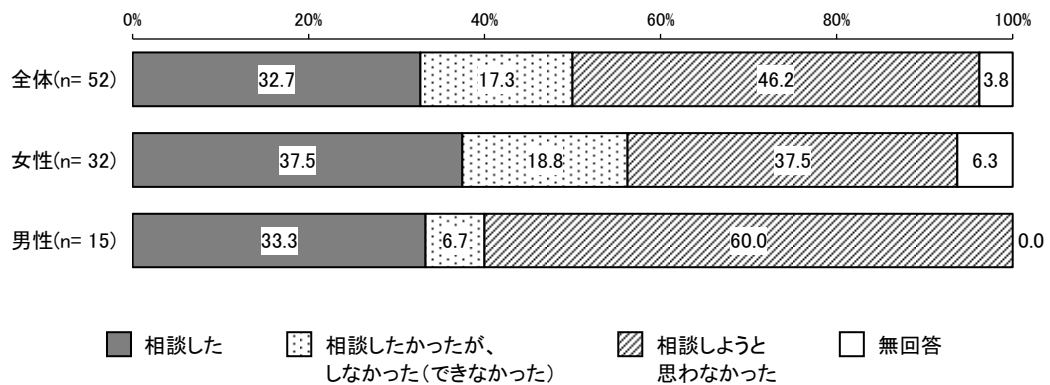
《問8で、1つでもされたことがあったと答えた方におたずねします。》

問9 そのことを誰か（どこか）に相談しましたか。（1つだけ）

暴力を受けた際の相談状況についてたずねたところ、「相談しようと思わなかった」が46.2%で最も高く、次いで「相談した」(32.7%)、「相談したかったが、しなかった(できなかった)」(17.3%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「相談したかったが、しなかった(できなかった)」が12.1ポイント高く、男性の方が女性よりも「相談しようと思わなかった」が22.5ポイント高くなっている。

図 性別 暴力を受けた際の相談状況



4. 悩みごとの相談状況

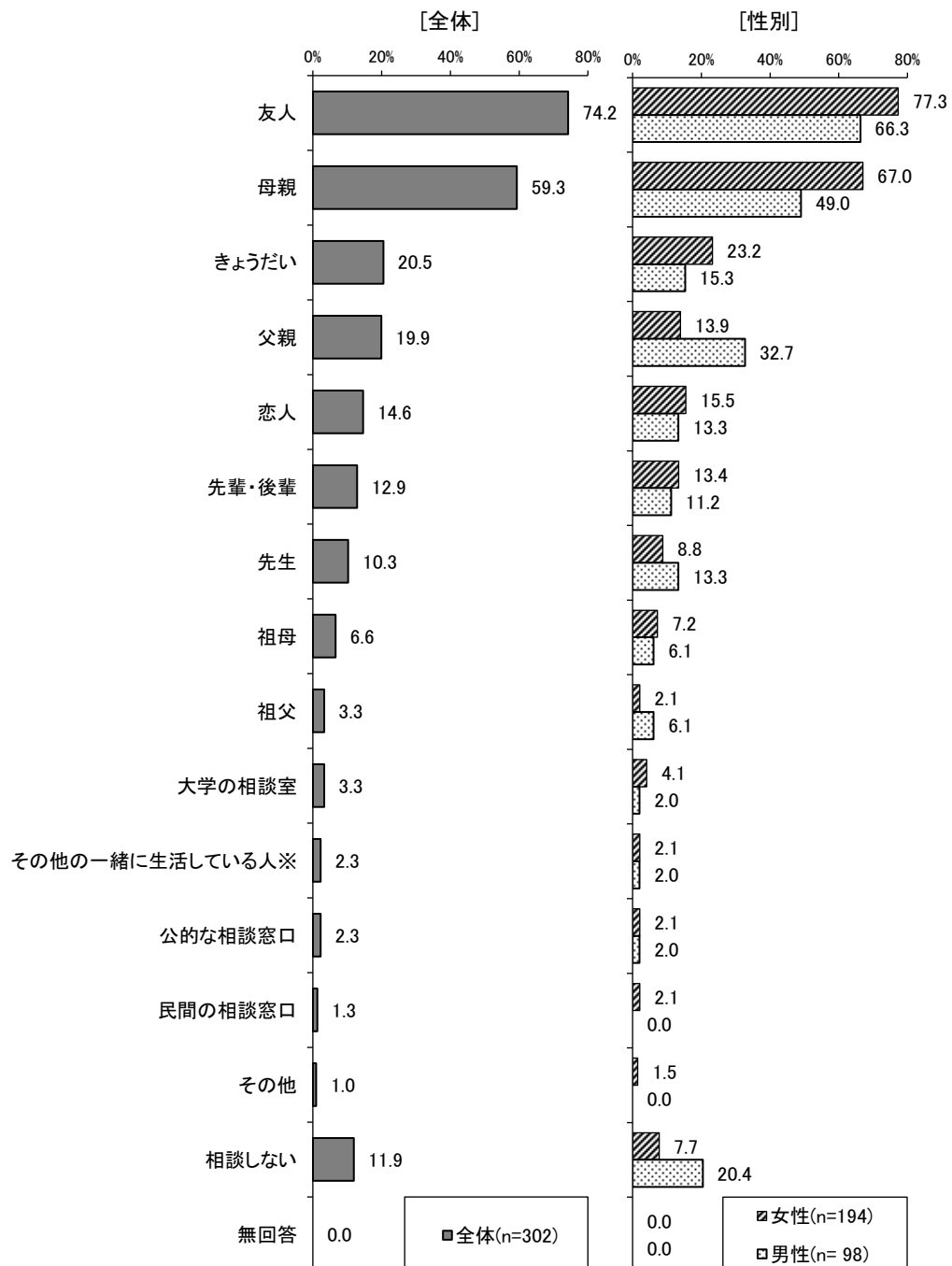
(1) 悩みごとや心配ごとがある時の相談相手

問10 あなたは、悩みや困りごとがあったときの相談は誰（どこ）にしますか。（いくつでも）

悩みごとや心配ごとがある時の相談状況についてたずねたところ、「友人」が74.2%で最も高く、次いで「母親」(59.3%)、「きょうだい」(20.5%)、「父親」(19.9%)となっている。一方で、「相談しない」は11.9%となっている。

性別にみると、「母親」は女性の方が男性よりも18.0ポイント高く、「父親」は男性の方が女性よりも18.8ポイント高くなっている。一方で「相談しない」は、男性の方が女性よりも12.7ポイント高くなっている

図 性別 悩みごとや心配ごとがある時の相談相手



※その他の一緒に生活している人……「母親」「父親」「きょうだい」「祖母」「祖父」以外と一緒に生活している人

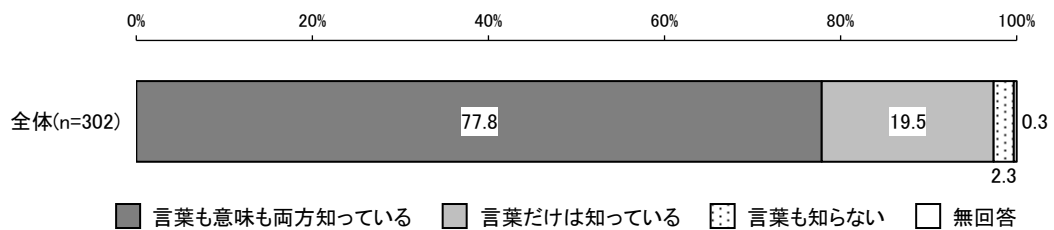
5. セクシュアルマイノリティについて

(1) セクシュアルマイノリティの認知度

問11 あなたは、LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ※について、どの程度知っていますか。(1つだけ)

セクシュアルマイノリティの認知度についてたずねたところ、「言葉も意味も両方知っている」が77.8%で最も高く、次いで「言葉だけは知っている」(19.5%)、「言葉も知らない」(2.3%)となっており、『知っている』(「言葉も意味も両方知っている」と「言葉だけは知っている」の合計)は97.3%と大多数を占めている。

図 セクシュアルマイノリティの認知度

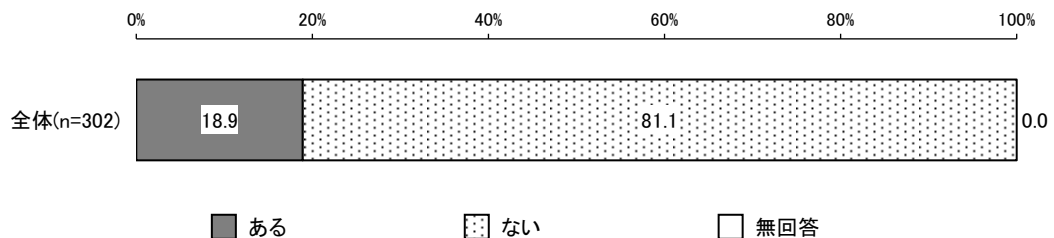


(2) 性自認・性的指向で悩んだことの有無

問12 あなたは、今までに性自認（自分で自分の性別をどう思うか）または性的指向（どんな性別の人を好きになるか）に悩んだことがありますか。(1つだけ)

性自認・性的指向で悩んだことの有無についてたずねたところ、「ある」は18.9%となっている。

図 性自認・性的指向で悩んだことの有無

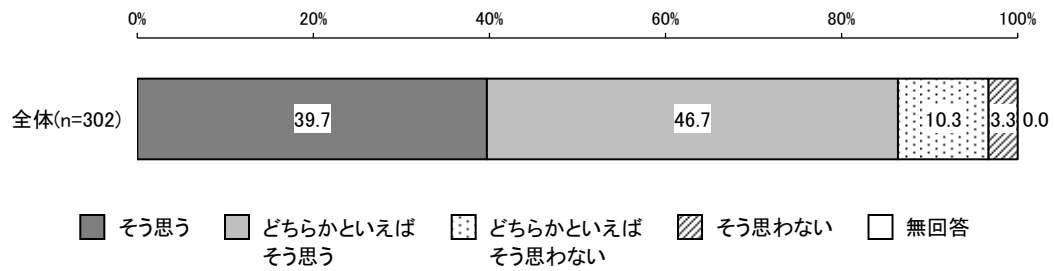


(3)セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか

問13 LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。
(1つだけ)

セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うかについてたずねたところ、「そう思う」が39.7%、「どちらかといえばそう思う」が46.7%となっており、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が86.4%となっている。

図 セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか



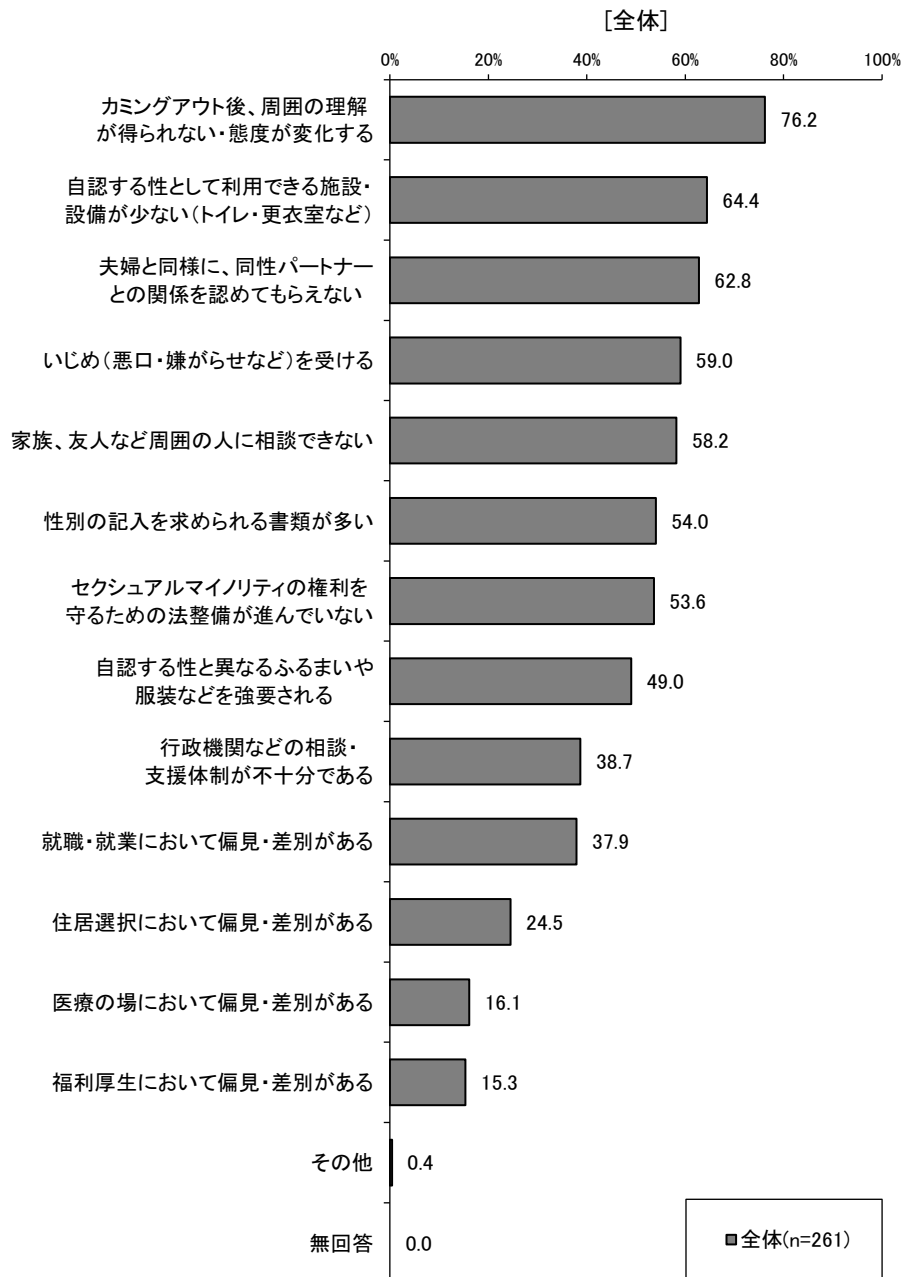
(4)セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由

《問13で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と答えた方におたずねします。》

問14 どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(いくつでも)

セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由についてたずねたところ、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が76.2%と最も高く、次いで「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」(64.4%)、「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」(62.8%)、「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」(59.0%)となっている。

図 セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由

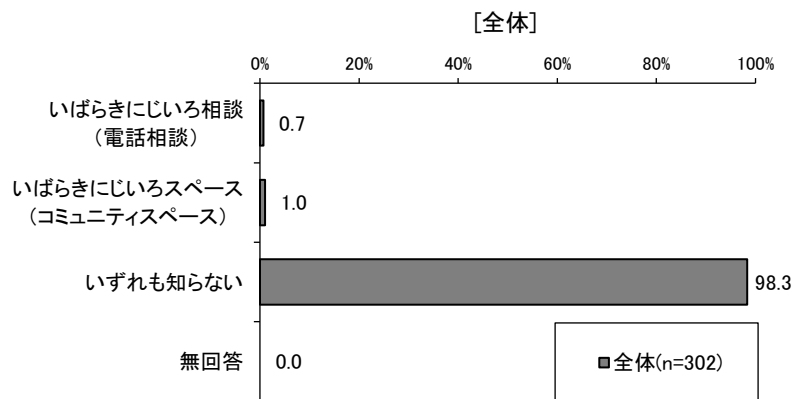


(5) 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度

問15 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組を知っていますか。(いくつでも)

茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度についてたずねたところ、「いばらきにじいろ相談(電話相談)」が0.7%、「いばらきにじいろスペース(コミュニティスペース)」が1.0%となっており、「いずれも知らない」は98.3%と大多数を占めている。

図 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度



6. 茨木市の取組について

(1) ローズWAMの認知度

問16 あなたは、男女共生センター ローズWAMを知っていますか。(1つだけ)

ローズWAMの認知度についてたずねたところ、「知らない」が87.7%で最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」(8.6%)、「知っており、利用したことがある」(3.6%)となっており、『知っている』(「知っており、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)は12.2%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも『知っている』がやや高くなっている。

図 ローズWAMの認知度

